

西暦	月	日	日誌
2021	8	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。夏バテ気味のチョウトンボ♂、カルガモファミリーと出会う。
2021	8	10	2016年版の昆虫類チョウ目をキタテハまでリニューアル。
2021	8	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。元気なオオシオカラトンボ♂、アオスジアゲハ蝶と出会う。
2021	8	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。キオビツチバチ♀、カンムリカイツブリのカップルと出会う。
2021	8	13	2016年版の昆虫類チョウ目をキタテハおよびギフチョウまでリニューアル。
2021	8	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。アマサギ、カンムリカイツブリ、カワウと出会う。
2021	8	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。コバネイナゴ、アオサギと出会う。
2021	8	16	2016年版の昆虫類チョウ目のギンボシヒョウモンをウラギンヒョウモンに種名修正。
2021	8	17	2016年版の昆虫類チョウ目のクロヒカゲを修正、ゴイシシジミを追加。
2021	8	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。電線で休むツバメ♂と♀、老齢なアゲハチョウ♂と出会う。
2021	8	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ジャコウアゲハ蝶の♂、ウシガエルの幼生と出会う。
2021	8	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリカップルの求愛行動に出会う。
2021	8	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオシオカラトンボカップルの交尾行動に出会う。
2021	8	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。自然生態園で、溺れて、もがいているオオヤマトンボ♂に出会う。
2021	8	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。忙しく餌を探すコゲラ♀、アレチギシギシにとまるウチワヤンマと出会う。
2021	8	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ヒメジャノメ、ジャコウアゲハ♂、ブルーギル、チュウサギ等と出会う。
2021	8	25	2016年版の昆虫類チョウ目のコチャバネセセリを修正。
2021	8	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ギンヤンマの産卵、アマガエルの擬態、カワセミ♂幼鳥と出会う。
2021	8	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオスズメバチ、アジアイトトンボ♀未成熟、止まり木に座るカワウと出会う。
2021	8	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。林床に咲く淡紫色のヤブラン、枝にぶら下がるオオヤマトンボと出会う。
2021	8	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ギンヤンマのカップルが連結して植物中へ産卵するシーンと出会う。
2021	8	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。弁天橋付近のヨシ原でアマサギ、コサギ幼鳥、チュウサギと出会う。
2021	9	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。林床に咲く淡紫色のヤブラン、枝にとまるカワセミ♂幼鳥と出会う。
2021	9	2	新潟県スポーツ公園と長潟の田んぼを散策した。真っ赤なショウジョウトンボ、黄金色の稲穂、ノシメトンボと出会う。
2021	9	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。翅表が鮮やかなライトブルーのカラスアゲハ♂と出会う。
2021	9	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。セセリチョウやジャノメチョウ、カワセミ♀幼鳥と出会う。
2021	9	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。自然生態園で深水に佇むチュウダイサギ、ヨシ原でチュウサギと出会う。
2021	9	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。甲虫目のクロウリハムシ、ヌマトラノオの白い花と出会う。
2021	9	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。アオスジアゲハ、アゲハチョウ、ジャコウアゲハ等の大型の蝶と出会う。
2021	9	8	2016年版の昆虫類チョウ目のコムスジ、コムラサキを修正。
2021	9	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。尾状突起が無いジャコウアゲハ♂、亜麻色のアマサギ、オニヤンマ♂と出
2021	9	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。チュウダイサギのグルーミング、カワセミ♂幼鳥、ゴマダラチョウと出会う。
2021	9	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。田園地帯からの小魚の流下がほぼ無くなり、栗ノ木川が合流する鳥屋野潟 岸辺で餌を懸命に探すカワセミ♂幼鳥と出会う。
2021	9	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。水の中を歩くチュウダイサギ、ヨシ原のチュウサギ、キタキチョウカップルの 交尾行動と出会う。
2021	9	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。羽を損傷(老齢化?)したジャコウアゲハ♀2頭、鳥屋野潟岸辺でコサメビタ キ(?)と出会う。
2021	9	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ミカドトックリバチ、ヤマトシジミ♂、不明の昆虫、カワセミ♂幼鳥と出会う。

西暦	月	日	日誌
2021	9	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ノシメトンボ♀、ジョロウグモ♀、シマヘビ幼蛇、カワセミ♂と出会う。
2021	9	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。木橋でオニグモ、池畔林でイチモンジチョウ、湖畔林でフワフワ羽毛のカワセミ♀幼鳥と出会う。
2021	9	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。長潟の住宅地でサルビア・マイクロフィラ 'ホット・リップス'の紅白の花と、湖畔林でカワセミと出会う。
2021	9	18	2016年版の昆虫類チョウ目のサカハチチョウ、サトキマダラヒカゲを修正。
2021	9	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。クロハラアジサシ幼鳥2羽、ウラギンヒョウモン♂と出会う。
2021	9	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。親鳥におんぶされたカンムリカイツブリ雛鳥、オオヤマトンボ♂と出会う。
2021	9	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北半球北部で繁殖し、冬鳥として渡ってくるコガモの群れと出会う。
2021	9	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。老齢なコシアキトンボ♂、淡紅色の花が咲くアキノウナギツカミと出会う。
2021	9	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。冬鳥のコガモ、淡紅色の花が咲くミゾソバ、換羽中のカワラヒワと出会う。
2021	9	24	雨天のため鳥屋野潟周辺の散策を楽しむ。冬鳥のコガモ、真赤なヒガンバナ、ヨシ原で餌を探すチュウサギと出会う。
2021	9	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。アサザの黄色い花、ツマグロヒョウモン♀、オオウラギンスジヒョウモン♂老齢、コサギ、カワセミ♂幼鳥と出会う。
2021	9	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。渡り鳥(冬鳥)のヒドリガモ、ヨシガモ、オナガガモと出会う。昼前の下弦の月も久しぶり。
2021	9	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ユーラシア大陸の亜寒帯から寒帯で繁殖し渡来したヒドリガモ、サハリンやカムチャッカ、シベリア東部で繁殖し渡来したヨシガモと今日も出会う。
2021	9	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。シベリア東部等で繁殖し渡来したヨシガモ♂エクリプスが1羽(群れと逸れたか?)、そして4日ぶりにカワセミ♂幼鳥と出会う。
2021	9	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。猛禽類のミサゴ、カンムリカイツブリの雛鳥、換羽中で左翼を負傷したハシブトカラスと出会う。
2021	10	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北日本から移動してきた漂鳥のオオバン、若齢のカワウ♀、カンムリカイツブリの雛鳥と出会う。
2021	10	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北半球から渡来した冬鳥のマガモ、カマツカをくわえたカンムリカイツブリ、枝にとまったコガモ、甲羅を損傷したアカミミガメと出会う。
2021	10	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯から寒帯で繁殖し渡来した冬鳥のオナガガモ、留鳥のコサギ、ウシガエルの轢死体と出会う。
2021	10	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カイツブリ、カンムリカイツブリ、ヒドリガモ、ヨシガモ、カワウ、コガモと出会う。
2021	10	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。夏鳥のチュウサギ、冬鳥のヒドリガモ、留鳥のカンムリカイツブリ、オオハナアブ、オオクチバスと出会う。
2021	10	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ユーラシア大陸の亜寒帯で繁殖し渡来したキンクロハジロ、北半球の温帯から亜寒帯で繁殖し渡来したマガモ、ヨーロッパ・アジア南西部、アフリカ北部で繁殖し渡来したクロハラアジサシと出会う。
2021	10	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ユーラシアと北米大陸の寒帯で繁殖し冬鳥として渡来したコハクチョウの群れと、ヨシ原では夏鳥のチュウサギと出会う。
2021	10	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ピーピーピーと鳴いて親に餌をねだるカンムリカイツブリ雛鳥と、マガモのカップルと、カワラヒワ幼鳥と出会う。
2021	10	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。親の真似をしてグルーミングをするカンムリカイツブリ雛鳥と、池畔林でシジュウカラ、ヨシ原でコサギに出会う。

西暦	月	日	日誌
2021	10	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ちょっと痩せたカワセミ♀幼鳥、西へ向かう4羽のコハクチョウ、ギンズナを狙うミサゴに出会う。
2021	10	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。岸辺に静かに佇み(実は懸命に)餌を探すチュウダイサギと、尻尾の形が残っているウシガエル幼体に出会う。
2021	10	12	2016年版の昆虫類チョウ目のアオスジアゲハからジャコウアゲハまで更新。
2021	10	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ユーラシア大陸の亜寒帯で繁殖し渡来したキンクロハジロの群れ、求愛行動をするイチモンジセセリのカップル、排水樋管の下流でブルーギルに出会う。
2021	10	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。青天で暖かく、イヌタデの花にはキチョウが、セイタカアワダチソウにはモンキチョウが吸蜜で忙しそう、鳥屋野潟では、横向きに寝て舌先にグルーミングをするヒドリガモと出会う。
2021	10	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。アフリカ、アジア、オーストラリアの熱帯から温帯で繁殖し渡来した夏鳥のチュウサギ、ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯から寒帯で繁殖し渡来した冬鳥のオナガガモ等と出会う。
2021	10	16	信濃川下流の柳都大橋と万代橋を渡る。佐渡汽船ときわ丸の出港、冬羽に換羽中のウミネコを撮り、柳都大橋の橋台下でドバトの群れと出会う。
2021	10	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨天で北の風が強く、鳥屋野潟湖面は白波が立つ。沖合で波乗りをするマガモの群れ、アサザが群生する岸辺の近くでヒドリガモ♀、自然生態園のため池でコガモ♀と出会う。
2021	10	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。親鳥を必死に探すカンムリカイツブリの雛鳥、たぶん渡りの途中で休むオナガガモ♀と♀に出会う。マガモの生息数が日を追う毎に増えている。
2021	10	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。青天で暖かく、カンムリカイツブリのカップルが頸を振って愛の挨拶を交わす、赤褐色が鮮やかなホシハジロ♂がノンビリと日向ぼっこをしていた。
2021	10	20	2016年版の昆虫類チョウ目のクロヒカゲ、ジャノメチョウ、シルビアシジミを更新。
2021	10	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ヨシ原で採餌する夏鳥のチュウサギ、冬鳥のホシハジロやオナガガモ、留鳥のカンムリカイツブリ、糞をしたコバネイナゴと出会う。
2021	10	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。自然生態園でキツネノエフデというキノコと出会う。猛毒のカエンタケと同じ赤い色でよく目立つが、このキノコは無毒であるが悪臭を放つので食用には適さないようである。
2021	10	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。「コウ、コウ、コウ」と鳴きながらV字型飛行をするコハクチョウの群れと出会う。佐潟を目指しているのかな？それにしても、マガモの数が多くなった。水鳥の糞公害がちょっと心配である。
2021	10	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。弁天橋付近で20尾弱のメナダの群れと出会う。体長は1mくらいか？鳥屋野潟の沖合で、ホシハジロの10数羽の群れと出会う。一時休憩して佐潟方面へ南下するのかな？
2021	10	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。今日もメナダの群れと出会う。仲間を懸命に捜す逸れコハクチョウと出会う。カンムリカイツブリの優雅で美しいグルーミング(羽繕い)姿と出会う。
2021	10	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。昆虫やムカデ、カエルなどの小動物を餌とするモズと久しぶりに出会う。そして、今日も色っぽいピンクのクチバシのカンムリカイツブリと出会う。
2021	10	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。マガモカップルの愛の挨拶(お辞儀)のシーンに出会う。湖畔林ではオナガと久しぶりに出会う。そして、ゼブラ模様の一部が残るカンムリカイツブリの若鳥と出会う。
2021	10	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。群れから逸れてウロウロしているコハクチョウ幼鳥に出会う。幼鳥に餌を与えないカンムリカイツブリ親鳥に出会う。幼鳥の自立を促しているのか、野生の世界はキビシイものだ。
2021	10	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。コハクチョウの挨拶(羽ばたいてコウコウと鳴く)、コハクチョウが湖面に着水するシーンに出会う。自然生態園ため池岸辺にひっそりと佇むダイサギ(冬鳥)に出会う。

西暦	月	日	日誌
2021	11	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリは冬羽になった。ところがカイツブリはまだ夏羽である。ハゼノキの葉が真赤に紅葉し、通りの店主は落葉掻きが日課になってきた。
2021	11	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ヨシ原で久しぶりにアオジ♀と出会う。群れで行動するマガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、コハクチョウ、単独行動する少数派のカンムリカイツブリ、セグロカモメと出会う。
2021	11	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。トモエガモ♀エクリプス、オナガガモ♀エクリプス、カルガモが羽ばたきをしないうで直立する後ろ姿、湖水の中を歩くダイサギ、カンムリカイツブリ、オオバンと出会う。
2021	11	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。足が黒いチュウダイサギ、「ピーピーピー」と鳴いて親に餌をねだるカンムリカイツブリの若鳥、交尾中のコバネイナゴのカップルと出会う。
2021	11	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。棧橋の杭上に佇むアオサギ、「ピーピーピー」と鳴いて親に餌をねだるカンムリカイツブリの若鳥と出会う。縄張り争いの結果か？、岸边はマガモ、沖合はオナガガモの群れが目立つ。
2021	11	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カルガモの交尾、オオバンの赤眼の眼差し、キンクロハジロ♀、アカゲラ♀と出会う。潟湖の沖では天敵から身を守るため、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ等が群れを形成している。
2021	11	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。赤眼でクチバシがピンク色のカンムリカイツブリ、ヒドリガモ♀、オナガガモ♀エクリプス、胸が真っ白なカワウ♀若齢と出会う。
2021	11	8	鳥屋野潟公園と江南区のヒツジ田で動植物との一期一会を楽しむ。潟湖で赤眼でクチバシがピンク色のカンムリカイツブリ、オナガガモ♀エクリプス、胸が真っ白なカワウ♀若齢、長潟と下早通のヒツジ田でコハクチョウの群れと出会う。
2021	11	9	2016年版の昆虫類チョウ目のスジグロシロチョウ、ダイミョウセセリを更新。
2021	11	10	2016年版の昆虫類チョウ目オオチャバネセセリ、チャバネセセリ、ツバメシジミを更新。
2021	11	11	強風で時々雨がザーっと降る悪天候の中、潟湖で風を避けることができる岸边付近でマガモ、カルガモ、コガモの群れと出会う。弁天橋付近で赤眼でクチバシがピンク色のカンムリカイツブリと出会う。
2021	11	12	2016年版の昆虫類チョウ目ツマグロヒョウモン、テングチョウを更新。
2021	11	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。中国東北部などから渡来したハジロカイツブリ、マガモ、オナガガモ、コガモ、ヒドリガモ、セグロカモメ、トモエガモ、赤眼でクチバシがピンク色のカンムリカイツブリ、モズと出会う。
2021	11	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。迷子のコハクチョウ幼鳥、胸が白いカワウ♀若齢、トモエガモ、赤眼でクチバシがピンク色のカンムリカイツブリを撮影。久しぶりに南風で暖かく、岸边でカワセミと遭遇したが撮れなかった。
2021	11	15	風は弱いが時々ポツポツと雨が降る天気、潟湖でマガモ、オナガガモ、キンクロハジロを撮影。自然生態園ため池で夏羽から冬羽に換羽中のアオサギ、ヤマブキ色に黄葉したイチョウ、真赤な花びらと黄色い雄しべのヤブツバキを撮影した。
2021	11	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、ダイサギ、カルガモ、トモエガモ、ハジロカイツブリ、カワウ、オナガガモ、ヤブツバキの花、キツネノエフデ(茸)、ジョロウグモを撮影した。
2021	11	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ホシハジロのカップル、アキアカネ、トモエガモ、オナガガモ、カワウ、コハクチョウ、ダイサギ、アオサギ、コガモ、アカミミガメ、カワセミ幼鳥を撮影した。
2021	11	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、トモエガモのカップル、オカヨシガモ、オナガガモ、マガモ、カワウ、モズ、ダイサギ、アオサギ、ウマノスズクサ、ツタの黄葉を撮影した。秋深し・・・である。
2021	11	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、特定外来生物のハナガメ、トモエガモ、セグロカモメ、オカヨシガモ、カワウ、ダイサギ、アオサギを撮影した。天高く馬肥ゆる秋、爽やかな秋晴れであった。
2021	11	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。群れから逸れたコハクチョウ幼鳥、マガモ、カルガモ、トモエガモ、アオサギ、カンムリカイツブリ、スズメを撮影した。コハクチョウ幼鳥が羽繕いをしながら不安そうに「カウーカウー」と鳴いていた。
2021	11	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、カイツブリ、コハクチョウ、ダイサギ、コガモを撮影した。鳥屋野潟を彷徨するボートがいたので、水鳥たちは、どこかへ避難したようだ。

西暦	月	日	日誌
2021	11	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カルガモ、トモエガモ、コハクチョウ、マガモ、ダイサギ、イチョウの黄葉を撮影した。西の空に黒い雲がかかり、悪天候になりそうである。それが分かるのか？、水鳥たちはどこかに避難したようだ。
2021	11	23	2016年版の昆虫類チョウ目アカタテハ、トラフシジミ、ヒオドシチョウ、ヒメアカタテハを更新。
2021	11	24	2016年版の昆虫類チョウ目ヒメウラナミジャノメ、ヒメシジミを更新。
2021	11	25	2016年版の昆虫類チョウ目ヒメジャノメを更新。
2021	11	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、カワウ、マガモ、ダイサギ、カルガモ、ウマノスズクサ、イチョウの落葉を撮影した。今日も、悪天候になりそうである。水鳥たちはどこかに避難したようだ。
2021	11	27	時々、突風とともに雹が降る天気。カンムリカイツブリ、マガモ、アオサギを撮影した。今日も、悪天候である。低空で蛇行して飛翔するミサゴと遭遇した。また、シジュウカラの群れと遭遇したが、いずれも撮影できず、残念。
2021	11	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、カワウ、トモエガモ、セグロガモ、オナガガモ、ミコアイサ、コハクチョウ、コガモ、アオキの緑色の実を撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられて、撮影できず。
2021	11	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリの大きな足、ハジロカイツブリ、マガモ、カワウ、ヒドリガモ、トモエガモ、コハクチョウを撮影した。今日も、いつもの場所でカワセミに逃げられて、撮影できず。
2021	11	30	午後から鳥屋野潟公園へ出かけた。船外機付きボートが潟を周回していた。水鳥がいつもの場所にいない。岸辺にカイツブリ、沖に迷子のコハクチョウ幼鳥、自然生態園ため池でアオサギを撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオバン、カワウ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、カルガモ、カワセミ、サザンカの赤い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの♀を撮影できた。ただし、画質はイマイチである。
2021	12	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カルガモ、オオバン、マガモ、カイツブリ、ミコアイサ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、カシラダカ、迷子のコハクチョウ幼鳥を撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	4	2016年版の昆虫類チョウ目ベニシジミを更新。
2021	12	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。コガモ、カワウ、オオタカ、コハクチョウ、モズ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、サザンカの赤い花、アオサギ、ミサゴを撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	6	2016年版の昆虫類チョウ目オオチャバネセセリ、コムスジ、ヒオドシチョウ、ミスジチョウ(削除)、ミドリシジミを更新。
2021	12	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カルガモ、オナガ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、コハクチョウを撮影した。ミコアイサの数が増えたようだ。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、ミコアイサ、コハクチョウ、カワウ、ミサゴを撮影した。ヒドリガモやヨシガモ、トモエガモの姿が消えた。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。

西暦	月	日	日誌
2021	12	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。コハクチョウ、ダイサギ、ミコアイサ、モズ、オナガガモ、アオサギ、カンムリカイツブリ、マガモを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。ミサゴを確認したが撮影できず。
2021	12	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ジョウビタキ♂、ミコアイサ、セグロカモメ、コハクチョウ、カイツブリ、マガモ、カンムリカイツブリ、モズ♂、カワセミ♂、ダイサギ、カワウを撮影した。いつもの場所にカワセミ♀の気配無し。
2021	12	12	2016年版の昆虫類チョウ目ミドリヒョウモン、メスグロヒョウモン、ツマグロヒョウモンを更新。
2021	12	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、オオバン、キジバト、モズ、ミコアイサ、オナガガモ、コハクチョウ、マガモ、セグロカモメ、カワウ、ノスリ幼鳥を撮影した。いつもの場所にカワセミ♀の気配無し。
2021	12	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ノスリ幼鳥、ミコアイサ、コハクチョウを撮影した。いつもの場所にカワセミ♀の気配無し。
2021	12	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ゴイサギ幼鳥、カワウ、ダイサギ、カイツブリ、ミコアイサ、スズメの群れを撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	17	2016年版の昆虫類チョウ目モンキチョウを更新。
2021	12	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオバン、コハクチョウ、オナガガモ、マガモ、アオサギ、カワウ、ヒヨドリ、ロシア沿海地方ウスリーから渡来したシロハラを撮影した。魚を捕獲して飛翔するミサゴを確認、撮影できず。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カルガモ、カワウ、ミコアイサ、カンムリカイツブリ、オナガガモ、モズ、コハクチョウ、オオタカ、ダイサギを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が強く、湖面は波高く、寒い。カンムリカイツブリ、マガモ、コガモを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立ち、寒い。カンムリカイツブリ、カワウ、ミコアイサ、シジュウカラを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ミサゴ(魚捕獲)、オナガ、トビ、アオサギ、カワウ、カンムリカイツブリ、ヒヨドリ、ミコアイサの♀と♂エクリプスの見返りポーズ、マガモ、ダイサギを撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2021	12	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が強く、湖面は波高く、時々吹雪いて寒い。オオハクチョウ、コハクチョウ、コガモ、ミコアイサ、カワウを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が強く、湖面は波高く、手が凍える。ミコアイサ、コガモ、カルガモ、雪景色を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2021	12	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カイツブリ、カワウ、ハシボソカラス、キジバト、シベリア東部からカムチャツカにかけての地域から渡来したツグミ♀、ミコアイサ、ヒヨドリ、カンムリカイツブリ、モズ♀、コハクチョウ、ダイサギを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2021	12	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が強く、湖面は波高く、手が凍える。オオハクチョウのファミリー（成鳥2羽、幼鳥4羽）、ダイサギ、コガモの群れ、鳥屋野潟の雪景色を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カイツブリ、ミコアイサ、カワウ、カンムリカイツブリ、スズメ、アオジ、新潟県スポーツ公園の雪景色を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立ち、時折、雪がちらつく。カワウ♀繁殖羽、ハシボソカラス、コハクチョウ、ミコアイサ、マガモを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立ち、時折、雪がちらつく。ミコアイサ♀、ミコアイサ♂、モズ♀、オオハクチョウとマガモ、粒雪が吹雪く鳥屋野潟を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	6	鳥屋野潟公園と江南区の田んぼ（ヒツジ田）で動植物との一期一会を楽しむ。鳥屋野潟公園でコハクチョウの群れ（約170羽）、カワウ、スズメの群れ、カンムリカイツブリ、江南区のヒツジ田でコハクチョウ幼鳥などを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立ち、時折、雪がちらつく。カイツブリ、コガモの群れ、わた雲、ハジロカイツブリ、アオサギ、ハシボソカラス、スイセンの白い花、繁殖羽に換羽中のカワウ♂を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、ダイサギの横顔、カワウ、オナガガモ♂、ミコアイサ♂、♀エクリプス、♀の羽ばたき、♀のグルーミング、猛禽類ノスリの横顔、正面の顔、頭頂部を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	9	鳥屋野潟の弁天橋付近で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、ヒヨドリ、ダイサギ、カルガモ、コハクチョウ、亀田バイパスとやの橋からの鳥屋野潟景観を撮影した。
2022	1	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、スズメ、ミコアイサ、カワウ、カイツブリ、ダイサギ、カンツバキの赤い花、ノスリを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオバン、ツグミ、トモエガモ、オナガガモ、足環をしたコゲラ♀、マガモ群れを撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	12	鳥屋野潟の弁天橋付近で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、粒雪が激しく降る。晴れ間にマガモ♀、オオバン、カンムリカイツブリを撮影した。
2022	1	13	万代橋と柳都大橋付近で動植物との一期一会を楽しむ。信濃川の上下流景観、頬が膨らんだスズメ、海に近い信濃川下流でオオバン（汽水域でも採餌できるのか？）、住吉町の看板を撮影した。

西暦	月	日	日誌
2022	1	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立つ。ノスリの下尾筒(かびとう)、マガモ、カルガモ、カイツブリ、トビ滑空、アオサギの横顔、ダイサギの横顔、ミコアイサ♀、ミコアイサのカップルを撮影した。いつもの場所でカワセミに逃げられ撮影できず。
2022	1	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カイツブリ、コガモ♂、モズ♀、ミコアイサ♀、マガモ♀、スズメ、カンムリカイツブリ、ヒヨドリ、ノスリ、コゲラ♀を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	1	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、湖面は波立つ。弁天橋直下でダイサギが水中に顔を突っ込むシーン、カワウ♂繁殖羽、オナガ、ミコアイサ♀、カイツブリ、カワアイサ♂、ダイサギの見返りを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	18	鳥屋野潟の弁天橋付近で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、粒雪が激しく降る。晴れ間にオオハクチョウの群れ、コハクチョウ、マガモ、ミコアイサ♂、カルガモカップルを撮影した。
2022	1	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。西風が吹き、時折、粉雪が吹雪く。コハクチョウとオオハクチョウの群れ、ヒヨドリ、セグロカモメ、ミコアイサ、鳥屋野潟のホワイアアウト、カワアイサ♂、アオサギ、チュウサギの様な顔をしたダイサギ、スズメを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。沖合は凧で、マガモが群れて合コンをしている。他の鳥はヨシ原で休憩か？群れから逸れたオオハクチョウ、ミコアイサのカップル、カルガモ♂の上尾筒(じょうびとう)、コハクチョウ、ミコアイサ幼鳥、ハシブトカラスを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、突風が吹く。アオジ♂、ミコアイサ♂エクリプス、ヒシクイの群れ、カンツバキの赤い花、ハシブトカラス、ミコアイサ♂♀、ヒヨドリ、カワウ♀、雪の上にしゃがみ込んだ(群れから逸れた)オオハクチョウ(力尽きたか？)を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオバン、モズ♂冬羽、ノスリ、カワウ♂、アオサギ、ヒヨドリ、オナガガモ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雪の上にしゃがみ込んだ(群れから逸れた)コハクチョウ、コハクチョウの咳、ミコアイサ♀、ノスリ、カルガモ、カワウ♀、首を曲げて木を突くコゲラ♀、ヒヨドリを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カンムリカイツブリ、猛禽類3種と出会う、飛び立つ瞬間のオオタカ、木にとまったトビ、飛び立つ瞬間のノスリ、ノスリとは3回出会う、魚を捕獲するカワウ、魚を飲み込んだカワウ、ミコアイサ♂、コゲラ♀を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。クチバシを洗うカイツブリ、凧で鏡の様な水面の鳥屋野潟、シジュウカラ♂、ロシアのウスリー地方から渡来したシロハラ♀、ヒヨドリ、マガモ、オナガガモ、コガモ、舌を出したオオバン、セグロカモメ、カワウ幼鳥を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	1	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。カイツブリ後姿、ヘクソカズラの実を採餌するヒヨドリ、ミコアイサ♂、5羽のオオハクチョウ、カワウ幼鳥と成鳥、ミコアイサ幼鳥とマガモ♀、オナガガモ♀と♂、ミコアイサ♂、オナガガモ♂後姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、白波が立つ。岸辺に佇むダイサギ、ミコアイサ♂エクリースの波乗り、繁殖羽に換羽中のカワウ♂見返し、マガモ群れの波乗り、ミコアイサ♀、2羽のミコアイサ♂とマガモ♀♂とコガモ♂の波乗り、湖畔林の樹冠にとまるムクドリを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北または西の風、湖面はうねりの様な波。ハシボソカラス横姿、カイツブリが浮上して見返し、ヒヨドリ後姿、繁殖羽に換羽中のカワウ♂見返し、マガモ群れの波乗り、ミコアイサカップル、ミコアイサ♂、ハクセキレイ前姿、ツグミ横姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。ヒヨドリ横姿、オオバン眼差し、キジバト採餌、カワウ幼鳥と立ったまま眠る成鳥、ヒヨドリ眼差し、カワアイサ♂、マガモ群れ、目つきが悪いカイツブリ、ツグミ横姿、スイセン(アルカロイド系の毒をもつ)の白い花、ミコアイサ♀見返しを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。口を開けて鳴くカイツブリ、トビの滑空、オオハクチョウとマガモ、5羽のオオハクチョウ、水の中を歩くダイサギ、岸辺に佇むアオサギ、ミコアイサ♀、スイセンの白い花、嘴を羽に隠して眠るカンムリカイツブリを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	1	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。オオハクチョウ、ミコアイサ♂の眼差し、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、マコモ群れ波乗り、ミコアイサ、カワウ♀が並んで遊泳、オオハクチョウ幼鳥と成鳥、ダイサギ、ヒヨドリ、スイセンの白い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。2羽のカルガモ、ダイサギ見返し、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、ミコアイサカップル♂の大あくび、マガモ♀、ミコアイサ幼鳥、カワアイサ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、白波が立つ。水面を風が走る鳥屋野潟、ミコアイサ♂、セグロカモメ、マガモ群れの波乗り、ミコアイサ♀見返し、カワウ♀若齢アイビーグリーンアイズ、カルガモ群れ波乗り、ミコアイサ♂見返しを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	3	鳥屋野潟と新潟県スポーツ公園で雪景色を楽しむ。北西の風は弱い、牡丹雪が降り止まない、雪片を拾って被写体にフォーカス出来ない。鳥屋野潟の雪景色、オオバン、新潟県スポーツ公園の雪景色を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。岸辺に佇むアオサギ、アオサギ横顔、カワウ♀若齢、ヒヨドリ見返し、ミコアイサ♂、片足で休むダイサギを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、時折、白波が立つ。鳥屋野潟の雪景色、錆色に汚れたミコアイサ♂、新潟県スポーツ公園の雪景色、マガモとカルガモの群れの波乗り、ミコアイサ♀の波乗り、足で喉を掻くミコアイサ幼鳥、自然生態園ため池の雪景色、鳥屋野潟公園水路の雪景色、新潟県スポーツ公園ため池の雪景色を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	2	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く、湖面は波高く、白波が立つ。オオハクチョウの成鳥と幼鳥、白波がたつ鳥屋野潟水面、新潟県スポーツ公園のパウダースノウ、片足で休むアオサギ、水面を風が走る水路、カワウ♀見返り、ツグミ見返り、9羽のオオハクチョウを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風があり、湖面は波が高い。ヒシクイと6羽のオオハクチョウ、2羽のヒシクイと6羽のオオハクチョウ、9羽のオオハクチョウ、ミコアイサ♂波乗り、マガモ群れ波乗り、12羽のオオハクチョウ飛翔、オナガガモ群れ、オナガガモ♂羽ばたき(後姿)、マガモ♂、モズ♀、2mの至近距離のハシボソカラスを撮影した。約20羽のヒシクイが編隊を組んで北へ向かったが、撮影できず。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。風は弱いですが、時々、淡雪が舞う。鳥屋野潟の淡雪の景観、オオハクチョウの群れ、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズを撮影した。途中から淡雪が勢いよく舞い、被写体にフォーカスできなくなり撮影を止めた。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。いつもの北西の風が吹かない。湖面は静かな風である。錆色に汚れたミコアイサ♂、8羽と2羽のオオハクチョウ、オオハクチョウとアオサギ、4羽のカルガモ、20羽のヒシクイが(北へ)飛翔、マガモ群れ、ミコアイサ♀見返り、オオバンの見返りを撮影した。冬鳥たちが北へ徐々に移動し始めたようだ。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。いつもの北西の風が吹かない。湖面は静かな風である。夏羽に換羽中のカイヅブリ、ツグミ、11羽のオオハクチョウ、9羽のトモエガモ、カワウ♀若齢、トモエガモ♂、2羽のミコアイサを撮影した。トモエガモなどの冬鳥たちが集合して、北帰行を始めたようだ。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。湖面は静かな風である。いつもローグ・ワンのツグミ、トモエガモ♂、カンツバキの赤い花、2羽のミコアイサ♀、ミコアイサ♂、片足で休むアオサギ、ヒヨドリを撮影した。湖面に浮かぶ冬鳥がまばらになってきた。北帰行が始まったようだ。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	12	県立図書館までの鳥屋野潟湖畔道路で動植物との一期一会を楽しむ。湖面は静かな風である。5羽のオオハクチョウ、マガモの群れ、カワウの着水、低解像度のトモエガモ♂、カワウ♀、カワウ♂繁殖羽換羽中、切梁矢板排水路の除塵機、ローグ・ワンのツグミ、ビッグスワンとエコスタジアムを撮影した。対岸から見るビッグスワンは、遠くに見える山並みを背景とした水郷の景観を壊している。ハクチョウが羽ばたく華麗な姿ではなく、異様な形のUFOに見えるのは、私だけであろうか？
2022	2	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。湖面は静かな風である。鏡のような湖面、8羽のトモエガモ、5羽のトモエガモ、ブタナのロゼット状の葉、23羽のヒシクイ飛翔、7羽のトモエガモ、群れから逸れたコハクチョウ、蕾が膨らんだ紅梅にとまるモズ♀、岸辺に佇むダイサギ、ミコアイサ♂を撮影した。湖面に浮かぶ冬鳥がまばらになってきた。北帰行が始まったようだ。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	2	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。日差しは暖かいが、風が冷たく、手袋が離せない。鏡のような湖面、浮上して見返るカイツブリ、走る人、カワウ♂繁殖羽、トモエガモ、ヒドリガモのみと♀、同じくカップル、ツグミ、ノスリの見返り、ノスリのダークブラウンアイズを撮影した。冬鳥の北帰行が始まったようである。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。日差しは無く、南東の風は冷たく、湖面に波がある。カルガモ、マガモ、コガモ、16羽のトモエガモ、オオバン、マガモの群れの波乗り、黄色いくちバシのヒヨドリ(たぶん、ヤブツバキの蜜を吸ったか?)、ツグミ、羽を乾かすカワウの後姿(羽の構造がよく分かる)を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。積雪深30cmぐらい、風はない。湖畔林の雪景色、鳥屋野潟の雪景色、カワウ♀遊泳、岸辺に佇むダイサギ、紅梅蕾の冠雪、新潟県スポーツ公園の雪景色、9羽のオナガガモ、ヒヨドリの眼差し、ドローンの飛行準備をする夫婦?、オナガガモ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。日差しは無く、南東の風は冷たい。3羽のコガモ♂、ツグミ、キジバト、オオハクチョウ、3羽のヒシクイ、カワウ繁殖羽の顔、黄色いくちバシのヒヨドリ、ムクゲの実の殻、モズ♀を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。昨日、3回目のファイザーを接種した。
2022	2	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。みぞれ雨が止まない。そして時々、突風が吹く。飛び立つノスリ、木にとまるオオタカ、白梅の花一輪を撮影した。ミサゴに遭遇したが撮影できず。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	21	弁天橋付近でオオハクチョウと遭遇する。風速10m以上の突風が吹き、時々、陽が射す天気。オオハクチョウ6羽の成鳥と4羽の幼鳥を撮影した。幼鳥は、くちバシが淡い黄色になり、羽の大部分が白くなってきた。もうすぐ、北帰行に旅立つのか?
2022	2	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が吹き、時々、粉雪が舞う。手が凍える。マガモとカルガモとコガモの群れ、鳥屋野潟の雪景色、カワウ♂繁殖羽の遊泳、マガモの群れ、ミコアイサ♂エクリプス見返り、新潟県スポーツ公園の雪景色、シロハラ♀若鳥、ツグミを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く吹き、湖面は波が高い。オオハクチョウ成鳥と幼鳥、ミサゴ飛翔、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、ユーラシア大陸やサハリン等から冬鳥として渡来したシメ♂、アオサギ、ダイサギ、ノスリ横姿、泥まみれの顔のオオハクチョウ幼鳥を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	24	弁天橋付近と新潟県スポーツ公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く吹き、湖面は波が高い。ツグミ見返り、波が高い鳥屋野潟、ノスリ滑空、オオバン見返り、新潟県スポーツ公園せせらぎ水路、ハシブトガラス横顔、コガモとカルガモ、カワウ♂繁殖羽見返り、倒木を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	2	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が時々強く吹き、湖面は波がざわめく。波が高い鳥屋野潟、アオイの冬羽、ツグミ見返り、ヨシ原のマガモ群れ、カイツブリ見返り、ツグミ、マガモ群れ波乗り、白波が立つ鳥屋野潟を撮影した。冬に渡来した水鳥のほとんどが北帰行したようだ。マガモとコガモが残っているが、まばらで少ない。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	2	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の冷たい風が吹くが、日差しが暖かい。カワウ♀若齢が羽を乾かすポーズ、ミコアイサ♀、ヒヨドリの羽繕い、セグロカモメ、マガモ群れ、カワウ♂繁殖羽遊泳、カンムリカイツブリ冬羽の眼差しを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が吹くが、日差しは暖かい。ジョウビタキ♂見返り、キジトラ猫、カワウ♂(繁殖羽に換羽中)のエメラルドグリーンアイズ、オナガガモとマガモの群れ、トモエガモ♂、トモエガモとオナガガモの群れ、マガモ群れの日向ぼっこ、アオサギの寝ぼけ眼、ミコアイサ♀眼差し、白梅の花、ノスリを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。トモエガモはシベリア東部へ、オナガガモはユーラシアと北米大陸の亜寒帯へ、それぞれ北帰行の途中なのか？
2022	3	3	弁天橋付近で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く吹き、湖面を風が走る。オオバンの子ビーアイズ、水面を風が走る鳥屋野潟、マガモ♀と♂、カワウ♂繁殖羽とカイツブリを撮影した。ヨシ原の沼地で、カワセミ飛翔を確認したが撮影できず。
2022	3	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。風が無く、日差しは暖かい。キジバト眼差し、ツグミ眼差し、紅梅、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、カンムリカイツブリとマガモ♂、逸れヒドリガモ♂、ダイサギ換羽中、ヒメオドリコソウ、オオクチバスの喰われた遺体、ミコアイサ幼鳥、ミコアイサカップル、ヒヨドリ眼差し、岸辺に佇むアオサギの後姿、カワウ5羽、白梅を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。マガモ、コガモなどの冬鳥も残り少なくなった。
2022	3	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。風が無く、日差しは暖かい。ジョウビタキ♂の前姿と後姿、オオタカ、ジョウビタキ♂の眼差し、カワウ♂繁殖羽換羽中のエメラルドグリーンアイズ、岸辺に佇むアオサギの後姿、換羽中のカイツブリ見返り、ユキツバキの赤い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。ジョウビタキ♂を頻繁に見かけるようになった。
2022	3	6	新潟県スポーツ公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が強く吹き、湖面に白波が立つ。風が鳥屋野潟湖面を走る、鳥屋野潟波高し、鳥屋野潟湖面に白波が立つ、紅梅の花、シメ♀後姿の眼差し、ツグミ前姿、アトリ♂前姿、アトリ♀横姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風が吹くが、日差しは暖かい。カワウ♂繁殖羽の遊泳、ツグミ、カワウ♀見返り、マガモ群れとヒドリガモカップル、ヒドリガモ♂と♀、アオサギ見返り、ミコアイサ♀見返り、ムクドリ横姿、キジ♂、ダイサギを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。湖面は凪で、日差しは暖かい。鳥屋野潟が凪で鏡の様な水面、ヒヨドリ横姿、ツグミ横姿、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、カワウ♀羽乾かす、カルガモ群れ、ミコアイサ♂見返り、ヒドリガモ♂と♀、ヒヨドリのブラウンアイズを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。湖畔林で、「ホッ、ケキョケキョ」と鳴く鳥はウグイスか？ようやく春が来ましたね～！

西暦	月	日	日誌
2022	3	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。風は無く、日差しは暖かい。オオジュリン♂夏羽に換羽中、アトリ♀の舌（ピンク色）、オオジュリン♂冬羽、キジバト見返り、紅梅の花、カワウ♂繁殖羽が遊泳、カワウ若鳥、ヒヨドリ羽繕い、採水作業をする人を乗せた舟、片足で休むアオサギ、ダイサギが岸辺を歩く、アカミガメ甲羅干し、モズ♂見返りを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。湖畔林で、「ケキョケキョ」と鳴くウグイス、春だね～！
2022	3	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。風は無く、日差しは暖かい。2羽のハシボソガラス、オナガ見返り、カワウ若鳥アイビーグリーンアイズ、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、オナガガモ♂、ツグミ見返り、ヒドリガモカップル嘴を羽に隠し休む、ヒドリガモ♂眼差し、ヒドリガモ♀眼差し、ミコアイサ♀と幼鳥、シロハラ♂見返り、ユキツバキの赤い花、ハシブトガラス横顔を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。湖畔林のあちこちで、「ホウーケキョケキョ」の鳴き声が聞こえる。春ですね～！
2022	3	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南風で、日差しは暖かい。オナガ後姿、カワウ♂繁殖羽のエメラルドグリーンアイズ、オナガガモ♂、ミコアイサ♂エクリプス、モズ♀横姿、ミコアイサ♀とミコアイサ幼鳥の眼差し、アカミガメ甲羅干し、ヒヨドリ眼差し、オオイヌノフグリの青い花、ユキツバキの赤い花、すじ雲を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し（亀田郷の田んぼ排水が流れてこないから餌の小魚がいない？）。最高気温15℃の予報、春、春、春がきた～！
2022	3	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南風で、日差しは暖かい。ツグミ横姿、ムクドリ♂と♀、ツグミ後姿、ヒヨドリ横姿、凧で鏡の様な鳥屋野潟の湖面、アカミガメ甲羅干し、カワウ♀見返り、ウグイス眼差し、カイツブリ後姿見返り、ヒドリガモカップル、オオイヌノフグリの青い花、シジュウカラ♀採餌横姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。いい天気でした。春ですね！
2022	3	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。往きは北西の冷たい風、帰りは東南の生暖かい風であった。季節の移ろいを寒暖の差で気づく日々である。カンムリカイツブリ見返り、漂鳥のベニマシコ♂前姿、キジバト後姿見返り、ジョウビタキ♂前姿、カワウ♂繁殖羽、ウグイスが鳴く横姿、ミコアイサ♀横姿、紅梅の花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	15	新潟県スポーツ公園公園で動植物との一期一会を楽しむ。往きは南西の強い風、帰りは北西の強い風で、鳥屋野潟湖面は白波がたち大荒れ。オオジュリン♂冬羽、湖面の白波、ハシブトガラス横顔眼差し、ツグミ横姿、住宅街に隣接しヨシ原となった耕作放棄地、ツグミ等が食べるアオキの赤い実を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南西の弱い風、往きはジャンパー、帰りはワイシャツ1枚であった。オオジュリン♂冬羽、カワラヒワ♂、モズ♂横姿、オオイヌノフグリの青い花、コハコベの白い花、カワウ若鳥、ツグミ横姿、ヒヨドリ横姿、ダイサギとカルガモ、アカミガメ甲羅干し、黄色いくちバシのヒヨドリ、ソメイヨシノ切り株樹齢30年、ウシガエルのオレンジアイズ、ハシブトガラスカップルを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の冷たい風、平年並みの気温であった。オオジュリン♂冬羽、同じく夏羽に換羽中、メジロ、ベニマシコ♂、ツグミ、カワウ♂繁殖羽とマガモ♂、ヤブツバキの赤い花、ビオトープため池、紅梅の花、清五郎排水路、動物ふれあいセンターのヒツジ、ヒツジ田（2番穂）、ムクドリの群れ採餌、ダイサギ、ユズリハの葉、シメ♂横姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	3	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の冷たい風、平年並みの気温であった。キジバト見返り、ハシブトガラス横顔眼差し、嘴を羽に隠して眠るコガモ♂、コガモのカップル(グルーミング)とカルガモのカップル(嘴を羽に隠して休む)、ダイサギが水の中を歩く、アオキの赤い実、シジュウカラ♂採餌、排水樋門、清五郎排水路、ヤブツバキの赤い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の冷たい風、ダウンを着ても汗は出なかった。オオジュリン♂、キジ♂、ツグミ見返り、換羽中のスズメ見返り、不明の鳥、キジ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむつもりであったが、北西の冷たい風が吹き、霧雨が降り止まない。オオジュリン♂夏羽に換羽中(横姿)、オオジュリン♂夏羽に換羽中-前姿-採餌、オオジュリン♂夏羽に換羽中-前姿-眼差し、キジ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北東の冷たい風が吹き、最高気温5～7°。ハシボソガラスの巣(抱卵か?)、アオキのスターダストの葉、ツグミ前姿、岸辺に佇むアオサギ、カワウ♂繁殖羽に換羽中、カイツブリ見返り、ダイサギさんの探し物、アオサギが歩く後姿、ユキツバキの赤い花を撮影した。清五郎の田んぼ付近でコチドリの鳴き声と飛翔を確認したが撮影できず。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北東の冷たい風から東北東の暖かい風に変わり、マフラーを脱いでダウンのチャックを胸まで下げた。オオジュリン♂冬羽、ツグミ、ミコアイサ♂エクリプス～北帰行しないのか?、カンムリカイツブリ夏羽、モズ♂後姿、清五郎排水路、ヒツジ田、ダイサギが口を開けて体温調節～暑いのか?、オオイヌノフグリの子葉の青い花を撮影した。清五郎の田んぼ付近でコチドリの気配無し。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	24	鳥屋野潟ヨシ原、長潟と下早通(江南区)の田んぼ(ヒツジ田)で動植物と景観の一期一会を楽しむ。オオジュリン♀冬羽、同じく♂夏羽に換羽中、オオタカ後姿、ツグミ横姿、休耕田、支線排水路、ヒツジ田、アオサギ飛翔、小松堀排水路、幹線用水路、農地転用埋め立て、ハクセキレイ♂、小排水路、嘴に泥をつけたムクドリ♂を撮影した。いつもの場所にカワセミの気配無し。
2022	3	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南西の弱い風、薄地のジャンパーで出かけたが、帰りは日差しが強く陽傘をさした。オオジュリン♂夏羽に換羽中、オオジュリン♀冬羽、ダイサギとチュウダイサギ婚姻色(移行中)が10m程度離れて岸辺に佇んでいた(30分後に見かけた時はチュウダイサギのみであった)、カンムリカイツブリ夏羽、アカミミガメ甲羅干し、キジ♂、紅梅の花(満開であった)を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南西の弱い風、曇り空、薄地のジャンパーで出かけた。帰りは弱い雨。ハシボソガラスの巣(抱卵?)、コハコベの白い花、ノスリ、ダイサギトリオ、ヤブツバキの赤い花、カンムリカイツブリ冬羽、ヒメオドリコソウ淡紅色の花、ノスリ横顔、ツグミが2羽、白梅の花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南西の風、曇り空、薄地のジャンパーで出かけたが、帰りは陽傘をさした。ダイサギ前姿、カワセミ♂後姿、ウシガエル、ハシブトガラス見返り、シジュウカラ♂採餌前姿、アオサギ婚姻色に移行中、ジョウビタキ♀前姿、アケボノアセビ(曙馬酔木)の紅色の花を撮影した。いつもの場所ではカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	3	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西のひんやりとした風だが、晴天。暖かい日差しを期待して薄地のジャンパーで出かける。帰りは陽傘をさした。ジョウビタキ♂横姿、オオジュリン♀夏羽、大カップスイセンの花、ハシボソガラスがクルミを銜える、オオジュリン♀冬羽、カワウ幼鳥のアイビーグリーンアイズ、マガモ♂と♀の眼差し、コチドリ♂、ムクドリ♂、アカミミガメ群れ甲羅干し、ダイサギが水の中を歩くを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北東の風で、薄雲の空。薄地のジャンパーで出かける。鳥屋野潟が風で鏡の様な水面、ウシガエルの顔とイトミミズ、ジョウビタキ♂後姿、オオイヌノフグリの青い花、羽を乾かすカワウ幼鳥と繁殖羽の成鳥、カンムリカイツブリ夏羽2羽と同じく冬羽1羽、シジュウカラ♂横姿、オカヨシガモ♂繁殖羽見返りと同じく嘴を羽に隠して休む、帆を張った船、ジョウビタキ♀横姿、モズ♂若鳥前姿、ツクシとスギナ、ハシボソガラスの巣(抱卵?)、ダイサギ後ろ姿、モズ♀前姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南西の風で晴天。薄地のジャンパーで出かけたが、帰りはワイシャツ1枚で陽傘をさした。大カップスイセンの花(白い花弁と黄色い花冠)、オオジュリン♀冬羽(横姿)、モズ♂後姿、モズ♀横姿、カワウ幼鳥横姿、カイツブリ夏羽に換羽中、メジロの後姿、カンムリカイツブリ求愛のプレゼント(水草など)、カンムリカイツブリ(夏羽に換羽中)見返り、新潟県のヘリコプターはくちょう、ヒメオドリコソウの花(淡紅色)、アカミミガメ群れ甲羅干し、ジョウビタキ♀前姿、紅梅の花とヒヨドリ、エドヒガン(江戸彼岸)の赤い蕾、ウシガエル、モズ♀横姿を撮影した。モンシロチョウが舞い始めた。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	3	31	2016年版の昆虫類チョウ目スズグロシロチョウ、モンキチョウ、モンシロチョウを更新。
2022	4	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の冷たい風で晴れ。ダウンで出かけた。陽があたる背中では暑い、北風があたる喉元は寒い。モズ♀、ジョウビタキ♂、6羽のカワウ、ツグミ、ヒメオドリコソウの淡紅色の花、アケボノアセビの紅色の花、オイカワ稚魚、ジョウビタキ♂を撮影した。北西の風で湖面がザワザワと波立つ。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。南の風で曇時々晴れ。薄いジャンパーで出かけた。陽があたると暑い。ノスリ後姿、モズ♀足環、ベニマシコ♀、ジョウビタキ♂、オカヨシガモ♂、カンムリカイツブリカップルの求愛行動、アオサギ、モズ♀、カイツブリ若鳥、モズ♀、エドヒガンの赤い蕾を撮影した。マガモの約20羽の群れが北帰行か?。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北の風で晴れ。薄いジャンパーで出かけた。帰りは陽傘をさした。カンムリカイツブリ夏羽、シジュウカラ♂、ジョウビタキ♂、オオジュリン♂、ハシボソガラスの巣(抱卵?)、レンギョウの黄色い花、カンムリカイツブリカップルの求愛行動、オオジュリン♀、オオジュリン♂、ツグミ、カイツブリ夏羽換羽中、ベニマシコ♂夏羽に換羽中、ビオトープため池、スイレンの紅葉、ヒメガマの穂、ラッパ咲スイセン、菜の花(セイヨウアブラナ)、セイヨウタンポポの綿毛、ルリシジミ♂、ウシガエルを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	4	2016年版の昆虫類チョウ目ツバメシジミ、ヤマトシジミを更新。
2022	4	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北の風で晴れ。薄いジャンパーで出かけた。帰りは陽傘をさした。モズ♀前姿、オオジュリン♂夏羽に換羽中(横姿)、白梅の花、キジ♂が木に止まる、エドヒガン(江戸彼岸)の開花、カンムリカイツブリ夏羽、ユキツバキのピンク色の花、カワウ♀若鳥前姿、カンムリカイツブリカップル、アカミミガメ群れ甲羅干し、モンシロチョウ♂吸蜜を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	4	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風で晴れ、湖面が波立つ。薄いジャンパーで出かけたが途中からワイシャツ1枚、帰りは陽傘をさした。ソメイヨシノが開花、エドヒガン(江戸彼岸)五分咲き、流木に止まるコサギとアオサギとチュウダイサギ、ハシボソガラス横姿、ツグミ尾羽を損傷、2羽のヒドリガモ♂(北帰行しないのか?)、カンムリカイツブリ夏羽、同じく夏羽に換羽中(たぶん若鳥)、モズ♂後姿、コブシの白い花(花びら6枚)、ルリシジミ吸蜜、2羽のカルガモが日向ぼっこを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北の風で晴れ、湖面が波立つ。薄いジャンパーで出かけたが、日差しが暖かく、湖桜第2公園でワイシャツ1枚になり公園を散策した。ツグミ♂、ソメイヨシノ開花、カンムリカイツブリカップルの求愛行動(体格が大きい方が♂小さい方が♀と写真に表示)、シジュウカラ♂、岸辺に佇むアオサギ(婚姻色に移行中、足元でアカミミガメが甲羅干し)、ツグミ♀、ウシガエル、オオジュリン♂冬羽を撮影した。ツグミは体色が濃く黒っぽいのが♂、体色が薄く茶色っぽいのが♀で写真を比較すると分かり易い。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風で晴れ、湖面が波立つ。冷たい風だが薄いジャンパーで出かけた。オオジュリン♂冬羽見返り、ヒヨドリの黄色いくちバシとソメイヨシノの花、エドヒガン(江戸彼岸)満開、鳥屋野潟の湖面が波立つ、ヒヨドリの黄色いくちバシと紅梅の花、カルガモ群れ波乗り、モズ♂横姿、オカヨシガモ♂嘴を羽に隠して眠る、ジョウビタキ♀後姿を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。北西の風で晴れ、湖面が波立つ。気温は20℃超え、途中でワイシャツ1枚になった。コガモ♂眼差し、ハシボソガラスの巣(抱卵?)、カンムリカイツブリ♂羽広げる、同じくカップルの求愛行動、オオジュリン♀冬羽、アオジ♂眼差し、ツグミ尾羽損傷、カンムリカイツブリ夏羽、アカミミガメ3匹甲羅干し、ヤマシロオニグモがガガンボを捕獲、コブシの白い花びら6枚、ツグミ♂、ウシガエル(20cm超え)、チュウダイサギを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。亀田郷の田んぼ排水が流れてくるようになった。モンキチョウとタテハチョウ(キタテハ?)を確認した。
2022	4	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は20℃超え、途中でワイシャツ1枚になった。帰るころには夏日の暑さとなり、陽傘をさした。チュウダイサギがウシガエル幼体を採餌、鳥屋野潟湖畔のソメイヨシノ満開、ウシガエル、ハシボソガラスの巣(雛が孵化?)、ソメイヨシノ花びら、ソメイヨシノ満開、青空と鳥屋野潟湖面が一体になる、オオジュリン♀冬羽、2羽のヒドリガモ♂、カンムリカイツブリ夏羽、ヒドリガモ♀、カムルチー、カンムリカイツブリカップルの求愛行動、ツルニチニチソウの青い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。亀田郷の田んぼ排水が大量に流れてくる。
2022	4	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は20℃超え、ズボン下のタイツを脱いで出かけた。陽傘をさして帰宅。チュウダイサギ婚姻色に移行中、ソメイヨシノの花満開、ハシボソガラスの巣(抱卵?)、ヒヨドリの黄色いくちバシとソメイヨシノの花、満開のソメイヨシノでヒヨドリが吸蜜、セイヨウタンポポの黄色い花とロゼット状の根生葉、モズ♀、青空と湖面が一体になる、オカヨシガモ♂と♂エクリプス、カンムリカイツブリ夏羽、ツグミ♂尾羽損傷見返り、田園景観、ヤマブキ(山吹)の黄色い花、ユキヤナギ(雪柳)の白い花、クサガメ甲羅干し、ユキツバキの赤い花、シジュウカラ♂がソメイヨシノの花を摘む、陽光サクラ、釣り舟、モズ♀を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。清五郎の田んぼに、用水がまだこない。

西暦	月	日	日誌
2022	4	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は20℃超え、陽傘をさして帰宅。チュウダイサギ横顔婚姻色に移行中、カワセミ♂、ハシボソガラスの巣（給餌？）、ソメイヨシノの花満開、ツルニチニチソウの青い花、エドヒガンの花びら、ソメイヨシノの花びら、青空と湖面が一体になる、カワラヒワ♀、アオジ♂後姿、カンムリカイツブリカップル求愛行動、ツグミ♂尾羽損傷見返り、青空と鳥屋野潟公園水路の水面が一体になる、ウンナンコウバイの黄色い花、アオサギが（よく見ようと）首を伸ばすを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。弁天橋でカワセミ♂のムービーを撮影した。
2022	4	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は20℃ぐらい、陽傘をさして帰宅。岸辺を歩くチュウダイサギ（婚姻色に移行中）、ハシボソガラスの巣（給餌？）、ソメイヨシノの花と葉、ソメイヨシノの花満開、オカヨシガモ♂繁殖羽、カンムリカイツブリカップル求愛行動、カンムリカイツブリ夏羽と夏羽に換羽中、鳥屋野潟公園遊歩道のレッドロビンとソメイヨシノ、鳥屋野潟公園ビオトープため池、スイレンの紅葉、ソメイヨシノ花吹雪、アカミミガメ群れの甲羅干し、ユキヤナギの白い花、シジュウカラ♂の下から見た姿、スイセンータヒチの黄色い花を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇のち雨、気温は15℃ぐらい、雨傘をさして帰宅。岸辺に佇むアオサギ（後姿）、ソメイヨシノ花びらが散った後の花柄、岸辺を歩くチュウダイサギ（婚姻色）、ソメイヨシノの花びらが散った鳥屋野潟公園遊歩道、カンムリカイツブリ夏羽後姿、鳥屋野潟公園水路のソメイヨシノ、岸辺に佇むアオサギ（婚姻色に移行中）を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。昨日、ミサゴが湖面に着水して飛び立つ瞬間を湖畔林の間隙で目撃、撮影できず。
2022	4	15	2016年版の昆虫類チョウ目ルリシジミ、ルリタテハ、ヤマトシジミを更新。
2022	4	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は15℃ぐらい、陽傘をさして帰宅。セイヨウハコヤナギの高木、ムクドリ♂見返り、アオジ♂横姿、鳥屋野潟公園水路のソメイヨシノ散花、スノーフレーク（鈴蘭水仙）の白い花、ハナミズキ赤い総苞片、ツツジの花薄紫色、ハシボソガラスの巣抱卵？、ウシガエルを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。湖面で水鳥を見かけなかった。
2022	4	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は18℃ぐらい、陽傘をさして帰宅。ハナニラの白い花、チューリップの赤い花、カンムリカイツブリカップル遊泳、同じく求愛行動、キジ♂後姿、ソメイヨシノの花びらが散った鳥屋野潟公園遊歩道、シジュウカラ♂横姿、カワラヒワ♂の下から見た姿、ヨコヅナサシガメの幼虫、ヤマブキの黄色い花、アオジ♂見返り眼差し、アカミミガメ上陸、ハナミズキ黄緑色の花びらと黄色い総苞片を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。湖面はカンムリカイツブリとカルガモのみ。
2022	4	19	2016年版の昆虫類チョウ目ガを更新中。
2022	4	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は18℃ぐらい、陽傘をさして帰宅。八重桜ピンクの花、キジバト見返り、鳥屋野潟湖面の花筏、4羽のコガモ♂、東南アジアから渡来した夏鳥のヤブサメ横姿、カンムリカイツブリ夏羽見返り、ヨコヅナサシガメ幼虫、ギンズナをくわえるアオサギ、ギンズナを飲み込むアオサギ、ツグミ♀横姿、ハナミズキ黄緑色の花びらと黄色い総苞片を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。コサギ幼鳥、アオサギ、ムクドリ♀と♂、黄色い嘴のヒヨドリ、クマバチ、カンムリカイツブリ夏羽、同じく求愛行動、アオジ♂、アオサギ深水ウオーク、カンムリカイツブリカップル遊泳、耕起された田んぼ、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、コガモカップルを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	4	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇、気温は15℃、ジャンパーが脱げなかった。岸辺に佇むアオサギ(婚姻色に移行中)、ウグイスがさえずる、カキドオシ淡紫色の花、ヒメフウロ淡紅色の花、ユーラシア大陸の亜寒帯へ北帰行する途中か？冬鳥のアトリ♀、カンムリカイツブリ夏羽、2羽のカンムリカイツブリを撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	23	新栗ノ木緑地で動植物との一期一会を楽しむ。曇のち雨、気温は15℃ぐらい。新栗ノ木川堤防景観、新栗ノ木緑地、ソメイヨシノの花、新栗ノ木川上下流の景観、人懐っこいスズメ横姿、新栗ノ木川下流景観を撮影した。スズメを撮影した後で大粒の雨が降り、雨傘をさして帰宅。
2022	4	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。薄曇りだが陽が射す、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。カワセミ♂、カンムリカイツブリ夏羽、カイツブリ夏羽、メジロ後姿、夏鳥のセンダイムシクイ後姿、ナミテントウ、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ハナミズキ赤い総苞片を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。薄曇りだが陽が射す、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。オオジュリン♀冬羽、アイノゲン黄色い花、ムクドリ♀見返り、夏鳥のセンダイムシクイ前姿、夏鳥のコムクドリ♂横顔、アオジ♀、カワラヒワ♂、キジ♂、カキドオシ淡紫色の花、カンムリカイツブリ夏羽、セグロカモメ、オイカワ稚魚、オイカワ群れ、カンムリカイツブリ夏羽、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、コイの群れ産卵、冬鳥のコガモカッパ、カワウ♀遊泳、セイヨウタンポポの黄色い花とロゼット状の根生葉、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。薄曇り、フェーン現象か？生暖かい南風で気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。岸辺に佇むアオサギ(足とクチバシが婚姻色のオレンジ色に移行中)、2羽のオオバン、カンムリカイツブリ夏羽、カイツブリ夏羽、清五郎の代掻きをした田んぼ、ヨコヅナサシガメ幼虫の群れ、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片を撮影した。アゲハチョウ飛翔を確認。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、気温14℃、北風が吹き肌寒くジャンパーが必要。シジュウカラ、ムクドリ♂と♀(羽色の違いが良く分かる)、ナガミヒナゲシの橙色の花、カンムリカイツブリ夏羽、カイツブリ夏羽、清五郎の代掻きをして水を張った田んぼ、孟宗竹の筍、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片、シロダモの灰褐色の新芽、魚を飲み込んだアオサギ(首の一部が膨らむ)を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	4	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、爽やかな北の風、気温15℃、ジャンパーで快適。夏鳥のコムクドリ♂、冬鳥のダイサギ(岸辺に佇む)、夏鳥のキビタキ♀、ギンズナ、清五郎の代掻き作業中の田んぼ、カンムリカイツブリ夏羽、キジ♂を撮影した。いつもの場所でカワセミの飛翔を確認したが、逃げられ撮影できず。
2022	4	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、気温15℃、北風が吹き肌寒くジャンパーが必要。カワセミ♀、カンムリカイツブリ夏羽、鳥屋野潟公園ビオトープため池、清五郎の代掻きして水を張った田んぼ、ヨコヅナサシガメ幼虫の群れ、アオジ♂見返り、カナディアンカヌー、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片、キジ♂、アオサギ見返り後姿を撮影した。今年初めてカワセミ♀と遭遇した。清五郎の田んぼでコチドリの鳴き声を聞いたが、撮影できず。

西暦	月	日	日誌
2022	4	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、爽やかな北の風、気温15℃、ジャンパーで快適。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、カンムリカイツブリ夏羽、アオジ♂、ミサゴ飛翔魚捕獲、カワセミ♀、ルリビタキカップル、ルリビタキ♂若鳥、オオルリ♀の後姿と前姿、清五郎の代掻き-水張りした田んぼ、ツバメカップルが巣作りのため田んぼの泥を採取、ハクセキレイ♂夏羽に移行中、コチドリ♂、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片を撮影した。カワウを見かけなくなった。別の餌場へ移動したか？
2022	5	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、爽やかな北の風、気温15℃以上、ワイシャツで帰宅。コガモ♂採餌、アオサギ幼鳥、ノダナガフジの花、カンムリカイツブリ求愛行動、アトリ♀と♂、カンムリカイツブリ夏羽、旅鳥のマミチャジナイ、清五郎の田んぼの田植え機、同じく代掻き-水張り、レッドロビンの蕾、ウシガエル、カワウ羽乾かす、カワセミ♀、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片、コムクドリ♀を撮影した。コムクドリ♂はピンボケ。ヨシ原でオオヨシキリのさえずりを聞いた。
2022	5	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、爽やかな北の風だが、時々突風、気温15℃以上か？、ワイシャツで帰宅。クリーム色の塗料を浴びた？ヒヨドリ、鳥屋野潟天気晴朗なれど波高し、クサガメ♂メラニズムによる黒化、ユキツバキの赤い花、アオジ♂、清五郎の田んぼ田植え、ハルジオンのピンクの花、2匹のウシガエル、コチドリ、アカミミガメ交尾？、一匹狼のマガモ♂(北帰行しなかったのか？)、ナナカマドの白い花びらを撮影した。風が強く小鳥の撮影は困難。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、爽やかな南西の風だが、時々春の嵐の様な突風、気温は20℃以上、ワイシャツで帰宅。アメンボのカップル、クサガメ甲羅干し、ハシボソガラスがクモを採餌、スズメ、田植えをした田んぼ、2匹のウシガエル、鳥屋野潟の湖面に白波が立つ、モズ♂、ハナミズキ黄緑色の花と白い総苞片、鳥屋野潟天気晴朗なれど波高しを撮影した。弁天橋付近の藪にいたオオヨシキリと目が合い逃げられて撮影できず。風が強く小鳥の撮影は困難。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、風がほとんど無い、ワイシャツ1枚で出かける、気温は23℃以上、陽傘をさして帰宅。アオジ♂、キジ♂見返し、カンムリカイツブリ夏羽、深水に佇むアオサギ、アオサギ横顔、トラフムシヒキアブ交尾、同じく♀、田植え、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、タブノキの赤い新芽、モズ♀見返しを撮影した。そろそろ昆虫のシーズン到来か？ツバメが元気に飛んでいる。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、風がほとんど無い、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上か？、陽傘をさして帰宅。北帰行しないコガモ♂眼差し、ハルジオン白い花びら、ツルニチニチソウ青い花、アオダイショウ全長、同じく顔、田植え、アシトハナアブ♀が後足を組む、カンムリカイツブリ夏羽、鳥屋野潟ビオトープため池、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ウツギ白い花、モズ♀虫をくわえて見返し、ハグロケバエ交尾を撮影した。5月初旬なのに真夏日の様な暑さ、温暖化による気象変動の影響か？いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、風がほとんど無い、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上、陽傘をさして帰宅。岸辺に佇むアオサギ若鳥、アオサギ深水ウオーク、ウシガエル、一匹狼のヨシガモ♂(冬鳥なのに北帰行しないのか？)、チュウダイサギ婚姻色が水の中を歩く、カンムリカイツブリ夏羽、清五郎排水路、田植え、シジュウカラ幼鳥、セグロアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ヨコヅナサシガメ、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、を撮影した。5月初旬なのに連日の真夏日、温暖化による気象変動の影響か？いつもの場所でカワセミの気配無し。ウグイスやオオヨシキリはさえずるが、姿を現さない。

西暦	月	日	日誌
2022	5	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ジャンパーを着て出かける、気温は15℃以上、陽傘をさして帰宅。北帰行しないコガモカップル、北帰行しないヨシガモカップル、2羽のカンムリカイツブリ、ナナカマド白い花、アカミガメ群れ甲羅干し、キシノウエ黄色い花、センダイムシクイ、岸辺に佇むアオサギを撮影した。昨日より10℃低い気温、爽やか天気、いつもの場所でカワセミの気配無し。ハシボソガラスの雛が生まれていたようだ。
2022	5	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ジャンパーを着て出かける、気温は15℃以上、陽傘をさしてワイシャツ1枚で帰宅。北帰行しないコガモ♀、ブタナの黄色い花、ノダナガフジの花、アオサギ飛翔、オオバン遊泳、深水に佇むアオサギ、アヤマメ紫色の花、レッドロビンの蕾、深水に佇む2羽のアオサギ、カルガモ、ヨコズナサシガメ、オニグルミ雌花の花序、岸辺に佇むアオサギを撮影した。ギンブナの産卵シーズンになり、それを餌とするアオサギの活動が目立つようになった。いつもの場所でカワセミの気配無し。なお、ハシボソガラスの雛は生まれていないようだ。
2022	5	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ジャンパーを着て出かける、気温は15℃以上、陽傘をさしてワイシャツ1枚で帰宅。ハシボソガラスの餌になったギンブナの死体、ギンブナを採餌するのを邪魔されたハシボソガラス、ハシボソガラスの巣に雛、水浴びしたスズメ、ヨシガモ♂と♀幼鳥、ヨシガモカップル、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、ヨコズナサシガメ、カンムリカイツブリ夏羽、鳥屋野潟公園ビオトープため池、スイレンの蕾、清五郎排水路、コゲラ♀採餌を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。ハシボソガラスの雛は生まれていた。巣の中に居た幼鳥(クチバシの根元が赤い)を確認した。
2022	5	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ジャンパーを着て出かけるが弁天橋で脱ぎワイシャツ1枚で撮影、フェーン現象で南風、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。アオサギが躑いて羽ばたく、センダイムシクイ下から見た姿、夏鳥のコサメビタキ、ヨコズナサシガメ、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、クロイトトンボ♂未成熟虫、コムクドリ♂下から見た姿、カワウ♂遊泳、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。いよいよ、トンボの季節だ！！
2022	5	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、フェーン現象で南風、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。コサギ幼鳥、ウシガエル、ハシボソガラスの巣に雛が3羽、カンムリカイツブリ夏羽、木に巻き付いたアオダイショウ、キシノウエ黄色い花、シオカラトンボ♂、ニホンカナヘビの顔と眼差し、ヨコズナサシガメ、カキツバタ青紫色の花、ハネナシアメンボカップル、クロイトトンボ♂未成熟虫、ニホンミツバチの自然巣、ハシボソガラス～雛鳥の巣立ちを誘う親鳥、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、フェーン現象で南風、気温は20℃以上、陽傘をさして帰宅。ニセアカシア白い蕾、ハシボソガラスの巣に雛が2羽、オオバン見返り、カワウ♂、同じく横顔、スイバ雌花、ウシガエル顔、シオカラトンボ♂未成熟虫、ヨコズナサシガメ、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、カキツバタ青紫色の花、クロイトトンボ羽化直後、カワラヒワ♂草の種子を採餌、モズ♂高鳴き、ムクドリ♀、カンムリカイツブリ夏羽、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、ワイシャツで出かける、ちょっと強い北西の風、気温は20℃以上、汗はかかない蒸し暑さ。カンムリカイツブリ夏羽後姿、ウシガエル、カワウ♀若齢横姿、ウシガエル遊泳、ウシガエルのオレンジアイズ、ウキヤガラ穂、タニウツギの花(ピンク色)、カキツバタ青紫色の花、ハネナシアメンボ♀、サンカクイの穂、チャコウラナメクジ、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。

西暦	月	日	日誌
2022	5	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、ちょっと強い北西の風、気温は20℃以上？、汗はかかない程度に蒸し暑い。シジュウカラ♂見返り、ハシブトガラスの巣の雛鳥と親鳥、同じく雛鳥の横顔、アオサギが舌を出す、カンムリカイツブリ夏羽前姿、シオカラトンボ♂未成熟虫、同じく頭部、ヨコズナサシガメ、アメンボがハネナシアメンボを捕食、カキツバタ青紫色の花、ウマノスズクサ、種名が不明な雛鳥の死骸、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、ちょっと強い北西の風、気温は20℃以上？、汗はかかない程度に蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。タブノキの赤い新芽、スズメ、ナガバギシギシ、シロツメクサ、オツネントンボ、オオイトトンボ♂未成熟虫、カワウ♂、カワラヒワ♂、ウマノスズクサ、アオサギ若鳥、カンムリカイツブリ夏羽、シオカラトンボ♂未成熟虫、ニホンカナヘビの尻尾切り、ヨコズナサシガメ、カキツバタ青紫色の花、クロイトトンボ♂未成熟虫、クサガメ甲羅干し、ウマノスズクサ、ナヨクサフジの花、ハシブトガラスの巣に雛が2羽、ミサゴ飛翔、コハクチョウ(オレンジ色の顔と首)を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツで出かける、気温は20℃以上？、汗はかかない程度に蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。カンムリカイツブリ夏羽、アオサギがハクチョウの様に遊泳する、アオサギ飛翔、ツバメシジミ♀、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビのオレンジアイズ、ベニシジミ、クロイトトンボ♂未成熟虫、カキツバタ青紫色の花、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、タニウツギの花(ピンク色)、マカリケムシヒキ♂、カワウ♂、ハシボソガラスの巣に雛が3羽、カンムリカイツブリカップル遊泳(夏羽)、を撮影した。いつもの場所でカワセミの気配無し。
2022	5	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツで出かける、気温は25℃以上？、蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。スズメ、カンムリカイツブリ夏羽の威嚇ポーズ、鳥屋野潟公園遊歩道、ウマノスズクサ、セグロアシバガバチが巣作りのために木屑を採取、アジイトトンボ♀、セスジイトトンボ♂、ウメの実、ハシボソガラスの巣に雛が2羽、コハクチョウ-オレンジ色の顔と首、を撮影した。ハシブトガラスの巣に雛は3羽いるようだが、2羽しか確認できなかった。
2022	5	20	信濃川のやすらぎ堤で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、気温は25℃以上？、蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。万代橋から見た上流景観、コメツブツメクサの花、シロツメクサの花、ドバト、ヒルガオ、ノイバラの花、餌を強請るドバト、セグロアシバガバチの頭部、ヤマトシジミ♀老齢、やすらぎ堤の多自然型親水施設、メダナの稚魚？の群れ、昭和大桥から見た下流景観、を撮影した。オオヨシキリのさえずりは聞こえるが、姿を見せず。アオサギ撮影はピンボケで没。モンシロチョウは止まる時間が短く(0.2秒?)撮影できず。
2022	5	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツで出かける、気温は20℃以上？、蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。セイヨウハコヤナギの綿毛をつけた種子、ノイバラの花、ヒメジョオンの白い花びら、ハルジオンの白い花びら、ヤマグワの果実、不明の蛾の幼虫、ニホンカナヘビ、ウマノスズクサ、ヘビイチゴの瘦果、ウシガエル、カキツバタ青紫色の花、ニホンカナヘビの尻尾切り、シオカラトンボ♂未成熟虫、アカミミガメ甲羅干し、クロイトトンボ♂未成熟虫、を撮影した。カッコウのさえずりは聞こえるが、姿は見えない。
2022	5	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ジャンパーで出かけ、途中で脱ぎワイシャツで散策、気温は20℃ぐらい？、蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。マンテマの花(白い花弁に紅紫色の斑点)、セイヨウハコヤナギの綿毛をつけた種子、岸边に佇むアオサギ、アジイトトンボ♂、モンキチョウ♂、アジイトトンボ♀、オツネントンボを撮影した。ハシボソガラスの巣が空っぽになった。雛が巣立ちをしたようだ。

西暦	月	日	日誌
2022	5	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、ワイシャツ1枚で出かける、途中にわか雨が降る、気温は20℃ぐらい？、蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。コウホネの花(黄色)、アジイトンボ♀、シオカラトンボ♀未成熟虫、アジイトンボ♀、セスジイトンボ♀、シオカラトンボ♀未成熟虫、スイカズラの花(白色～黄色)、カンムリカイツブリ夏羽、ウマノスズクサ、クロイトンボ♀未成熟虫、カキツバタ青紫色の花、アメンボ幼虫の群れ、コシアキトンボ♀羽化直後、自然生態園ため池、コハクチョウオレンジ色の顔と首、を撮影した。アメンボの幼虫が急激に増えたようだ。
2022	5	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上で蒸し暑い、陽傘をさして帰宅。アオサギが岸辺を歩く、アオサギ横顔、ヤマグワの果実、カンムリカイツブリが腹部をグルーミング、ウマノスズクサ、クロイトンボ♀未成熟虫、アメンボ幼虫の群れ、モミジの新芽(赤色)、湛水田、アオサギ深水ウオーク、アジイトンボ♀未成熟虫、アジイトンボ♀、ソメイヨシノ(クローン)の実(他家受粉)、カキツバタ青紫色の花、ハシボソガラスの幼鳥が親鳥に餌をねだる、を撮影した。鳥屋野潟公園ビオトープ池でアオヤンマとウチワヤンマが飛翔していたが、撮影できず。
2022	5	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日で蒸し暑い、陽傘が必需品。オオムラサキツユクサの花、ハシボソガラスの親鳥が幼鳥の羽づくろい、ウマノスズクサ、カキツバタ青紫色の花、破竹と孟宗竹、クロイトンボ♀、アフキムシの幼虫が排泄物を泡立てた泡状の「巣」、イオウイロハシリグモ幼体、アオサギ深水ウオーク、アジイトンボカップル交尾、カンムリカイツブリ夏羽、クロイトンボ♀、シマヘビ、ハシボソガラス幼鳥が餌をクチバンで銜える、を撮影した。鳥屋野潟公園ビオトープ池でアオヤンマが飛翔していたが、ヨシに止まらないので撮影できない。
2022	5	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日で蒸し暑い、陽傘が必需品。カワウ♀遊泳、カワウ♀離水、ハシボソガラス幼鳥横顔、カルガモ母親と幼鳥8羽が遊泳、カルガモ♀(母親)、カルガモ幼鳥6羽、ウマノスズクサ、キジバト水を飲む、アシナガグモ、セグロアシナガバチがクモを捕獲、コシアキトンボのヤゴの抜け殻、ヨコズナサシガメ、ヒメギス♀幼虫、カキツバタ青紫色の花、トラフムシヒキアブ♀、クロイトンボ♀、カンムリカイツブリ夏羽、を撮影した。今年生まれのカルガモ幼鳥が巣立ちして、母親と生活を始めた。ところで、カルガモの父親はどこにいるのかな？
2022	5	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以下、強風で爽やか、帰りは日差しが強くなり蒸し暑かった。鳥屋野潟は天気晴朗なれど波高し、ハシボソガラス幼鳥の赤い舌、ショウジョウトンボ♀、ウマノスズクサ、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、マガリケムシヒキ♀、シオカラトンボ♀、同じく未成熟虫、カキツバタ青紫色の花、ニホンカナヘビ上から見た姿、湛水田の緑の苗、カンムリカイツブリ強風で夏羽の冠羽が乱れる、スイレの花(白色)、を撮影した。アオスジアゲハが樹冠付近を飛翔していたが撮影できず。強風でイトンボ等の小さな昆虫は撮影できず。
2022	5	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日影は強風で爽やかだが、日向は日差しが強く暑かった。陽傘が思うようにさせなかった。風が鳥屋野潟湖面を走る、鳥屋野潟は天気晴朗なれど波高し、セスジイトンボ♀、同じく♀未成熟虫、カワラヒワカップル水浴び、セスジイトンボ♀、ナワシロイチゴの紅紫色の花、ウマノスズクサ、アマガエル、コフキトンボ♀未成熟虫、クロイトンボ♀、カルガモ母親と幼鳥6羽、カルガモ母親と幼鳥の眼差し、を撮影した。「特許許可局」「てっぺんかけたか」などとも聞きこえるホトトギスのさえずりを近くで聞いたが姿が見えず。

西暦	月	日	日誌
2022	5	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、蒸し暑く、日差しが強く、とにかく暑い。陽傘をさして帰宅。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、種不明の蛾、セスジイトトンボ♀、セスジイトトンボカップル、オイカワ♂婚姻色、ウマノスズクサ、コシアキトンボ♂、デーニッツハエトリ、アジアイトトンボカップル交尾、を撮影した。ホトギスやカッコウのさえずりが聞こえない、涼しい木陰で小休止でもしているのか？。
2022	6	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、日差しが強く、日向は暑い日影は涼しい。モンシロチョウ♂吸蜜、ニホンカナヘビ幼体、セスジイトトンボ♀(水色)、セスジイトトンボ♂、デーニッツハエトリ、セスジイトトンボ♂未成熟虫、セスジイトトンボ♀(黄緑色)、クサガメ甲羅干し、同じく顔、カルガモ母親と幼鳥8羽、ウマノスズクサ、クロイトトンボカップル植物中産卵、同じく交尾、カムルチー頭部、ギンブナ、を撮影した。9時からデンタルクリニックへ行ったので、いつもより1時間遅い一期一会であった。
2022	6	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、日差しが強く、日向は蒸し暑い日影は涼しい。陽傘をさして帰宅。シマヘビ胴体、セスジイトトンボ♂、セスジイトトンボ♀(黄緑色)、カワラヒワ♀水浴び、セスジイトトンボ♂、ニホンカナヘビ見返り、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀羽損傷がウマノスズクサの葉の裏に産卵、カキツバタ青紫色の花、ニホンカナヘビ見返り、不明のハエ、ミクリの雄花と蕾、オスクロハエトリ、クサガメ甲羅干し、ニホンカナヘビの尻尾切り、を撮影した。木霊の様なカッコウのさえずりを聞いた。
2022	6	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、蒸し暑い。陽傘をさして帰宅。風が鳥屋野潟湖面を走る、スズメの成鳥と幼鳥、アオダイショウ幼蛇の轢死体、オオチャバネセセリ、セスジイトトンボ♂、同じく♀(黄緑色)、ギシギシ、ウマノスズクサ、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、を撮影した。撮影途中で雨が降り、早々に帰宅。今日も、木霊の様なカッコウのさえずりを聞いた。
2022	6	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以下、爽やかな北の風だが、しだいに日差しが強くなり陽傘をさして帰宅。チガヤの穂、スイカズラの花、ウマノスズクサ、ビオトープため池、スイレンの花、アジアイトトンボ♂、同じく♀、ニホンカナヘビの尻尾切り、ニホンカナヘビの幼体、アシナガグモ、コナガの幼虫(?)、コフキトンボ♀未成熟虫、カンムリカイツブリ夏羽、ヒメアカタテハ、を撮影した。最高気温18℃で涼しいせいか、大型のチョウやトンボの活動がいまいち。
2022	6	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以下、爽やかな北の風だが、しだいに日差しが強くなり陽傘をさして帰宅。カルガモ♂、オニグルミの実、ウマノスズクサ、シオカラトンボ♂未成熟虫、ウキヤガラ、コシアキトンボ♂未成熟虫、キジバトが日光浴、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボカップル、カルガモ母親と幼鳥14羽、マガリケムシヒキ♂、キジ♂後姿、ハシボソガラス横顔、を撮影した。最高気温18℃で涼しい、カッコウのさえずりを聞いた。
2022	6	6	2016年版の昆虫類チョウ目ガをキンモンガまで更新。
2022	6	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、途中でジャンパーを脱ぎワイシャツ1枚になる、気温は20℃以下、涼しいまま帰宅。北帰行しなかったコハクチョウ、ヤマノイモ、コヨシキリ、白い殻のヒダリマキマイマイ、鳥屋野潟公園水路～無風で鏡の様な水面、排水樋門の吐き口、ウマノスズクサ、シオカラトンボ♂未成熟虫、クサヨシの穂に雨粒が溜まる、クロイトトンボ♂、を撮影した。木霊のようなカッコウのさえずりを聞いた。

西暦	月	日	日誌
2022	6	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚ででかける、気温は25℃以下、日差しが強くなり、陽傘をさして帰宅。鳥屋野潟が風で鏡の様な水面、メナダ、ギンブナの群れ、ハシブトカラス恫喝鳴き、ウマノスズクサ、マガリケムシヒキ♀、カンムリカイツブリ夏羽、シオカラトンボ♀未成熟虫、カワラヒワ♂白いマスクをする、コシアキトンボ♂、ミクリの雄花と蕾、コシアキトンボ♂、コフキトンボ♀未成熟虫、コシアキトンボ♂未成熟虫、コフキトンボ♀未成熟虫、を撮影した。梅雨明けした夏の到来を感じる、そう、西表島の爽やかな夏の暑さだ。
2022	6	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、途中でジャンパーを脱ぎワイシャツ1枚になる、気温は20℃以下、日差しが強くなり、陽傘をさして帰宅。イボタノキの花(白色)、マメゲンバイナズナの実(淡紅色)、カワウ♂羽乾かす、カルガモ母親と幼鳥6羽、ウマノスズクサ、カキツバタ青紫色の花、コガネグモ幼体、アシナガグモ、コフキトンボ♀未成熟虫、を撮影した。鳥屋野潟のギンブナ等が大きくなり、アオサギやカワウの餌サイズを満足する魚が見つけにくくなったようだ。多分、上流の亀田郷水田地帯の排水路へ餌を捜しに行ったかな？
2022	6	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、途中でジャンパーを脱ぎワイシャツ1枚になる、気温は20℃前後、日差しが強くなり、陽傘をさして帰宅。ヤマシロオニグモ、トネリコの実、ミギマキマイマイ、水路に落ちたエチゴモグラ遊泳、同じく後姿、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♂、コフキトンボ♀未成熟虫、コシアキトンボ♂、コフキトンボ♀未成熟虫、ギンブナの群れ、を撮影した。弁天橋でカワセミの飛翔を見たが撮影できず。モグラは水泳が得意そうだが、石積み護岸が垂直で登れず、困っていた。
2022	6	12	弁天橋付近で水鳥との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、途中でジャンパーを脱ぎワイシャツ1枚になる、気温は20℃以下、陽傘をささずに帰宅。カンムリカイツブリ♂雌に餌を運ぶ、北帰行しなかったコガモ♀、カンムリカイツブリ♀巣で抱卵？、北帰行しなかったコハクチョウ、アオサギ若鳥、を撮影した。ヨシ群落からオオヨシキリの鳴き声が聞こえなかった。今日は私の誕生日である。
2022	6	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、途中でジャンパーを脱ぎワイシャツ1枚になる、気温は20℃前後、日差しが強くなり、陽傘をさして帰宅。モンキチョウ♀吸蜜、ヒヨドリの地鳴き、ヒロオビトンボエダシャク、モンシロチョウ♀吸蜜、ミギマキマイマイ、ヒダリマキマイマイ、ウマノスズクサ、イオウイロハシリグモ幼体、鳥屋野潟公園遊歩道、シオカラトンボ♀未成熟虫、ミクリの雄花と蕾、ヨコズナサシガメ、イタドリ繁茂、ミギマキマイマイ、を撮影した。ハシボソガラス幼鳥が親鳥から威嚇され、一目散に逃げるシーンに出くわした。もう親から餌は貰えないだろう。夏を迎えて、そろそろ、親離れ子離れの季節である。
2022	6	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、日差しが強くなり、陽傘をさして帰宅。北帰行しなかったコハクチョウ、ドクゼリの白い花、カワウ♂遊泳、同じく羽乾かす、ウマノスズクサ、シオヤアブ♂、カラスアゲハ♀吸蜜、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、コフキトンボ♀未成熟虫、オギの葉にとまるクロイトトンボカップル、を撮影した。二日前に弁天橋付近のコウホネが群生している場所で、カンムリカイツブリ♀が抱卵している様に見えたが、姿が消えた。昨日からの突風で巣が壊れたのか？
2022	6	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、日差しは弱い暑いので、陽傘をさして帰宅。ドクダミの花(白色)、ハシボソガラス見返り、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビの尻尾は切れても再生する、シオカラトンボ♂、シオヤアブ♂、ワルスナビの花(白色)、ウンキュウ、アカミガメの甲羅干し、コフキトンボ♀未成熟虫、アマガエルが擬態する(ヨシの葉の上)、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、アワフキムシの幼虫が排泄物をあわ立てた泡状の「巣」、コフキトンボ♂未成熟虫、を撮影した。木霊の様なカッコウのさえずりを聞いた。

西暦	月	日	日誌
2022	6	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は20℃以上、日差しは弱いが暑いので、陽傘をさして帰宅。ギンブナ、ウマノスズクサ、イオウヒロハシリグモ幼体、ヒメギス♀、シオカラトンボ♀未成熟虫、ヤハズハエトリグモ♀、コフキトンボ♀未成熟虫、カワウ♀若齢、同じくアイビーグリーンアイズ、を撮影した。カンムリカイツブリ、たぶんウンキュウ(亀)を見たが撮影できず。
2022	6	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しが強く、陽傘をさして帰宅。ハシボソガラスの死体、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上、ミギマキマイマイ、ギンブナ、ウマノスズクサ、ハンゲショウ、クサガメ甲羅干し、コシアキトンボ♂、コフキトンボ♂未成熟虫、を撮影した。アオヤンマ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ等大型のトンボが撮影できない。生息数も減ったようだ。
2022	6	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しは弱い暑い、陽傘をさして帰宅。カワラヒワ♀、ニワトコの赤い果実、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビの全身、ヒメギス♀、同じく♂、ハンゲショウ、クサガメ甲羅干し、コシアキトンボ♂、を撮影した。アオヤンマやウチワヤンマがいない？どこにいるのかな？
2022	6	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しが強く、陽傘をさして帰宅。アオメアブ、オオチャバネセセリ、マメコガネ、ウマノスズクサ、ベニシジミ吸蜜、シジュウカラ幼鳥が日光浴、クサガメとアカミミガメの甲羅干し、コゲラ♀が木を突く、コフキトンボ♂、コシアキトンボ♂、ニホンカナヘビ、キジバト、カルガモ♀グルーミング、を撮影した。自然生態園でホトギスのさえずりを聞いた。チュウサギは、下早通の田んぼに渡ってきたかな？
2022	6	22	江南区の下早通と長潟で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しが強く、撮影時間以外は陽傘をさした。北帰行しなかったコハクチョウ、アメリカザリガニ、小松堀排水路、幹線用水路、ハクセキレイ幼鳥、小排水路、アキアカネ♀未成熟虫、アキアカネ♀未成熟虫、チュウダイサギ、アメンボカップル、アマガエル幼体尻尾、早通排水路、水田景観、除草剤を散布した支線排水路の土手、を撮影した。チュウダイサギのピンボケの写真は、群れで行動していない一羽の単独行動であったこと、さらに体形および顔の大きさから、チュウサギではないと判断した。弁天橋付近で、木霊の様なカッコウのさえずりを聞いた。
2022	6	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。ハシボソガラス幼鳥と成鳥、モンキチョウ♂羽損傷、クロヒラタシデムシカップル交尾、ウマノスズクサ、コフキトンボ♀未成熟虫、ニワトコの赤い実、を撮影した。長潟の集落(南東)の方角からカッコウのさえずりが聞こえてきた。
2022	6	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ワイシャツ1枚で出かける、気温は25℃以上の夏日、日差しは強い、撮影時間以外は陽傘をさす。風が鳥屋野潟湖面を走る、ウマノスズクサ、クロヒラタシデムシ、ハンゲショウ、コガネグモ♀営巣、清五郎排水路、コフキトンボ♂、ベニシジミ、コフキトンボ♀未成熟虫、コフキトンボ♂、を撮影した。北西の風が吹き、木陰の遊歩道は涼しくて心地良い。ただ、被写体が風に煽られてピント合わせが大変。

西暦	月	日	日誌
2022	6	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは強い、撮影時間以外は陽傘をさす。ネジバナの花(紅紫色)、シオカラトンボ♂未成熟虫、ウマノスズクサ、ガクアジサイ、ニホンカナヘビ、コフキトンボ♂未成熟虫、コフキトンボ♀未成熟虫、を撮影した。南西の強い風が吹き、木陰の遊歩道は意外と涼しい、扇風機の風の様だ。ただし、被写体が風に煽られてピント合わせが大変。
2022	6	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。ギンブナ群れ、コイ、オオヨシキリ♂、カルガモ、ウマノスズクサ、コシアキトンボ♂、コフキトンボ♀未成熟虫、を撮影した。風が無く、蒸し暑い。鳥屋野潟岸辺でオオヤマトンボ、フトン籠でシマヘビ、自然生態園ため池で、ギンヤンマ、アオヤンマを視認したが、撮影できず。
2022	6	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。オオヨシキリ♂、シオヤアブ♀、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上、ウマノスズクサ、シオカラトンボ♂、アマガエルの擬態、クサガメとアカミガメの甲羅干し、ガガブタの花(白)、シオヤアブ♂、コフキトンボ♂未成熟虫前姿、自然生態園ため池、北帰行しなかったひとりぼっちのコハクチョウ、を撮影した。ミサゴの飛翔を視認したが、撮影出来ず。
2022	7	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、アオサギ飛翔、ショウリョウバッタ♀幼虫、セスジイトトンボ♂、ショウリョウバッタ♀幼虫(片足欠損)、ヤハズハエトリグモ♀、ウマノスズクサ、ウシガエル、オオシオカラトンボ♂、ハンゲショウ、アオヤンマ♂、シジュウカラ幼鳥が日光浴、ギンブナ群れ、を撮影した。オオスズメバチ、オイカワ♂婚姻色を視認したが、撮影出来ず。
2022	7	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。カンムリカイツブリ夏羽横顔、ハシボソガラス幼鳥横顔、シオカラトンボ♂未成熟虫、オオシオカラトンボ♂、ハンゲショウの花(花弁も萼もない)、アオメアブ♂、シオカラトンボカップル交尾、ガガブタの花(白)、蜘蛛の巣にかかったコシアキトンボ♂、ウチワヤンマ♂、を撮影した。アオサギの飛翔、アオヤンマの飛翔を視認したが、撮影出来ず。
2022	7	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。ウチワヤンマ♂、ギンブナの口の中、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀、オオシオカラトンボ♂、アオヤンマ♀植物中産卵、カンムリカイツブリ夏羽、キイトンボ♂未成熟虫、ガガブタの花(白)、コフキトンボ♀未成熟虫、ウチワヤンマ♂、ショウジョウトンボ♂、アオダイショウの抜け殻、を撮影した。
2022	7	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ヒヨドリの地鳴き、コガネグモ♀営巣、ウマノスズクサ、ウチワヤンマ♂、シオカラトンボ♂未成熟虫、オオシオカラトンボ♂、ヒメギス♀長翅型、アメリカシロヒトリ幼虫、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、ガガブタの花(白)、ウチワヤンマ♀オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、を撮影した。自然生態園ため池でチョウトンボが飛翔しているが、撮影できず。
2022	7	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃弱の夏日、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。ウマノスズクサ、オオシオカラトンボ♂、キアシナガバチ吸蜜、ガガブタの花(白)、コフキトンボ♀未成熟虫、クロイトンボ♂、を撮影した。自然生態園ため池でチョウトンボが飛翔しているが、いまだ撮影できず。

西暦	月	日	日誌
2022	7	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ1枚で出かける、気温は30℃超えの真夏日、日差しが強い、撮影時間以外は陽傘をさす。ベニシジミ吸蜜(羽損傷)、ウマノスズクサ、オオシオカラトンボ♂、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、清五郎排水路、新堀排水路、コイの群れ15尾、カワラヒワ♂、鳥屋野潟公園遊歩道、キジ♂、オニグモ♀、を撮影した。ビオトープため池でアオヤンマやチョウトンボが飛翔しているが、撮影できず。
2022	7	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ1枚で出かける、気温は30℃超えの真夏日、日差しが強い、撮影時間以外は陽傘をさす。すじ雲(高度10000メートル、マイナス40℃以下)、オオシオカラトンボ♂、コムクドリ♀横姿、ウチワヤンマ♂、オイカワ♂婚姻色、ウマノスズクサ、ツマグロヒョウモン♂羽損傷、を撮影した。すじ雲は一般的に秋の雲と言われている。これから夏本番の季節になるはずなのに。雲の動向が、温室効果ガス濃度の人為的な増加と符合するという研究結果が発表されている。また、雲が気候変動によってどのような影響を受け、地球温暖化にどのような影響を及ぼすかは「現在の気候の理解と未来の動向の予測を試みている科学者らにとって、不確実性が最も大きい領域の一つとなっている」と、スクリpps海洋研究所は指摘している。雲は、太陽放射の一部を宇宙空間へ反射して地表に到達できないようにすると同時に、夜間の地球からの熱損失を制限するための覆いとして機能することで、地球の温度を調節している。この機能が暴走したら、地球環境は一変する。
2022	7	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は30℃超えの真夏日、日差しは弱かったり強かったり、撮影時間以外は陽傘をさす。コシアキトンボ♂、カワラヒワ♂、シオカラトンボ♂未成熟虫、マツヨイグサの花(黄色)、すじ雲(高度10000メートル、マイナス40℃以下)、カワウ♀若齢横姿、ウマノスズクサ、オニグモ♂、同じく♀、鳥屋野潟公園ビオトープため池、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、ヌマトラオの花(白色)、ジャコウアゲハ♂吸蜜、ガガブタの花(白色)、コチドリ横姿、カンムリカイツブリ夏羽浮上、を撮影した。コチドリはピーピーと地鳴きする、まるで「私は、ここにいるよ！早く見つけて！」と叫んでいるようだ。しかし、砂利や土の上では羽の色が保護色になっているので、なかなか見つからない。
2022	7	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱かったり強かったり、撮影時間以外は陽傘をさす。マツヨイグサの花、ウチワヤンマ♂、コガネグモ♀採餌、イオウヒロハシリグモ、オオシオカラトンボ♂、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、シオカラトンボ♂未成熟虫、ヒメギス♂長翅型、清五郎排水路、鳥屋野潟ビオトープため池、カンムリカイツブリ夏羽、ウマノスズクサ、カンムリカイツブリ夏羽が2羽、セスジスズメガ幼虫、を撮影した。耳鳴りの様なニイニイゼミの鳴き声、姿は見えぬ。人魂の様にフワフワと飛ぶジャコウアゲハ、どこにも止まらない。アオサギが2羽、ギャーギャーと地鳴きしながら、弧を描いて湖面の上を飛ぶ。これらは撮影できず。
2022	7	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱かったり強かったり、撮影時間以外は陽傘をさす。岸辺に佇むアオサギ、ナガコガネグモ♀営巣、ハグロトンボ♂、カワウ♀、チャコウナメクジ、ハグロトンボ♀未成熟虫、ウマノスズクサ、アオダイショウ顔(樹上)、アブラゼミ、オオシオカラトンボ♂、ハンゲショウの花、ウチワヤンマ♂、ガガブタの花、を撮影した。ジャコウアゲハ、アオヤンマ、ギンヤンマを目視確認したが、撮影できず。帰宅しても、しばらくアブラゼミ等の蝉の鳴き声が耳から離れない、まるで耳鳴りの様だ。
2022	7	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱かったり強かったり、撮影時間以外は陽傘をさす。コムクドリ♂、7月に咲くフジの花、わた雲、ウマノスズクサ、アオダイショウの抜け殻、自然生態園ため池、ガガブタの花、を撮影した。帰宅しても、しばらくアブラゼミ等の蝉の鳴き声が耳から離れない、まるで耳鳴りの様だ。

西暦	月	日	日誌
2022	7	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱かったり強かったり、撮影時間以外は陽傘をさす。7月に咲く八重黒龍藤、ヤマイモの葉(ウマノスズクサに酷似)、ハグロトンボ♂、ウマノスズクサ、ウチワヤンマ♂、ジャコウアゲハ♀産卵、同じく横姿、コフキトンボ♂老齢、ガガブタの花、カンムリカイツブリ夏羽、岸辺に佇むアオサギ、を撮影した。アオヤンマのヤゴとカワウ♂の不鮮明な写真はHPにアップデートしなかった。
2022	7	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱いが北西の風が強い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。カルガモファミリー採餌、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビ、アオヤンマのヤゴ抜け殻、ガガブタの花、コフキトンボ♀未成熟横姿、クロイトトンボ♂、カンムリカイツブリ夏羽浮上、を撮影した。ヨシなどの抽水植物が繁茂し近くの湖面が見えなくなった。桟橋にとまるカワウも葉陰に隠れて撮影できない。
2022	7	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、小雨で雨傘をさし、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱いが、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。シオカラトンボ♀、カンムリカイツブリカップル求愛行動——頸を上下に振り、浮巢に水草を交互に置きあう、アブラゼミ抜け殻、カワウ♂、ウマノスズクサのベビーリーフ、コフキトンボ♀未成熟横姿、アマガエルの擬態、を撮影した。雨が降って傘を指すと、GPS測位ができないので、ポーズ区間が一直線になる。
2022	7	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、ポロシャツ1枚で出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱く風もないが、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。スズメの眼差し、ハグロトンボ♀、ゴマダラカミキリ、カンムリカイツブリ夏羽横姿が2羽、ウマノスズクサのベビーリーフ、ウシガエル、深水に佇むアオサギ、チュウダイサギが水の中を歩く、カルガモファミリーが隊列を組んで遊泳、コフキトンボ♀、ガガブタの花、ハラビロカマキリ幼虫、ナガコガネグモ♀営巣、コシアキトンボ♂、を撮影した。ジャコウアゲハ♀が幼虫の食草のウマノスズクサを捜してフワフワと飛んでいた。止まらないので撮影できず。
2022	7	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは弱く風もないが、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。ハゼノキ紅葉、シオヤアブ♂、ウマノスズクサのベビーリーフ、カンムリカイツブリ夏羽見返り、アオヤンマのヤゴ抜け殻、ウマノスズクサ、ガガブタの花、シマヘビのオレンジアイズ、を撮影した。湖畔林のあちこちで、ジャコウアゲハ♀が産卵のためウマノスズクサを捜してフワフワと飛んでいた。止まらないので撮影できず。
2022	7	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、12時頃から、長袖シャツで出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。ウチワヤンマ♂、カンムリカイツブリ夏羽浮上、アブラゼミ、カワウ♂が口を開けて体温調節、ジャコウアゲハ幼虫に喰われたウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀老齢(産卵が終わり終末を迎えた?)、ゴマダラチョウ♀産卵、ジャコウアゲハ♀羽損傷(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、ゴマダラチョウ♀羽損傷、ガガブタの花、を撮影した。湖畔林のあちこちで、ジャコウアゲハ♀が産卵のためウマノスズクサを捜してフワフワと飛んでいた。
2022	7	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超えの夏日、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。カンムリカイツブリ夏羽浮上、カワウ♀羽乾かす、種不明の蛾、ジャコウアゲハ幼虫、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、カンムリカイツブリ夏羽、ニホンカナヘビの尻尾は切れても再生する、ニホンカナヘビ、チョウトンボ♂、ガガブタの花、コフキトンボ♀未成熟横姿、キイトンボ♂、を撮影した。湖畔林のあちこちで、ジャコウアゲハ♀が産卵のためウマノスズクサを捜してフワフワと飛んでいた。♂の姿が見えない。交尾が終わると、終末を迎えるのか?

西暦	月	日	日誌
2022	7	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。釣り舟、ツマグロヒョウモン♂、オオバン、水もしたたるカンムリカイツブリ夏羽、除草剤散布、アマガエル、アオスジアゲハ、鳥屋野潟ビオトープため池、ギンヤンマ♂、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、イオウヒロハシリグモ、ガガブタの花、を撮影した。とにかく暑い、アオスジアゲハは木陰で休息、ギンヤンマもちょっと飛んでは一休み、元気なのは水鳥だけか？
2022	7	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。コシアキトンボ♂、カンムリカイツブリ夏羽、ジャコウアゲハ幼虫、キアゲハ♀老齢(産卵が終わり終末を迎えた?)、鳥屋野潟ビオトープため池、ウチワヤンマ♀、チョウトンボ♂オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、ハンゲショウの花、オオシオカラトンボ♂、チョウトンボ♀、を撮影した。キアゲハ♀は産卵を終え、終活か?、近づいても逃げない、生きる目的を果たしたのか?、とても潔い死に際である。
2022	8	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。除草剤散布、ジャコウアゲハ幼虫、ハンゲショウの花、チョウトンボ♂オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、サルスベリの花(紅紫色)、ウチワヤンマ♂オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、を撮影した。鳥屋野潟沿岸の桜並木の遊歩道は木陰があり涼しい。止水域の潟は水深50cm前後で水温が高いことから、ギンブナは流れのある上流の排水路または栗木川等へ移動したようだ。水鳥のカンムリカイツブリも見かけなかった。
2022	8	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。アオサギ見返り、除草剤散布、ムクゲの花、カンムリカイツブリ夏羽浮上、ジャコウアゲハ幼虫、クロヒラタシデムシとミドリキンバエ、シマヘビ、ハネナガイナゴ、スイレンの花、清五郎排水路、カンムリカイツブリ夏羽浮上、ガガブタの花、カワウ♂が口を開けて体温調節、を撮影した。シラサギが飛翔していたが種は不明、アブラゼミやコフキトンボ等の昆虫の死骸が多くなった、喰う喰われるの関係は生態系システムでは必然。
2022	8	4	2016年版の昆虫類チョウ目ガをブドウスカシバまで更新。
2022	8	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、真夏日、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ハグロトンボ♀、ショウリョウバッタ♀保護色、ジャコウアゲハ幼虫、オオシオカラトンボ♂、2匹のウシガエル、クロアナバチ、カンムリカイツブリ夏羽2羽、清五郎排水路、、チャコウラナメクジ、ガガブタの花、ウチワヤンマ♂後姿、チョウトンボ♂羽損傷、シオヤアブ♀採餌、ジャコウアゲハ幼虫が緑色の糞をする、ジャコウアゲハ♀老齢、を撮影した。ギンヤンマ♂の飛翔を確認したが、♀はどこにいるのかな?、オニヤンマやオオヤマトンボはこれからか？
2022	8	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは強く微風、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。チュウダイサギ、コムクドリ♂、ツバメ幼鳥、カンムリカイツブリ夏羽、ジャコウアゲハ幼虫、イチモンジセセリ、オオシオカラトンボ♂、羽が閉じないアブラゼミ、草刈をした鳥屋野潟公園ビオトープため池、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、コフキトンボ♂老齢、猛禽類のミサゴ飛翔、を撮影した。ミサゴは2回、湖面に垂直降下したが、魚捕獲に失敗、栗木川の方へ移動した。一方、チュウダイサギは、ザリガニの様なものを銜えていた。どちらも、鳥屋野潟の食物連鎖の頂点の種(生態系ピラミッドのアンブレラ種)である。

西暦	月	日	日誌
2022	8	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱く微風で蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。アカミミガメの昼寝、ツバメ幼鳥が羽を伸ばす、ジャコウアゲハ幼虫、ウマノスズクサ、カンムリカイツブリ夏羽、ウチワヤンマ♀が首を傾げる、オオシオカラトンボ♂、ガガブタの花、サルスベリの花(白色)、クロヒラタシデムシカブツル交尾、ウチワヤンマ♂、を撮影した。ビオトープ池でギンヤンマ♂、アオヤンマ♂、排水路がある湖畔林沿いの道路でオニヤンマを確認したが、撮影できず。
2022	8	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天から晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱い南西の風が吹き蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。なんと！！冬鳥のコガモ♀、親鳥から餌をもらう動作をするツバメ幼鳥、カンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ夏羽浮上、ジャコウアゲハ幼虫、イボバツタ、オニグモ♀、シオカラトンボカブツル交尾、アカミミガメの横顔、を撮影した。真夏のコガモは、常陸の国(茨城県)では7月20日、神奈川県平塚では7月29日に撮影されている。冬鳥の中には、北帰行できない居残り組みがいるようだ。
2022	8	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱い南西の風が吹き蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。ツバメ幼鳥と成鳥、カンムリカイツブリ夏羽、コフキトンボ♀老齢羽損傷、イチモンジセセリ、ショウリヨウバツタ♀保護色、ジャコウアゲハ幼虫、アオダイショウの抜け殻、ハンゲショウ、クサガメ顔、クロイトトンボ♂、ショウリヨウバツタ♀保護色、キジバトが2羽、とやの片環境舟運浮島テラス、ベニシジミ、クサガメ、キカラスウリの花(白)、ウチワヤンマ♂横姿、を撮影した。アオヤンマ、ギンヤンマを確認したが、撮影できず。
2022	8	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱く微風で蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。チュウサギが歩く、サルスベリの花(紅紫色)、ジャコウアゲハ幼虫、アオダイショウの抜け殻、クサガメ、カンムリカイツブリ夏羽が羽を広げてグルーミング、スイレンの花、卵のうを抱えたイオウヒロハシリグモ、稲の生育期、カンムリカイツブリ夏羽、を撮影した。ビオトープ池でアオヤンマを確認したが、撮影できず。
2022	8	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱く微風で蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。カンムリカイツブリ夏羽が2羽、カワウ♀若齢が口を開けて体温調節、コフキトンボ♀、ガガブタの花、カルガモの次列風切羽、アブラゼミ、ハシブトガラス幼鳥見返り、アメリカノウゼンカズラの花(橙色)、ナガコガネグモ♀営巣、クサガメ、を撮影した。ビオトープ池と自然生態園の池でギンヤンマを確認したが、撮影できず。
2022	8	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令中、日差しは弱く微風で蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、チュウサギ、オオバン、カワウ♂が口を開けて体温調節、ミサゴ飛翔、カンムリカイツブリ夏羽、を撮影した。自然生態園の池でギンヤンマを確認したが、撮影できず。

西暦	月	日	日誌
2022	8	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、夏日、日差しは弱く微風で蒸し暑い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。ウチワヤンマ♂横姿、カンムリカイツブリ夏羽潜水開始、カワウ♀が口を開けて体温調節、コスカシバ、ジャコウアゲハ幼虫に喰われたウマノスズクサ、ガガブタの花、ヤマトシジミ♂老齢、ショウジョウトンボ♂、ショウジョウトンボ♀未成熟虫、カンムリカイツブリ幼鳥、ノウゼンカズラの花(橙色)、チュウサギ、を撮影した。自然生態園の池でチョウトンボ♂を撮影したが、ピンボケ。もうちょっと近くに止まってくれればな。
2022	8	15	2016年版の昆虫類チョウ目を更新。チョウが54種、ガが40種で、合計94種。
2022	8	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、真夏日、日差しは弱い北西の風強く、陽傘が突風に煽られた。カンムリカイツブリ幼鳥、チュウサギ、ハグロトンボ♀、ジャコウアゲハの幼虫、カンムリカイツブリ夏羽、ジャコウアゲハ幼虫に喰われたウマノスズクサ、ウチワヤンマ♂横姿、を撮影した。ビオトープ池でギンヤンマ♂を確認、鳥屋野潟岸辺でオオヤマトンボ(?)を見かけたが、縄張り争いの最中で止まらない、よって撮影できず。
2022	8	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、夏日、日差しは始めは弱いが帰る頃には強くなった、北西の爽やかな風で、陽傘の下は暑くない。カンムリカイツブリ夏羽が5羽、鳥屋野潟が凧で鏡のような水面、イチモンジセセリ、ウマノスズクサ、ハンゲショウの花、シオカラトンボ♂、小松堀排水路、カンムリカイツブリ夏羽見返り、ウチワヤンマ♀後姿、コサギ(光沢のある黒と黄の足、たぶんピッカピカの一年生)、チュウサギ、を撮影した。黒いジャコウアゲハ♂があちこちで、フワフワと飛んでいたが、撮影できず。今年になって3回目の発生か？
2022	8	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、夏日、日差しは弱く帰宅途中で小雨、晴雨兼用の傘は便利だ。チュウサギ餌を探す、岸辺に佇むチュウサギ、ひとりぼっちのツバメ幼鳥、コムクドリ♂、ハグロトンボ♀、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、を撮影した。ジャコウアゲハ♂と♀があちこちでフワフワと飛んでいた。今年になって3回目の発生、産卵活動が始まったようだ。
2022	8	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、夏日、日差しは強く、陽傘をさす。チュウサギの横顔、鳥屋野潟が凧で鏡のような水面、クロアナバチ♀がツユムシ♀を捕獲(幼虫の餌にする)、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♂羽損傷、カンムリカイツブリ夏羽、ヒダリマキマイマイ、カワウ♂が口を開けて体温調節、を撮影した。ジャコウアゲハ♂と♀があちこちでフワフワと飛んでいた。♀の産卵を撮ったがピンボケ。ビオトープ池でギンヤンマ♂を確認したが、ヨシに止まらないので撮影できず。
2022	8	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、熱中症警戒アラート発令、北西の風が強く、日差しも強い、撮影時間以外はなるべく陽傘をさす。チュウサギが足で耳のあたりを搔く、チュウサギの黒い足、ツバメ、カンムリカイツブリ夏羽、カンムリカイツブリ夏羽浮上、コフキトンボ♀、清五郎排水路、アマサギ冬羽に移行中(亜麻色から白色へ)、を撮影した。ウスバキトンボが数10匹単位で群れて、あちこちで飛びまわっていた。止まらないので撮影できず。ウスバキトンボは全世界の熱帯・亜熱帯で生息する。本州では5月から9月頃、とくにお盆の頃に数多く現れる。暖かい地方で早い時期に羽化したものが風にのって北上し産卵を繰り返すという方法で、分布域を拡大していく。しかし寒さには弱く、南西諸島以外での越冬は確認されていない(詳しくは、2016版の昆虫類トンボ目を参照)。
2022	8	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、夏日、微風で、日差しも弱い、撮影途中で降雨のため帰宅。カンムリカイツブリ夏羽浮上前姿、ウマノスズクサ、ブルーギル、を撮影した。ジャコウアゲハが人魂の様にフワフワと飛んでいたが、撮影できず。

西暦	月	日	日誌
2022	8	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、30℃未満、北西の爽やかな風で、秋の気配、日差しは弱いが陽傘をさして帰宅。カンムリカイツブリ夏羽横姿、ウマノスズクサ、ウチワヤンマ♀横姿、ハンゲショウの花(花弁も萼も無い)、ヒルガオの花(ピンク色)、ハクセキレイ幼鳥の膨羽、チャコウアナメクジ、コバネイナゴがヨシの葉を食べる、カワウ♀見返り、を撮影した。ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、なかなか止まらない、…撮影できず。ギンヤンマ♂を見かけなくなった。
2022	8	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、30℃未満、微風で、秋の気配、日差しは弱いが陽傘をさして帰宅。チュウダイサギ横姿、チュウサギ前姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、アゲハチョウ♀、岸辺に佇むアオサギ、カワウ♀羽乾かす、カンムリカイツブリの威嚇ポーズ、ニホンカナヘビの見返り、ヌマトラオの花(白色)、2羽の換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽)、を撮影した。ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、なかなか止まらない、…撮影できず。
2022	8	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、30℃未満、微風で、蒸し暑い、日差しは弱いが陽傘をさして帰宅。チュウダイサギ見返り(後姿)、同じく前姿、カンムリカイツブリ不明の魚を捕獲そして採餌、モンクロシャチホコ幼虫(ソメイヨシノの葉)、コサギがくちばしで摘んだ羽根を吐き出す、不明の蛾の幼虫、排水樋門の吐き口、ジャコウアゲハ♂、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビの全身、岸辺に佇むアオサギ、ヒメジャノメ♀、を撮影した。ルリタテハを撮影したが、ピンボケで不採用。ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、
2022	8	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。久しぶりの晴天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、30℃未満、微風で、蒸し暑い、日差しが強く、撮影時間以外は陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面に巻雲が映る、アマサギ冬羽横顔、コサギが頭の羽毛を逆立てる、コシアキトンボ♂、排水樋門の吐き口、カンムリカイツブリ幼鳥と成鳥、ジャコウアゲハ♂、を撮影した。排水樋門の吐き口でギンヤンマ♂とウチワヤンマが縄張り争いをしていた。湖畔林沿いの遊歩道のあちこちで、ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、アマサギ冬羽は、チュウサギにとってもよく似ている。
2022	8	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、最高32℃、微風で、蒸し暑い、日差しが強く、撮影時間以外は陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、チュウサギグルーミング、カワラヒワ、排水樋門の吐き口、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、頭にアリを乗せたニホンカナヘビ、黄金色の稲穂、稲穂、オニグモ♀、ミソハギの花(紅紫色)、クルマバタモドキ、鳥屋野潟公園の水路、カンムリカイツブリ夏羽横姿、チュウサギの横姿、を撮影した。湖畔林沿いの遊歩道のあちこちで、ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、ノシメトンボ♂を確認、稲刈りがもうすぐ始まる、晩夏から初秋に移行する季節である。
2022	9	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雨上がりの曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、最高気温30℃未満、微風で、蒸し暑い、日差しは弱い、撮影時間以外は陽傘をさす。チュウサギの前姿、アゲハチョウ♀、カンムリカイツブリが不明の魚を捕獲、排水樋門の吐き口、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、清五郎排水路、ヒメワダレソウの花(白色)、黄金色の稲穂、稲穂、チョウトンボ♂、カワセミ♂幼鳥、カイツブリ冬羽、モンシロチョウ♀、を撮影した。湖畔林沿いの遊歩道のあちこちで、ジャコウアゲハ♂と♀が人魂の様にフワフワと飛んでいた、コフキトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマ、ウチワヤンマを見かけなかった、夏も終わりか？

西暦	月	日	日誌
2022	9	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25℃超え、最高気温30℃未満、微風で、やや蒸し暑い、日差しが強く、撮影時間以外は陽傘をさす。カイツブリ夏羽後姿、ツマグロヒョウモン♂、キタキチョウ♀、アオサギが(よく見ようと)首を伸ばす、排水樋門の吐き口、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、不明の蛾、黄金色の稲穂、チョウトンボ♂、カンムリカイツブリ夏羽横姿、を撮影した。トンボが少なくなったが、チョウを多く見かけerようになった、セイタカアワダチソウ等が一斉に開花する時節がもうすぐ？
2022	9	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は30℃超え、フェーン現象の真夏日、風があり、蒸し暑い、日差しが強く、撮影時間以外は陽傘をさす。チュウダイサギ横姿、コサギ前姿、排水樋門の吐き口、ハグロトンボ♂、ニホンカナヘビ全身、コサギ幼鳥と成鳥、カンムリカイツブリ親子、ウチワヤンマ♂横姿、カワセミ♂幼鳥、チュウサギの後姿、を撮影した。真夏日に逆戻り、ギンヤンマ♂、オオヤマトンボ、ウスバキトンボなどを確認、晩夏と初秋はどこかへ飛んだ！！、もうすぐ台風11号が日本海にやって来る。
2022	9	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は35℃超えの真夏日、日差しは強いが、東南の乾燥した突風が吹き、体温を下げてくれる、風が弱い間は陽傘をさした。チュウダイサギが深水を歩く、カンムリカイツブリ夏羽横姿、カワウ♀若齢アイビーグリーンアイズ、同じく口を開けて体温調節、コウホネ群生地に佇むアオサギ、モンクロシャチホコ幼虫、黄金色の稲穂、カワセミ♂幼鳥、チュウダイサギが深水の中を歩いて餌を探す、を撮影した。ギンヤンマ♂、ウスバキトンボ、ショウジョウトンボ♂、シオカラトンボ♂、クロイトトンボ♂などを確認、現在、台風11号が日本海を縦断中。
2022	9	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃前後、日差しは弱く、微風で、初秋の様な気候、陽傘をさしたのは帰りの10分間のみ。カンムリカイツブリ夏羽後姿、チュウサギが餌を飲み込む、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、岸辺に佇むチュウダイサギ、アキアカネ♂、翅が濡れて飛べないチョウトンボ♀、ルリシジミ♀羽損傷、ウスバキトンボ♂、黄金色の稲穂、を撮影した。アキアカネが山から舞い降りてきた。台風11号が秋の風を連れて来たようだ。
2022	9	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25℃未満、日差しは弱く、微風で、初秋の様な気候、陽傘をさしたのは帰りの数分間のみ。カンムリカイツブリ夏羽前姿、キクイモの花(黄色)、モンシロチョウ♂、カワウ♀若齢横姿、アマサギ冬羽(おでこ、眼、クチバシ、あごの形状比率からチュウサギではない)、鳥屋野潟公園の水路、シオカラトンボ♂、アオモンイトトンボカップル交尾、を撮影した。偏西風が南下すると、シベリア高気圧も南下し、初秋の気候となる。偏西風が北上すると30℃超えの真夏日となる、そして台風が北上すると、どうなるのか？、収穫の秋、災害が発生しないことを祈る。
2022	9	11	長潟と下早通の田園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、半袖ポロシャツで出かける、気温は25～30℃の夏日、日差しは強く、北東の風で、陽傘が煽られる。2羽のコガモ、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ夏羽の赤い眼、岸辺に佇むチュウサギ、黄金色の稲穂、チュウダイサギの横顔、同じく横姿、小松堀排水路、幹線用水路、カワニナ、ヒメタニシ、ツメクサガ、小松堀排水路、黄金色の稲穂、稲刈り後の田んぼ、支線排水路、カンムリカイツブリ夏羽水浴び、を撮影した。偏西風が北上すると30℃超えの真夏日となるが、北東の風が吹くと、日影では涼しい。
2022	9	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25～30℃の夏日、日差しは強く、北東の風で、陽傘が煽られる。チュウサギ餌を探す、飛行機雲、ジェット旅客機、3羽のアマサギ、アマサギ冬羽とチュウサギの横顔、カワセミ♂幼鳥前面、カンムリカイツブリが不明の魚を捕獲、ミンミンゼミ、を撮影した。アマサギ冬羽とチュウサギは、単独で見ると区別が難しい。少しでも婚姻色が残っていないと困難である。なお、一緒にいる場合は後者の方が身体が大きいので、見分けは簡単。

西暦	月	日	日誌
2022	9	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖シャツで出かける、気温は25～30℃の夏日、日差しは弱く、西南の微風で蒸し暑い、往きは陽傘をさした。チュウサギが餌を飲み込む、同じく後姿～長い首が左右に揺れる、同じく横顔、イヌタデの花(紅色)、ツマグロヒョウモン♂、換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽)、チュウダイサギ見返り(後姿)、同じく横顔、カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥、同じく幼鳥がピーピーと鳴いて親鳥に餌をねだる、チュウダイサギ横顔、ウマノスズクサ、コバネイナゴカブツル交尾、イチモンジセセリ、ニホンカナヘビの尻尾は切れても再生する、アキノゲシの花(黄色)、2羽のコガモ～冬鳥です、アオサギが口を開けて体温調節、を撮影した。ジャコウアゲハ♀を3頭確認、カワセミ♂幼鳥を岸辺の止杭で確認、いずれも撮影できず。
2022	9	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25～27℃の夏日、日差しは強く、北東の風で、陽傘が煽られる。カンムリカイツブリ夏羽後姿、カンムリカイツブリ夏羽が2羽、アオダイショウの抜け殻、クサガメの親亀と子亀が甲羅干し、セスジイトトンボ♀、ショウジョウトンボ♂、ヒメスズメバチ、アオスジアゲハ吸蜜、チュウダイサギが深水の中を歩いて餌を探す、チュウサギが餌を探す、を撮影した。近頃、「アキ」の名称をもつ動植物が出現し始めたが、晩夏もまだまだ続きそうである。
2022	9	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25～27℃の夏日、日差しは強く、北東の風で、陽傘が煽られる。カイツブリ冬羽、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、チュウサギがアサザの群生で佇む(横姿)、コウホネ群生地に佇むアオサギ(横姿)、排水樋門の吐き口、ウマノスズクサ、ヒガンバナ、チュウサギがアサザの群生で佇む(横姿)、チュウダイサギがアサザの群生で佇む(横姿)、セスジイトトンボ♀、アジイトトンボ♀未成熟虫、ムクゲの花(桃色)、カンムリカイツブリ親鳥、同じく幼鳥、を撮影した。ジャコウアゲハ♀を1頭確認、ギンヤンマ♂を数匹確認、いずれも撮影できず。
2022	9	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25～28℃の夏日、日差しは強く、微風で暑い、なるべく陽傘をさした。アマサギ冬羽とチュウサギの横姿、アサザの花(黄色)、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、アオダイショウの頭部の抜け殻、排水樋門の吐き口、カワセミ♀前姿、同じく後姿、ツユクサの花(青色)、2羽のコガモ、コウホネ群生地に佇むアオサギ(横姿)、を撮影した。鳥屋野潟岸辺ではウチワヤンマ等が飛翔しているようだ、ウスバキトンボの群れがいない、北上したか？、暑い日が続くので、アキアカネやノシメトンボの姿が消えた、避暑地へ移動したのか？
2022	9	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖シャツで出かける、気温は25～30℃の真夏日、日差しは強く、風も強い、なるべく陽傘をさした。クサガメとハナガメの交雑種、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、カワウが口を開けて体温調節、ミサゴ飛翔、ウマノスズクサ、チュウダイサギがコウホネ群生地で餌を探す、アキアカネ♀、同じく♂、桂の樹の黄葉、ノシメトンボ♀、コンバインで稲刈り、アオサギ、クズの花(赤紫色)、を撮影した。暑い日が続くので、アキアカネやノシメトンボは湖畔林等の木陰で暑さを凌いでいた。稲刈りが終わり涼しくなるのを、じっと待っていた。
2022	9	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、台風14号が近づき突風が吹く、半袖ポロシャツで出かける、気温は30℃以上の真夏日、日差しは強いが、陽傘が強風でさせない。自宅マンションでアオマツムシ♂、ピーピーと鳴いて親鳥に餌をねだるカンムリカイツブリ幼鳥、ピーピーと鳴いて親鳥を追いかけるカンムリカイツブリ幼鳥、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、を撮影した。台風一過の空がことのほか青く澄んで、心地よい秋晴になるという話はあるけれど、台風が近づく西の空の色が、なぜかいつもの空色ではなく、濃い空色に見えるのは錯覚だろうか？

西暦	月	日	日誌
2022	9	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。台風14号が通過して曇天の小雨、長袖ワイシャツで出かける、気温は20℃前後の初秋、公園到着直後から雨が降る。チュウサギの横姿、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、カワウ♀が止まり木に座る(伏せる?)、アサザの花(黄色)群生とカンムリカイツブリ夏羽横姿、ハクセキレイ♂冬羽に移行中(換羽中)、ハクセキレイ幼鳥、を撮影した。台風一過の空は曇天、昨日との寒暖差がマイナス13℃、晩夏と初秋が交互にやってくる日替わりの候、ご自愛ください…の季節である。
2022	9	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は20℃前後の初秋、陽傘は不要。アマサギ冬羽がウシガエルの幼生を捕獲、アマサギ冬羽横姿、アマサギ冬羽に移行中(亜麻色から白色へ)、カワセミ♂幼鳥横姿、カンムリカイツブリ親鳥が幼鳥に給餌、親と同じ体格になったカンムリカイツブリ幼鳥、コバネイナゴカップル、3羽のヒドリガモ(冬鳥)、アマサギ冬羽、を撮影した。ユーラシア大陸の寒帯から亜寒帯で繁殖し、日本には冬鳥として渡来するヒドリガモ、冬の足音が聞こえ始めた。
2022	9	25	2016年版の昆虫類水生昆虫アメンボ科を更新。
2022	9	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は24℃前後の初秋、雲間からの日差しが強く、陽傘をなるべくさす。チュウサギの横姿、同じく横顔、アキアカネ♀、ハゼノキ紅葉、ツマグロヒョウモン♀、アキアカネ♀未成熟虫、アレチウリ雄花、カワウ♀若齢横姿、カンムリカイツブリ夏羽横姿、アマガエルの擬態、ショウリョウバッタ♀の横顔、アジアイトトンボ♂、アキアカネ♂、カワウ♀浮上、清五郎排水路、チュウダイサギの横顔、同じく見返り(後姿)、を撮影した。湖面には絶滅危惧Ⅱ類アサザが群生し、まばらに黄色い花が咲いている。堤防に特定外来生物のアレチウリが目立つようになってきた。一年草だが茎はつる性で長さ数m～十数m、3～4岐したまきひげで他物にからまる。
2022	9	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は23℃前後の初秋、零ミリ未満の気づかない雨が降り、時々傘をさす。カンムリカイツブリ夏羽横姿、アレチウリ、同じく雄花、カワセミ♀見返り、ウマノスズクサ、排水樋門の吐き口、ハシボソガラス見返り、カンムリカイツブリとカイツブリ、アキアカネ♂、チュウサギの横姿、を撮影した。愛用のコンパクトデジカメとGPSは防水機能が無いので、傘をさしながらの撮影、画像も光量不足で暗く、雨粒が邪魔をして被写体にピントが合わないことがある。明日は晴れますように！！天高く馬肥える秋の空が待ち遠しい～～。
2022	9	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は21℃前後、もうすぐ晩秋の候、陽傘も雨傘も要らず。チュウサギの前姿(横顔)、2羽の換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽へ)、カワウ♀若齢がずぶ濡れの羽を乾かす、カンムリカイツブリ親鳥が幼鳥に餌を運ぶ、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、チュウダイサギが小魚をくちばしに挟む、チュウダイサギが深水の中を歩く、稲を刈った田んぼ、コガモ♀、深水に佇むアオサギ、を撮影した。ミサゴの飛翔を確認したが、シャッターチャンス进行中。空がグレーの曇天続き、明日は天高く晴れますように！！
2022	9	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツで出かける、気温は25℃前後、初秋の暑さ、日差しが強いので、陽傘をさす。コサメビタキ、カンムリカイツブリ浮上横姿(冬羽に換羽中)、コガタスズメバチ吸蜜、ジャコウアゲハの幼虫に喰われたウマノスズクサ、カンムリカイツブリ幼鳥、ヒガンバナ、桂の樹の黄葉、ミゾソバの花(紅紫色)、ジョロウグモカップル、クルマバッタモドキ、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、エゾビタキ、を撮影した。アジア北部の森林やヒマラヤ地方から渡来した準絶滅危惧種のコサメビタキは夏鳥、春と秋に渡来するエゾビタキは旅鳥、夏から秋、そして冬に向かう野鳥たちのルーチンワークが始まっている。

西暦	月	日	日誌
2022	9	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。秋晴れ、長袖ワイシャツで出かける、気温は24℃前後、爽やかな風が吹く、日差しが強いため、陽傘をさす。片足で休むコサギ、コサギ冬羽に移行中、ヨシの葉に隠れるアオサギ(横顔)、オイカワの婚姻色、片足で休むコサギ(冬羽に移行中)、コサギブルーミング(冬羽に移行中)、を撮影した。ツクツクボウシの鳴き声が消えた、自然生態園のため池からトンボがいなくなった、セイタカアワダチソウが黄色味を帯び始めた。
2022	10	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。秋晴れ、長袖ワイシャツで出かける、気温は25℃前後の夏日、爽やかな風が吹くが、日差しが強いため、陽傘をさす。親鳥から魚をもらったカンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ幼鳥が魚をくちばしに挟む、カワラヒワ♂、カワラヒワ♀、アキアカネ♂、カワウ♀羽乾かす、カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥とアオサギ、チュウダイサギがコウホネ群生地の深水の中で佇む(後姿見返り)、チュウダイサギ前姿、チュウサギが深水の中を歩く(珍しい)、を撮影した。夏のせいかツクツクボウシの鳴き声が微かに聞こえた、セイタカアワダチソウ(の花盛り?)が待ち遠しいチョウや甲虫、彼らが騒ぐ季節はもうすぐ。
2022	10	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。天高く馬肥ゆる秋晴れ、長袖ワイシャツで出かける、気温は25℃前後の夏日、爽やかな風が吹くが、日差しが強いため、陽傘をさす。タマスダレの花(白色)、シジュウカラ♂前姿、ツマグロヒョウモン♂、アキアカネ♂、カワセミ♀幼鳥、チュウダイサギがコウホネ群生地で佇む(横姿)、3羽のコガモ♀、ギンヤンマカップル植物中産卵、カワセミ♂幼鳥前姿、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、巻雲(5000~13000メートル)、を撮影した。ツクツクボウシの鳴き声が消えた、素晴らしい巻雲に出会った、野生動植物は今日も元気だ!!、私も!!
2022	10	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は25℃前後、南東?の涼しい風が吹き、日差しが弱いので、陽傘は不要であった。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥の遊泳とブルーミング(動きが揃って舞踊の様)を5画像、チュウサギ、ヒヨドリ、カワウ♀若齢羽乾かす、シロバナサクラタデの花(白)、カワセミ♀幼鳥後姿(横顔)、岸辺に佇むアオサギ、同じく横顔、アオスジアゲハ吸水、を撮影した。栈橋の木杭にカワウが5~10羽集まっている、ファミリーか?、最近親子ずれ(子は親とほぼ同じ体格)の野鳥を見かけることが多くなった。
2022	10	4	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツで出かける、気温は25℃前後、南?の涼しい風が吹き、日差しは弱い、時々パラッと通り雨が降るので、雨傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、アキアカネ♂、コガモ♀横姿、アキアカネ♀、アジイトンボ♂、同じく♀、チュウサギの前姿(横顔)、同じく横顔、頭の羽毛を逆立てるチュウサギ(アマサギの顔とそっくり)、チュウダイサギ横姿、同じく横顔、同じく横姿、頭の羽毛が落ちついたチュウサギ、を撮影した。チュウダイサギ2羽が突然舞い降りたので、チュウサギは頭の羽毛を逆立ててチュウダイサギを威嚇したようだ。チュウダイサギは、少し離れて、チュウサギの様子をうかがっていた。仲間と勘違いしたかな?
2022	10	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にパーカーを羽織って出かける、気温は17℃前後、北風が吹き、日差しは弱い、雨傘も陽傘も不要であった。チュウダイサギの横顔、チュウサギの横姿、カワウ♀若齢羽乾かす、カワセミ♂幼鳥前姿、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、マガモ♂エクリプスと同じく♀(冬鳥)、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、親鳥から魚をもらったカンムリカイツブリ幼鳥、アキアカネ♀、深水に佇むチュウダイサギ、を撮影した。シベリア高気圧の南下に伴い、北半球の亜寒帯からマガモが渡ってきた!!鳥屋野潟で最も多く見られる冬鳥である。GPS踏査ルートデータ編集集中に警告なしで突然パソコンのバッテリーが切れた!、データ消滅!残念無念!

西暦	月	日	日誌
2022	10	8	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天で小雨→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、気温は18℃前後、北風が吹き、往きは雨傘、帰りは陽傘をさした。ユーラシア大陸のバイカル湖の以西の亜寒帯から渡来したホシハジロ♂エクリプスと同じく♀、マガモ♂エクリプスと同じく♀、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(見返り)、カンムリカイツブリ若鳥冬羽、片足で休むコサギ(冬羽に移行中)、カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥がグルーミング、アキアカネ♂、片足で休むコサギ(冬羽に移行中)、を撮影した。岸辺のヨシ原で、ヨシゴイが水面付近を低く飛翔するのを確認したが、撮影できず。私の近くに居たようだ。ヨシの茎間を移動して姿を現さない忍者の様な鳥だ。
2022	10	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、帰りはジャンパーを脱ぐ、気温は20℃前後、北風が吹き、涼しい、日差しは弱く、雨傘も陽傘も不要。カルガモ♂、カワセミ♂幼鳥横姿、同じく前姿、マガモ♂、コガモの群れ約150羽が湖に舞い降りる、4羽のヒドリガモ♀、カンムリカイツブリ若鳥冬羽、同じくオレンジアイズ、カワウ幼鳥と若齢、を撮影した。北半球北部から渡来したコガモの群れ、舞い降りる瞬間は撮影できず、これから、どんな冬鳥(または旅鳥)と会えるか、楽しみだ。
2022	10	10	2016年版の昆虫類水生昆虫オオコオイムシまで(コオイムシ削除)更新。
2022	10	11	2016年版の昆虫類水生昆虫ガムシまで(コガムシも)更新。
2022	10	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、帰りはジャンパーを脱ぐ、気温は17℃前後、微風、日差しは弱く、雨傘も陽傘も不要。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥、マガモ♂エクリプス3羽と同じく♀2羽、コハクチョウ幼鳥5羽と成鳥2羽、30羽のホシハジロの群れ、アキアカネ♂、ノシメトンボ♂、コガモ♂エクリプスと♀、カワセミ♂幼鳥横姿、ニホンミツバチ(セイタカアワダチソウの黄色い花)、カンムリカイツブリ幼鳥、チュウダイサギ歩いて餌を探す、を撮影した。ユーラシアと北米大陸の寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来するコハクチョウ、仲間を探してウロウロしていたが、どこかへ飛び去ったようだ。目的地は佐潟かな?、それとも落ち穂拾いに長潟の田園へ向かったか?
2022	10	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、帰りはジャンパーを脱ぐ、気温は17℃前後、無風、日差しは弱く、雨傘も陽傘も不要。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ヒヨドリ見返り、ハゼノキ紅葉、5羽のヒドリガモ、コサギ冬羽の前姿(横顔)、カンムリカイツブリ若鳥冬羽、コガモ♂エクリプス、コガモ♀のグルーミング片足と羽を伸ばす、ピーピーと鳴いて親鳥に餌をねだるカンムリカイツブリ幼鳥、群れから逸れたコハクチョウ、ツマグロヒョウモン♀吸蜜(セイタカアワダチソウの黄色い花)、ジェット飛行機-航空自衛隊 Raytheon T-400 (71-5059)、を撮影した。群れから逸れるコハクチョウ、コウコウと鳴いて仲間を探している姿を見て助けてやりたくなる。航空自衛隊~ハヤブサの様に飛ぶジェット飛行機を見ると、いつも違和感を感じる。
2022	10	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。1mm未満の小雨→曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、帰りはジャンパーを脱ぐ、気温は18℃前後、無風、日差しは弱く、陽傘は不要。ヒドリガモ♂エクリプス、2羽のヒドリガモ♀とマガモ♂エクリプス、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、深水に佇むアオサギ、ウマノスズクサ、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、カンムリカイツブリ浮上横姿(冬羽に換羽中)、換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽)、ヒツジ田(2番穂)、コガモ♂エクリプス、コガモ♀、2羽のコハクチョウが飛翔、カワウ♀若齢が口を開けて体温調節、モンシロチョウ♀吸蜜(セイタカアワダチソウの黄色い花)、ウシガエルのオレンジアイズ、を撮影した。ヒドリガモとマガモは、鳥屋野潟で冬を過ごす群れが少しづつだが集まっている。コハクチョウは移動したか? 長潟の田んぼか?、どこにいるのかな?

西暦	月	日	日誌
2022	10	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、行き途中でジャンパーを脱ぐ、気温は20℃前後、無風、日差しは弱く、陽傘は帰りに短時間さす。ウラナミシジミ、シロスジベッコウハナアブ♀、ヨシガモ♀エクリプス、オナガガモ♂1羽♀エクリプス2羽♀3羽、コゲラ♀前姿、チュウダイサギ見返り(後姿)、同じく横顔、カンムリカイツブリ浮上横姿(冬羽に換羽中)、チュウダイサギ前姿(横顔)、頭の羽毛を逆立てるチュウサギ(横姿)、同じく横顔、ピーピーと鳴いて魚を探すカンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、カワセミ♂幼鳥前姿、カウウ羽乾かす(後姿)、ウラナミシジミ♀、を撮影した。下流の対岸で、コハクチョウの群れ数十羽がコウコウと鳴いて西の方角へ飛び去った。佐潟へ移動したか?、ミサゴの飛翔を確認したが、撮影できず。
2022	10	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける、行き途中でジャンパーを脱ぐ、気温は20℃前後、無風、日差しは弱い、帰りは陽傘をさす。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ウラナミシジミ♂、ニホンミツバチ、ウラギンシジミ♂羽損傷、2羽のヨシガモ♀、ヨシガモ♀エクリプス、ヒドリガモ♀エクリプスと♀、コハクチョウの群れ90羽離水、コガモ♀エクリプス、カワセミ♂幼鳥前姿、を撮影した。下流の対岸で、コハクチョウの群れ90羽がコウコウと鳴いて西の方角へ飛び去った。連日、コハクチョウの群れがやって来る。カモなどの小形の水鳥が多数来るのは、これからか?
2022	10	17	2016年版の昆虫類水生昆虫ゲンゴロウ科の5種を更新(種名ゲンゴロウは削除)。
2022	10	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。帰りは、ジャンパーを脱ぐ、気温は15℃前後、無風で天気雨、傘をさす、そして柔らかい日差しを受けて、傘をさす(晴雨兼用の傘は便利である)。ジョロウグモ♀、ヒドリガモ♀エクリプスと♀、新潟県スポーツ公園遊歩道に黄葉の落ち葉、ジョロウグモ♀、カワセミ♂後姿(見返り)、ウマノスズクサ、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(威嚇ポーズで見返り)、ピーピーと鳴いて親鳥を探すカンムリカイツブリ幼鳥、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、カワセミ♀が首を伸ばして鳴く(横姿)、カワセミ♂後姿(見返り)、を撮影した。湖畔林のソメイヨシノが黄葉し、落ち葉が遊歩道に彩りを描く。落ち葉焚き、焼き芋が旬の季節かな?
2022	10	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。帰りは、ジャンパーを脱ぐ、気温は15℃前後、無風で、やわらかい日差し、陽傘をさす。カウウ♀遊泳見返り、ウラナミシジミ♀吸蜜、ツマグロオオヨコバイ、カンタン♀、イチモンジセセリ吸蜜、わた雲、ヒドリガモ♀エクリプスと♀、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、コゲラ♀が木を突く、カンムリカイツブリ夏羽後姿、ニガナの黄色い花(?),を撮影した。造成地は、セイタカアワダチソウの黄色い花でいっぱい、真っ黄色である。他の花がほとんど咲いていないので、昆虫類などの野生動物にとっては、タイムリーで、とても貴重な黄色い花である。
2022	10	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。帰りは、ジャンパーを脱ぐ、気温は14℃前後、無風で、やわらかい日差し、陽傘をさす。カンムリカイツブリ親鳥が幼鳥に魚を運ぶ、走る人、カンタン♀、モンシロチョウ♂羽損傷、ハゼノキ紅葉、魚を捕れないカンムリカイツブリ若鳥、深水に佇むアオサギ、カワセミ♂横姿、マガモ♀見返り、カンムリカイツブリ若鳥、冬鳥のハシビロガモ♀エクリプス、コハクチョウ群れ(30羽)、冬鳥のダイサギ(後姿、見返り)が水中にたたずむ、同じく横顔、群れから逸れたコハクチョウ、カンムリカイツブリ夏羽横姿、カワセミ♂後姿(見返り)、チュウダイサギが深水の中を歩く、を撮影した。ユーラシア大陸と北米大陸の亜寒帯〜寒帯に生息し日本に渡来したハシビロガモ、北の大地から冬鳥として渡来するダイサギ、もうすぐ11月、そろそろオオハクチョウがくるかな?

西暦	月	日	日誌
2022	10	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は15℃前後、無風で、暖かい日差し、帰りにジャンパーを脱ぎ、陽傘をさす。クロヒラタアブ♀、アシトハナアブ♀、カンムリカイツブリカップル求愛行動～頭を左右に揺リクチバシを重ねる、頭の羽毛を逆立てるチュウサギ、ウマノスズクサ、ヨメナの花（淡紫色）、カンムリカイツブリ親鳥が幼鳥に餌を運ぶ、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、オオバン幼鳥、ヒドリガモ♀、を撮影した。鳥屋野潟公園の管理作業～草刈が始まった。作業機械の騒音で野鳥が、いつもより少なかった。湖面でも、管理作業ボート？、釣り船？が走り、湖面で休息している水鳥は少なかった。
2022	10	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は16℃前後、無風で、暖かい日差し、帰りにジャンパーを脱ぎ、陽傘をさす。イチモンジセセリ吸蜜、5羽のコハクチョウ、2羽のヨシガモ♀、ヒドリガモ♀エクリプスと♀、4羽のコハクチョウ（7羽の群れ）、カワセミ♂前姿、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中（横姿）、3羽のコハクチョウ（5羽の群れ）、コバネイナゴ、ウシガエルの幼体、オオカマキリ♂、同じく顔、ダイサギ横姿、4羽のコハクチョウ（9羽の群れ）、ホシハジロ♂、を撮影した。コハクチョウの集団（ファミリーか？）は、鳥屋野潟で小休止して、西方へ飛び去っていく。そういえば、ホシハジロの♂が”ボッチ”で不安そうに遊泳していた。群れから逸れたようだ。
2022	10	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。往きは曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は18℃前後、雲間の日差しがなくなり、西から黒い雲に覆われ、ポツポツと小雨が降る、帰りにジャンパーを脱ぎ、雨傘をさす。オオバン遊泳、アキアカネ♀未成熟虫、アキアカネ♂、ノコンギクの花（淡青紫色）、ヨシガモ♀エクリプスとヒドリガモ♀エクリプス、を撮影した。ソメイヨシノは黄葉から紅葉に変わり、イチヨウは黄色に染まる。北西の風に枯れ葉が舞う季節がやってきた。
2022	10	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃前後、雲間の弱い日差し、寒いのでジャンパーを着て帰る、傘は要らず。カンムリカイツブリ幼鳥見返り、カンムリカイツブリ夏羽見返り、親鳥からもらった魚を飲み込むカンムリカイツブリ幼鳥、ノブドウ果実、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面に畝雲（地上付近から2000メートルの高さ）が映る、ダイサギが深水にたたずむ、同じく横顔、同じく水の中を歩く、カワセミ♂横姿、6羽のコガモ、カワウ♀羽乾かず、を撮影した。GPSの電池切れに気づかず撮影、残念無念。マガモが少ない、冬の鳥屋野潟を占領する渡り鳥であるのに、今のところ、湖面には数10羽しかいない。騒々しい集団お見合いは、11月以降か？
2022	10	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は10℃前後、弱い日差し、寒いのでジャンパーを着て、陽傘をさして帰る。走る人、ヨシガモ♀エクリプスとヒドリガモ♀エクリプスと♀、5羽のコハクチョウ、コハクチョウ幼鳥、3羽のコハクチョウ、4羽のコハクチョウ、コハクチョウ群れ（90羽）、コハクチョウ幼鳥と成鳥、コガモ♀エクリプスのブラウンアイズ、アキアカネ♂、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中（前姿）、ヒドリガモ♀エクリプスと♀、を撮影した。100羽を超えるコハクチョウの群れが小休止をしていたが、着いたばかりなのか家族を探して右往左往している姿が多い。生息地ツンドラ地帯からの長旅は、さぞ大変なことだろう。文明の利器が無ければ、自力で飛べない人間の場合は、徒歩と筏で数年はかかるだろう。
2022	10	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃前後、暖かい日差しに冷たい北風が気持ちいい、帰りはジャンパーを脱いだ。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中（横姿）、ホシハジロ♀4羽と♂、オナガガモ♀エクリプスとホシハジロ♂、3羽のコハクチョウ、コハクチョウ幼鳥と成鳥～5羽、カンムリカイツブリ幼鳥と成鳥が遊泳（動きが揃う）、アオマツムシ♂、アキアカネ♂、ニホンカナヘビの上から見た姿、岸辺に佇むアオサギ（前姿）、を撮影した。20羽のコハクチョウの群れが小休止をしていたが、離れた場所に着水した8羽の集団が、「コウコウ」と鳴いて群れに合図を送りながら、懸命に浅い水深の潟を移動していた。長い時間飛翔して、幼鳥が疲れたのだろうか？幼鳥の家族は、仲間より早く着水してしまったようだ。頑張れ！コハクチョウのファミリー。

西暦	月	日	日誌
2022	10	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃前後、暖かい日差しに冷たい北風が気持ちいい、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、ジョロウグモ♀、オナガガモ♂エクリプス、オナガガモ♀トリオ、コハクチョウ見返り、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、カワウ♀、オオバン見返り、4羽のコハクチョウが飛翔、マガモ♀嘴を羽に隠して休む、コバネイナゴカップル、オオカマキリ♂、同じく顔、カワセミ♀幼鳥前姿、同じく横姿、コハクチョウの逆立ち(湖底の水草を採る)、コハクチョウ幼鳥と成鳥~4羽、メナダ、同じく群れ(10尾程度)、を撮影した。たぶん先週から、弁天橋附近の湖底で、メナダの群れがバシャバシャと水しぶきを上げて騒いでいるようだ。メナダはボラの仲間で、産卵のために鳥屋野潟に溯上してきたと思われる。
2022	10	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は14℃前後、暖かい日差しに冷たい北風が気持ちいい、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中とヒドリガモ♂エクリプス、ヨシガモ♂幼鳥冬羽に換羽中、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、コハクチョウ幼鳥3羽と成鳥4羽、コハクチョウ幼鳥の挨拶(羽ばたいてコウコウと鳴く)、コハクチョウ幼鳥3羽と成鳥5羽、カワセミ♀幼鳥後姿(横顔)、オオバンの離水、を撮影した。コハクチョウ15羽が集まっていた、小休止してから長潟の田んぼへお出かけかな? 弁天橋附近の湖底にメナダはいなかった。
2022	10	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は16℃前後、暖かい日差しに冷たい北風が気持ちいい、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。ソメイヨシノ紅葉、ハゼノキ紅葉、ヒドリガモ♂エクリプス、カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥が遊泳(動きが揃う)、オナガガモ♀と♂、スズガモとホシハジロとマガモの群れ、を撮影した。コンパクトデジカメの予備バッテリー充電を忘れて、スズガモ撮影中に突然終了、残念無念! スズガモは、ユーラシア大陸極北部、北米大陸の極北部のツンドラ地帯から日本へ渡ってくる冬鳥である。キンクロハジロに似ているが、冠羽が無い方がスズガモである。
2022	10	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→雨、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は13℃前後、弱い日差し、早々に雨が降る、帰りはジャンパーを着て雨傘をさす。マガモ♂グルーミング、マガモ群れ、ダイサギ横姿、同じく横顔、を撮影した。通り雨であるが、雨粒が大きいので撮影を断念。沖合に、ホシハジロ30羽の群れ~ほとんどが嘴を羽に隠して寝ていた。15羽程度のマガモの集団が数か所で、円を描くように遊泳して騒いでいた。マガモ達の合コンが始まったようだ。
2022	10	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は14℃前後、暖かい日差し、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。カンムリカイツブリ幼鳥見返り、カンムリカイツブリ親鳥が幼鳥に魚を運ぶ、コアジサシ幼鳥冬羽に換羽中、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、コハクチョウ離水、4羽のコハクチョウ(10羽の群れ)、キンクロハジロ♂エクリプス、イエユウレイグモ、ツマグロヒョウモン♂吸蜜、カワウ幼鳥見返り、カワウ幼鳥のアイビーグリーンアイズ、カワセミ♀幼鳥前姿(横顔)、オナガガモ♂1羽と♂エクリプス1羽と♀2羽、キンクロハジロの群れ(30羽)、オイカワ♂婚姻色、を撮影した。夏鳥で南方へ渡る前に干潟などで群れをつくるコアジサシ、久しぶりに出会った。ユーラシア大陸の亜寒帯から渡来するキンクロハジロ、広い川や池などで生活し、ホシハジロと同じ場所で見られることが多い。渡り鳥が増えてきた。

西暦	月	日	日誌
2022	11	1	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は16℃前後、暖かい日差し、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中、カンムリカイツブリ幼鳥、コアジサシ幼鳥冬羽に換羽中(前姿)、ハシビロガモ♀、ヒドリガモ♀エクリプス嘴を羽に隠し休む、ホシハジロ♀と同じく♀エクリプス、ベニマシコ♀夏羽横姿、アキアカネカップル交尾、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、畝雲(地上附近から2000メートルの高さ)、を撮影した。北海道以北で繁殖し、九州以北で越冬する漂鳥のベニマシコに、4月以来久しぶりに出会った。マガモとヒドリガモとホシハジロの約50羽の集団に、ハシビロガモ♀が1羽単独でウロチョロ遊泳していた。群れから逸れたようだ。
2022	11	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は16℃前後、暖かい日差し、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥が嘴を羽に隠して休む(動きが揃う)、4羽のコハクチョウ(群れ14羽)、コハクチョウ幼鳥、鳥屋野潟公園遊歩道～落葉、オナガガモ♀と♂、ヒドリガモ♀、を撮影した。14羽のコハクチョウの中に1羽だけ体の小さな幼鳥がいた。群れが着水する時は、どうしても離れ離れになる。北極海に面したツンドラ地帯からの長旅で疲れたのだろう、幼鳥と付き添いの親鳥を、仲間が心配そうに、迎えていた。
2022	11	4	2016年版の昆虫類水生昆虫18種を更新。
2022	11	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。小雨→曇天、長袖ワイシャツの上に毛糸のセーターとジャンパーを羽織って出かける。気温は9℃前後、帰りはセーターを脱いで、陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、カワウ幼鳥横姿、6羽のカルガモが嘴を羽に隠して休む、オナガガモの群れが着水、トモエガモ♀エクリプス、トモエガモ♀、トモエガモ♀エクリプス、4羽のキンクロハジロが嘴を羽に隠して休む、5羽のホシハジロが嘴を羽に隠して休む、岸辺に佇むダイサギ(横姿)、カワセミ♀幼鳥横姿、を撮影した。沖合に、渡り鳥が小休止している。シベリア東部で繁殖し、日本に冬鳥として渡来するトモエガモが鳥屋野潟にやって来た。
2022	11	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上に毛糸のセーターとジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃前後、暖かい日差し、帰りはジャンパーを脱いで陽傘をさす。アキアカネ♀、群れから逸れたコハクチョウ、オナガガモ♀、トモエガモ♀2羽と♂1羽、トモエガモ♀、マガモ♀、岸辺に佇むダイサギ(横姿)、同じくグルーミング、群れから逸れたコハクチョウ、カンムリカイツブリ浮上横姿(冬羽)、を撮影した。ソメイヨシノやオニグルミなどの枯れ葉が敷き詰められた遊歩道は、陽が射すと、黄色と紅色でカラーリングされた回廊と化す。秋深し、高くて買えぬ焼き芋よ！
2022	11	7	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上に毛糸のセーターとジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃前後、暖かい日差し、帰りはセーターとジャンパーを脱ぐ。巻雲(高度5000～13000メートル)、ソメイヨシノ紅葉、ハゼノキ紅葉、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、トモエガモ♀4羽♂4羽、トモエガモ♀4羽♂エクリプス1羽、トモエガモ♀エクリプスとオナガガモ♀3羽♂1羽、ホシハジロ♂2羽、オナガガモ♀と♂とマガモ♀、アキアカネカップル連結、2羽のカイツブリ(冬羽)、カイツブリのライトオリーブグリーンアイズ、巻雲、を撮影した。巻雲は最も高いところにできる雲で、低温のため、氷晶(氷の粒)からできている。高層のジェット気流が日本付近を通る時に、空に色々な模様を描く。一般に温暖前線の前面にできるので、天候が変化する前によく現れる。
2022	11	8	2016年版の昆虫類バッタ等アオマツムシを更新。

西暦	月	日	日誌
2022	11	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃以上、南の風、暖かい日差し、小春日和、帰りはジャンパーを脱ぐ。ニホンミツバチ、カンムリカイツブリ若鳥浮上見返り、カワウ幼鳥横姿、オナガガモ♂、カワセミ♀幼鳥横姿、ダイサギが片足でコウホネ群生地に佇む(横姿)、カワセミ♀幼鳥が魚をくちばしに挟む(横姿)、同じく後姿(横顔)、同じく前姿(横顔)、4羽のトモエガモ♂、トモエガモとオナガガモとマガモとヒドリガモの群れ、群れから逸れたコハクチョウ、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、トモエガモとオナガガモとマガモとコガモの群れ、鳥屋野潟公園遊歩道の落葉、を撮影した。カンムリカイツブリの幼鳥が親から離れて(若鳥と呼ぶ)、自分で餌を捕り始めた。繰り返し何度も潜水して魚を追いかけているが、上手く捕れないので、イライラしているようだ。首が細くなり、少々痩せた様に見える。
2022	11	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃～17℃、南の風、暖かい日差し、小春日和、帰りはジャンパーを脱ぐ。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥が威嚇ポーズ、カンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ(冬羽に換羽中)の威嚇ポーズ、群れから逸れたコハクチョウとダイサギの別れ、ダイサギが水面から脚を出す、群れから逸れたコハクチョウ、水鳥の群れ、6羽のオナガガモ、トモエガモ♂とオナガガモ♀とホシハジロ♂、逸れた(迷子の)コハクチョウ幼鳥が水浴び、巻雲(高度5000～13000メートル)、ハラビロカマキリ、を撮影した。トモエガモとオナガガモがいつも一緒に群れている。マガモの合コンが本格的に始まったようだ、とにかくうるさい！、巻雲が出始めたことから、今夜は雨模様か？
2022	11	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は14℃～17℃、東の風、暖かい日差し、小春日和、往きの弁天橋でジャンパーを脱ぐ。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥、ハラビロカマキリ、ヒドリガモ♂と♀、カワウ♀羽乾かす、コウホネ群生地に佇むアオサギ(前姿)、トモエガモ♂、オナガガモ♂1羽と♂エクリプス2羽と♀2羽、3羽のハジロカイツブリ(冬羽に換羽中)、カワセミ♀幼鳥後姿(横顔)、鳶の紅葉、を撮影した。中国東北部からウスリーの地域で繁殖したハジロカイツブリが、冬鳥として渡ってきた。真赤な眼、まさにルビーアイズである。残念ながら、今日の写真はピンボケ画像で、とても残念。
2022	11	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は14℃～20℃、南の風、暖かい日差し、小春日和、帰りにジャンパーを脱ぐ。カンムリカイツブリ若鳥冬羽、オナガガモ♂、同じく♂エクリプス、トモエガモ♀1羽♂3羽、トモエガモ群れ(50羽)着水、コハクチョウ幼鳥と成鳥、を撮影した。雲一つない晴天、この陽気で水鳥達は西の方へ渡っていったか？ 冬期の鳥屋野潟でニッチ(生態的地位)を獲得しているのは、個体数が多いマガモとコガモである。通年ではカルガモである。その他の水鳥は少数で、亀田郷の排水路や他の潟へ分散しているようである。
2022	11	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は16℃～18℃、南の風、雲間からの陽射し、小春日和、帰りにジャンパーを脱ぐ。マガモ群れ(20羽)、ソメイヨシノ紅葉、ソメイヨシノ落ち葉、カワウ幼鳥前姿、換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽)が見返り、コウホネ群生地に佇むアオサギ(見返り)、オナガガモ♂エクリプス嘴を羽に隠して休む、トモエガモ群れ(50羽)、カンムリカイツブリ若鳥冬羽後姿、を撮影した。鳥屋野潟経由の冬鳥渡来数が減ったようだ。西高東低の冬型の気圧配置になり、東日本の天気が冬型になると、コハクチョウ等の冬鳥が新潟に南下してくるようだ。

西暦	月	日	日誌
2022	11	14	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツの上に毛糸のベストとジャンパーを羽織って、出かける。気温は12℃～13℃、北北西の風、雲間からの陽射し少々、帰りに毛糸のベストを脱ぐ。コガモ♀エクリプス、鳶の紅葉、鳶の落ち葉、ヒドリガモ♀と♀、オナガガモ♂1羽と♀エクリプス1羽と♀2羽、マガモ群れ、トモエガモ♀、岸辺に佇むダイサギ(横姿)、ハラビロカマキリの卵、を撮影した。カマキリは積雪量を予測していないと結論を出した安藤喜一氏(弘前大学名誉教授)の著書「SCIENCE WATCH カマキリに学ぶ」を、新潟市立図書館から借りることにした。17年間に及ぶ飼育観察を行ってカマキリの生態調査研究をまとめた本である。
2022	11	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は10℃～12℃、北北西の風、雲間からの陽射し少々、帰りに首巻を脱ぐ。オカヨシガモ♀、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、アオジ♀横姿、岸辺に佇むダイサギ(横姿)、積乱雲、トモエガモ♀と♀、モズ♀幼鳥、を撮影した。ユーラシアと北米大陸の温帯から亜寒帯に繁殖地を持ち、日本には主に冬鳥として渡来するオカヨシガモ、沖合にいたので解像度が低い。越冬期には平地から低山の明るい林の下やぶで生活するアオジ、留鳥である。映画館のスクリーン映像の様に現れた日本海の積乱雲、ちょっと異様である、天気が崩れる前兆か。
2022	11	16	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は12℃～13℃、北北西の風、雲間からの陽射しが暖かい、帰りに首巻を脱ぎ陽傘をさす。わた雲、カワウ♀遊泳見返り、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中見返り、ミサゴ飛翔、コウホネ群生地に佇むアオサギ(前姿)、マガモ群れ、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(後姿)、トモエガモ♀、同じく♀、ルール違反(車)、鳶の紅葉、ダイサギの集まり(5羽)、を撮影した。北の大陸で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する大型の亜種(オオダイサギ)を筆者はダイサギと呼称している。休息や繁殖、冬期の採食などでは群れをつくるが、採食場では1羽でなわばりをもって行動するのがふつうである。魚類をよく捕り、カエルやザリガニなども食べる。鳥屋野潟を採食の場とするか、それとも他の潟へ行くか、渡って間もない5羽が集まって相談していたのかもしれない。
2022	11	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は9℃～13℃、北北西の風、雲間からの陽射しが暖かい、帰りに首巻を脱ぎ陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽(見返り)、ハラビロカマキリの卵、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(後姿)、カイツブリ冬羽浮上、カワウ♀遊泳見返り、モズ♀ニホンカナヘビの幼体を銜える(前姿)、岸辺に佇むダイサギ(前姿)、同じく横顔、トモエガモ♀1羽♂4羽、ミコアイサ幼鳥、コサギ横姿、を撮影した。ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本には主に冬鳥として渡来するミコアイサ、鳥屋野潟では数羽から数十羽の群れで見られることが多い。幼鳥が単独で渡来するとは考えにくいことから、群れから逸れたのかもしれない。亀田郷の小松堀排水路等の比較的狭い水域でも、よく見かけたことがあった。
2022	11	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は13℃～15℃、北北西の風、雲間からの陽射しが暖かい、帰りに首巻を脱ぎ陽傘をさす。ミコアイサ♀横姿、カンムリカイツブリがミコアイサ♀を追いかける、ミコアイサ♀横姿、同じく横姿、セグロカモメ、カンムリカイツブリ幼鳥見返り、マガモ♀がカルガモを追いかける、アキアカネ老齢♀、メタセコイア紅葉、オナガガモ♀エクリプス、コサギ着地直後(膨らんだ羽毛)、を撮影した。カンムリカイツブリ(たぶん幼鳥)は留鳥で、渡来した見慣れないミコアイサを縄張りから追い出そうとしたようだ。ミコアイサは潜水して魚を捕まえるという食性でカンムリカイツブリと同じである。一方、マガモ♀は渡来して間もないが、縄張り意識からか留鳥のカルガモを追いかけて出そうとしたようだ。マガモもカルガモと同じ雑食性で主に植物性である。食性が競合するよそ者に対しての行動は、野生動物も同じ、ただし、人間の様な殺し合いはしない。

西暦	月	日	日誌
2022	11	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は13℃～17℃、北北西の風、雲間からの陽射しが暖かい、帰りに首巻を脱ぎ陽傘をさす。カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥が嘴を羽に隠して休む、カワセミ♀幼鳥前姿、トモエガモ♂とオナガガモ♂エクリプス、オナガガモ♀と♂、ミコアイサ幼鳥、ウメモドキの赤い実、コウホネ群生地に佇むアオサギ(前姿)、カワセミ♀幼鳥前姿(横顔)、を撮影した。マガモが鳥屋野潟では個体数が一番多い。筆者が岸辺に近づくと、最初に逃げるのはマガモである。危険を素早く察知する能力がある？、見張り役が多い？、少数派のコガモ、オナガガモ、トモエガモ、カンムリカイツブリ等がマガモの群れ近くで休息する理由は、たぶん危険を素早く察知できるからだろう。
2022	11	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は14℃～18℃、南南東の風、雲一つない晴天、帰りに首巻とジャンパーを脱ぎ陽傘をさす。群れから逸れたコハクチョウ、群れから逸れたコハクチョウがコウコウと鳴き仲間を捜す、同じく羽ばたいてコウコウと鳴き仲間を捜す、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(見返り)、群れから逸れた3羽のコハクチョウ、オナガガモ幼鳥くちばしを羽に隠して休む、セグロカモメ、ウマノスズクサ、ミコアイサ後姿、を撮影した。コハクチョウは、シベリアのツンドラ地帯から北海道北部に渡来し、その後、本州の越冬地へ移動する。、家族で行動し、他の家族と群れで生活する。水田などで落ち穂や青草の葉、根、種子などを食べる。逸れた1羽と3羽は家族らしい、越冬地へ移動中に疲れて群れから離脱した可能性が高い。佐潟か、それとも亀田郷の水田に、仲間がいるかもしれない。
2022	11	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は14℃～15℃、北北西の強い風、雲間からの陽射し、帰りに首巻を脱ぐ、突風のため陽傘が煽られる。マガモ群れ波乗り、オナガガモ群れ波乗り、群れから逸れたコハクチョウ、トビがギンブナを捕獲、トビがギンブナを足で掴んで飛ぶ、トビが捕獲したギンブナを空中に放す、セグロカモメ、セグロカモメがギンブナの尻尾を嘴で銜える、ダイサギが片足で日向ぼっこ、ダイサギ横顔、を撮影した。トビが放したギンブナを、素早くセグロカモメが捕獲した。ギンブナは体長30cm弱で重さは200～300gぐらい？、トビが重量オーバーで放したのか？セグロカモメに威嚇されて放したのか？、間髪入れずにセグロカモメが捕獲したことから、後者の方であると思われる。翼開長がトビとほぼ同じセグロカモメは、ミサゴに次ぐアンブレラ種(鳥屋野潟の食物連鎖の頂点の消費者)と考えられる。
2022	11	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は12℃～14℃、東の風、雲間からの陽射し、帰りに首巻を脱ぐ。バン幼鳥、2羽のマガモ♂エクリプス、カワウ♀羽乾かす、マガモカップル交尾、ハジロカイツブリ冬羽、モズ♂若鳥横姿、ミコアイサ♀後ろ姿、カンムリカイツブリ冬羽前姿、ミコアイサ♀横姿、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、ダイサギがタモロコを銜える(後姿)、を撮影した。マガモはユーラシア大陸北部の森林地帯に広く分布・繁殖しており、北アメリカ大陸にも広く生息し、日本には主に冬鳥で渡来するが、本州以北では繁殖する個体が増加している。狩猟鳥で、ずっと人間から命を狙われ続けてきたことから、逃げ足が速くなり、日本では人の近くに寄ってくることが少ないカモである。
2022	11	24	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は14℃～16℃、北の風、雲間からの陽射し、帰りに首巻を脱ぐ。マガモ♂、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)グルーミング、マガモとオナガガモの群れ波乗り、ダイサギ見返り、同じくジャンプして離水する、ダイサギ前姿(横顔)、同じく横姿、ミコアイサ♀横姿、を撮影した。夏鳥として中部地方以南に、亜種チュウダイサギが渡来し、繁殖する(新潟県では留鳥)。それよりも一回り大きい亜種ダイサギが、冬鳥としてほぼ全国に渡来する。両亜種は似ているが、冬羽の亜種ダイサギの脛節から跗蹠にかけては白かピンクや黄色っぽく、亜種チュウダイサギは全体に黒っぽい。ダイサギは翼開長170cm、身長は(全長104cm+脚長60cm/2=)140cm弱と背が高く、細身でスタイル抜群である。筆者が10mくらいまで近づいても逃げないことが多い。

西暦	月	日	日誌
2022	11	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は12℃～15℃、南西の風、暖かい陽射し、帰りに首巻とジャンパーを脱ぎ陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(嘴を羽に隠して休む)、同じく幼鳥が嘴を羽に隠して休む、カワウ幼鳥の欠伸(あくび)、ハジロカイツブリ冬羽、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(威嚇ポーズ)、タイリクバラタナゴ幼魚の群れ、オナガガモ♀幼鳥、セグロカモメ、ミコアイサ♀後ろ姿、ミコアイサ♂幼鳥、岸辺に佇むアオサギ(前姿)、ウマノスズクサ、換羽中のカイツブリ(夏羽から冬羽)が見返り、を撮影した。ミコアイサは冬鳥で、多くは群れで行動するが、渡来数が少ないのか、マガモの群れに紛れて単独行動で餌を探しているようだ。雄成鳥の眼のまわりが黒いことからバンダの顔に似ているとして、バンダガモと呼ばれる。残念なことに雄の成鳥はまだ確認できず。
2022	11	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨――>晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って、出かける。気温は14℃～19℃、南南東の風、暖かい陽射し、帰りに首巻とジャンパーを脱ぎ陽傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(足を腰にのせる)、カンムリカイツブリ幼鳥がグルーミング、ダイサギが首を伸ばして獲物を探す、カンムリカイツブリ若鳥冬羽に換羽中、ミコアイサ♀、岸辺に佇むアオサギ(前姿)、ダイサギの頭の毛がなびく(横顔)、マガモの♀と♂、ミサゴ♀飛翔魚捕獲、を撮影した。ミサゴは新潟県では留鳥、多くは1～2羽で生活する。水面上を停空飛行して主に魚を獲る魚食性。雌雄ほぼ同色で雄の胸は褐色みが少なく、雌は多い。体長は♀が64cm、♂が54cm、翼開長は155～175cm。写真の捕獲した魚は体長30cmくらいで、たぶんギンブナか?、上昇気流にのって、何回も旋回して、高度を徐々に上げていき、最後は滑空で帰巢するらしい。
2022	11	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天――>晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って出かける。気温は12℃、冷たい北西の風、弱い陽射し、帰りに首巻を脱ぐ。カンムリカイツブリ幼鳥、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、オナガガモ♀3羽ジャンプして離水、岸辺に佇むダイサギ(前姿)、嘴を羽に隠して休むコガモ♂、を撮影した。屋間の最高気温12℃で、冷たい北西の風、湖面に浮かぶカモ類はマガモ、コガモ、カルガモ、オナガガモのみで、羽数はいつもより少なかった。冬の渡り鳥は、寒気が降りてくると南下して、少しでも暖かい場所へ移動するのかもしれない。また、水草などの餌賦存量が減って、ニッチ(生態的地位)が獲得できなかった場合は、本格的な冬を迎える前に、安住の地を捜して放浪しなければならない。
2022	11	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上に首巻とジャンパーを羽織って出かける。気温は8℃～14℃、東南東の風、暖かい陽射し、帰りに首巻とジャンパーを脱ぐ。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(横姿)、カンムリカイツブリ幼鳥(横姿)、コハクチョウ群れ(60羽)、2羽のコハクチョウ幼鳥、コハクチョウ群れ(60羽)、ミコアイサ幼鳥、岸辺に佇むダイサギ(前姿)、マガモ群れ、コハクチョウ群れ(20羽)、巻層雲(高度5000～13000メートル)、トモエガモ♀1羽と♂3羽、セグロカモメとマガモ♂、岸辺に佇むアオサギ(後姿)横顔、カンムリカイツブリ幼鳥見返り、を撮影した。コハクチョウ群れ60羽×2+20羽=140羽がやって来た。ファミリー単位で集まってコウコウと鳴きながらまるで点呼をとっている様だ。これから、ヒツジ田へ行ったりとあえず腹ごしらえするファミリーと、疲れたのでそのまま小休止するファミリー(幼鳥がいる)に別れて、しばらく自由行動の時間を設けるのかな?
2022	11	29	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って出かける。気温は18℃～22℃、南南東の風、雲間から陽射し、帰りにジャンパーを脱ぐ。カンムリカイツブリ幼鳥(横姿)、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、同じく(横姿)、ハジロカイツブリ冬羽、オオヒメヒラタアブ、ヤブツバキの花(赤)、ミコアイサ♀見返り、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、ミコアイサ幼鳥、カワウ幼鳥遊泳横姿、岸辺に佇むダイサギ(後姿)、ダイサギ横顔、を撮影した。ミコアイサの幼鳥と♀の判別が意外と難しいようです。♀が成鳥になっても、目先の黒斑が写り具合によって見えない場合があります(幼鳥にはありません)。幼鳥の羽の雨覆いは灰色味が混じりますが、♀の雨覆いも黒っぽい色で、やはり写り具合によって判別できない場合があります。さらに、♀に似た♂のエクリプスがいまいますので、渡来して間もない時は幼鳥、♀、♂エクリプスの判別が難しい。

西暦	月	日	日誌
2022	12	2	2016年版の昆虫類バッタ等のアシナガバチの巣まで更新。
2022	12	3	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って出かける。気温は3℃～9℃、南の風、暖かい陽射し、歩道の所々に雪解け水、ブーツを履いて良かった。ミサゴ♀飛翔、ミコアイサ♀横姿、鳥屋野潟の雪景色と積乱雲、カンムリカイツブリ冬羽横姿、カワアイサ♂、ハジロカイツブリ第1回冬羽、鳥屋野潟の雪景色、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、ana(全日空)ジェット飛行機、を撮影した。カワアイサは新潟県では冬鳥、淡水域が結氷する場所では海水域で、それ以外の場所では淡水域で生活することが多い、潜水して主に魚類を食べる。毎年、数羽の群れを何回か見るが、今年はまだ1羽である。鳥屋野潟経由で、更に南下(西の佐潟方面か?)する。
2022	12	4	2016年版の昆虫類バッタ等のアメリカミズアブまで更新。
2022	12	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむはずだったが…。曇天→雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って出かける。気温は4℃～5℃、公園に着く前に雨が降り、公園が電気設備点検のため停電で公衆トイレが使えず!!、エコスタジアムの公園トイレまで急行する。雨が強くなり撮影を断念。弁天橋から、鳥屋野潟、マガモとコガモとカルガモの群れ、を撮影した。今週は、悪天候が続きそうである。鳥屋野潟は鳥獣保護区に指定されている。この区域は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護管理法)に基づき、鳥獣の保護繁殖を図るために指定される区域である。ここでの鳥獣とは、野生に生息する鳥類と哺乳類を対象とする。狩猟鳥獣のカモ類は11種で、「陸ガモ7種」はマガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、「海ガモ4種」は、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモで、潜水して餌を捕るカモである。冬鳥で外海の沿岸に生息するクロガモ以外は、鳥屋野潟で確認できるカモである。カモ達は、安全な場所であることをどうやって知ったのだろうか? 親から子へ、群れの仲間への伝達方法(コミュニケーションの方法)が、何かあるのだろう。
2022	12	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむはずだったが…。雨天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って出かける。気温は6℃～10℃、弁天橋で雨が降り止まず西の空は真っ黒、公園での撮影を断念。弁天橋と亀田バイパスの「とやの橋」から傘をさして、鳥屋野潟、ギンブナ2尾、カンムリカイツブリ冬羽横姿、ギンブナ4尾、群れから逸れた2羽のオオハクチョウ、を撮影した。オオハクチョウは、ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本へは冬鳥として渡来する。新潟県では瓢湖が代表的な越冬地である。家族群が行動の単位で、それらの集団が数十羽から数百羽の群れを作って渡る。潟湖ではアシ、ガマなど水生植物の茎や根を主な餌とする。長い首を水中に突っ込んだり、上半身を水に入れ逆立ちの姿勢でそれを食べるので、首と頭部が泥で汚れていることが多い。コハクチョウは、田んぼで採餌をするからか?、首が短くて底までとどかないからか?、アシやガマ等の賦存量が少ないからか? 鳥屋野潟では泥で汚れた姿を見ることは少ない。また、阿賀野市とその周辺のヒツジ田に雪が積もると、数十羽の群れで雪の少ない長潟の田んぼに、採餌にやってくるようだ。
2022	12	8	2016年版の昆虫類バッタ等のエグリトラカミキリまで更新。
2022	12	9	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、出かける。気温は6℃～8℃、南の風、陽射しは弱く、雨傘をさして撮影。カワウ♂遊泳、コハクチョウ幼鳥と成鳥2羽、ミコアイサ♂エクリプス、ミコアイサ幼鳥、を撮影した。ミコアイサは目先が黒く、パンダのような顔をした小形のアイサ類。ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本には主に冬鳥として全国に渡来するが、南西諸島では迷鳥。北海道北部では数つがい繁殖する。潜水して魚類、甲殻類、水生昆虫などを食べる。♂成鳥の眼のまわりが黒いことからパンダの顔に似ているとして、パンダガモと呼ばれる。♂のエクリプスと今冬始めて出会う。エクリプスとは、カモ科などの一部の鳥(種)の♂は、鮮やかな夏羽から換羽して、一時期、♀のような地味な羽衣になる、この特殊な羽衣のことをいう。日本に渡来したはかりの頃に見られることが多く、幼鳥との見分けが難しい。

西暦	月	日	日誌
2022	12	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、出かける。気温は8℃～9℃、南の風、陽射しは弱く、時々雨傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、ミコアイサ♂エクリプス見返り、鳥屋野潟午後2時の黄昏、ダイサギ顔、岸辺に佇むダイサギ(後姿)、メタセコイア(オレンジ色の落葉)、イロハモミジ紅葉、釣り船、モズ♀前姿、を撮影した。黄昏は英語では“twilight”と言い「薄明かり」または「薄明」と翻訳する。新潟の冬空はどんよりした鉛色の雲に覆われ、午後2時でも薄暗く、西日の空が夕焼けの様にオレンジ色に染まることもある。
2022	12	10	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、出かける。気温は8℃～9℃、南の風、陽射しは弱く、時々雨傘をさす。カンムリカイツブリ冬羽に換羽中(前姿)、ミコアイサ♂エクリプス見返り、鳥屋野潟午後2時の黄昏、ダイサギ顔、岸辺に佇むダイサギ(後姿)、メタセコイア(オレンジ色の落葉)、イロハモミジ紅葉、釣り船、モズ♀前姿、を撮影した。黄昏は英語では“twilight”と言い「薄明かり」または「薄明」と翻訳する。新潟の冬空はどんよりした鉛色の雲に覆われ、午後2時でも薄暗く、西日の空が夕焼けの様にオレンジ色に染まることもある。
2022	12	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、出かける。気温は6℃～10℃、南東の風、陽射しは弱く、通り雨で傘をさす。マユミの実(赤色)、マガモ群れ、カワウ♂(繁殖羽に換羽中)が遊泳見返り、ミコアイサ♂見返り、ミコアイサ幼鳥見返り、同じく幼鳥、を撮影した。カワウは留鳥で、内湾、湖沼、池、河川などで暮らす。ねぐらや繁殖地では集団で過ごし、早朝に採食場へ飛び立つ。潜水して主に魚類を捕り、木や杭、石などの上に止まって休息し、ときどき翼を開いて乾かす。雌雄同色で、繁殖期以外では♂と♀の判別が難しい。繁殖期は冬から初夏にかけてであるが、繁殖前から♂の頭部と腿が徐々に白い繁殖羽へと換羽し始める。写真は、頭部と首に白い羽(白斑)が出始めた♂を撮影したものである。
2022	12	14	2016年版の昆虫類バッタ等のオオカマキリまで更新。
2022	12	16	2016年版の昆虫類バッタ等のオオハナアブまで更新。
2022	12	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、出かける。気温は3℃～5℃、東の風、陽射しは弱い、湖畔林の雪雫で傘をさす。ミコアイサ幼鳥、カワウ羽乾かす(後姿)、ミコアイサ♂見返り、ダイサギ見返り、同じく横顔、セグロカモメ、オナガガモ♀幼鳥、トモエガモ♂とオカヨシガモ♂とマガモ♂とヒドリガモ♂、2羽のオオハクチョウ、を撮影した。オカヨシガモは、ユーラシアと北米大陸の温帯から亜寒帯に繁殖地を持ち、日本には主に冬鳥として渡来するが、多い鳥ではない。北海道では少数の個体が繁殖している。越冬地では湖沼、川などに棲息し、他のカモ類の群れの中に数羽が混ざっていることが多い。オス、メスとも地味な羽色で目立たない。水面に嘴をつけて浮遊する植物の種子をピチャピチャと食べたり、逆立ちして水底にたまった種子なども食べる。植物質のものが主で、イネ科植物の実や水草の葉、茎などを食べる。
2022	12	19	2016年版の昆虫類バッタ等のオオモンクロクモバチまで更新。
2022	12	20	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雲時々雪、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。公園の降雪の深さは膝上10cmであった。気温は2℃～3℃、西南西の風、陽射しは無い、降雪で時々傘をさす。泥まみれのオオハクチョウ、コハクチョウとマガモの群れ、コハクチョウの群れとセグロカモメとダイサギ、カンムリカイツブリ冬羽横姿、コハクチョウの群れ(120羽)、を撮影した。セグロカモメは、ユーラシア大陸の温帯から寒帯、北米大陸の亜寒帯から寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。越冬期には群れで生活し、他のカモ類と混ざった数十羽から数百羽の群れが内湾、港、河口などで見られる。漁港や水産加工場のある所には多くの個体が集まり、魚のアラなどを食べて生活をしている。小群が船のあとについて飛び、船から捨てられる残飯を狙うこともある。鳥屋野潟には、単独で餌を捜しに来ている。たぶん、群れの中では腹いっぱい食べることが出来ないのだろう。食性は基本的には腐肉食性である。そういえば、トビが落としていったギンブナの死骸を食べるセグロカモメを今年の11月22日に撮影していた。

西暦	月	日	日誌
2022	12	21	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。公園の降雪の深さは膝上10cm程度。気温は3℃～4℃、南南東の風、陽射しは弱い。鳥屋野潟の雪景色、ミコアイサ♀エクリプス、アオジ♀前姿、コハクチョウの群れ(100羽)、シジュウカラ後姿、オオハクチョウとコハクチョウ、ミコアイサ♀とひとコハクチョウ、コハクチョウ幼鳥見返り、氷床の上で休むマガモ、オナガガモ、コガモ、トモエガモ、オカヨシガモの群れ、コハクチョウ飛翔～幼鳥3羽と成鳥1羽、同じく幼鳥4羽と成鳥2羽、新潟県スポーツ公園の雪景色、ハラビロカマキリの壊れた卵囊、を撮影した。氷床の上で休む水鳥は皆で「おしくまんじゅう」をする様に寄り添って寒さを凌いでいるように見えた。オオハクチョウとコハクチョウは家族の様に仲良くしている様に見えた。記録的大雪の中で、野生の水鳥たちは、懸命に、助け合って、命をつないでいるようだ。私たち人間も「譲る心」をもって、人種や国境を超えて、助け合って生きていきたいものである。
2022	12	22	2016年版の昆虫類バッタ等のオンブバッタまで更新。
2022	12	23	2016年版の昆虫類バッタ等のカンタンまで更新。
2022	12	24	2016年版の昆虫類バッタ等のキヒロホソガガンボまで更新。
2022	12	25	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。公園の積雪20cm程度。気温は6℃～7℃、西北西の風、時々突風、陽射しは弱い。ミコアイサ♀エクリプス、泥まみれでヨシの根茎を食べるオオハクチョウ、風が鳥屋野潟湖面を走る、新潟県スポーツ公園の雪景色、風が鳥屋野潟湖面を走る、カワウが3羽、トビ滑空、鳥屋野潟公園遊歩道の雪景色(倒木)、マガモ群れ波乗り、2羽のコガモ♂、を撮影した。連日の暴風雪で、水鳥が安全な場所に避難したようである。日本海の冬将軍がそろそろ退散してくれるといいのだが。近頃は鉛色の空ばかりで、明るい陽射しの日々が懐かしい。
2022	12	27	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雲天→晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。公園の積雪10cm程度。気温は3℃～6℃、南西の穏やかな風、明るい陽射し。風が鳥屋野潟湖面を走る、泥まみれでヨシの根茎を食べるオオハクチョウ幼鳥、オナガガモ♀エクリプス、ミサゴ飛翔、片足で岸辺に佇むアオサギ(横姿)、岸辺に佇むダイサギ(前姿)、ダイサギ横顔、ミコアイサ幼鳥、積乱雲、ミコアイサ♀エクリプス、ミコアイサ♀見返り、ヤマウスバフユシャク、を撮影した。ヤマウスバフユシャクは冬尺蛾。出現期は11月～12月で年1化。寄生植物はバラ科のソメイヨシノ(鳥屋野潟の湖畔林)である。前翅の地色は淡褐色から黄褐色で翅頂部は淡黄色。内・外横線は明瞭。♀は無翅。北海道と本州に分布する。
2022	12	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。公園の積雪10cm程度。気温は4℃～8℃、南南西の穏やかな風、明るい陽射し。ミコアイサ♀前姿、ムクドリカップル、モズ♀、五頭連峰～雪景色、田園景観～雪景色、賽の神のやぐら、スズメがお食事に見返り、ミコアイサカップルとマガモ♂、ミサゴ飛翔、を撮影した。ミサゴは、翼が細長くて尾が短い、下面の白っぽい大きなタカ。日本では北海道から沖縄まで繁殖し、留鳥。獲物を見つけると停空飛翔でねらいをつけ、頭をさげて脚を前に突き出した体勢で水に突っ込む。前後自在に開く外側の足指でしっかりとめ魚を捕まえる。獲物を探して飛ぶ時は、真直ぐに飛ばず蛇行や旋回をするので、遠くからでも発見しやすい。
2022	12	29	2016年版の昆虫類バッタ等のキタヒメヒラタアブまで更新。

西暦	月	日	日誌
2022	12	30	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。公園の積雪10cm未満。気温は5℃～5℃、西の風5m/sで湖面では強く吹いている、明るい陽射し。風が鳥屋野潟湖面を走る、ミコアイサ♂エクリプス、ノスリ冬羽、マガモ群れ波乗り、カワセミ♀幼鳥横姿、カワウ幼鳥と成鳥、岸边に佇むダイサギ横姿、ホシハジロ♂、ススキの根茎に佇むアオサギ前姿、を撮影した。ハシブトカラスに威嚇されたノスリ、全長60cm弱で両者ほぼ同じ、翼開長は20～30cmノスリが大きい。ネズミなどの小形哺乳類、カエル、ヘビ、昆虫、鳥などを木の枝などにとまって待ったり、帆翔しながら探す。獲物を見つけると停空飛翔でねらいをつけ、急降下して足指の爪で捕らえる。顎ひげ状の黒褐色斑と優しい黒目を持つ、ずんぐりとした猛禽類(タカ)である。
2022	12	31	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。公園には雪塊が残っている。気温は3℃～4℃、南西の風3m/sで湖面は少し波立つ、淡い陽射し。嘴を羽に隠して休むコガモ♂、オオバンが歩く(後姿)、4羽のオオハクチョウ飛翔、ウメドキの赤い実、岸边に佇むアオサギ(横姿)、サザンカの花(赤)、ダイサギが首を傾げて水の中を歩く、同じく下を見て嘴を開いて水の中を歩く、畝雲(地上付近から2000メートルの高さ)、コゲラ♀が木を突く、を撮影した。コゲラは雌雄ほぼ同色。雄の後頭部両脇には赤い羽があるが、興奮したときや風が吹いたときなど以外は見えないことが多い。「ギー」「キッキキキキ」という低い鳴声か、「コンコンコン」と木を突く音に気が付いて周囲の木を捜すと、見つかることが多い。夢中で木を突いているので数メートルの距離に居ても逃げないが、あちこち動き回り、動作が早いのでフォーカスに苦労する。
2023	1	1	2016年版の昆虫類バッタ等のキリウジガガンボまで更新。
2023	1	2	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、シューズで出かける。公園には雪塊が残っている。気温は4℃～4℃、西北西の風8m/sで湖面は白波が立つ、淡い陽射し。コガモ♂横姿、雪雲、カワウ♂繁殖羽の見返り、ミコアイサ♀波乗り、コガモ群れ波乗り、自然生態園ため池、ハジロカイツブリ第1回冬羽、を撮影した。ハジロカイツブリは冬鳥で、小群か群れで生活するものが多いが、写真は1羽のみの単独行動である。嘴が灰色で、上嘴上面だけが黒いことから、第1回冬羽である。これは、幼羽から最初の換羽後の羽衣のことで、去年生まれの若い鳥のことをいう。たぶん、群れから逸れたのだろう、潜水を繰り返して小魚を捜しているようだ。全長30cm前後と小さく、鳴くことはほとんどないので、見つけにくい水鳥である。
2023	1	4	信濃川最下流の柳都大橋からの景観を撮影。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。道端の雪塊がわずかに残っている。気温は4℃～5℃、北西の風8m/sで、淡い陽射し。信濃川左岸下流景観、佐渡汽船えひめ、信濃川下流景観、柳都大橋の橋名板、を撮影した。佐渡汽船は、2021年3月の高速フェリー「あかね」引退により直江津(上越市)～小木の航路のフェリー運航を廃止しジェットフォイルのみの運航としていた。しかし、2022年6月に新造船の就航で引退した宇和島運輸フェリー「えひめ」を購入し、2023年3月25日から1日2往復で同航路に就航させる予定である。佐渡観光客は2019年で50万人弱であったが、2020年は25.4万人で半減した。1990年頃は100万人を超えていた。2003年3月に環境省がトキの野生復帰を宣言してからは、「トキ」をテーマにして観光客を66万人から100万人に戻そうと頑張ったが、観光客が増えることは無かった。なお、トキの生存個体数は2021年9月29日時点で推定484羽である(環境省hp)。

西暦	月	日	日誌
2023	1	5	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。公園には雪塊が残っている。気温は4℃～5℃、西北西の風8m/sで湖面は波が立つ、淡い陽射し。岸辺に佇み嘴を開いて鳴くダイサギ(前姿)、ミコアイサ♂横姿、オオハクチョウの幼鳥1羽と成鳥2羽、ノスリ冬羽、巻層雲(高度5000～13000メートル)わた雲(高度～2000メートル)、オナガガモ群れ波乗り、ミコアイサ♀横姿、を撮影した。オオハクチョウが去年の暮れから居座っているようだ。成鳥らしきものが他に3羽ヨシ原にいたので、合計6羽のファミリーである。鳥屋野潟に立ち寄る白鳥はコハクチョウが大半を占めるが、その日のうちに飛び立っていく。居座る姿は見たことが無い。オオハクチョウはヨシ等の根茎を食べることから、岸辺にヨシ原が多い鳥屋野潟は居心地が良いのかもしれない。しかし、岸辺の所々に発泡スチロールやビニールのゴミ袋が漂着しているのが気になる、漁業協同組合有志等で年に数回ゴミ回収を行っているが、冬場は行わないこと、下流から上流に向かって西風が吹くことから、ゴミが上流の岸辺に溜まって、弁天橋からよく見える。弥彦山や角田山を背景とした鳥屋野潟の冬の景観が損なわれて残念である。
2023	1	6	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、シューズで出かける。公園には雪塊が残っている。気温は6℃～7℃、西の風3m/s、湖面は多少波立つ、暖かい陽射し、帰路は陽傘をさす。5羽のオオハクチョウ、岸辺を歩き嘴を開いて鳴くダイサギ(横姿)、6羽のオオハクチョウ、ミコアイサ♂波乗り、ミコアイサ幼鳥(前姿)、同じく(横姿)、ミコアイサ♀前姿、同じく横姿、片足で岸辺に佇むダイサギ(前姿)、群れから逸れたコハクチョウ、ダイサギの集まり(4羽)、を撮影した。ミコアイサ幼鳥と♀の判別が難しい。フィールド図鑑日本の野鳥によると、♂幼鳥の第1回冬羽は、頭が明るい茶色で中・小雨覆羽が白いそうだが、写真の色彩は光量(明暗)によって変わるし、羽も閉じているので判断が難しい。顔が幼く見える方が幼鳥、大人っぽく見える方が成鳥♀としたが、正解かどうかあまり自信がない。潟の西岸ではコハクチョウの群れ約百数十羽が、コウコウと鳴きながら集まっていた。これから、どこかへ移動するようだ。
2023	1	7	弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。冬時雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。道端に雪塊が残っている。気温は2℃～3℃、南南西の風4m/s、湖面は少し波立つ、弱い陽射し、雨傘をさす。頭と長い首が泥まみれのオオハクチョウ(横姿)、同じく(後姿)、同じく(前姿)、冬時雨、マガモ♂眼差し、マガモ♀眼差し(見返り)、を撮影した。マガモ♂は皆エクリプスから生殖羽に換羽したようだ。生殖羽について、フィールド図鑑日本の野鳥では【頭部は黒く、光の当り方で緑色や青紫色などに見える。中央尾羽の数枚は上にカールする。カモ類の雄成鳥の多くは、日本に渡来する頃には次の生殖羽への換羽を始めている種類が多い。したがって、完全なエクリプスが見られるのは、オンドリ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、コガモなどで、他の淡水ガモ類や海水ガモ類では、ほとんどがエクリプスから生殖羽に換羽中の場合が多い。また、幼鳥の多くは、エクリプスや雌成鳥と似ていることが多いが、嘴の色はエクリプスでは変化はなく、脇羽の模様は多くの場合、雌成鳥では羽に丸みがあり、幼鳥ではとがり気味になるなどの違いがある。他に肩羽や三列風切が成鳥に比べて短いなどがある】と書いてある。筆者曰く、羽は閉じている場合が多く、「丸み」や「とがり気味」や「比べて短い」など、微妙な違いの判別は難しい。
2023	1	9	弁天橋で雨傘をさして撮影。どんより曇った雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。歩道は所々に水溜りができる。気温は5℃～6℃、南の風4m/s、雨傘をさす。ミコアイサ♂見返り、ミコアイサ♀と♂、ミコアイサ♂とマガモ♀、鉛色の雲と雨の鳥屋野潟、を撮影した。ミコアイサとマガモの他にはコガモ、オオバン、カイツブリを見かけたが、雨脚が強まり撮影できず。年が明けてからは暖冬のような。真っ黒な雷雲が通過すると、瞬電が発生したり、BS放送が受信できなかったりして困る事が多い。我が家は、インターホンから暖房までオール電化生活である。生活基盤が、いかに脆弱か、思い知る時がやってくるのが怖い。

西暦	月	日	日誌
2023	1	10	弁天橋付近で降雪の合間に撮影。どんよりした雪空、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。道には降りたてのぼた雪。気温は2℃～4℃、西北西の風10m/s、傘が風に煽られる。吹雪の中のマガモとカルガモの群れ、鳥屋野潟の吹雪、コガモ♀2羽と♂4羽の波乗り、オオバン遊泳、風が鳥屋野潟湖面を走る、カイツブリ冬羽見返り、を撮影した。湖面が波立つ日に、マガモやカルガモ等のカモ類は集団で波乗りをしていることが多い。波の少ない岸辺で休めばいいのに、波打ち際が嫌いなようだ。逆に天気の良い日中は、岸辺の木陰やヨシの根元で、隠れるようにして休んでいることが多い。悪天候で強風の日、ヨシ原から天敵が近づく心配が分かりにくいこと、天敵の猛禽類が飛んでいないことから、沖合で波乗りをする方が安全なのかもしれない。逆に天気の良い日は、天敵の心配が分かり易く、空から見えない岸辺に隠れて休んでいる方が安全なのかもしれない。なぜなら、私が遊歩道から岸辺にちょっとでも近ずくと、マガモがガーガーと鳴いて一目散に沖合へ逃げるからである。
2023	1	11	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は4℃～6℃、南南西の風5m/sで湖面は少し波立つ、暖かい陽射し。カルガモ8羽波乗り、嘴を羽に隠して休むマガモの♀と♂、カワウ♂繁殖羽、風切羽を持ち上げたマガモの♀と♂、ミコアイサ♀横姿、モズ♂、カイツブリ冬羽、を撮影した。カンムリカイツブリの姿が去年の暮れから見えなくなった。フィールド図鑑日本の野鳥によると、「青森県と滋賀県や新潟県などの本州の湖沼などで繁殖し、本州以南の主に沿岸、内湾、湖沼、池、河川などで越冬する。漂鳥、または冬鳥。本州以南に生息。」とある。鳥屋野潟のカンムリカイツブリは夏鳥または漂鳥ということか。新潟県では準絶滅危惧種に指定されている。
2023	1	12	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、シューズで出かける。気温は4℃～10℃、南南西の風5m/s、暖かい陽射し。群れから逸れたコハクチョウ、カンムリカイツブリ嘴を羽に隠して休む、カワウ幼鳥横姿、カワウ♂繁殖羽が立ったまま顔を羽に隠して眠る、ミコアイサ♀横姿、ジョウビタキ♀前姿（保護色）、羽にプラスチックゴミ？が付着したミコアイサ♀が懸命に水浴びをする、ミコアイサ♀の羽にプラスチックゴミ？が付着、同じく懸命に水浴びをする、同じくプラスチックゴミ？が取れない！！、片足で岸辺に佇むアオサギ（横姿）、走る人、キジバト横姿、を撮影した。昨日はカンムリカイツブリが見えなくなった話をしたが、数羽を確認した。フィールド図鑑日本の野鳥では「本州以南の主に沿岸、内湾、湖沼、池、河川などで越冬する。」と書いてあることから、鳥屋野潟は本州以南に属し、漂鳥または冬鳥ではなく留鳥となる。
2023	1	13	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、シューズで出かける。気温は6℃～12℃、南の風4m/s、春が来たように陽射しが暖かい、帰りはダウンを脱いだ。ミコアイサ♂見返り、ノスリ幼鳥、カンムリカイツブリ冬羽横姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、群れから逸れたコハクチョウ、オナガガモ♀1羽♂3羽、ミサゴ飛翔魚捕獲、アオサギが片足で日向ぼっこ、アトリ♀横姿、セグロカモメ、ノスリ幼鳥の顔、を撮影した。アトリは冬鳥で、群れで行動し、樹や地上で草木の種子を食べ、春には昆虫類の幼虫なども捕る。すばしっこい動きで撮りにくい。潟の西岸にコハクチョウが約200羽コウコウと鳴いて、騒いでいた。飛び立った集団（たぶん家族単位）は西の方へ向かった。新潟県スポーツ公園の白梅の蕾が膨らんでいた。高齢の夫婦が、「例年より、かなり早い」と言って、珍しいように眺めていた。ノスリ幼鳥は、帰りも同じ場所で同じ格好で止まって、ネズミがいらないか？、キョロキョロと辺りを眺めていた。このまま、暖かい春になると良いのにな！、と思った。
2023	1	14	2016年版の昆虫類バッタ等のクサキリまで更新。
2023	1	15	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。小雨、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は7℃～6℃、北の風4m/s、梅雨入りした様な長雨、傘をさしたまま撮影。鉛色の雲と雨の鳥屋野潟、カワウ♂繁殖羽、ミコアイサ♀見返り、鉛色の雲と雨の鳥屋野潟、を撮影した。水鳥は、ずぶ濡れが平気、雨の中で休み、眠る。マガモたちは沖合で騒ぐ、合コン、愛の挨拶に夢中、しとしとと雨が降り続く中、私は早々に帰途に就く。

西暦	月	日	日誌
2023	1	16	2016年版の昆虫類バッタ等のクルマバッタまで更新。
2023	1	17	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇→曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は3℃～4℃、南南西の風4m/s、帰る頃には、明るい曇空に変わる。鉛色の雲と曇の鳥屋野潟、キジバト見返り、鉛色の雲と鳥屋野潟、姿勢が良いカワウ♂繁殖羽、ミコアイサ♂と幼鳥、ミコアイサ♂横姿、ダイサギ見返り、コゲラ♀見返り、を撮影した。数週間前の暴風雪で湖畔林が倒木したり、折れた枝が宙吊りの状態で放置されていたが、漸く造園業者の手入れ作業が始まったようだ。伐採作業の騒音に驚いたマガモ等の水鳥が、対岸の方へ移動した模様である。沖合には、こちらの様子をうかがうマガモが数羽いるが、あと数日は手入れ作業が続くであろう。来週は大雪の予報が出ているので、その前には完了してほしい。
2023	1	18	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は4℃～6℃、南南西の風3m/s、通り雨あり、帰る頃には、明るい曇空に変わる。鉛色の雲と鳥屋野潟、2羽のカルガモ(後姿)、ミコアイサ♀後姿、カンムリカイツブリ冬羽(見返り)、ツミ幼鳥見返り、を撮影した。始めてツミを撮影した！！帰途に、ハシトガラスに追われた小型の猛禽類？が、小灌木に止まった。後姿を見て、ツミかな？と思い、湖畔林の枝の合い間から急いで撮影した。新潟県では留鳥、3月頃から繁殖行動が見られ、雄は雌に求愛給餌を行う。小鳥類が主だが、昆虫類なども捕る。1羽で飛ぶことが多い。類似種にアカハラダカがいるが、「新潟市潟のデジタル博物館」や「いにがた野鳥日誌」に掲載されていないことから、ツミ幼鳥と同定した。その他に、カワセミと遭遇したがピンボケであった、残念、無念。
2023	1	19	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は2℃～7℃、南の風3m/s、天気晴朗、帰りは、ダウンのチャックを下ろす。ダイサギが岸辺を歩く、ミコアイサ♀横姿、鳥屋野潟が水鳥たちでにぎわう、鳥屋野潟は天気晴朗、ノスリ後姿(正面顔)、7羽のオオハクチョウ、ミコアイサ♀横姿、ミコアイサ♀羽ばたき(雨覆い)、ミコアイサ幼鳥横姿、18羽のオオハクチョウ、同じく成鳥と幼鳥、を撮影した。遊歩道沿いのヨシ原でジョウビタキ♀の飛影を確認、ミサゴが東の方へ低空で真直ぐ飛翔する姿を確認(たぶんギンズナを捕獲したか？)。天気が良いと、小鳥たちが騒ぎ、眼の片隅に飛影を感じるが、種の確認はできない。渡来したオオハクチョウたちも、暖かい日差しを受けて、ノンビリと遊泳していた。久しぶりの天気晴朗である。
2023	1	21	2016年版の昆虫類バッタ等のクロウリハムシまで更新。
2023	1	22	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。雪がヒラヒラと舞う曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は0℃～1℃、南東の風1m/s、陽射しはなし、雪<-->曇<-->曇と、めまぐるしく変わる天気。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面におぼろ雲が映る、ヒヨドリ横姿、ミコアイサ♀後姿(横顔)、シメ♂前姿、ミコアイサ♂横姿、シロハラ♂後姿、ツグミ後姿、を撮影した。シメはユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、新潟には冬鳥としてやってくる。平地から山地の林、近くに林のある農耕地、草地、樹木が多い公園などで、繁殖期以外は群れで生活し、樹上や地上で草木の種子を好んで食べる。私が撮影した期間は11月～翌年の4月である。シロハラはユーラシア大陸から渡来する冬鳥、平地から山地の林、市街地の公園、果樹園などで、渡来直後は群れだが、徐々に1羽で生活する個体が多くなる。跳ね歩きながら、落ち葉の下や土中からミズズ類や昆虫の幼虫などを捕り、木の実なども食べる。私が撮影した期間は12月～翌年の4月である。

西暦	月	日	日誌
2023	1	23	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は1℃～5℃、南の風4m/s、陽射しはなし、ウオーキングで汗をかかない寒さ。コガモ群れ～合コンか？、カルガモ♀と♂？、ダイサギさんの探し物、ミコアイサ♂横顔、ダイサギ飛翔、ミコアイサ幼鳥（横姿）、同じく羽ばたき（雨覆い）、を撮影した。コガモの群れが集まって「ピリッピリッ」とけたたましく鳴きながら、右往左往している。冬鳥だが、本州と北海道に繁殖記録があることから、鳥屋野潟でも合コンをして、ラブゲーム？を真剣に（楽しんで？）騒いでいる様に見える。二日後には厳しい寒波がやってくることから、今日中に恋の相手を見つけて置いた方が良いのに…と教えてやりたいが、鳴き方（伝え方）が分からずできない、まことに残念である。
2023	1	24	2016年版の昆虫類バッタ等のケラまで更新。
2023	1	25	2016年版の昆虫類バッタ等のコガネムシまで更新。
2023	1	26	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。厳しい寒波で朝から雪が降り続く、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温はマイナス1℃～0℃、西北西の風2m/s、陽射しはなし、時々小降りになる。鳥屋野潟の降雪（淡雪）、カワウ♀遊泳見返り、アオジ♀前姿、鳥屋野潟湖面が氷結、雪降り積もる湖面で5羽のカルガモが嘴を羽に隠して休む、新潟県スポーツ公園の雪景色、鳥屋野潟湖面が氷結、コゲラ♀採餌、シジュウカラ♀前姿、を撮影した。7羽のハクチョウが西の方へコウコウと鳴きながら飛び去った。コハクチョウかオオハクチョウか不明。コゲラは留鳥で、つがいになわばりをもって生活し、非繁殖期はシジュウカラやエナガの群中に入る個体が多い。雌雄ほぼ同色。雄の後頭部両脇には赤い羽があるが、興奮したときや風が吹いたときなど以外は見えないことが多いので、ひょっとすると撮影したのは♂かもしれない？……しかし今日の場合は、3～4メートルの近い距離であったが、餌が見つかるまで逃げなかった。その間、数回見返りで私をジッと睨んだ。たぶん♂ではないだろう、胆が据わっている♀だと思う。
2023	1	27	弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。厳しい寒波で朝から雪が降り続く、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～1℃、南南東の風1m/s、暖かい陽射しはなし、帰路は細雪になる。ムクドリ群れ（約70羽）、鳥屋野潟の降雪（粒雪）、カンムリカイツブリ冬羽後姿、カイツブリ冬羽横姿、頭と長い首が泥まみれのオオハクチョウ（横姿）、4羽のオオハクチョウ、を撮影した。ムクドリは留鳥で、平地から山地の市街地や農耕地、芝地、河原、果樹園などで1年を通して群れで行動し、草丈の低い場所を歩きながら、昆虫類やミミズ、節足動物などの他、木の実もよく食べる。雌雄ほぼ同色。夕方に、数百羽の大群が集まり、「ギョル」「チツ」「キュ」などと鳴いて騒音問題、さらに止まり木の下は糞だらけになる糞公害、そこで、人が多く集まる場所で木を伐採するなどの駆除対策が行われるようになった。今では街中から、スズメやムクドリ、カラスなどが群れで止まれる高中木が無くなり、更に巣が作れる場所も無くなり、身近な野鳥を見かける機会が少なくなってしまった。トキ放鳥で唱えられた「人と野生生物の共存」という概念は、人々が生活および社会活動するエリアから消滅しつつあるようだ。

西暦	月	日	日誌
2023	1	28	鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～0℃、西北西の風8m/s、明るい陽射しがあり、帰路は雪が降り止む。鳥屋野潟の雪景色、2羽のオオハクチョウ、鳥屋野潟波高し、カルガモ群れが吹雪の中で波乗り、氷床の上で休むマガモ、コガモ、ミコアイサの群れ、鳥屋野潟公園水路の水面が氷結、トウホクノウサギの足跡、鳥屋野潟湖面が氷結、水面が氷結した自然生態園ため池、トウホクノウサギの足跡、新潟県スポーツ公園ため池の水面が氷結、を撮影した。トウホクノウサギは、本州の山岳地帯や積雪の多い日本海に面した地方の山地や平野部のやぶの多いところに生息する。ふつうは単独生活をし、群れをつくることはない。夏毛の背面は暗茶褐色、体下面はほとんど白色。冬毛は耳の先端の黒褐色を除いて全身が白色。しかし、ナベウサギと呼ばれ、冬に完全に白化しないものが一部の地方に若干いる。夏は草類の茎葉を主食とし、冬は若い造林木、果樹、雑木などの小枝や皮を食べる(改訂新版 世界文化生物大図鑑 動物より)。岩手県滝沢森林公園のhplに「足跡は規則的なギャロップ(跳躍歩行性、歩幅2m位、最高時速80km!?)」と記述されていた。写真から推定すると、傘の長さ90cmなので歩幅は1.5～2mと推定される。鳥屋野潟で2019年5月11日に撮影して以来の一期一会だと思うが？足跡だけでは、ちょっと自信がない。
2023	1	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。時々雪、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～0℃、北西の風5m/s、淡い陽射しあり、粒雪と淡雪とぼた雪が交互に降る。鳥屋野潟の降雪(淡雪)、カルガモ♀横姿、コハクチョウ幼鳥と成鳥4羽、鳥屋野潟の降雪(淡雪)、氷床の上で休むマガモの群れ、乱層雲(高さ2000メートルから7000メートル)、嘴を羽に隠して眠る3羽のカルガモ、を撮影した。カルガモは留鳥、鳥屋野潟では一年中見ることができる。日中は休息しているものが多いが、公園などの池では昼間も行動する。多くは夕方から動きはじめ、水田地帯などで落ち穂や青草、イネ科植物の種子などを食べる。雌雄、齢に関係なくほぼ同色。雄は雌より全体にはっきりした羽衣。淡水カモ類の中で嘴は黒く、先が黄色いのは本種だけ。群れよりもカップルまたは家族単位で行動する事が多い。ただし子育て期間は、先頭に立って幼鳥を連れているのは♀である。♂は何処にいいのか？卵を温めて、雛を守るのは全て♀が行っている。体は♂より小さいが、肝っ玉母さんの様に大胆に行動する。以前、抱卵中の♀に睨まれたことがある。「グエッグエツ」という大きな鳴き声で威嚇され、目ん玉をひんむいた顔で睨まれ、その形相は、まるで大魔神の鬼の面相であった(ちょっと、大袈裟か?)。
2023	1	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～1℃、南東の風4m/s、暖かい陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。鳥屋野潟の雪景色、鳥屋野潟の水面氷結とコハクチョウの群れ、トビ滑空、カワウ♀遊泳見返り、片足で岸辺に佇むダイサギ(横姿)、着雪したソメイヨシノ、オオハクチョウの群れ(約30羽)が氷結した湖面の上で休む、セグロカモメが氷結した湖面に立つ、鳥屋野潟公園遊歩道の雪景色、鳥屋野潟公園水路の水面が氷結し太陽が光り輝く、氷床の上で休むマガモの群れ、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、自然生態園ため池の雪景色、コハクチョウの群れ(40羽)、新潟県スポーツ公園の雪景色、雪原のキジバト(横姿)、ゴイサギ幼鳥が立ったまま顔を羽に隠して眠る、を撮影した。ゴイサギは留鳥で、夜行性のサギ類、昼間は竹藪や茂った林などのねぐらで休息する。夕方、薄暗くなった頃飛び立ち、池や沼、養魚場などで魚やカエルなどを捕らえる。庭の小さな池などに毎晩飛来することがある。夜通しで行動し、明け方にはねぐらへ戻る。若鳥などは時折、昼間行動することもある。撮影した幼鳥は眠っており、数メートルまで近づいても気づかなかった。雪塊を近くに数回投げたら、ようやく顔を上げてくれた。私に気づいたようだが、逃げずにまた、羽に顔を埋めた。よほど眠かったのか、それともカラスに追われて疲れたのか？、数10メートル離れた所にハシブトガラスが1羽監視するように、こっちを見ていた。幼鳥がカラスにいじめられないか、ちょっと心配である。

西暦	月	日	日誌
2023	1	31	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は1℃～2℃、北西の風6m/s、暖かい陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。鳥屋野潟の雪景色、片足で嘴を羽に隠して休む2羽のカルガモとコガモ、3羽のオオハクチョウと10羽のコハクチョウ、トウホクノウサギの足跡、鳥屋野潟公園水路の水面が氷結、新潟県スポーツ公園の雪景色、嘴に食べかすを付けたシメの前姿、を撮影した。シメは冬鳥、ユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本では北海道に夏鳥として渡来後、繁殖し、冬期は本州以南に移動する。越冬地では、普通は単独で見られることが多い。雑木林や公園などの明るい林に棲み、ムクノキ、エノキ、ヤマハゼなどの木の実を好んで食べる。地上に下りて実を拾うこともある。ほとんどさえずらない鳥である。写真は、公園トイレの真向かいにある林の枝に止まったところを撮影したものである。地上で採餌中に、突然私の気配を感じて、林の枝に逃げたのか、嘴にたっぷり食べかすを付けたまま、こちらを警戒していた。忍者の様に素早く静かに動き、鳴き声ひとつ無かった。別の林で、「キョ、キョ、キョ、ギョルルルルー」というシロハラウの鳴き声を聞いたが、姿は確認できなかった。
2023	2	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は1℃～5℃、南の風4m/s、淡い陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。ミコアイサカップル、コハクチョウの群れ(40羽)、鳥屋野潟の雪景色、氷床の上で休む10羽のマガモ、氷床の上で休む8羽のカルガモ、カワウ♀後姿(横顔)、コハクチョウ2羽飛翔、ミコアイサ幼鳥(横姿)、マガモカップル交尾、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、キジバトの風切羽と雨覆い羽、ヒヨドリの威嚇ポーズ、コハクチョウV字型飛行、オオタカ正面顔、同じく前姿、を撮影した。オオタカは留鳥、平地から山地の林、河川、農耕地、湖沼、公園などで、繁殖期以外は1羽で生活しているものが多い。主に鳥類を捕り、ネズミ類やウサギなども食べる。毎年、雪が積もると、冬鳥を狙って、ヨシ原の小灌木などで、獲物を物色している。ハシブトガラスはオオタカが縄張りに侵入した時は、遠巻きに監視していることが多い。トビやノスリの場合は、実力行使に出ることがあるが、オオタカには恐れをなしているようだ。20メートルくらい近づいてオオタカの幼鳥に逃げられたことがあった。幼鳥は茶色で目立たないので、離れた場所から探す場合はカラスが目印になる。数羽のカラスが近くの木に止まって包囲するように監視していることが多い。
2023	2	2	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は2℃～3℃、西北西の風4m/s、暖かい陽射しあり、帰路は陽傘をさす。コハクチョウとオオハクチョウの群れ(約130羽)、鳥屋野潟の雪景色、鳥屋野潟に強風が吹く、コハクチョウ幼鳥2羽と成鳥5羽、2羽のミコアイサ♂波乗り、ミコアイサ♂初列風切羽が損傷(横姿)、鳥屋野潟に強風が吹く、ミコアイサ♂初列風切羽が損傷(横姿)、を撮影した。ヨシ原にジョウビタキ♀がいたが素早く逃げられ撮影できず。ミコアイサはユーラシア大陸の亜寒帯で広く繁殖し、日本には主に冬鳥として渡来する。湖沼、河川、池、河口や入り江などで生活し、春の渡り期には大きな群れになる。多くは群れで行動し、活発に動きまわって、潜水しては魚類、甲殻類、水生昆虫などを食べる。雄成鳥の眼のまわりが黒いことからバンダの顔に似ているとして、バンダガモと呼ばれる。鳥屋野潟公園の大水路の末端にある循環用ポンプのファームポンドに♂が1羽だけ隠れるようにしていた。すぐ傍の遊歩道を人が歩いて逃げないことから、飛べないのではないかと疑問に思っていたが、やはり、羽を損傷しているようだ。数日、様子を見て飛べないようであれば、公園管理事務所に連絡しようと思う。

西暦	月	日	日誌
2023	2	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は1℃～2℃、西北西の風3m/s、淡い陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。5羽のコハクチョウと7羽のオオハクチョウ、カンムリカイツブリ若鳥冬羽見返り、鳥屋野潟の雪景色、カンムリカイツブリ冬羽横姿、ミコアイサ♂初列風切羽が損傷(横姿)、同じく(後姿)、コハクチョウ幼鳥3羽と成鳥3羽、アオジ♀横姿、オオタカ横姿、を撮影した。弁天橋の手前で、ヨシ原の方から、「カーカー」「アーアー」と騒々しくカラスが鳴きだしたので、急いで戻って(100メートル位)みると、小灌木の枝にオオタカが隠れるように止まって、獲物を物色していた。一昨日撮影したオオタカと同じ成鳥であった。コハクチョウとオオハクチョウが北西の風があたらない岸辺の同じ場所に群れて休んでいる姿を、よく見かけようになった。仲がよさそうに見える。コハクチョウはシベリアのツンドラ地帯、オオハクチョウは同じくタイガ地帯で繁殖して、コハクチョウはカムチャッカ半島経由、オオハクチョウはサハリン経由で北海道や本州に冬鳥として渡来する。つまり両者が対面するのは日本に来てからである。コウコウという鳴き声や羽ばたいて仲間に挨拶する行動など、似たもの同士なので、コミュニケーションが出来るのかも知れない。
2023	2	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～1℃、南東の風4m/s、淡い陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。鳥屋野潟の雪景色、嘴を羽に隠して休むカルガモの眼差し、ミコアイサ♀羽ばたき(雨覆い)、同じく横姿、カワウ♂繁殖羽前姿、氷床の上に立つマガモ群れ、氷床の上で休むマガモ、コガモ、オナガガモの群れ、カンムリカイツブリ若鳥冬羽見返り、を撮影した。厳しい寒波が襲来して暴風雪になった時は、冬鳥のミコアイサばかりが湖面に目立ち、1週間くらい留鳥のカンムリカイツブリの姿が見られなかった。積もった雪が融けるようになってから、ここ数日間撮影できるようになった。寒さに断然強いのは、やはりユーラシア大陸から渡来する冬鳥たちである。
2023	2	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は2℃～4℃、南西の風3m/s、暖かい陽射しあり、帰路は毛糸のベストを脱ぐ。ブラゴミの傍らで嘴を羽に隠して眠るマガモの♀と♂、鳥屋野潟の雪景色、ムクドリ♂後姿、同じく♀前姿、オオタカ横姿、嘴を羽に隠して休むカルガモの眼差し、カワウ♂繁殖羽横姿、ミコアイサ♀横姿、オオハクチョウのファミリー12羽のうちの5羽、を撮影した。アオジ♀がヨシ原の小灌木を飛びまわっていたがピンボケで没。ハシブトカラスの1羽が擦れ擦れに飛んでオオタカを威嚇したが、そのままどこかへ逃げたようだ。オオタカは左右に180度首を回してキョロキョロと獲物を探索していた。数十メートル手前の小灌木に、ムクドリの♂と♀がじいっと止まって、オオタカを警戒していた。今、動いたり、飛び立ったりすると襲われると思ったのだろう。ここを縄張りにはしているカラス達も姿を消したようだ。
2023	2	6	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は2℃～6℃、南西の風3m/s、暖かい陽射しあり、往路で毛糸のベストを脱ぐ。鳥屋野潟の雪景色、コガモ群れ合コンか？、オオタカ正面顔、オオタカを監視するハシボソガラス後姿、オオタカ前姿、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、ビール缶のゴミ、カワウ♂繁殖羽横姿、を撮影した。岸辺に佇むダイサギに逃げられ、飛翔姿を撮影したがピンボケで没。コハクチョウ7羽の飛翔を撮影したがピンボケで没。シジュウカラを確認したが撮影できず。ヨシ原の小灌木の樹冠に止まっているハシボソガラスがけたたましく鳴いて、隣の木の枝に止まっているオオタカをじいっと睨んでいた。オオタカは、ヨシ原のトウホクノウサギか野ネズミを狙っているのか？湖面を背にして止まっていた。カラスが騒ぎ立てるので、獲物が逃げてしまうのではないかとオオタカの天敵は、ひょっとすると狩りの邪魔をする(縄張り意識が強く賢い)カラスかもしれない。

西暦	月	日	日誌
2023	2	7	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天から晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は4℃～9℃、南東の風2m/s、暖かい陽射しあり、帰路は陽傘をさす。ミコアイサ♀前姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ツグミ横姿、ミコアイサ♀横姿、ミコアイサ幼鳥眼差し(横姿)、ミコアイサ幼鳥とマガモ♀とみ、群れからはぐれた2羽のオオハクチョウ、白梅の蕾膨らむ、を撮影した。シジュウカラがヨシ原で騒いでいるがすばしっこくて撮影できず。対岸の岸辺にオナガガモの群れが昼寝をしていたがピンボケで没。ツグミは冬鳥、平地から山地の林、農耕地、芝地、樹木の多い公園などに、群れで渡来し、徐々に1羽で生活する個体が多い、春には再び群れになって渡去する。地上を跳ね歩いて、立ち止まっては胸を張る。この動作をくり返ししながらミズ類などを捕る。「クワッ」「キョッ…」などと大きな声で鳴く。天を仰いで胸を張る。前途洋々で元気はつらつ！！のようである。うらやましい。
2023	2	8	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は5℃～6℃、東の風1m/s、弱い陽射し。モズ♀横姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、コゲラ♀横姿、同じく木を突く(横姿)、同じく(前姿)、を撮影した。ヨシ原でジョウビタキ♀の後姿を確認したが藪の中へ移動し撮影できず。カワウ♀繁殖羽が潜水を繰り返して魚を捜していたが、浮上時間が1～2秒でフォーカスできず撮影断念。湖畔林でシロハラの後姿を発見したが、「キョ、キョ、キョ、ギョルルルル」と鳴いて逃げるように藪の中へ移動し、撮影できず。コゲラはシジュウカラの群れに混じって移動していた。シジュウカラはすばしっこくて撮影できず。カワウ♀繁殖羽が羽を開いて乾かしていたが、カメラを構えたら閉じてしまったので撮影しないで通り過ぎる。ミコアイサ♂1羽♀2羽が連れ添って遊泳していたが、ピンボケで没。対岸でオナガガモの群れが昼寝をしていたがピンボケで没。対岸の新潟県立図書館周辺の沖合にマガモとコガモ、オナガガモ等の水鳥が集まっていた。
2023	2	9	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は3℃～3℃、北西の風8m/s、弱い陽射し。マガモカップルの愛の挨拶(お辞儀)、同じく交尾、同じく(♂威嚇のポーズ～興奮状態?)、同じく(♀水浴びの後に羽ばたき)、鳥屋野潟、カワウ♀見返り、同じく♂繁殖羽見返り、積乱雲、寒椿の赤い花、キジバト見返り、を撮影した。マガモの求愛行動、愛の挨拶→交尾→♂興奮状態の泳ぎ→♀の羽ばたきまでの一連の行動を見ることができた。越冬地で交尾を行い、北半球の温帯から亜寒帯の繁殖地へ北帰行してから、4～7月に産卵する。湖面に突風が吹いていたが、波乗りをするマガモが少なかった。2月に入って、北帰行が始まったようだ。セグロカモメ飛翔を確認したが、遠くへ飛び去り撮影出来ず。コハクチョウ7羽の飛翔を確認したが、江南区方面(東)の水田地帯へ飛び去り撮影できず。
2023	2	11	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は6℃～8℃、北の風4m/s、暖かい陽射し、帰りは陽傘をさす。ミコアイサ♀前姿、鳥屋野潟、マガモとオナガガモとコガモの群れ、オナガガモの♀2羽と♂2羽、オナガガモ♂羽ばたき長い肩羽(後姿)、片足で岸辺に佇むダイサギ(前姿)、岸辺に佇むアオサギ(後姿)横顔、を撮影した。沖合に北帰行で移動中のマガモ等の水鳥がたくさん来ていた。オナガガモはユーラシアと北米大陸の亜寒帯から寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来する狩猟鳥である。湖沼、川などに棲息し、水草の葉や茎、水際の草の実などを主な餌とするほか、水棲昆虫なども食べる。鳥屋野潟ではマガモの群れの中にいることが多い。♀はマガモの♀と似ているが、上嘴は♂ほどではないが鉛色みを帯びている事で判別できる。

西暦	月	日	日誌
2023	2	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→吹雪、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は3℃～2℃、西北西の風5～10m/s、時々弱い陽射し、帰路は猛吹雪。コガモ♀4羽と♂1羽の合コン？、鳥屋野潟、トモエガモ♀2羽とオナガガモ♂2羽、鳥屋野潟の湖面が波立つ、カワウ♂繁殖羽が初列風切羽根をグルーミング、トモエガモとオナガガモの群れ、マガモ群れ波乗り、シロハラ♂横姿、同じく後姿、ダイサギが水の中を歩く、片足で岸辺に佇むアオサギ(前姿)、ヒヨドリ見返り、を撮影した。沖合では、50羽以上のトモエガモの群れとオナガガモの群れが混在していた。トモエガモは、シベリア東部で繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。本州の日本海側に多く、石川県などでは群れが見られる。越冬地では湖沼、川、池などで生活し、少数の時はコガモの群れに混ざって行動している。習性もコガモと同様で、昼間は安全な水面で休息し、夕方、夜間、早朝などに水辺や水田などで採餌する。去年の11月13日に50羽の群れを確認したが、それ以来である。2月中旬になって、そろそろ北帰行を始めたのかもしれない。
2023	2	15	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。吹雪→曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は0℃～1℃、北西の風7～8m/s、往路は吹雪、帰路は淡い日差しの曇天。新潟県スポーツ公園の雪景色(吹雪)、同じく(吹雪止む)、鳥屋野潟の降雪(粒雪)、6羽のマガモ♀と5羽のマガモ♂波乗り、鳥屋野潟に強い西北西の風が吹き沖合から渡り鳥がいなくなった、ミコアイサ♂前姿、を撮影した。昨日は沖合で数百羽のトモエガモとオナガガモの群れが休んでいたが、西北西の風に乗って北北東へ移動したようだ。沖合から水鳥の姿が消え、岸辺近くに数十羽のマガモが波乗りをしていた。また、対岸のヨシ原にマガモの群れが休んでいた。白梅の蕾が膨らみ始め、「早春の候」であるが、吹雪と陽光が目まぐるしく変わる空、体感温度は少し暖かいが、その後に猛吹雪を繰り返し寒い寒い、まだまだ「寒中の候」の時間が長～い。
2023	2	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は1℃～2℃、南の風3m/s、帰路も淡い日差しの曇天。2羽のカルガモが嘴を羽に隠して休む、嘴を羽に隠して眠るコガモ♂、コガモ♀1羽と♂7羽の合コン？、鳥屋野潟、トモエガモとオナガガモとマガモの群れ、ミコアイサ♀横姿、片足で岸辺に佇むアオサギ(前姿)、シロハラ♀横姿、アカゲラ♀、を撮影した。昨日はいなかったトモエガモとオナガガモの群れが沖合で休んでいた。西北西の風が吹くのを待って、また、北帰行を始めるのか。
2023	2	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は3℃～7℃、南の風4m/s、帰路も暖かい日差し。嘴を羽に隠して休むコガモ♀と♂、鳥屋野潟の湖面が波立つ、カンムリカイツブリ冬羽が嘴を羽に隠して休む、カワウ♂繁殖羽の大欠伸、トモエガモ群れ(100羽)、オナガガモ群れ(100羽)、白梅の蕾膨らむ、を撮影した。今日も、トモエガモとオナガガモの群れが沖合で休んでいた。午後は南南西の風4～6m/sで気温は8℃、数時間後には、北帰行を始めるのか？話は変わるが、「フーテンの寅」は、鈍行列車や乗り合いバス、懐がさみしい時はヒッチハイク、徒歩で、春になると桜を追いかけて北帰行を、稲刈りが終わり秋になると紅葉を追いかけて南帰行をして、行商をしながら一年中、旅をしていた。旅から旅へ、大変な苦勞である。
2023	2	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は6℃～11℃、南の風3m/s、帰路は暖かい日差しで汗ばみ、陽傘をさす。カルガモの片足バランス、鳥屋野潟、コガモ♀横姿、トモエガモ(50羽)とオナガガモとマガモの群れ、カンツバキの赤い花、ミコアイサ♀と♂、ダイサギが岸辺を歩く、アオサギが岸辺を歩く、ダイサギ横顔、を撮影した。今日も、トモエガモとオナガガモの群れが沖合で休んでいた。数は徐々に減っているようだ。カルガモの片足バランスは、上げた足の高さと均等の取れた姿勢が絶妙である。ほんの数秒間の動作なので、めぐりあえて、運が良かった。できれば、もっと鮮明な画像が欲しかった。まだまだ、カメラ操作が未熟である。

西暦	月	日	日誌
2023	2	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は3℃～2℃、北西の風8m/s、帰路は弱い日差しで寒風、手が凍える寒さ。オオバン横姿、マガモ♂が嘴を羽に隠して休む、鳥屋野潟、トモエガモの群れ(30羽)、鳥屋野潟の湖面が波立つ、モズ♂横姿、マガモ30羽の群れ波乗り、コガモ♀1羽と♂3羽、顔を羽根に隠し片足で休むアオサギ、ミコアイサ♀浮上後姿、を撮影した。トモエガモとオナガガモの群れが沖合で休んでいたが、1時間後には姿が見えなくなった。オオバンは留鳥で、狩猟ができない野鳥である。平地の湖沼、池、河川、港、内湾などに生息する。泳いでいることが多く、泳ぎながら水草や昆虫類の幼虫などを食べる。小松堀排水路の管理道路路肩や隣の畑地などで雑草等を食べている10羽程の群れに遭遇したことがあった。私が近づく、彼らはゆっくりと歩いて水辺に戻って行った。とにかく、泳ぎも歩きも遅い。狩猟鳥のマガモ等に比べて、人間に対する警戒心がかなり弱い。これまでに求愛や交尾をする場面に遭遇したことは無く、雌雄同色であることから、♀と♂の見分けができない野鳥である。
2023	2	21	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。吹雪→曇天→吹雪の繰り返し、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、スパイク付き長靴で出かける。気温は0℃～0℃、北西の風8m/s、帰路は弱い日差しで寒風、手が凍える寒さ。マガモ♂横姿、ムクドリ♀前姿、鳥屋野潟の降雪(粒雪)、トモエガモの群れ(30羽)、鳥屋野潟の湖面が波立つ、雪を被った白梅の蕾、新潟県スポーツ公園ながたの森～石垣水路の雪景色、を撮影した。トモエガモの群れが沖合で休んでいたが、30分後には姿が見えなくなった。湖面沿いの遊歩道は横殴りの猛吹雪で、水鳥の撮影も困難なことから、ながたの森を散策したが、シメやシロハラなどの野鳥も姿を見せず、鳴き声も聞こえず、撮影は雪景色のみであった。
2023	2	22	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→淡雪→曇天→粒雪、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は2℃～3℃、南西の風3m/s、帰路は弱い日差しで粒雪のち曇、指先が凍える寒さ。鳥屋野潟の雪景色、オナガガモとマガモの群れ、カワウ♂繁殖羽横姿、アオサギ深水ウオーク(横姿)、ダイサギが深水で小魚を銜える(前姿)、ダイサギが水の中を歩く(横姿)、カワウ♂繁殖羽が首を足で掻く、ミコアイサ♂横姿、キジバト見返し、ツグミ♂横姿、を撮影した。自然生態園のため池で、ダイサギが、「深水で足を前後にタップして底を掻き混ぜ、隠れている小魚や水生昆虫を驚かせて、逃げようと姿を現した瞬間に長い嘴で捕まえる」、採餌行動をしていた(40秒間の動画撮影)。しかし、掻き混ぜ過ぎたのか、水が混濁して、獲物の姿が見えなくなり、困惑している様子であった。過ぎたるは及ばざるがごとし？である。
2023	2	23	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は1℃～6℃、南の風3m/s、帰路は暖かい日差し、ダウンのチャックを下げる。カイツブリ冬羽見返し、鳥屋野潟の雪景色、ハジロカイツブリ冬羽とマガモ、カワウ♀見返し、ヒヨドリ前姿、片足で岸辺に佇むダイサギ(前姿)、黄色いくちバシのヒヨドリ(横顔)、キジバト見返し、オナガガモとマガモの群れ、オオバンが歩く(見返し)、を撮影した。カンツバキの蜜を吸ったのか？黄色い花粉がクチバシにたつぷりと着いたヒヨドリ、暖かい日はヒヨドリが騒ぐ、そろそろ縄張り争いが始まったようだ。ハジロカイツブリと久しぶりに出会った。今年は単独行動を見かけることが多い。群れと逸れて、鳥屋野潟に迷い込んだのか？北帰行の準備を始める3月はもうすぐ、そろそろ群れの仲間のところへ戻る季節だ。

西暦	月	日	日誌
2023	2	24	鳥屋野潟の北側湖畔で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、ブーツで出かける。気温は6℃～9℃、静穏0m/s、帰路は淡い日差し、寒くもなく暑くもなく、ちょうどいい。群れから逸れたコハクチョウ、マガモの♀と♂が並んでグルーミング、神道寺の支線排水路、オナガガモとマガモの群れ、トモエガモとマガモとコガモの群れ、カワウの繁殖羽横姿、鳥屋野潟(ビッグスワン)、を撮影した。対岸の岸辺にコハクチョウがうずくまっていた。1羽だけで、「コォーコォー」と鳴いて仲間を呼ぶこともなく、周辺に仲間の姿もなかった。置いてけぼりか？、それとも先遣隊で仲間を待っているのか？。北岸から撮影すると、少数のトモエガモやオナガガモを近距離で撮影できると思ったが、そうでもなかった。撮影距離は、あまり変わらないようだ。岸辺に近い所にマガモが多数居て、沖合に少数のトモエガモやオナガガモがマガモの群れの中で休んでいた。
2023	2	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、ブーツで出かける。気温は4℃～4℃、西北西の風5～9m/s、帰路は淡い日差し、指先が凍える寒さ。鳥屋野潟、ヒヨドリ後姿(眼差し)、ハシトガラス横姿、鳥屋野潟の湖面が波立つ、白梅の蕾膨らむ、ツグミの後姿、ダイサギが水の中を歩く(横姿)、ミコアイサ幼鳥眼差し(横姿)、岸辺に佇むアオサギ(前姿)横顔、マガモ群れ波乗り(後姿)、鳥屋野潟の湖面が波立つ、を撮影した。帰りに、昨日撮影した1羽だけのコハクチョウを捜したが、同じ場所にはもういなかった。今日、公園の手前で、コハクチョウが2羽、西の方(たぶん佐潟？)へ、猛スピードで飛んで行った(撮影できず)。この2羽のうちの1羽が、あのコハクチョウであれば良いが、どうかな？。自然生態園のため池に、コガモの群れに混じって、ミコアイサの幼鳥が1羽だけいた。親離れをしたのか？緊張した眼差しであった。小魚が捕れなくて、腹がへっているのか？、直前に、カワウが2羽、バシャバシャと滑走して飛び立っていった。カワウに小魚を奪われたのかもしれない。魚食系の留鳥は、ミサゴ、アオサギ、ゴイサギ、コサギ、カワウ、カンムリカイツブリ、カイツブリなどと多数いることから、同じ魚食系のミコアイサが鳥屋野潟のニッチ(生態的地位)を獲得することは、極めて困難だろう。冬鳥で、ニッチを獲得しているのは、個体数が多いマガモとコガモで、いずれも草食系である。
2023	2	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとダウンを羽織って、シューズで出かける。気温は3℃～4℃、西北西の風7～5m/s、帰路は淡い日差し、指先が凍える寒さ。嘴を羽に隠して休むコガモ♀、コガモ♂横姿、鳥屋野潟、同じく湖面が波立つ、マガモの群れの中に数羽のトモエガモ、ミコアイサ幼鳥波乗り(後姿)、ハシトガラス横姿、岸辺に佇むダイサギ(前姿)、片足で岸辺に佇むアオサギ(前姿)、ミコアイサ♂浮上(横姿)、ミコアイサ♀浮上(横姿)、紅梅の蕾膨らむ、を撮影した。自然生態園ため池の岸辺で、アオサギとダイサギが約5メートルの間隔で佇み、私の動きをじっと見るでもなく、しかし私の方に時々顔を向けながら、無言の(テレパシーを使って？)世間話をしている様子であった。木橋にいる私との距離は約30メートルである。2羽は人間慣れをしているのか？、ほぼ毎日やって来る私が危害を加えないという事を覚えているのか？、「今日もまた、赤いコンデジを持って、茶色のダウンを着た人が来たな～、飽きもせず」とでも話していたら、面白い。
2023	2	27	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は5℃～8℃、南南西の風3～4m/s、帰路は暖かい日差し、ベストを脱ぐ。カンムリカイツブリ冬羽見返り、鳥屋野潟、白梅の花、頭の毛を逆立てて鳴くヒヨドリ、ミコアイサ幼鳥(横姿)、ヒツジ田(2番穂)、ダイサギの深水ウオーク(横姿)、清五郎排水路、鳥屋野潟公園ビオトープため池、ミコアイサ♂見返り、ダイサギが水の中を歩く(前姿)、カワウの繁殖羽が遊泳、同じく離水(後姿)、を撮影した。ちょっと早い春日和、数羽のシジュウカラが木から木へ移動していたが、コゲラは確認できず。今年の啓蟄(冬ごもりをしていた虫たちが活動を開始する時期)は、3月6日から3月20日らしい、待ち遠しい。マガモとコガモの数が少なくなった。湖面を覆うほどいた冬鳥たちは北帰行の途中、今頃は東北か北海道のあたりを北上中か？、彼らを追いかける旅をしたら、面白いかもしれない。まさに「翼をください」である(戯言です)。

西暦	月	日	日誌
2023	2	28	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、ブーツで出かける。気温は6℃～14℃、南の風4～7m/s、帰路は暖かい日差し、ネックウォーマーとベストを脱ぐ。嘴を羽に隠して休むコガモ♀、鳥屋野潟、ツグミ♀横姿、マガモ♀横姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、嘴を羽に隠して休むカルガモ雌の眼差し、カワウ♀繁殖羽が羽ばたいて両脚跳躍しながら離水(横姿)、マガモの群れの中にトモエガモ♀2羽♀2羽、ミコアイサ♀浮上横姿、アオサギが歩く後姿、ダイサギが水の中を歩く横姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、カンムリカイツブリ夏羽に換羽中、紅梅の花、を撮影した。ちょっと早い春日和、カンムリカイツブリはもう夏羽に換羽中である。繁殖期間は4月頃からである。カワウ♀繁殖羽が離水する場面に遭遇した。羽ばたきながら、大きな水かきがある足を左右揃えて水面を叩き1.8mくらいジャンプする動作(両脚跳躍)を5～6回繰り返して、水面から飛び立っていった。ハクチョウの場合は、足を交互に出して水面を叩くように走って飛び立つ。カワウよりもハクチョウの方が軽快に離水する。やはり羽根の大きさが違うのか？カワウは潜水するので羽根が小さいようだ。潜水中は尾羽を魚の尾鰭の様に使って泳ぐ。羽根は体にピッタリと付けて水の抵抗を受けない様にしている。
2023	3	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10℃～15℃、南南西の風5～9m/s、帰路は強風が吹く、まさに春一番、暑いのでネックウォーマーを脱ぐ。鳥屋野潟、キジ♀横姿、マガモ♀眼差し(横姿)、オナガガモ群れ(100羽)、ミコアイサ♀見返り、片足で岸辺に佇むダイサギ(前姿)、シメ♀前姿、アオサギ横姿、を撮影した。弁天橋付近で、キジ♀が鳥屋野潟の南岸から北岸のヨシ原へ約90m滑空した。キジは国鳥で、俳句では春の季語に使われている。日本固有種の狩猟鳥で、留鳥である。平地から山地の明るい林、林縁、草原、農耕地などに生息し、主に地上を歩いて餌をとり、草の葉や実、昆虫やクモなどを食べる。夜のねぐらは樹上にとる。繁殖期には、オスの縄張りに複数のメスが棲みつくことが多く、交尾し産卵する。産卵期は4～7月。非繁殖期は雌雄別々に小群で生活する。繁殖期に雄は「ケッケッケーン」と鳴き、同時に翼を羽ばたいて「ドロロロ…」という音を出す。春一番と言えば！！キャンディーズの歌！！「もうすぐは～るですね～ちょっと気取ってみませんか～……」を、口ずさんでしまう。
2023	3	2	2016年版の昆虫類バツタ等のコバネヒメギスまで更新。
2023	3	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は3℃～7℃、南南西の風4m/s、帰路は暑くもなく寒くもなく。カンムリカイツブリ夏羽が羽を広げる(後姿)、カンムリカイツブリ夏羽(後姿)、鳥屋野潟、ダイサギがジャンプして離水する、ダイサギが岸辺を歩く(横姿)、ミコアイサ♀が頭の羽毛を逆立てる(横姿)、ミコアイサ幼鳥(横姿)、ダイサギが岸辺を歩く(横姿)、チュウダイサギ前姿、とやの物語の横断幕、を撮影した。今年初めて、チュウダイサギを撮影した。ダイサギは脛が黄色で、附蹠に及ぶ。チュウダイサギは、ほぼ黒色、また繁殖期になると婚姻色(目先がコバルトブルー)を見ることが出来る。新潟ではチュウダイサギは留鳥で、信濃川上流、阿賀野川下流の河川敷や中洲の樹木にアオサギなどと一緒に営巣している。ダイサギは冬期に繁殖地の南シベリアから渡来する冬鳥で、数は少ない。この2者の判別はかなり難しいらしい。
2023	3	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は5℃～9℃、南西の風3m/s、帰路は暖かいのでネックウォーマーを脱ぐ。鳥屋野潟、ツグミ後姿、藍色のマガモ♀、カワウ♀繁殖羽横姿、嘴を羽に隠して休むコガモ♀と♀、ダイサギが水の中を歩く(横姿)、を撮影した。ダイサギが水の中を歩く姿は、とても美しい、まさに野鳥の世界のファッションモデルである。

西暦	月	日	日誌
2023	3	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は6℃～7℃、東南東の風3m/s、陽射しは暖かいが風が冷たく手が凍える。鳥屋野潟、ハシボソガラス横姿、ミサゴ飛翔魚捕獲、マガモとオナガガモ、赤い実をついばむヒヨドリ、カワアイサ、を撮影した。カワアイサは新潟では冬鳥、湖沼や河川、池、内湾や漁港などに生息し、潜水して主に魚類を食べる。ユーラシア大陸の亜寒帯へ帰る途中なのか？2羽のみが、仲間がいないか様子を伺うように遊泳したり、魚を捜して潜水したりして、潟の西の方へ移動していた。早く仲間の群れと合流できれば良いが。ここ数日天気が良いので北帰行の距離を稼ぐチャンスである。
2023	3	6	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は5℃～10℃、南南東の風2m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、帰路はネックウォーマーを脱いで陽傘をさす。コガモの♀と♂とペットボトルのゴミ、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、マガモ♂前姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、ミコアイサ♀2羽と♂1羽と幼鳥1羽、カワウ♂繁殖羽が遊泳、片足で岸辺に佇みグルーミングをするチュウダイサギ、片足で岸辺に佇むチュウダイサギ、紅梅の花、ユキツバキの赤い花、を撮影した。脛の色が、黒色または赤茶色でチュウダイサギと同定したが、自信が無い。黄色でないと思うが、角度や光の具合によって色が微妙に変化することから、疑問が残る。いっそのこと、成鳥ダイサギと成鳥チュウダイサギが同じ姿勢で並んで居れば、小さい方がチュウダイサギという判断ができるかもしれないが？、やっぱり、チュウダイサギが婚姻色にならないと100%自信をもって同定することは難しい。
2023	3	7	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にネックウォーマーとジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は8℃～15℃、南の風3m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、帰路はネックウォーマーを脱いで陽傘をさす。コガモ♀の白い脛と♂のグルーミング、鳥屋野潟、ノスリの見返り、スズメの見返り、マガモ♂横姿、黄色いくちバシのヒヨドリ(横姿)、ハシボソガラス青白い脛、セグロカモメ前姿、を撮影した。ノスリが捕獲できそうな水鳥を、じっくりと時間をかけて捜していた。時々180度首を回して、ヨシ原にノネズミ等がいないか、監視していた。ほとんどの鳥は首が左右180度回すことができるらしい。つまり360度周囲を観察することが出来るのである。そのような能力が人間にもあったら、まったく別の進化を遂げていたかもしれない。視界が360度あれば五感も豊かになり、外界に対して温容になれるような気がする。
2023	3	8	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。連日の晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10℃～19℃、南南西の風5m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、帰路はジャンパーを脱いで陽傘をさす。鳥屋野潟、マガモ♀見返り、嘴を羽に隠して休むマガモ♀と♂、セグロカモメ横姿、ミコアイサ幼鳥横姿、ヤブツバキの花(赤)、カンツバキの赤い花、を撮影した。カンツバキは常緑低木で、遅咲きで12月～2月に開花する。花は桃紅色の八重咲で直径7～9センチ、花弁は14～18個で大小あり、先端は浅く裂け、縁は波打つ。小林幸子が歌う「雪椿」は新潟県の県木で、同じ常緑低木であるが、主に日本海側の標高300～1000メートルの山地に生える。開花は4～5月で、赤色の花が咲く。ユキツバキを親として作られた園芸品種にはいろいろな花があり、庭木や公園樹に使われている。

西暦	月	日	日誌
2023	3	9	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。連日の晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12℃～19℃、南の風4m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、帰路はジャンパーを脱いで陽傘をさす。2羽のアオサギ(後姿)、ダイサギが水の中を歩く(前姿)、ダイサギ横姿、3羽のダイサギが水の中を歩く(横姿)、鳥屋野潟、ダイサギ歩く(横姿)、オオタカ♀後姿、オオタカを監視する3羽のハシボソガラス(横姿)、モズ♀横姿、キジバト前姿、シロハラ♀横姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、カンムリカイツブリカップル求愛行動～頭を左右に振りクチバシを重ねる、オオイヌノフグリの青い花、コサギ幼鳥採餌、を撮影した。ダイサギが12羽集合していた。脛の色は黄色、赤褐色、桃色等で多彩。体の大きさも皆同じではない。そろそろ、北帰行を始めるのか？それとも北帰行の途中なのか。カンムリカイツブリの求愛行動が始まり、オオイヌノフグリの青い花が咲く、まさに春一番がやって来た。
2023	3	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→雨天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12℃、南の風5m/s、陽射しは弱く風も弱い、帰路は雨傘をさす、ズボンの裾がびしょ濡れ。4羽のコガモとマガモ♀、モズ♂前姿(高鳴き)キエ～～、ダイサギが水の中を歩いて首を伸ばして獲物を探す、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ツグミ♂前姿、カワウ♀繁殖羽が羽乾かす、を撮影した。ダイサギの脛の色が黄色ではなく、赤褐色、桃色等になったり、真っ白なミコアイサ♀の胸がオレンジ色に染まったり、カンムリカイツブリの白い胸が赤褐色になる理由は、次のとおり。亀田郷の田んぼには暗渠排水が設置されており、水田土壌のグライ層にある班鉄(酸化して錆びた鉄)が地下水に溶解し、暗渠排水管から排水路を経由して鳥屋野潟に流入し、湖底に沈殿している。潜水して餌をとるミコアイサやダイサギ等が湖底を攪乱すると、沈殿した班鉄が底から舞上がり、鉄錆が体に付着して赤褐色に染まってしまうからである。
2023	3	11	鳥屋野潟公園と長潟周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は8℃～13℃、東の風1m/s、陽射しは暖かく無風、帰路はジャンパーを脱ぎ、陽傘をさす。鳥屋野潟が風で鏡の様な水面、ノスリ見返り、休耕田、支線排水路、ツグミ♀横姿、ヒツジ田(2番穂)、小松堀排水路、コガモ♀2羽と♂2羽、ヒツジ田(2番穂)、ツグミ♂前姿、同じく横姿、小排水路、同じく底が鉄錆色、オオバン遊泳(ルビーアイズ)、幹線用水路、小松堀排水路、支線排水路、を撮影した。江南区の下早通にある小排水路の底が鉄錆色(オレンジ色)になっていた。暗渠排水管の吐口も同じくオレンジ色に染まっていた。この排水は、小排水路→支線排水路→小松堀排水路→新堀排水路→鳥屋野潟→親松排水機場→信濃川→関屋分水路(または信濃川下流)→日本海へと流れる。鳥屋野潟(水深50～100センチ程度の浅い止水域)には、亀田郷の水田土壌(約40km ²)のグライ層に含まれる班鉄(酸化して錆びた鉄)の9割以上(参考文献:亀田郷における水循環とフラッシュ用水の効果)が将来にわたって沈殿する可能性がある。
2023	3	12	鳥屋野潟の北岸周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツで、シューズで出かける。気温は19℃、南東の風4m/s、陽射しは弱く風も弱い、帰路は陽傘をさす。アカミミガメ群れ甲羅干し、ダイサギが首を伸ばして水の中を歩く、支線排水路、ビッグスワン、鳥屋野潟の輝く湖面、藍色のマガモ♀、を撮影した。
2023	3	13	2016年版の昆虫類バツタ等のシマアシブトハナアブまで更新。
2023	3	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。小糠雨→曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は6～8℃、南西の風3m/s、陽射しは弱く冷たい風、手が凍えるが、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ミサゴ♀飛翔、同じく着水して魚捕獲、同じく魚捕獲して離水、コゲラ♀横姿(足環)、同じく後姿(足環)、アカミミガメが水面に顔を出す、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上横姿、白梅の花、ツルニチニチソウの青い花、を撮影した。ミサゴ♀の魚捕獲シーンに遭遇した。距離があり不鮮明なのが残念。大きな魚(たぶんギンブナ?)を驚掴みにして力強く羽ばたいて離水する姿は、潟のアンブレラ種にふさわしい、猛禽類の風格がある。コゲラ♀の赤い羽を久しぶりに撮影できた。後頭部にあり、隠れていることが多いため、♀と同定してしまう。しょうがないね～。小さくて目立たないオオイヌノフグリやヒメオドリコソウの花と違い、ツルニチニチソウの青い花は大きく、林床でもとても目立ち、春、3月の季節を強く感じさせる花である。

西暦	月	日	日誌
2023	3	15	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10～16℃、南南東の風5m/s、陽射しは温かいが冷たい風。帰路は陽傘をさす。ダイサギ横姿、鳥屋野潟、コウホネの葉が水面に顔を出す、ヒメオドリコソウの花(淡紅色)、チュウダイサギ前姿(横顔)、コガモ♀横姿、アカミミガメ3匹甲羅干し、アカガシの切り株、ツルニチニチソウの青い花、カンムリカイツブリ若鳥冬羽、を撮影した。帰路で、ミサゴの飛翔を確認、ヨシ原でモンシロチョウがひらひらと飛んでいた。アカガシの切り株は自信がない。年輪を数えると樹齢26年である。この付近は、団栗が落ちていて、野鳥の餌場になっている。ダイサギとチュウダイサギの同定は、脛の色合い(黄色と赤褐色)、さらに嘴の先が黒化(婚姻色への移行)していることから判断した。なお、2022年3月25日に婚姻色に移行中のチュウダイサギを撮影している。
2023	3	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12～16℃、南の風4m/s、陽射しは弱いがほぼ静穏。帰路はジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、2羽のドバト、アオキの実(赤色)、群れから逸れたコハクチョウがコウコウと鳴き仲間を捜す、静かで穏やかな鳥屋野潟(曇天)、カンムリカイツブリ(夏羽)の威嚇ポーズ(後姿)、セグロカモメ前姿、カンムリカイツブリ夏羽横姿、カンムリカイツブリカップル求愛行動、カンツバキの白い花、アカミミガメ5匹甲羅干しと嘴を羽に隠して休むマガモ♀、ミコアイサ幼鳥(横姿)、静かで穏やかな鳥屋野潟(曇天)、ノミノフスマの白い花、ヒメオドリコソウの花(淡紅色)、片足で岸辺に佇むチュウダイサギ(婚姻色に移行中)、チュウダイサギ(婚姻色に移行中)とアオサギ、ウシガエル、を撮影した。帰路で、白っぽい蛾が飛んでいるのを確認、種名は不明。冬鳥がほぼ居なくなった静かな湖面で、カンムリカイツブリ夏羽が潜水して小魚を追いかけていた。確認したのは5～6羽である。たぶん、鳥屋野潟には少なくとも10～20羽がニッチを獲得して生息していると思われる。
2023	3	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は8℃、北の風3m/s、陽射しは弱く冷たい風、往きは手が凍えた、帰路はネックウォーマーを脱ぐ。鳥屋野潟、岸辺に佇むチュウダイサギ(婚姻色に移行中)横姿、同じく横顔、同じく岸辺で水の中を凝視する、岸辺に佇むアオサギ横姿、コガモ♀1羽と♂2羽、ヒメオドリコソウの花(淡紅色)、コハコベの白い花、ヒヨドリ横姿、を撮影した。船が数台出て、岸辺のゴミ回収作業が行われていた。一艘につき3人が乗って作業をしていたが、いずれも年輩の男性であった。ペットボトルやビニール袋等のプラスチックゴミが山盛りに積まれていた。海、陸、大気のすべての環境でマイクロプラスチックが融解または飛散しており、呼吸や食物連鎖によって人体に影響を及ぼす可能性が指摘されている。野生動物の体内にも徐々に蓄積されており、近い将来、リスクが顕在化するであろう。
2023	3	18	2016年版の昆虫類バッタ等のセグロアシナガバチまで更新。
2023	3	19	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は7～11℃、南南西の風4m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、往きは手が凍えたが、帰路はネックウォーマーを脱ぐ。鳥屋野潟、カワウ♀繁殖羽前姿、モズ♀横姿、コガモ♀横姿、片足で岸辺に佇むチュウダイサギ(婚姻色に移行中)、アカミミガメ甲羅干し、ヒヨドリ見返り、紅梅の花、を撮影した。自然生態園のため池に陣取るチュウダイサギは、黄色い嘴が先の方から徐々に黒味を帯びてきた、目元も緑色から藍色に変わりはじめている。求愛のシーズンが近づくと、縄張り意識が強くなるのか?、一回り大きい体格のアオサギよりも偉そうな顔をして、木橋や遊歩道にいる人間を睨み返して、悠然と羽繕いをしている。

西暦	月	日	日誌
2023	3	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～15℃、南の風3m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、往きは手が凍えたが、帰路は陽傘をさす。嘴を羽に隠して休むコガモ♀と♂、眠っているところをオオバン(5羽)に起こされたコガモ(♀2羽、♂1羽)、鳥屋野潟、ミノガ科の幼虫、ツクシとスギナ、白梅の花、モンシロチョウ♂吸蜜、ハシボソガラス横顔、カルガモファミリーが団栗を採餌、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上、カンムリカイツブリ若鳥冬羽浮上、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、群れから逸れたオナガガモ♂2羽後姿、ニホンミツバチの自然巣、ヨコヅナサシガメ幼虫の群れがニホンミツバチを採餌(体液を吸う)、を撮影した。いよいよ、昆虫類のニッチ(生態的地位)獲得競争が始まった！！ニホンミツバチの巣穴付近にヨコヅナサシガメ幼虫が群がり、巣を出入りするハチを捕獲して、体液を吸っていた。働きバチは、仲間が襲われているのに助けもせず、まるで感情の無いロボットの様に巣を出入りして、自分のミッションを遂行していた。
2023	3	21	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～19℃、南南東の風3m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、公園に着いてすぐジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ヒメリュウキンカの黄色い花、ニホンミツバチの自然巣、ヨコヅナサシガメ幼虫の群れ、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ若鳥冬羽横姿、カンムリカイツブリ夏羽後姿、鳥屋野潟公園水路(水を抜いた水路)、アカミミガメ2匹甲羅干し、オオジュリン冬羽、を撮影した。オオジュリンは、ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯で広く繁殖し、日本では北海道と青森、秋田両県に繁殖し、冬期は暖地に移動する。2018年以降に73画像を撮影したが、ほとんどが3～4月に撮影したものである。新潟では冬鳥である。オオジュリンが北帰行した後には、夏鳥のオオヨシキリがヨシ原で繁殖活動始める。同じヨシ原でも四季によって環境が変化し、ニッチを獲得する動植物も変わっていく。ところが、動植物は逆に環境へ大きな影響を与えることがある。つまり、時の流れとともに環境は千変万化して、前の状態には決して戻らない不可逆的なものと言える。土地改良事業では「環境との調和に配慮しなければならない」となっているが、時間とともに変化する環境とどうやって調和すれば良いのか？調和をどうやって証明するのか？難しい問題である。
2023	3	22	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は15～17℃、東の風1m/s、陽射しは暖かくほぼ無風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。5羽のコガモ、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、エドヒガン(江戸彼岸)の赤い蕾、ホソバキリガ、フジドリームエアラインズ、カンムリカイツブリ若鳥浮上、ヤブツバキの赤い花、マガモ♂見返り、ツグミ♀横姿、ニホンミツバチの自然巣、チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が深水の中を歩く、ジョウビタキ♂後姿、を撮影した。ヤブツバキは10月から翌年4月頃まで花が咲く、サザンカの開花は10月から12月の約2か月間で短い、この2つの花をかけ合わせた園芸品種のカンツバキの開花は11月から翌年2月頃までと言われている。ちなみに、ユキツバキ(小林幸子の歌)の開花は4月から6月で、標高の高い山(残雪が残っている)で咲くらしい。ジョウビタキは中国西部からウスリー、サハリンにかけての地方で繁殖し、日本には冬鳥として全国に普通に渡来する。市街地から山地の林や農耕地、公園、河原などに生息し、昆虫類などの小動物のほか、木の実も好んで食べる。すばしっこいので、なかなか撮影できない。

西暦	月	日	日誌
2023	3	23	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は19～24℃、南東の風5m/s、陽射しは弱いがフェーン現象の生暖かい風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、帰路は汗をかく。鳥屋野潟、モズ♀足環(横姿)、ヨコヅナサシガメ幼虫とニホンミツバチの戦い、セグロカモメ前姿、カンムリカイツブリ若鳥横姿、2羽のオオバンが採餌、オランダミナグサの白い花、モズ♀横姿、コサギ横姿、群れから逸れた2羽のコハクチョウ、オナガ前姿、を撮影した。ヨコヅナサシガメ幼虫とニホンミツバチの戦争が始まった。サシガメは集団で戦うが、ミツバチは単独で戦っているように見えた。ミツバチ1匹に対して、サシガメは4～5匹で囲むようにして、太い針の様な口吻をミツバチに刺して体液を吸っている。国立環境研究所によると、ヨコヅナサシガメは、中国、インドシナ半島、インドから来た侵入生物で、新潟県が北限で、九州の鹿児島県までに生息しているらしい。外来昆虫のアメリカシロヒトリやヒロヘリアオイラガなどの天敵である。人間を刺すこともあり、注意が必要な昆虫である。自然生態園の木橋で数匹の成虫を確認したことがあったが、ソメイヨシノで数十匹もの幼虫を見るのは始めてである。
2023	3	24	2016年版の昆虫類バッタ等のセマダラコガネまで更新。
2023	3	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10℃、北東の風3m/s、陽射しは弱く冷たい風、帰路も手が凍える。嘴を羽に隠して眠るコガモ♀とみ、鳥屋野潟、ソメイヨシノの花が1輪咲いた、カワラヒワ♀横姿、ソメイヨシノの花が1輪咲いた、エドヒガン(江戸彼岸)五分咲き、鳥屋野潟、ラッパ咲きスイセンの花(黄色い花弁と花冠)、マガモ♀が嘴を羽に隠して休む、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上横姿、カンムリカイツブリ若鳥浮上後姿、オオバンが岸边で休む(見返り)、鳥屋野潟、ユキヤナギ(雪柳)の白い花、ニホンミツバチがヨコヅナサシガメ幼虫を威嚇する、レンギョウの花(黄色)、を撮影した。ソメイヨシノより早く開花するエドヒガン(江戸彼岸)、桜の原種の一つで、葉は楕円形、花は薄紅色から白で花弁は5枚で一重、名前の通り春の彼岸ごろに花を咲かせる。萼の付け根が丸く膨らんでいるので見分けが容易である。花が多く咲く特性から多くの品種の母種として使われている。また、ソメイヨシノの片親としても知られている。
2023	3	26	2016年版の昆虫類バッタ等のツマグロバッタまで更新。
2023	3	27	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～11℃、西北西の風3m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ソメイヨシノの花が3輪咲いた、エドヒガン(江戸彼岸)の花びら、同じく満開、鳥屋野潟、マガモ♀とみ、鳥屋野潟公園ビオトープため池、ベニマシコ♀前姿、同じく♀横姿、カンムリカイツブリ見返り、清五郎排水路、コブシのつぼみ、キジ♀前姿、田んぼ、コブシの白い花(花びら6枚)、アカミガメの横顔、コガモ♀横姿、コブシの白い花、自然巣に出入りするニホンミツバチ、を撮影した。エドヒガン(江戸彼岸)はほぼ満開、ソメイヨシノの花と似ているが、ガク筒の基部が丸く膨らんでいるので、見分けが容易である。ベニマシコは漂鳥で、北海道と青森県下北半島で普通に繁殖する。冬期にはほとんどの個体が本州以南へ移動する。2014年および2019～2023年の3月～4月に撮影したものが多いが、2022年11月1日に♂を撮影している。コブシが開花し始めた、ハクモクレンの花と似ているが、花の付け根に葉っぱが1枚着いているので、見分けが容易である。
2023	3	28	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～10℃、北東の風3m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、エドヒガン(江戸彼岸)の花びら、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ(夏羽)威嚇のポーズ、モズ♀横姿、カンムリカイツブリカップルが冠羽を立てる、鳥屋野潟、ベニマシコ♀横姿、同じく♀後姿、清五郎排水路、田んぼ、キジ♀横姿、コブシの白い花(花びら6枚)、コイの顔(光が屈折)、自然巣に出入りするニホンミツバチをヨコヅナサシガメ幼虫が監視する、を撮影した。ソメイヨシノの開花が始まったが、満開になるのは今週末か？気象庁の開花宣言は出たが、日照時間(積算温度)は生育している場所によって様々であるから、個体差があり、満開になるのも時間的なずれが生じる。

西暦	月	日	日誌
2023	3	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺および江南区長潟で動植物との一期一会および景観を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～11℃、東の風2m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、撮影途中からジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、オオジュリン♀冬羽(前姿)、同じく♂(横姿)、同じく♀(後姿)、同じく♀(後姿)、ジョウビタキ♂横姿、エドヒガン(江戸彼岸)の花びら5枚、同じく花の萼筒の基部が丸く膨らむ、ニホンミツバチとヨコズナサシガメ幼虫の食物連鎖(喰う喰われるの関係)、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、休耕田、支線排水路、ハシボンガラスが水を飲む(横姿)、ツグミ♂横姿、田園景観、木下サーカス、小松堀排水路、幹線用水路、田園景観、小排水路、2羽のムクドリ、畔塗り、小排水路の底が鉄錆色、ツグミ♂横姿、ハクモクレンの白い花、を撮影した。江南区長潟の幹線用水路に水はまだ来っていない。今週は、しばらく天気がよさそう。畔塗り作業が一部で始まっているが、どんどん進みそうである。
2023	3	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10～13℃、南の風2m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、撮影途中でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、ニホンミツバチがエドヒガンの花の蜜を吸う、アシトハナアブがエドヒガンの花の蜜を探す、ニホンミツバチの自然巣、鳥屋野潟、スズガモ40羽の群れ、カンムリカイツブリ夏羽横姿、青空と鳥屋野潟の湖面が一体になる、アオジ♂見返り、ソメイヨシノの花を食いちぎって蜜を吸うスズメ、を撮影した。スズガモはユーラシアと北米大陸の寒帯で広く繁殖し、日本には冬鳥として渡来する。海ガモ類の中でもっとも渡来個体数が多く、1984年1月15日の日本野鳥の会による全国一斉調査では約18万羽が記録されている。狩猟鳥で海に近い湖沼や川にも姿を見せる。主に動物質の餌をとり、特に浅い海底に棲む貝殻を好んで食べる。貝は丸飲みにし、胃で貝殻を砕く。羽音は鈴の音を思わせる金属的な音でよく響く。スズガモという名前は、この羽音から名付けられたようである【参考文献:山溪カラー名鑑 日本の野鳥】。北帰行の途中でなのか?、数十分毎に休憩する場所を変えて、あっちこっちに飛び回っていた。40羽が一斉に飛び立つと、体色の白色がまるで点滅する様に白光して輝くので、水鳥がいない湖面では、とても目立っていた。
2023	3	31	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～21℃、南の風4m/s、陽射しは暖かい、撮影前にジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、ジョウビタキ♀前姿、同じく横姿、エドヒガンの花びら5枚、ヨコズナサシガメ幼虫の群れがニホンミツバチの自然巣を襲う、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽見返り、岸辺に佇むアオサギ横姿、岸辺に佇むチュウダイサギ(婚姻色に移行中)、セグロカモメ横姿、ニホンミツバチの自然巣、カンムリカイツブリ夏羽見返り、ベニマシコ♂夏羽横姿、同じく振り向く、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽に換羽中横姿、ジョウビタキ♀横姿振り向く、モズ♀後姿、ヨウコウザクラ(陽光桜)の花びら5枚、を撮影した。暖かくなると、小鳥が活発に飛び回る。ベニマシコ♂夏羽の赤色は、酸っぱい梅干しを思い出すダークレッド(Darkred)である。ジョウビタキ♀は、暗い抹茶色(dark matcha color)で、まことに渋い色である。NHKBSプレミアムの「ワイルドライフ 日本の里山 ニホンミツバチ」を視聴した。ニホンミツバチの自然巣では、働きバチが数万匹も次々と生まれ、ロボットの様に働き、寿命は一ヶ月間程である。高齢になったハチは、巣を襲うオオスズメバチに対して、日の丸特攻隊の様に突撃して攻撃し、命をかけて巣を守る行動をとる。平和な時代に生まれ育って、狭い人間社会の中でしか生きてこなかった私にとって、食物連鎖の世界で子孫繁栄のために行動する野生動物の姿は、驚嘆に値する。彼らは短い命を繋いで子孫繁栄のために生きる、それ以外に「生きる動機」は無いのである。

西暦	月	日	日誌
2023	4	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～15℃、東の風1m/s、陽射しは暖かい、撮影前にジャンパーを脱ぐ。チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が深水の中を歩く、カンムリカイツブリ夏羽浮上見返り、鳥屋野潟、ツグミ♂前姿、ウシガエルの顔、ニホンミツバチがエドヒガンの花の蜜を吸う、ソメイヨシノ花満開、ニホンミツバチの自然巣が撤去された、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ニホンミツバチの自然巣、カンムリカイツブリ夏羽に換羽中羽ばたく、セグロカモメ横姿、鳥屋野潟、ヤマブキ(山吹)の黄色い花、コガモ♀横姿、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、鳥屋野潟公園遊歩道はソメイヨシノの花が満開、ソメイヨシノの花を食いちぎって蜜を吸うスズメ、を撮影した。ロボットの様に働くニホンミツバチの自然巣とヨコズナサシガメ幼虫が撤去された。ニホンミツバチは人を刺すことは、ほとんどない。ヨコズナサシガメを駆除するために、ニホンミツバチの自然巣が犠牲になったのかも知れない。食物連鎖の世界を攪乱する人間は、他の生物への影響を考えないで欲望を追及してきた。ようやく、その代償を払わなくてはならないことに気づいた。しかし、攪乱された環境は元には戻らない不可逆的な性質をもっている。人類は孤立した人間社会の世界だけで生きており、他の生物の世界について知らないことが多すぎる。人間活動の範囲だけでなく、それ以外の様々な地球環境を理解できる人間を育成することが急務である。
2023	4	2	亀田バイパス付近の田んぼと鳥屋野潟公園で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は10～12℃、北の風3m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、撮影前にジャンパーを脱ぐ。キジバトとムクドリ♂、田園景観、ヒメタニシとカワニナとアオミドロ、ドジョウとガガンボ幼虫とヒメタニシ、畔塗り、ノボロギクの黄色い花と白い冠毛、支線排水路、小排水路、鳥屋野潟、ソメイヨシノの花を食いちぎって蜜を吸うスズメ、を撮影した。久しぶりに長潟の田んぼでヒメタニシやドジョウを撮影した。環境省レッドリストでドジョウが準絶滅危惧種に指定されている。新潟では普通の田んぼ(大区画圃場整備(用水パイプラインや管排水路整備)をした田んぼを除く)で、よく見かける魚類である。なお、支線用水路に水はまだ来ていなかった。
2023	4	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は11～14℃、南南東の風1m/s、陽射しは暖かい、撮影前にジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ジョウビタキ♀後姿、鳥屋野潟、2羽のアヒル、カンムリカイツブリ夏羽横姿、オイカワ稚魚、ジョウビタキ♀後姿、ニホンミツバチの自然巣、カンムリカイツブリ夏羽浮上見返り、アオサギ深水ウオーク横姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ヤマブキ(山吹)の黄色い花、コガモ♂横姿、ヨウコウザクラ(陽光桜)満開、を撮影した。ジョウビタキ♀があちこちで騒いでいる。そろそろ、中国西部からウスリー、サハリンにかけての地方へ北帰行する時期である。たぶん旅立つ仲間を募っているのかもしれない？暖かくなり、鳥屋野潟公園の水路で、オイカワの稚魚が泳ぎだした。亀田郷の用水が通水し始めたのか？成魚も水面近くを元気良く遊泳していた。そろそろ、田起こし、代掻きの季節到来である。今年も豊作でありますように。
2023	4	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12～16℃、静穏0m/s、陽射しは暖かい、撮影前にジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。嘴を羽に隠して休むコガモ♀、鳥屋野潟、アオサギ飛翔、ヒトリガ幼虫、ジョウビタキ♀横姿、同じく横姿振り向く、ソメイヨシノの花を食いちぎって蜜を吸うスズメ、ジョウビタキ♂横姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ジョウビタキ♂横姿振り向く、オイカワ稚魚、ニホンミツバチの自然巣、カンムリカイツブリ夏羽横姿、深水に佇むアオサギ、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面、ススキの根茎に佇むアオサギ横姿、キジ♂の横顔、を撮影した。アオサギが騒ぎ出した、どうやら繁殖期に入ったようだ。口ばしや脚が黄色から婚姻色のピンク色(赤色)に変わってきた。特に朝方に、♂は「クアー」とか「ゴァー」という声で良く鳴き、♀は「ジャッジャッ」とやかましく鳴き立てる。コロニー(集団営巣地)は阿賀野川の中州にある。阿賀野川河川事務所によると、3月から8月まで約4000羽のサギが生活しているらしい。

西暦	月	日	日誌
2023	4	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は17～21℃、南南東3m/s、陽射しは弱いがフェーン現象で生暖かい風、撮影前にジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ウシガエル、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ジョウビタキ♂横姿振り向く、ブルーギル、オイカワ稚魚、カンムリカイツブリ求愛行動(頭を左右に振る)、カンムリカイツブリ夏羽が足で首を掻く、ヤエヤマブキの黄色い花、セイヨウタンポポの黄色い花、ヒヨドリ横顔、を撮影した。ヒヨドリが騒ぎ出した、縄張り争いをしているような騒々しい鳴き声だ。「ピッピッピーピッピー」という、高めのかかなり大きな声を出す。そのほか「ピールルル」とか「ピーヨ」とよく鳴く。繁殖期は5月から9月といわれているので、ちょっと早いようだが、気温は5月初旬のなみである。藪の中からウグイスの「ホーケキヨ」と、中途半端な鳴き声も聞こえてきた。
2023	4	6	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は16～20℃、南の風3m/s、陽射しは弱いがフェーン現象で生暖かい風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、オナガ横姿、ジョウビタキ♀横姿振り向く、オウバイ(黄梅)の黄色い花、ムスカリーの青い花、鳥屋野潟、4羽のヒドリガモ♂、カルガモカップル交尾、ソメイヨシノの花びらに覆われた鳥屋野潟公園遊歩道、ニホンミツバチの自然巣、カワウ♂羽乾かす、アオサギ婚姻色に移行中後姿、鳥屋野潟、シメ♂横姿、ハナミズキ緑の蕾と黄緑の総苞片、を撮影した。冬鳥のヒドリガモ8羽が沖合に漂っていた。ユーラシア大陸の亜寒帯から寒帯へ北帰行する途中である。ひょっとすると、群れから逸れたか？ シメも、北海道を経由してユーラシア大陸の亜寒帯へ北帰行する冬鳥である。旅の途中かな？ 群れは、どこにいるのかな？
2023	4	7	2016年版の昆虫類バッタ等のツユムシまで更新。
2023	4	8	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～11℃、西南西の風7m/s、陽射しは弱く冷たい風、手が凍える。鳥屋野潟、ヒメオドリコソウの花(淡紅色)とソメイヨシノの花びら、鳥屋野潟の湖面が波立つ、ソメイヨシノの花びらに覆われた鳥屋野潟公園遊歩道、ニホンミツバチの自然巣、ヤマブキ(山吹)の黄色い花、ヒドリガモの群れ(40羽)、を撮影した。冬鳥のヒドリガモ40羽が沖合で波乗りをしていた。北帰行の途中かな？ 5～10羽の家族単位で群れが構成されているようだ。ソメイヨシノの花は花弁(花びら)が5枚ある。花弁1枚毎にバラバラになって散る様子は、まるで牡丹雪がひらひらと舞って落ちてくるようだ。それ以外の部分は花柄毎に残るが、しばらくすると、結実しないで落ちてしまう。すべてのソメイヨシノは同じDNAをもつクローンであるため、有性生殖による種子ができないのである。コブシの白い花も散り始め、これから咲くハナミズキの総苞片が開き始めた。
2023	4	9	鳥屋野潟北岸と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～10℃、西の風6～8m/s、陽射しは弱く冷たい風。スズガモとキンクロハジロの混群45羽、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽前姿、同じく突撃姿勢、鳥屋野潟、を撮影した。冬鳥のスズガモとキンクロハジロ45羽羽が沖合で波乗りをしていた。北帰行の途中である。スズガモは越冬地では内湾、入江など波の静かな海面に大きな群れをなしていることが多く、海に近い湖沼や川にも姿を見せる海ガモ類である。一方、キンクロハジロは越冬地では湖沼、広い川、池などで生活する淡水ガモである。鳥屋野潟は「海に近い湖沼」で、冬鳥のセグロカモメなどが頻繁にやって来るが、ウミウを確認したことは無い。やはり、同じ環境条件でも、ニッチ(生態的地位)、いわゆる「縄張り」があるのだろう。

西暦	月	日	日誌
2023	4	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～18℃、南の風4m/s、陽射しは暖かく爽やかな冷風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、ジョウビタキ♂横姿、モズ♀後姿、オイカワ稚魚、ヒドリガモとアメリカヒドリとの交雑個体♂、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ヒドリガモ♀、ニホンミツバチの自然巣、カワウ幼鳥が木にとまって羽を乾かす(横姿)、ハナミズキ緑の蕾と黄緑の総苞片、コガモ♀と♂、ハナニラの白い花、を撮影した。ヒドリガモの繁殖地はユーラシア大陸北部で、アメリカヒドリの繁殖地はアメリカ大陸北部である。アラスカ付近でお互いに往来していることから、交雑個体が生まれるらしい。ロシアとアメリカも、いや、プーチンとバイデンがアラスカで対面して、世界平和について、もっと議論したらいいか。人間は頭脳が発達して地球を支配したが、理性よりも欲望で行動する生きものになってしまった。今日では、野生生物の方が子孫繁栄のために理性的に活動する生きものに見える。
2023	4	11	2016年版の昆虫類バッタ等のトゲヒシバッタまで更新。
2023	4	12	2016年版の昆虫類バッタ等のトノサマバッタまで更新。
2023	4	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～17℃、南南西の風4m/s、角田山(西の方角)が黄砂で霞んでいる、陽射しが暖かいので弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、トビ滑空、創価学会池田会館の八重桜(やえざくら)花満開、キジ♂横姿、ムクドリ♂見返り、鳥屋野潟、ヒドリガモ♂、同じく♀、ニホンミツバチの自然巣、ツグミ♂横姿、八重桜(やえざくら)紅色の花、モズ♂横姿、を撮影した。ヒドリガモの群れが、北帰行する前に鳥屋野潟で、腹ごしらえしているのか、他の群れが集まってくるのを待っているのか、最近よく見かける。ヒドリガモは、越冬地では内湾、湖沼、川などで生活し、他の淡水ガモ類よりも海上に出る傾向が強い。海面をついばんだり、首を水中に突っ込んで逆立ちしたりして藻類などを食べる。養殖ノリをたべることもある。また、他の淡水ガモ類よりよく陸に上がり、青草の葉や芽を食べる。3月までいたマガモが北帰行していなくなり、ゆったりと休める居場所ができたようだ。鳥屋野潟を訪れる冬鳥たちには、北帰行の順番があるのかもしれない。
2023	4	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は16～19℃、南の風4m/s、陽射しが暖かいので弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、コガモ♂後姿、スノーフレーク(鈴蘭水仙)の白い花、ツマグロオオヨコバイ、オニグルミ雄花の花序、鳥屋野潟、ヒドリガモ♀5羽♂3羽、カンムリカイツブリ夏羽前姿、同じく横姿、カワウ幼鳥がきにとまってグルーミング(横姿)、同じく羽を乾かす(横姿)、ヒドリガモ♀1羽♂2羽、ニホンミツバチの自然巣、ハナミズキ緑の蕾と応力の総苞片、ハシブトガラス横姿、を撮影した。公園のハシブトガラスは、かなり人間慣れしているようだ。写真は幅員1.5mの木橋の手すりにとまっていたところを撮影したものである。筆者がそのままカラスの前を通り過ぎても逃げようとしなかった。「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」によると、「林の続いている所にはハシブトガラス、木立の点在する農村部にはハシボソガラス、市街地や都市部にはハシブトガラスという棲み分けの傾向が見られる。ハシブトガラスは人間の出すゴミを主要な餌にするほか、雑食性で動物の死体を好んで食べるほか、弱った獣や鳥を襲ったり、木の実を食べる。」らしい。一度、人間から餌らしきものを貰ったからなのか、近づいても逃げようとしない。そういえば去年、弁天橋から公園に来るルートの中で、食パンをハシブトガラスに定期的に与えているオジサンを見かけたことがあった。今年は、公園の入り口付近で、犬を散歩させているオバサンの後をしつこく追いかけているハシブトガラスを数回見かけたことがあった。野生動物はペットではない。餌を与える行為は慎むべきである。

西暦	月	日	日誌
2023	4	15	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は16～20℃、南東の風4m/s、陽射しは弱いがフェーン現象で生暖かい、途中でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、キジ♂横姿、スズメがお食事中に見返り、ツルニチニチソウの莖色の花、鳥屋野潟、カワウ幼鳥横姿、ニホンミツバチの自然巣、カキドオシの淡紫色の花、カンムリカイツブリ夏羽横姿、を撮影した。満開の八重桜も、南東の風で、花びらが吹雪の様に散っていく。コブシの花も終わり、ハナミズキやヤマボウシの開花がもうすぐ始まる。昨日までいたヒドリガモの姿が見えなくなった、北の大地へ旅立ったようだ。
2023	4	16	信濃川やすらぎ堤周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～14℃、西南西の風8m/s、陽射しは弱く灰色の雲、霧雨が一時降る。片足で立つウミネコ横姿、同じく伏せる(横姿)、ヒドリガモ群れ(45羽)、ヒドリガモとアメリカヒドリとの交雑個体♂、万代橋の歩道でチュウリップが咲く、万代橋から見た信濃川下流景観、を撮影した。北帰行に旅立ったと思ったヒドリガモの群れが信濃川の波間にいた。アメリカヒドリとの交雑個体♂が1羽混じっていたことから、ひょっとすると4月10日に鳥屋野潟で確認した群れかも知れない。新潟の水辺は居心地が良いのかな？ウミネコは留鳥である。しかし、鳥屋野潟では見たことが無い。佐渡汽船の甲板で、乗客がカップエビセン等のスナック菓子を指に挟んで空中に掲げると、ウミネコが菓子をクチバシでキャッチして飛び去る。筆者も昔、親近感がわいて面白いので、夢中になってやったことがあった。
2023	4	17	信濃川やすらぎ堤周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は9～10℃、北北西の風7m/s、陽射しは弱く冷たい北風、灰色の雲、帰路はにわか雨が降る。絵画「4羽のトキ飛翔」、屋形船「万代丸」、コガモ♀2羽と♂4羽のファミリー、同じく♀1羽と♂2羽のファミリー、スズメ前姿、漁船、ハクセキレイ♀夏羽、オオバン8羽のファミリー、ハクセキレイ♂夏羽、2羽のカルガモ採餌、2羽のムクドリ採餌、ハクセキレイ♂夏羽見返り、を撮影した。北帰行に旅立つはずのコガモ(冬鳥)の群れが信濃川のやすらぎ堤で休んでいた。ファミリー単位で分散していた。ヒドリガモと違って、淡水ガモで、水辺を歩きながら泥水をついばんだり、枯れ葉をしごいたりして、主にイネ科植物などの草の小さい実を食べる。やすらぎ堤は手入れされた緑地帯(原っぱ)なので、餌も豊富にあり、ペットは放し飼い禁止であることから、居心地が良いのだろう。
2023	4	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14℃、南南東の風3m/s、陽射しが弱いが爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、ツグミ♂横姿、八重桜(やえざくら)ピンクの花、ルリビタキ♂、ハナミズキ緑の蕾と赤い総苞片、ツツジの花(淡いピンク色)、ハルジオンの白い花びら、嘴を羽に隠して休むカルガモ♀と♂、ツグミ♂横姿、黄色いクチバシのヒヨドリ見返り、ルリビタキ♀、シジュウカラ♂前姿、ムクドリ♂見返り、を撮影した。ハナミズキの総苞片が開いたが黄色い花は蕾のままである。もうすぐ開花するだろう。ツツジの花が開花し始めた。よく間違われるサツキは5月頃で、ツツジの開花より約一月遅れである。サツキの花はツツジよりも小さくて密集して咲く。ルリビタキは漂鳥で、北海道、本州、四国の高い山で普通に繁殖し、冬期は山麓、丘陵や暖地に移動する。「にいがた野鳥日誌」によると、♂が成鳥羽になるのに二年以上の月日がかかるそうで、その期間は、雌雄の区別が難しいらしい。筆者は、肩羽のあたりが青味がかかっていないことから♀と同定したが、自信がない。

西暦	月	日	日誌
2023	4	19	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～15℃、南の風1m/s、陽射しが弱いが爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、岸辺に佇むチュウダイサギ(婚姻色に移行中)前姿、アオジ♂前姿、ツグミ♂横姿、ムクドリ♂見返り、ハナミズキ緑の蕾と赤い総苞片、カワラヒワ♂採餌(後姿見返り)、ニワトコの花(端黄白色)、を撮影した。ニワトコが開花した。「山溪カラー名鑑 日本の樹木」によると、『落葉低木で別名がセッコソボクという。コルク質が発達し、髄は白色または淡褐色で、植物実験のピス(植物の薄切りプレパラートを作成するのにピスを使う)を作る材料に使われる。また、枝や幹の黒焼きは骨折、打ち身などの薬になるといわれ、接骨木という。』そうである。映画のハリーポッターシリーズで最強の魔法の杖がニワトコの杖であった。セイヨウニワトコ(西洋のニワトコ)には「精霊が住む」等たくさんの伝承(言い伝え)があるらしい。
2023	4	20	信濃川のやすらぎ堤周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は19～23℃、南南東の風3m/s、陽射しが暖かく、家を出てすぐジャンパーを脱ぐ。信濃川のやすらぎ堤でムクドリ♀と♂採餌、ノビタキ♀夏羽前姿、同じく横姿、ブタナの黄色い花、信濃川右岸やすらぎ堤の上流景観、工事の看板、信濃川右岸やすらぎ堤の上流景観、スマレの花(濃紫色)、ハシボソカラス前姿、カンムリカイツブリ夏羽横姿、工事の看板、JR越後線鉄橋、を撮影した。「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」によると、ノビタキは中部地方以北で夏鳥。東北地方ではほぼ旅鳥、草の穂先などに止まって、尾羽を上下に動かしながら動きまわり、昆虫やクモ類などを食べる。筆者は平成12～20年にかけて、4月に長潟の田んぼで撮影している。信濃川のやすらぎ堤で見たのは始めてである。ニッチ(居心地の良い場所)を探しているのか？肩羽の色が濃くないことから、完全な夏羽にはなっていないようである。
2023	4	21	信濃川のやすらぎ堤周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～15℃、北北東の風4m/s、陽射しは弱いが爽やかな北風、やすらぎ堤でジャンパーを脱ぐ。信濃川のやすらぎ堤でヒドリガモ♀採餌横姿、ヒドリガモとコガモの群れが採餌、やすらぎ堤の看板、ノビタキ♂夏羽横姿、コチドリ♂夏羽横姿、コチドリ♀夏羽横姿、オオバン5羽のファミリー、ムクドリ♀と♂採餌、信濃川左岸上流景観、カルガモ♀と♂後姿、を撮影した。「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」によると、『コチドリは九州以北で夏鳥。繁殖地への渡来は早く、3月頃には姿を現す。浅い水辺などを小走りで小型の昆虫類などを捕らえたり、片足を振るわせて水生昆虫を追い出して食べたりもする。雌雄ほぼ同色。成鳥雄は前頭部と胸が黒いが、雌はその部分に褐色みがある。イカルチドリ等の似た鳥がいるが黄色いアイリングが特徴』。筆者は、長潟の水を張った田んぼで毎年撮影していたが、地味で目立たないことから、近距離撮影がなかなかできなかった。今日撮った写真は、♂と比較して♀は褐色味があり、黒色の部分が少ないことがよく分かる鮮明な画像であった。やすらぎ堤の野鳥は、人慣れしているのか？私が近づいてもなかなか逃げない。
2023	4	22	信濃川のやすらぎ堤周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～14℃、西の風6m/s、陽射しは暖かいが冷たい風、帰路の昭和橋でジャンパーを脱ぐ。信濃川左岸やすらぎ堤、ヘラオオバコ、ドバト、オオジシバリ黄色い花、モンキチョウ♂、信濃川左岸やすらぎ堤、シロツメクサ白い花、モンキチョウ♀、ドバト、コチドリ♀夏羽横姿、信濃川下流景観、フタホシヒラタアブのカップル交尾、ヒドリガモ群れ(17羽)、コガモの群れ13羽が嘴を羽に隠して休む、嘴を羽に隠して休むコガモ♂眼差し、を撮影した。フタホシヒラタアブの文献が無い。種名等はネット検索で分かるが、生活史等の生態について詳細が分からない。新潟市立や県立の図書館ホームページによる文献検索には限界がある。久しぶりに図書館に出かけてみるか。

西暦	月	日	日誌
2023	4	24	鳥屋野潟公園と弁天橋および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12～13℃、西の風5m/s、陽射しが弱いが爽やかな風、鳥屋野潟公園でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、片足で休むアオサギ幼鳥(前姿)、溝畔に佇むアオサギ、アオサギ深水ウオーク(横姿)、セイヨウジュウニヒトエ青紫色の花、シロハラ♀見返り、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片、ナガミヒナゲシの花(橙色)、支線排水路、ドジョウ、代掻き作業をするトラクター、チュウダイサギ婚姻色、同じく(赤い虹彩)、同じく採餌、アオサギが喉を膨らませる、アオサギが水田を歩く、ツグミ♂横姿、を撮影した。亀田郷の水田地帯は昭和16年(今から82年前)頃は、「芦沼」と呼ばれ、信濃川と阿賀野川の氾濫地帯で、長年にわたるアシの根の腐食した厚い堆積物で土砂が無い泥炭層の軟弱地盤であった。その頃は、野鳥のアオサギやダイサギ等がアンブレラ種(食物連鎖の頂点の消費者)として君臨していた。ところが現在は、代掻き作業に集まって餌の取り合いをしている。餌場が極端に減ったことから、生息数も大幅に減少し、近い将来、絶滅危惧種となるであろう。
2023	4	25	鳥屋野潟公園と弁天橋および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は12～16℃、東北東の風4m/s、陽射しが暖かいが爽やかな風、鳥屋野潟公園でジャンパーを脱ぐ。鳥屋野潟、カンムリカイツブリカップル求愛行動～頭を左右に振る、同じく水草を銜えて頭を左右に振る、同じく頭を左右に振り営巣を促す、アオサギ婚姻色に移行中見返り、アオサギが歩く、クロジ♂採餌、ハナミズキ黄緑色の花と赤い、支線排水路、チュウダイサギ婚姻色が見返り、代掻き作業をするトラクター、獲物を銜えるアオサギ、代掻き作業の水田で佇むアオサギ(前姿)、2羽のアオサギが代掻き作業の水田を歩く(横姿)、耕起した水田で2羽のカルガモが見返り、代掻き作業の水田で佇むアオサギ(後姿)、チュウダイサギ婚姻色が歩く(横姿)、コムクドリ♂横姿、を撮影した。コムクドリは、「フィールド図鑑日本の野鳥」によると『中部地方以北で夏鳥、それより南では旅鳥。平地から山地の林や果樹園などで繁殖期以外は群れで生活する。枝移りして昆虫類や木の実などを、地上でも昆虫類の幼虫などを食べる。』新潟では、毎年4月以降に見かける事が多いので、夏鳥である。
2023	4	27	鳥屋野潟北岸で動植物との一期一会を楽しむ。晴れ時々曇り、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は13～15℃、西北西の風3m/s、陽射しが暖かいが爽やかな風、撮影前にジャンパーを脱ぐ、県立図書館からの帰路は日傘をさす。ヨシガモのファミリー(4羽)、支線排水路、鳥獣保護区(新潟県)の看板、3羽のマガモ♂、キジ♀見返り、同じく♂横姿、2羽のカンムリカイツブリ、を撮影した。「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」によると、『ヨシガモはマガモ族(マガモの仲間)で冬鳥、全国的に生息するが、北海道では少数が繁殖する。4月中旬にユーラシア大陸北部や北海道へ北帰行する。マガモは、全国的に生息するが、本州以北では繁殖する個体が増加している。』らしい。もうすぐ5月、彼らは西風によって本州以北へ飛び立つのだろう。
2023	4	28	鳥屋野潟公園と弁天橋および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は17～22℃、南南東の風3m/s、陽射しが暖かいが爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、長潟からの帰路で日傘をさす。鳥屋野潟、ノダナガフジの花びら(紫色)、チューリップの赤い花、ハナミズキ黄緑色の花と赤い総苞片、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、支線排水路、小排水路、小松堀排水路、幹線用水路、代掻き-水張り、ハクセキレイ♂夏羽、チュウダイサギ婚姻色(赤い虹彩)、アオサギが喉を膨らませる、チュウダイサギ婚姻色(赤い虹彩)の横顔、チュウサギ婚姻色(赤い虹彩)、小排水路、を撮影した。チュウサギは、「フィールド図鑑日本の野鳥」によると『夏鳥として、九州以北、本州中部地方以南に渡来し、南西諸島では冬鳥。草地、水田、湿地、河川、池などで他のサギ類と混じって、コロニーをつくって繁殖する。採食場は草地や農耕地などが多く、カエルやトカゲ、バッタなどをよく捕る。雌雄同色。嘴は夏羽では黒く、冬羽や若鳥は黄色。幼鳥には飾り羽がない。』新潟では、毎年5月以降に見かける事が多い。4月の代掻き時期に撮影したのは初めてである。婚姻色(赤い虹彩)は、2020年5月5日に田植えが終わった田んぼで撮影している。今回は2回目であるが、不鮮明な画像で残念、明日もう一度撮りに行こう。

西暦	月	日	日誌
2023	4	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は19～20℃、南東の風3m/s、陽射しが暖かいが爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、長潟からの帰路で日傘をさす。蒸し暑くなる。明日は雨か。支線排水路、コイの群れ産卵、チュウサギ婚姻色(赤い虹彩)が湛水田を歩く(前姿)、同じく横顔、同じく歩く(横姿)、同じく餌を探す(横姿)～畦畔の草むらをジッと見ていた、2羽のカルガモが畦畔で日向ぼっこ、キビタキ♂後姿、カンムリカイツブリ夏羽横姿、を撮影した。恐らく、昨日いたチュウサギ婚姻色だろう。苗代作業が終わった湛水田で、一羽だけで餌探しをしていた。渡来したばかりなのだろう。アオサギやチュウダイサギは、餌がよく取れる別の田んぼへ移動したようだ。「フィールド図鑑日本の野鳥」によると、アオサギの餌は『魚類など採食し、動物質なら何でも食べる』、同じくチュウダイサギは『魚類をよく捕り、カエルやザリガニなども食べる』、そしてチュウサギは『カエルやトカゲ、バッタなどをよく捕る』、留鳥のコサギは『カワウが追い出した魚を群れで横取りしたりする。1羽では足指を水中で震わせて、魚を物陰から追い出して捕らえたりする』、同じくゴイサギは『夕暮れに活動をはじめ、ねぐらや繁殖場から飛び立って採食場へ行き、魚類やカエル、ザリガニなどを捕る。』となっている。昆虫類を好んで食べるチュウサギは畦畔の草むらに注目していたことから、他のサギとは餌を探す場所が多少異なるようである。
2023	5	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は18～21℃、南の風4m/s、陽射しが暖かく湿った風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、往路も帰路も日傘をさす。鳥屋野潟、オナガ見返り、アオクサカメムシ、マミジロハエトリ(蜘蛛)、ツマグロオオヨコバイ、支線排水路、溝畔に佇むアオサギ(後姿)、チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が歩く(横姿)、同じく大きなミミズを採餌する、同じく横顔、同じく歩く(横姿)、コルリ♂横姿、キビタキ♂後姿、シジュウカラ♂のさえずり「ツピーツピー」(下から見た姿)、を撮影した。「フィールド図鑑日本の野鳥」によると、『コルリは夏鳥。中部地方以北。それ以外では旅鳥。平地から亜高山の落葉広葉樹、針広混交林などに生息。繁殖地ではつがいになわばりをもち、雄は朝に高い場所で、日中は地上近くでさえずる。地上でミミズ類やクモ類などを捕らえて食べる。』らしい。始めて撮影した。オオルリだと思っていたが、顎の下から胸にかけて黒いのがオオルリ♂、コルリ♂は白い。明日は早に会えるかもしれない。楽しみだ。なお、雄鳥の「さえずり」は雌を誘う繁殖期の鳴き声、非繁殖期の鳴き声は「地鳴き」という。
2023	5	2	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～16℃、西北西の風4m/s、陽射しが暖かく爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、帰路は日傘をさす。畝雲(地上から2000メートルの高さ)、ハシブトガラス横姿、ヨコヅナサシガメ幼虫の脱皮、アシブトハナアブ♂、フタモンクロテントウ、支線排水路、小排水路、ムクドリ♂歩く(横姿)、チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が歩く(横姿)、ツマグロヒョウモン♀吸蜜、を撮影した。「検索入門 渡辺康之著 チョウ」によると、『ツマグロヒョウモンは本州(中部地方以西)、四国、九州、南西諸島。記録は北海道までであるが、土着しているのは、本州以南の温暖地に限られる。南西諸島には広く分布する。移動性があり、夏から秋にかけて北上、東進する。出現期は、沖縄諸島以南では周年成虫が見られる。九州以北では、第1回目が2～5月に羽化する。秋までに年4～5回、発生を繰り返す。幼虫、蛹で越冬する。市街地でも見られる。畑、河原、山地の草原など様々な環境に棲む。ヒャクニチソウ、コスモス、セイタカアワダチソウなどで吸蜜する。♂は山頂に集まり、占有行動を取る。』らしい。土着しているのは、本州以南の温暖地に限られることから、新潟は北上、東進の途中に寄ったのかもしれない。4月下旬から、アゲハチョウ、カラスアゲハを見たが、飛び回っているので撮影できなかった。

西暦	月	日	日誌
2023	5	3	長湍の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツとシューズで出かける。気温は16～20℃、南東の風2m/s、陽射しが暖かく爽やかな風、帰路は日傘をさす。チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が餌を探して歩く(横姿)、稲の苗を植えた田んぼ、幹線用水路、チュウダイサギ(婚姻色に移行中)が胸を張って歩く(横姿)、カルガモ♀横姿、同じく、を撮影した。幹線用水路には満々と水が流れ、トラクターで代掻きをしている田んぼ、代掻き後に湛水している田んぼ、田植えをしている田んぼなど、連休に入り農作業をしている人が増えた。あちこちの田んぼで、スズメ、ハクセキレイ、ムクドリ、ハシボソガラス、チュウダイサギが忙しそうに餌探しをしていた。ところが、カルガモだけは、のんびりと湛水田を遊泳していた。彼らの餌について「フィールド図鑑日本の野鳥」によると、スズメは『昆虫やクモ類、草木の種子など』、ハクセキレイは『昆虫やクモ類など』、ムクドリは『昆虫類やミミズ、節足動物などの他、本の実』、ハシボソガラスは『草木の実や昆虫類など』、チュウダイサギは『魚類をよく捕り、カエルやザリガニなど』、カルガモは『落ち穂や青草、イネ科植物の種子』が主な食べ物である。カルガモは植物質だけを食べるが、それ以外は動物質の餌を食べる。動物は動き回るので、捕まえるのが大変である。カルガモは日中はゆっくりと休んで、夕方になると餌場へ出かけるらしい。まさにスローライフである。
2023	5	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20～23℃、南の風2m/s、陽射しは熱く、日影では涼しい。北帰行しなかったコガモ♀1羽と♂2羽、鳥屋野潟、片足で休むアオサギ幼鳥(前姿)、ハシブトカラスの恫喝鳴き(後姿)、脱皮直後のヨコヅナサシガメ幼虫、ヒドリガモ♀横姿、北帰行しなかった2羽のヨシガモ♂、自然巣に出入りするニホンミツバチ、カンムリカイツブリ夏羽横姿、カンムリカイツブリ(夏羽)嘴を羽に隠して休む、キショウブ開花直前の蕾、キショウブの黄色い花、カムルチー、キリウジガガンボ♂、クロイトトンボ♂、クサガメ、アシブトハナアブ♀、を撮影した。5月6日は立夏、夏の始まりである。自然災害が無い、豊作の年でありますように。毎年、田植えが始まる5月の連休に、祈る言葉である。
2023	5	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天——>晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は21～24℃、南の風3m/s、陽射しは熱くちょっと蒸すが、日影では涼しい。カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、ヒドリガモ♀横姿、ヒドリガモ♀2羽♂1羽、カワウ♂前姿、2羽のカンムリカイツブリ、アヤマメ紫色と黄色の花びら、ハシボソガラス見返り、鳥屋野潟公園ビオトープため池、アジアイトトンボ♂、ウシガエル、ヒゲナガスズメノチャヒキ、稲に苗を植えた田んぼ、カワウ幼鳥グルーミング、カンムリカイツブリ夏羽後姿、を撮影した。ヒゲナガスズメノチャヒキの名前の由来が書いてある文献が無い。市立図書館の蔵書を検索したら『見わけがすぐつく野草・雑草図鑑』がある。早速、貸出の予約をしよう。
2023	5	6	2016年版の昆虫類バッタ等のニイニイゼミまで更新。
2023	5	7	2016年版の昆虫類バッタ等のニクバエまで更新。
2023	5	8	2016年版の昆虫類バッタ等のニホンミツバチまで更新。
2023	5	9	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は14～17℃、南の風3m/s、陽射しは暖かく爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ニセアカシアの白い蝶形の花、八重黒龍藤、ハナニガナ黄色い花びら、ヤマトシジミ♂、鳥屋野潟、ヒドリガモ♀1羽♂2羽、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ヒメフウロ淡紅色の花、鳥屋野潟、レッドロビン白い花、アジアイトトンボ♀、同じく植物中産卵、ニガナの黄色い花、クロイトトンボ♂、カワウ幼鳥羽乾かず後姿、脱皮食後のヨコヅナサシガメ幼虫、を撮影した。蝶形の白い花、紫色の藤の花、キク科植物の黄色い花、水色のヤマトシジミ蝶、淡紅色(ピンク色)の花、瑠璃色の斑があるクロイトトンボ♂、朱色のヨコヅナサシガメ幼虫、野生の動植物はカラフルで、ユニークな形がとても綺麗だ。
2023	5	10	2016年版の昆虫類バッタ等のハヤシノウマオイまで更新。

西暦	月	日	日誌
2023	5	11	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は15～16℃、北北西の風3m/s、陽射しは暖かく爽やかな風、新潟県スポーツ公園でジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。コガモ♀と♂、鳥屋野潟、ヒゲナガスズメノチャヒキ(髭長雀の茶挽)、ハナニガナ黄色い花びら、オニグルミ雌花、カンムリカイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、オオヨシキリ、カンムリカイツブリ夏羽横姿、アジアイトトンボ♂、アカミガメ2匹甲羅干し、トチノキ(栃の木)の花、を撮影した。オオヨシキリは、『フィールド図鑑日本の野鳥』には、『夏鳥で、平地から山地のヨシのある河原、草原、湿地、湖沼などに生息し、繁殖期はつがい、または一夫多妻で生活し、昆虫類やクモ類などを食べる。雌雄同色。繁殖期には「ギョギョギョギョシギョギョシケツケツケツ」と鳴く。』と書いてある。♂は、縄張りを誇示するために、ヨシの高い所にとまって、大きな声でさえずるらしい。後から渡ってきた♀を縄張りに呼び込んで、営巣、産卵させる。雛を育てるのは♀だけでおこなう。♂は別の縄張りに移動して、別の♀を呼び込んで、同じような繁殖行動をとるらしい。一夫多妻は、子供は多く産まれるが、♀も♂も大変な重労働である。
2023	5	12	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツの上にジャンパーを羽織って、シューズで出かける。気温は15～16℃、北東の風3m/s、陽射しは暖かく爽やかな風、弁天橋でジャンパーを脱ぐ、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ニホンミツバチ、アゲハチョウ♀、鳥屋野潟、クロイトトンボ♀未成熟虫、ニワゼキショウ、クサガメ甲羅干し、同じく横顔、クサガメ♂(メラニズム:黒化)、ハスジカツオゾウムシ、アジアイトトンボ♂、オオムラサキツユクサの花(紫色)、稲に苗を植えた田んぼ、カムルチー顔、カムルチー、アサザの葉にとまるクロイトトンボカップル、トチノキ(栃の木)の花、を撮影した。アゲハチョウは、『検索入門 渡辺康之著 チョウ』には、『北海道から南西諸島までのほぼ日本全土。小笠原諸島にも棲息する。本州の暖地では3月から羽化を始め、10月ぐらいまで年4回の発生。寒冷地では年2～3回に終わることがある。越冬態は蛹。山地には少なく、都市の近郊、畑の周辺など、人間が生活を営む場所でたくさん見られる。日当たりのよい場所にも飛んでいるが、たいてい♂は樹木の生えている側や日陰に蝶道を作る。雌雄ともツツジ類、ユリ類、コスモス、ヒャクニチソウなどで吸蜜する。また、吸水活動も行う。食樹はサンショウミカン、ナツミカンなど各種のミカン類、サンショウ類、カラタチ。植栽されたものによく産卵する。また、キハダ、イヌザンショウ、カラスザンショウなど野生のものも食べる。』と書いてある。♂と♀の違いは、ネットで調べると、お尻の形状らしい。雌のお尻は、先っぽがバツサリと斬られた様な絶壁形状である。♂は先っぽが漸縮形状である。
2023	5	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺および長潟の田んぼで動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は18～20℃、東南東の風3m/s、陽射しは弱く湿った風、帰路は日傘をさす。鳥屋野潟、コガモカップル交尾の直後、イタドリ草丈3mくらい?、鳥屋野潟、コウホネの花(黄色)、ウスベニアオイ淡紅色の花びら、支線排水路、耕起作業の水田で佇むアオサギ(前姿)、チュウサギ婚姻色(赤い虹彩)が耕起作業の水田で餌を探す(横姿)、同じく飾り羽(後姿)、アオサギが喉を膨らませる、チュウサギ婚姻色(赤い虹彩)が耕起作業の水田を歩く、アオサギが水田を歩く、チュウサギ婚姻色(赤い虹彩)が耕起作業の水田を歩く、同じく横顔、カルガモ♀遊泳後姿、を撮影した。イタドリは、『世界文化生物大図鑑植物Ⅰ 双子葉植物』によると、『地下茎が発達し、たくさんの茎を直立または斜上する。茎は高さ30～150cm、しゅう酸を含み酸っぱい。葉は卵形で、先は尾状にとがり、基部は切形、長さ6～15cmで、無毛。さや状托葉は長さ4～6mm、膜質でおちやすい。』と書いてある。しかし、草丈が3mくらいありそうなイタドリを撮影した。ところが、高さが1～3mのオオイタドリという品種もあるらしい。

西暦	月	日	日誌
2023	5	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は18～21℃、南東の風6m/s、陽射しは弱い湿った風、新潟県スポーツ公園ため池で撮影、帰路は陽傘をさす。鳥屋野潟、ニホンカナヘビの前姿、セスジイトトンボ♂、同じく♀、コバンソウ、コメツブツメクサの花(黄色)、シロバナマンテマの花(白い花弁)、ニホンカナヘビの顔と眼差し、アメリカフウロ淡紅色の花びら、ヤドリバエ科の一種、を撮影した。ニホンカナヘビは、『新潟県陸水動物図鑑』には、『沖縄を除く日本全土に分布し、平地や低い山地の草原、田畑、土手などに生息する。昆虫、クモ、ミズなどを食べる。からだは細長く、長い尾を持ち、長さは16～25㎝。背がわに、かさかさしたウロコを持っている。つかまえようとすると自分で尾を切り(自切と呼ぶ)逃げる。尾はまた再生してくる。5～8月ころ、1尾のメスが1年に3回ほど産卵し、1回に3～5個の楕円球のような形の白い卵を産む。繁殖期のメスには、ときどきオスに咬まれた(愛咬)の跡が、脇腹に残っているのが見られる。』と書いてある。鳥屋野潟公園では、よく見かける。自切した尾が生えてくる様子を観察できる。ただし、交尾や産卵、卵から産まれる姿は見たことが無い。
2023	5	15	2016年版の昆虫類バッタ等のヒシバッタまで更新。
2023	5	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は19～20℃、西南西の風1m/s、陽射しは暖かく爽やかな風、往路と帰路で陽傘をさす。わた雲、カワラヒワ♂後姿見返り、アシナガグモ、ナヨクサフジの花、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、アジアイトトンボ♀未成熟虫、クサガメ甲羅干し、ウマノスズクサ、カイツブリ夏羽、ブタナ果実と冠毛、アジアイトトンボ♀未成熟虫、アジアイトトンボ♂、ヒシバッタの一種、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、クロイトトンボカップル植物中産卵、クサガメ♂(メラニズム:黒化)、を撮影した。ウマノスズクサは、『野草・雑草観察図鑑』には、『花期は7月～9月、葉のわきから極めて特徴がある花を咲かせる。ラッパを斜めに切ったような4～6センチの花冠と、基部が球状に膨らんだ花後の果実は、ひもで吊り下げられたような形状である。名前の由来は、果実の形が馬の首などにかける鈴に似ていることから“ウマノスズクサ”と名付けたらしい』と書いてある。ウマノスズクサはアルカロイド系毒性成分をもっているが、大型の蝶のジャコウアゲハ幼虫の食草で、この毒性成分が体内に蓄積されることにより、捕食する動物がいない。ジャコウアゲハは天敵に襲われる心配が無いため、ウマノスズクサを探して、藪の中をフワフワとまるで風船の様にゆっくりと飛んでいる。ウマノスズクサが無いとジャコウアゲハは生息出来ない。ジャコウアゲハとウマノスズクサは片害共生の関係である。
2023	5	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～26℃、南の風4m/s、陽射しは熱く往路と帰路で陽傘をさす。ササゴイ、同じく横顔、鳥屋野潟、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、クサガメ甲羅干し、カンムリカイツブリ夏羽浮上後姿、カワウ♀横姿、ウマノスズクサ、鳥屋野潟、アジアイトトンボ♀、スイレンの花(白)、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、カキツバタ青紫色の花、クロイトトンボ♂、アオダイショウ胴体、を撮影した。ササゴイは、『フィールド図鑑日本の野鳥』には、『夏鳥として九州以北から北海道南部にまで生息。温暖な地方では越冬する。湖沼、池、河川、海岸などの環境で、ねぐらや繁殖場から採食場へ飛び、川岸や浅瀬などで体がかがめた不動体勢でねらいを定め、魚類やカエルなどを捕る。雌雄同色。成鳥は青みのある黒色で、後頭に伸びるぼさぼさの冠羽がある』と書いてある。2005年5月2日に撮影した画像があるが、どうもササゴイではなく、ゴイサギ婚姻色のようなものである。ということで、ササゴイの撮影は今回が初めてということになる。数分間の一期一会、初めての出会いがあるから、景観と生きものの撮影は楽しい。

西暦	月	日	日誌
2023	5	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～29℃、南の風3m/s、陽射しは熱く往路と帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、アカミガメ甲羅干しで後ろ足伸ばす、鳥屋野潟、クサガメ♂(メラニズム:黒化)、クサガメ甲羅干し、カウ幼鳥前姿、鳥屋野潟公園遊歩道、ウマノスズクサ、ニホンカナヘビが木に登る(後姿)、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上見返り、ヨツボシトンボ♂、カキツバタ青紫色の花、アマガエルが擬態する(ショウブの葉の上)、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボ♂、カッコウ、を撮影した。ウマノスズクサの周辺でジャコウアゲハの♀と♂がフワフワと飛んでいた。ヨツボシトンボは、『改訂新版 世界文化生物大図鑑 昆虫Ⅰ』には、『北海道、本州、四国、九州に分布するが、西南日本では産地が極限される。成虫期は東北日本では6～8月、西南日本では4～5月となる。平地の池沼や湿原中の池に発生する。体長約45mm、後翅長約34mm。地色は黄褐色で、成熟しても著しく体色が変わることは無い。』と書いてある。鳥屋野潟公園では5月から6月にかけて♂を撮影している。カッコウは『フィールド図鑑日本の野鳥』には、『夏鳥。九州以北に渡来。平地から山地の草原、林、公園などの環境で1羽で生活し、ガ類の幼虫を採食する。托卵性で、生息地によってオオヨシキリやモズ、オナガなどいろいろな種類の鳥の巣に産卵し、育雛させる。雌雄同色。』と書いてある。湖畔林に隣接する道路の電線にとまって「カッコウ…」と鳴いていた。繁殖期に入ったハシブトガラスの縄張りに入って、威嚇されたのかもしれない。私に気づいたのか、慌てるようにして湖畔林へ戻っていった。
2023	5	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20～21℃、北西の風2m/s、陽射しは熱く往路と帰路で陽傘をさす。カンムリカイツブリ夏羽浮上見返り、鳥屋野潟、ニホンカナヘビの後姿、マユミ緑白色の花、ヤマグワの赤い果実、スイカズラの花(白色～黄色)、チャコウラナメクジ、鳥屋野潟、ノイバラの花(白色)、ウマノスズクサ、クロイトトンボ♂、クロイトトンボカップル植物中産卵、カキツバタ青紫色の花、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ヒメジョオン白い花びら、エゴノキ白い花びら、を撮影した。草花だけでなく樹木の花や果実が見られる季節になってきた。残念ながら、ジャコウアゲハの姿を見ることができなかった。「検索入門 渡辺康之著 チョウ」によると、『本州の暖地では年3～4回の発生、寒冷地では5～8月に年2化する。越冬態は蛹。奄美諸島以南ではほぼ周年見られるが、数の増減がある。あまりはばたかず、ゆるやかに飛ぶ。蝶道はつくらず、林内や林縁を低く飛び回る。ツツジ類、アサミ類などで吸蜜する。食草はウマノスズクサ科のウマノスズクサ、オオバウマノスズクサ、リュウキュウウマノスズクサなど』と書いてある。寒冷地では5～8月に年2化するということから、蛹→成虫→産卵→幼虫→蛹→成虫→産卵→幼虫→蛹という繁殖活動になる。筆者は2019～2022年の間に、6月初旬～9月初旬にかけてウマノスズクサの葉(裏側)に産卵する♀を撮影している。
2023	4	21	信濃川のやすらぎ提周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天→曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20～23℃、南西の風3m/s、陽射しが暖かく、往路、撮影、帰路で陽傘をさす。チガヤの穂と果実、ヘラオオバコの花穂と白い雄しべ、シャリンバイ白い花びら、カルガモ♀と♂後姿、オオヨシキリ♂さえずり、餌を頬張るドバト、ハマヒルガオ、ニワゼキショウ、信濃川左岸下流景観、モンキチョウ♀、昭和大桥から見た信濃川下流景観、バラの赤い花びら、を撮影した。ここ数日は、陽射しが強く、陽傘をささないと、外を長時間歩けない。大きな太陽フレアによって、強力な太陽風プラズマが地球に降り注いでいるのかもしれない？それとも、私が年をとったせいかな？

西暦	月	日	日誌
2023	5	22	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20～21℃、北北西の風3m/s、陽射しは熱く蒸し暑い、往路と撮影中、帰路で陽傘をさす。アオサギ見返り後姿、鳥屋野潟、シオカラトンボ♂、クサガメ♂(メラニズム:黒化)、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀横姿、スイレンの花(白)、シオカラトンボ♂未成熟虫、シオカラトンボ♀未成熟虫、クロイトトンボ♂、カキツバタ青紫色の花、イオウヒロハシリグモ、を撮影した。ジャコウアゲハ♀を約10分間追いかけて撮影成功。身体がひとまわり小さい、若齢なのかもしれない。フワフワと、酔っぱらいの千鳥足の様に飛んで、あっちこちの葉を突いて何かを確認しながら、ウマノスズクサを探し当てる様に見えた。シオカラトンボの未成熟虫は♂も♀も麦わら色である。そして、眼が茶色である。♀は腹部が太く厚みがあるが、♂は痩せて薄いので判別できる。
2023	5	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は17～19℃、南の風1m/s、陽射しは強いが湿度が低いので日影にいと涼しい、往路と撮影中、帰路で陽傘をさす。カムルチー2尾、カンムリカイツブリ夏羽前姿、シジュウカラ幼鳥、鳥屋野潟、ウマノスズクサ、ウキヤガラの穂、シオカラトンボ♂未成熟虫、同じく♀未成熟虫、カキツバタ青紫色の花、タニウツギの花(ピンク色)、ベニシジミ羽損傷2頭、ショウブの肉穂花序、ガガブタの葉にとまる羽化直後のクロイトトンボ、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、ヤマボウシ黄緑色の花と白い総苞片、アマサギ冬羽もしくは幼鳥、を撮影した。アマサギはヨシ原の岸辺で、満腹したのか?毛繕いをしていた。「フィールド図鑑日本の野鳥」には、『夏鳥。本州以北に渡来し、北海道では稀。九州以南では越冬するものがある。水田、湿地、草地、放牧地などの環境で、1年を通じて群れで生活するものが多く、ねぐらや繁殖地から飛び立ち、採食場の草地などでバッタやカエル、トカゲなどを食べる。雌雄同色。成鳥夏羽の頭部から胸、背には橙黄色の飾り羽がある。冬羽と幼鳥はほぼ全体が白い。チュウサギの冬羽や幼鳥は、嘴や足が長いことで識別できる。』と書いてある。チュウサギは足が黒く、嘴の先も黒いが、写真は足がベージュ色で嘴の先は黄色のままである。よって、アマサギ冬羽もしくは幼鳥と考えた。
2023	5	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20℃、南南東の風3m/s、陽射しは弱いが湿度が高いため蒸し暑い、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、キジ♂横姿、クマバチ♂、ウマノスズクサ、ヒダリマキマイマイ、ナワシロイチゴの紅紫色の花、排水樋門吐口、カワウ幼鳥横姿、セイヨウタンポポの黄色い花とロゼット状の根生葉、を撮影した。排水樋門吐口で、水辺から湖畔林の方へ飛翔するオオヤマトンボらしきものを見た。「川の生物図典」によると、『繁殖行動は4～9月頃であるが、盛期は5～7月頃。主に丘陵地低山地を流れる河川の流域に生息する。幼虫は比較的流れの緩やかな砂泥底の凹みや、植物性沈積物の陰などにうずくまったり、河岸の植物の際などに潜んだりして生活する。大きな湖の波砕湖岸や稀に灌漑用溜め池の泥底にも生息する。成虫(特に未熟な)の生活場所は、水辺周辺の樹林や藪がある様な場所である。』と解説されている。筆者は2021年8月28日と9月20日に、湖畔林の枝に、ぶら下がるように止まったオオヤマトンボ♂を撮影している。

西暦	月	日	日誌
2023	5	27	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～24℃、南の風2m/s、陽射しは弱いが高湿度なので蒸し暑い、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、アカミガメ幼体がコウホネの葉の上で甲羅干し、鳥屋野潟、カムリカイツブリ夏羽横姿、カワウ幼鳥グルーミング、ウマノスズクサ、ソメイヨシノ(クローン)の実(他家受粉)、ヨツボシトンボ、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボ、を撮影した。鳥屋野潟公園ビオトープ池で、水辺から池畔林の方へ飛翔するオオヤマトンボらしきものを見た。ソメイヨシノについて「山溪カラー名鑑日本の樹木」には、『エドヒガンとオオシマザクラの雑種で、観賞用として広く植栽されている。果実は球形で紫黒色に熟す。伊豆半島にはごく近似のものが自生している。』と書いてある。ソメイヨシノは栽培品種なので同じゲノムをもつクローンである。よって、ソメイヨシノ同志では自家受粉となり結実しない。別のゲノムをもつ木からの他家受粉で結実する。だから、自生してソメイヨシノが増殖することができない。オオシマザクラ等を台木にして接ぎ木をして本数を増やすしかない。自生ができない(野生ではない)、つまり繁殖できない生命なのである。日本人に最も親しまれている桜の木であるが、綺麗な花を咲かせるためだけのロボットの様な存在なのである。品種改良した植物や野菜、家畜動物など命をつなぐことができない生きものを利用する人間社会の未来は、どんな未来？筆者は、まったく想像できない。
2023	5	28	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は21～20℃、西北西の風1m/s、陽射しは弱いが高湿度なので蒸し暑い、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、コガモ横姿、スズメ横姿、キジ見返り、鳥屋野潟、カワウ幼鳥前姿、同じくアイビーグリーンアイズ、排水樋門吐口、ウマノスズクサ、オオバコ、コフキトンボ♀未成熟虫横姿、を撮影した。コフキトンボは、「ネイチャーガイド日本のトンボ改訂版」に、『生息環境は、平地～丘陵地の抽水植物の繁茂する開放的な池沼や河川の淀み。生活史は、卵期間1～2週間程度、幼虫期間3か月～1年程度(1年1～2世代)。幼虫で越冬する。形態は、シオカラトンボを一回り小さくしたような中型のトンボ。黄色の地に黒条があるが、♂は羽化後すぐに白粉を吹く。♀には白粉を吹く個体と、吹かない個体の2型がある。後者は縁紋近くに褐色帯、翅の基部に橙色斑があり、オビトンボ型とよばれ、北日本と南西諸島に多い。分類は、国内の種ではヒメキトンボと近縁。DNA解析では、本土と南西諸島の個体群間にも若干の差異がある。備考として、全国に広く分布するが、地域によっては減少している。』と書いてある。筆者は、2010年～2023年の13年間で、5月下旬から9月初旬に347画像撮影した。鳥屋野潟公園では夏季に出現し、遊歩道から容易に観察できるトンボである。
2023	5	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は19～19℃、西の風5m/s、陽射しは弱いが高湿度なので蒸し暑い、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、モンシロチョウ♀吸蜜(ブタナの花)、クサガメ甲羅干し、アメンボ幼虫の群れ、クサヨシの穂、ウマノスズクサ、シオカラトンボ♀未成熟虫、イロハモミジの翼果、クロイトトンボ♀未成熟虫、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、カキツバタ青紫色の花、コフキトンボのヤゴ抜け殻、ジャコウアゲハ♀後姿、同じく後頭部、ヤマボウシ黄緑色の花と白い総苞片、を撮影した。樹木の果実は、「山溪カラー名鑑 日本の樹木」に、『蒴果(トベラ)、豆果(エンドウ)、集合果(モミジバズカケノキ)、翼果(イタヤカエデ)、袋果(カツラ)、球果(クロマツ)、堅果(ミズナラ)、核果(サクランボ)、ナシ状果(リンゴ)、液果(ブドウ)、イチジク果(イチビワ)、ミカン状果(アマナツ)、キイチゴ状果(モミジイチゴ)、バラ状果、』と14種類の果実が書いてある。その中でも翼果は、果実を動物が食べてくれないから、風によって種を遠くへ飛ばすために翼形状をしている。蒴果も、種を遠くへ飛ばすために、裂開して種子を放出する。植物は未来に命をつなぐために、工夫しながら進化している。

西暦	月	日	日誌
2023	5	31	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天→晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は19～21℃、北の風2m/s、陽射しはだんだん強くなる、湿度が低いので日影は涼しい、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、ヒメギス♂幼虫、ニホンミツバチ、シマアシブトハナアブ♂、ヤブキリ♂幼虫、クマバチ♀、子連れのカルガモ♀眼差し、カルガモ母親と幼鳥4羽、ウマノスズクサ、アワフキムシの幼虫が排泄物を泡立てた泡状の「巣」、鳥屋野潟、オオエグリシャチホコ、ソメイヨシノ(クローン)の実(他家受粉)、稲の苗を植えた田んぼ、コシアキトンボ♀羽化直後、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボ♂、クサガメ親亀と子亀が甲羅干し、同じく子亀、を撮影した。鳥屋野潟公園ビオトープため池のヨシ原でアオヤンマらしきものを確認。ヨシの茎間を縫うようにして飛んでいた。カルガモ♀の眼差しは、気迫を感じる眼でジューツとカメラを睨むので、思いが伝わってくる様な気がして、いつも惚れ惚れする。また、オオエグリシャチホコ(蛾)は始めて撮影した。この一期一会が楽しい。
2023	6	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は20～23℃、南南東の風3m/s、陽射しは弱い、フェーン現象の生暖かい風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、ニホンミツバチ、ヒメギス♂幼虫、マガリケムシヒキ♂、ハスジカツオゾウムシのカップル交尾、ヒメギス♂幼虫、ニホンカナヘビ前姿、ホソヘリカメムシ、不明なカメの横顔、同じくカメ、アマガエル擬態(ショウブの葉の上)、コフキトンボ♀未成熟虫横姿、同じく♂未成熟虫横姿、クロイトトンボカップル、エントツドロバチ、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、セイヨウキンシバイ、を撮影した。不明なカメは、アカミミガメの様な姿だが、甲羅の中央が凹み、頭部の縞模様が微妙に違い、耳のあたりは赤くない。アカミミガメの変種か？また、エントツドロバチ(蜂)は始めて撮影した。
2023	6	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は19～21℃、西北西の風5m/s、陽射しは弱い、フェーン現象の生暖かい風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。アオサギ幼鳥、鳥屋野潟、ニホンミツバチ、ホソヘリカメムシ、セスジイトトンボ♂、ウマノスズクサ、クサギカメムシ、コイの黄色い吻、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボ♂、アメンボカップル、コフキトンボ♂横姿、ジャコウアゲハ♂横姿、同じく上翅、同じく♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、を撮影した。クサギカメムシは、「おもしろ生態と上手な付き合い方 カメムシ 野澤雅美」の画像を参考にしたが、後ろ足の腿の太さが違って見える。
2023	6	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は21～23℃、南南西の風7m/s、雲間からの陽射しは強い、日影は爽やかな風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、カワウ♀のエメラルドグリーンアイズ、ウマノスズクサ、ヒダリマキマイマイ、カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、カキツバタ青紫色の花、コフキトンボ♀未成熟横姿、シマヘビ、同じくレッドアイズ、コフキトンボ♂未成熟虫横姿、セスジイトトンボ♀黄緑色、ヨツボシクサカゲロウ、を撮影した。ヨツボシクサカゲロウは始めて撮影した。「世界文化生物大図鑑 昆虫Ⅰ」には、『開張35～40mm。体は緑色から黄緑色。前胸背面の中央に1本の黄条がある。顔面には2～7個(日本では4～5個のものが多)の黒紋がある。成虫は1年2化性で4～8月、6～9月にあらわれる。マタタビに集まる習性がある。日本全土に分布。』と書いてあるが、文章が専門的で、画像や図が少なく分かりにくい。やさしい説明文といろいろな画像等が掲載された文献を探すことにする。

西暦	月	日	日誌
2023	6	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～23℃、西南西の風5m/s、雲間からの陽射しは強いが、日影は爽やかな風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、カワウ♀のエメラルドグリーンアイズ、ウマノスズクサ、ヒダリマキマイマイ、カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、オオキンケイギク、ホソヘリカメムシ、ヒメギス、鳥屋野潟、コフキトンボ♂横姿、アカミガメ上陸、カムルチーの背びれ、ツバメ♂、ヨツボシトンボ♂、キジバトオレンジ色の眼、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、コシアキトンボ♂、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、を撮影した。コシアキトンボは、『日本のトンボ改訂版』に、『生息環境は平野～丘陵地の、周囲を樹林で囲まれた池沼や河川の淀みなど。生活史は卵期間1～2週間程度、幼虫期間半年～2年程度(1～2年1世代)。幼虫で越冬する。国内に広く分布するが、山間部では少ない。北海道でも最近定着が確認された。』と書いてある。水辺だけではなく、周囲に樹林が無いと生活できない。『交尾後の♀は単独で、水面に浮かぶ植物や浮遊物のほか、水面から突き出た枝の端に卵を付着させることもある。』と書いてある。水辺よりも近くの樹林で集団で飛翔している姿を見かけることが多い。
2023	6	6	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～27℃、南の風3m/s、雲間からの陽射しは強いが、日影は涼しい、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♀吸蜜(スイカズラの花)、コフキトンボ♂横姿、イオウイロハシリグモ、アマガエル擬態(ショウブの葉の上)、ニホンカナヘビ全身、ヨツボシトンボ♂、カルガモ母親と幼鳥4羽、ジャコウアゲハ♀吸蜜(スイカズラの花)、を撮影した。ジャコウアゲハは、『日本のチョウ増補版』に、『食草は、ウマノスズクサ、オオバウマノスズクサ、リュウキュウウマノスズクサなど(ウマノスズクサ科)。生息環境は、森林・草原・農地・河川・平地～山地に見られ、ウマノスズクサが見られる河川堤防や農地、人家周辺などの明るい草原環境のほか、オオバウマノスズクサの生える樹林地の林縁部などや暗い場所にも生息する。行動は、日中、低い場所を緩やかに飛翔し、ツツジ類、ウツギ類、クサギ、アザミ類など各種の花を訪れる。地上で吸水が行われることは稀である。生息状況・保全は、都市部でも比較的に見られるが、全体的には環境の変化によって減少している。』と書いてある。フワフワとゆっくり羽ばたいて飛ぶ姿は、まるで「あやつり人形」の様にぎこちない。成虫が吸蜜する姿を始めて撮影した。自然生態園で、ウチワヤンマが飛ぶ姿を確認。スピード感があり、直線を描く様にまっすぐ飛行する。まるで、グライダーの様に飛ぶ。
2023	6	7	柳都大橋と沼垂周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は23～24℃、南西の風3m/s、雲間からの陽射しは強いが、日影は涼しい、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。佐渡汽船おけさ丸、柳都大橋下流ヨットハーバー、新潟市消防局消防艇にほんかい、東宮御成婚記念碑、同じく銘板、柳都大橋下流景観、ハマヒルガオ、チガヤの穂、スモークツリー・ホワイトボールの花穂、ドクダミの花(白色)、看板-ぬったり古町通りまちづくり憲章、ヒメジョオンの白い花びら、を撮影した。スモークツリーは、ネット検索すると「みんなの趣味の園芸」には、『ウルシ属に近縁な、雌雄異株の落葉樹です。初夏に咲く花木の代表で、ヨーロッパから中国に分布します。雌木の枝先につく花序は長さ約20cmで多数枝に分かれし、花後に伸びた花柄が遠くからは煙がくすぶっているように見えます。雄木は花序が短く、煙状にはなりません。横に広い円形の樹形が美しく、秋の紅葉も楽しむことができます。銅葉や黄葉の園芸品種も栽培されています。』と書いてある。ネット情報は根拠が不明確であり、信頼度は低い。園芸植物の文献を市立図書館で探してみよう。スモークツリ(煙の木)は、始めて撮影した。とても個性的である。

西暦	月	日	日誌
2023	6	8	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は23～25℃、東の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、フェーン現象で蒸し暑い、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、カルガモ母親と幼鳥2羽、ウマノスズクサ、キタテハ♀、カワラヒワ♀の下から見た姿、セスジイトトンボ♀未成熟虫、コフキトンボ♀未成熟横姿、コフキトンボ♀横姿、セスジイトトンボ♀羽化直後、を撮影した。キタテハは、『日本のチョウ増補版』に、『食草は、カナムグラ、カラハナソウ(クワ科)、ホソバイラクサ(イラクサ科)。生息環境は、林縁・農地・公園。人家・河川、主に平地～低山地のカナムグラがよく生える草地。人家や公園、荒地、墓地などの明るい草地の空間や河川の堤防や鉄道の土手、農地脇などで見られる。行動は、日中、草地上を低く緩やかに飛翔し、葉上によく止まる。ヒメジョオン、オカトラノオなど各種の花を訪れるほか樹液、腐果などにも集まる。生息状況・保全は、北海道では減少が著しく、最近の記録がないが、その他では普通に見られ、都市部にも多い。』と書いてある。今年、始めて撮影した。翅の色が、夏型と秋型で違い、♂と♀では色に濃淡の違いがある。また、シータテハ等の似た種もいることから、撮影時にその場で同定するのは難しい。その都度、参考文献などで確認しないと同定できない。今はやりのネットの画像検索やAIで検索したら、どの程度正解するのだろうか？
2023	6	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～24℃、南西の風1m/s、雲間からの陽射しは弱い、フェーン現象で蒸し暑い、往路、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、モンシロチョウ♂吸蜜、ニワトコの赤い実、鳥屋野潟、木を登るアオダイショウ胴体、同じく顔(樹上)、ヒメギス♀幼虫、カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、シオカラトンボ♀未成熟虫、コフキトンボ♂、同じく♀未成熟虫横姿、コシアキトンボ♀後姿、同じく前姿、を撮影した。木を登るアオダイショウを今年始めて撮影した。胴体はシマヘビと似ているが、虹彩の色が違う。シマヘビはレッド～オレンジ色で、アオダイショウはオリーブ色である。アオダイショウは「野外観察のための日本産爬虫類図鑑第3版」には、『日本固有種。北海道、本州、四国、九州とその周辺の島々、国後島、奥尻島、佐渡島、伊豆大島～神津島、隠岐、壱岐、対馬、五島列島、薩南諸島に分布する。平地や丘陵地等人の活動範囲に多く生息し、特に田んぼや畑、民家周辺で最も多く目撃されている。木登りが上手で、「クライミングキール」と呼ばれる腹板の両端にある鱗を引っ掛けるようにして樹木や垂直な壁等を登る。木登りは樹洞にすみつく哺乳類や鳥類の雛を狙ったりする目的で行う。農作業小屋の天井や養鶏場にすみついていることも多く、かつては民家に普通にみられ、穀物をかじるネズミを食べてくれると重宝(放置)されていた。』と書いてある。筆者の経験では、アオダイショウからは威嚇された事が無いが、シマヘビやヤマカガシからは威嚇されたことがある。アオダイショウは、おとなしい性格で、カメラを向けても、逃げないことが多い。
2023	6	12	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～24℃、南南東の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、フェーン現象で蒸し暑い、往路、撮影時、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、不明の蛾、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ツマグロヒョウモン♂吸蜜、ヒダリマキマイマイ、ジャコウアゲハの2令幼虫、鳥屋野潟、ヒトヨタケ、コシアキトンボ♀、ヨコズナサシガメ、カルガモ母親と幼鳥16羽、コフキトンボ♀未成熟横姿、コシアキトンボ♀横姿、イオウイロハシリグモ、ジャコウアゲハの幼虫に喰われたウマノスズクサ、を撮影した。ヒトヨタケは始めて撮影した。キノコの図鑑等の文献も探した方が良さそうだ。カルガモの母親が幼鳥を16羽も連れていた。「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」には、『産卵期は4～7月、卵数は10～12個、抱卵日数は26日位』と書いてある。16羽は新記録である。

西暦	月	日	日誌
2023	6	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～24℃、南西の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、フェーン現象で蒸し暑い、撮影途中で通り雨、帰路で陽傘(晴雨兼用)をさす。ギンブナ、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ホソヘリカメムシ、マダラヒメバチ、ミギマキマイマイ、アワフキムシの幼虫が排泄物をあわだてた泡状の巣、シオヤアブカップル交尾、クサガメ♂(メラニズム:黒化)、コフキトンボ♀未成熟横姿、同じく♂未成熟後姿、カルガモ母親と幼鳥4羽、を撮影した。マダラヒメバチは始めて撮影した。「世界文化生物大図鑑 昆虫 I」には、『体長約14mm。アゲハチョウの幼虫に寄生する。成虫で越冬。日本全土に分布』と書いてある。生活史等の生態の説明が乏しい。市立図書館から「ハチ ハンドブック 増補改訂版」を借りたが、このハチは記載されていなかった。
2023	6	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は23～25℃、静穏0m/s、雲間からの陽射しは弱い、フェーン現象で蒸し暑い、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、サルビア・マイクロフィラ' ホット・リップス紅白の花、キジ♂横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハの中令幼虫、同じく2令幼虫、ヤマシロオニグモ、アワフキムシの幼虫が排泄物をあわ立てた泡状の巣、鳥屋野潟、イオウヒロハシリグモ、コシアキトンボ♂後姿、コフキトンボ♀未成熟前姿、カルガモ母親と幼鳥2羽、を撮影した。マダラヒメバチは始めて撮影した。ジャコウアゲハの成虫の姿が見えなくなった。幼虫が、あちこちのウマノスズクサの葉の裏側で活動を始めた。幼虫は成虫と異なり、グロテスクな様相を帯びている。
2023	6	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～25℃、南西の風5m/s、陽射しは強いが、湿度が低く、日影は涼しい風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。カンムリカイツブリ親子、同じく雛と親鳥、鳥屋野潟、ジャコウアゲハの中令幼虫、クサグモ、ヒメギス♀、ハンゲショウ、鳥屋野潟公園ビオトープため池、オオシオカラトンボ♂、セグロアシナガバチが巣作りのために木屑を採取、コシアキトンボ♂後姿、コフキトンボ♂未成熟後姿、アマガエル(後姿)が擬態する(ショウブの葉の上)、ギンブナ2尾が口をパクパクする、ウチワヤンマ♂横姿、同じく後姿、を撮影した。ギンブナは、「日本魚類館」によると、『体高はゲンゴロウブナよりも低い、日本産フナ属魚類の中では高い。染色体数は3n=150の3倍体で、雌性発生による単為生殖を行う。少数であるが、有性生殖を行う個体も存在する。』と書いてある。単為生殖とは、メス(雌)もしくはオス(雄)が単独で子どもをつくり出すタイプの生殖方法で、ギンブナの場合は♀がそれを行う。つまり同種のみがいなくても繁殖できる訳である。オスの精子は発生の刺激となるだけで、遺伝的に貢献しないので、同所的に生息している有性生殖を行なうフナ類(ギンブナ・ナガブナ・ニゴロブナ・ゲンゴロウブナ等)の♂が居れば、ギンブナ♀は子供を作れる。妄想であるが、人間も単為生殖をする様になれば、少子化の問題は一気に解決するかもしれない???
2023	6	19	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～22℃、北の風4m/s、陽射しは強いが、湿度が低く、日影は涼しい風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、カワウ♀横姿、カンムリカイツブリ夏羽後姿、ミスジガガンボ、ジャコウアゲハの中令幼虫、鳥屋野潟、アジサイ、クサガメ甲羅干し、コシアキトンボ♂後姿、コフキトンボ♂前姿、シオヤアブ♀、を撮影した。ミスジガガンボは始めて撮影した。「昆虫探検図鑑1600」によると、『体長は5～6mm、出現期は5～6月、分布は本州、四国、九州、翅に3本の黒帯がある。低山地～山地の林縁などで見られる。』と書いてある。生活史についての記述がない。他の文献を探すことにする。

西暦	月	日	日誌
2023	6	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～23℃、北東の風2m/s、陽射しは強いが、湿度が低く、日影は涼しい風、往路、撮影中、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、ネジバナの花(紅紫色)、鳥屋野潟、コシアキトンボ♂未成熟虫、不明のクモ、ジャコウアゲハの2令幼虫、鳥屋野潟、シオカラトンボ♂、ツクサの花(青色)、コヒルガオの花(ピンク色)、コフキトンボ♀未成熟横姿、ジャコウアゲハ中令幼虫3匹、を撮影した。昨日、自然生態園のため池でギンヤンマ♂が飛翔していたが、今日は見かけなかった。ジャコウアゲハの幼虫がウマノスズクサの葉を盛んに摂食していた。彼らを捕獲して食べる昆虫や鳥がいないことから、身を隠すことなく、辺りを気遣うことなく、ひたすら食べることに集中していた。私が、葉っぱを揺らしても、引っ張っても、まったく動じない、平然としている様に見えた。
2023	6	22	2016年版の昆虫類バッタ等のヒメギス長翅型まで更新。
2023	6	24	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～25℃、南西の風3m/s、陽射しは弱い、湿度が高くないので、日影は涼しい風、帰路で陽傘をさす。鳥屋野潟、オオキンケイギク、ツバメ♂、同じく♀、同じく幼鳥、ネジバナの花(紅紫色)、鳥屋野潟、カルガモ幼鳥2羽、ギンズナ群れ、ジャコウアゲハの中令幼虫、イシミカワ葉、シオカラトンボ♂、シオヤアブ♀後姿、オオヒラタシデムシ成虫5匹と幼虫2匹、シオヤアブ♀横姿、コフキトンボ♀未成熟横姿、キアシナガバチ巣作りのために木屑を採取、ガガブタの葉にとまるクロイトトンボ♂、カルガモ母親と幼鳥3羽、を撮影した。オオキンケイギクは、環境省ホームページには『特定外来生物「オオキンケイギク」の駆除にご協力下さい!』と掲示されている。さらに、『地域により差がありますが、5月頃から特定外来生物である「オオキンケイギク」が黄色い花を咲かせ、目立ち始めます。海外から来たこの植物は、繁殖力がとても強く、在来の植物を駆逐し、地域の生物多様性を脅かします。』と説明している。鳥屋野潟公園では見かけないが、道路の路肩、民家の庭先の花壇などで見かけることがある。地先の人が管理している場所ならば、増えることは無いが、国道等の幹線道路の路肩や法面で繁殖しているオオキンケイギクは、定期的に駆除しないと、大繁殖して脅威となる恐れがある。
2023	6	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～26℃、北北西の風1m/s、陽射しは弱く、湿度が高くないので、日影は涼しい風、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。そして、陽傘をさす。鳥屋野潟、ヨウシュヤマゴボウ果実、ネジバナの花(紅紫色)、鳥屋野潟、ヤマシロオニグモ♀、アカミミガメ穴掘り(産卵のため)、ベニシジミ吸蜜、チャコウラナメクジ、ショウブの葉の上で交尾をするクロイトトンボカップル、ハグロトンボ♂、を撮影した。アカミミガメは、「外来種ハンドブック」には、『ミシシッピアカミミガメはヌマガメ科の中型種で、背甲長は最大で28cmに達する。アメリカ合衆国から南アメリカ大陸の北西部にかけて16亜種ほどが分布するアカミミガメの1亜種であり、本来の分布域はアメリカ合衆国南部のニューメキシコ州からアラバマ州にかけてと、メキシコ北東部の国境地帯である。本亜種は河川、湖沼、人工的な池や水路、湿地や沼沢地等様々な水域に生息し、底質が柔らかく水生植物が繁茂する。日光浴に適した陸場の多い緩やかな流れを特に好む。魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫等を、生体、死骸を問わず食べるほか、藻類、水草、陸生植物の葉、花、果実等も食べる。小型の個体ほど動物食の、大型の個体ほど植物食の傾向が強い。』と書かれている。鳥屋野潟で見かける亀は、このアカミミガメが断然多い。「川の生物図典 リバーフロント整備センター編集」には、『秋から春にかけて交尾する。交尾期の雄は雌の前で前肢の長い爪をふるわせて求愛ディスプレイを行う。雌は体内に蓄えた精子を使って5～8月に産卵する。繁殖場所は生息場所周辺の池や沼の水辺に穴を掘って産卵する。産卵は2～3回に分けて行なわれ、合計25個ほど産む。卵は約70日で孵化し、甲長約30mmの子ガメになる。』と書いてある。撮影画像は、自然生態園の散策路のど真ん中で穴掘りをしていたアカミミガメである。甲羅に首をひっこめて、ジーツとしていた。おとなしい性格で、人に対して威嚇するような行動は見ることが無い。水路の傍で、のんびりと甲羅干しをしている姿を、通りすがりの人が、スマホで撮影している事が多い。人々は、その姿になんとなく愛着を感じているようだ。

西暦	月	日	日誌
2023	6	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～26℃、北の風1m/s、陽射しは強いが、湿度が高くないので、日影は涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ヤマトシジミ吸蜜、カンムリカイツブリカップル求愛行動～水草を銜えて頸を左右に振り営巣を促す、鳥屋野潟、シオヤアブカップル交尾、コフキトンボ♀未成熟虫前姿、ジャコウアゲハの中令幼虫、巻層雲(高度5000～13000メートル)、を撮影した。ヤマトシジミは、『日本の蝶増補版』には、『食草はカタバミ、生息環境は、草原、農地、公園、人家、河川、平地～低山地の人為的な環境に広く見られ、人家や石垣、荒地などカタバミが少しでも生える空間があれば、どこでも発生する。日中は低い位置を飛翔し、キツネノマゴ、カタバミ、シロツメクサなど各種の花を訪れる。葉上や地面などにとまり、翅を半開する。都市部で最もよく見られるチョウの一つであり、個体数も多い。近年分布が北上している。』と書いてある。白っぽい小さなシジミチョウで、あちこちでよく見かけるが、フラフラと飛んでいることが多く、撮影回数は少ない。翅の表面が水色がみ、黒色が♀である。翅を開いてくれないと雌雄の判別ができない。
2023	6	27	2016年版の昆虫類バツタ等のヒメハラナガツチバチまで更新。
2023	6	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～27℃、南西の風3m/s、陽射しは弱い、湿度が高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ニホンカナヘビの前姿、ネジバナの花(紅紫色)、ギンブナが口をパクパクする、コフキトンボ♀未成熟横姿、コイの頭部、コシアキトンボ♀横姿、ニホンカナヘビの前姿、クサガメ、カンムリカイツブリ夏羽前姿、鳥屋野潟、コゲラ♀が木を突く(後姿)、ヒメギス♀、アマガエル擬態、コフキトンボ♀前姿、ニホンカナヘビの前姿、を撮影した。排水樋門吐き口のヨシ原上空を飛ぶウチワヤンマを確認、たぶん、数分間待ったが戻ってこなかった。自然生態園のヨシ原で、アオヤンマがウキヤガラやヨシの茎間を縫うように飛んでいた。これもたぶん、縄張りを周回している様子である。いずれも、撮影できず。残念。
2023	7	2	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～27℃、南南東の風2m/s、雲間からの陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。カンムリカイツブリ幼鳥3羽と親鳥、鳥屋野潟、シオカラトンボ♀未成熟虫、シオヤアブ♀後姿、鳥屋野潟、ヒダリマキマイマイ、ナワシロイチゴの果実、ギンブナ3尾、コシアキトンボ♀横姿、ジャコウアゲハの中令幼虫、ヤマシロオニグモ、ヌマトラノオの花(白色)、ベニシジミ吸蜜、を撮影した。自然生態園でアオヤンマ、アオスジアゲハ、ギンヤンマ♂を確認。
2023	7	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～26℃、西南西の風5m/s、雲間からの陽射しは強く、湿度は高く暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、キジ♀が伏せる(横姿)、鳥屋野潟、ショウジョウトンボ♀未成熟虫、ギンブナ群れ、ジャコウアゲハの中令幼虫、アカミミガメ産卵穴、鳥屋野潟、アマガエル擬態、キカラスウリの花(白)、ガガブタの花(白)、を撮影した。ショウジョウトンボは、『日本のトンボ改訂版』に、『【生息環境】平地～丘陵地の開放的な池沼や湿地など。【生活史】卵期間5日～2週間程度、幼虫期間2～8か月程度(1年1～多世代)。幼虫で越冬する。【形態】中型のトンボで、♀や未成熟のみは橙黄色～黄褐色をしているが、成熟♀は全身が鮮やかな赤色になる。南西諸島の個体群は腹部背面の黒条が目立つ。』と書いてある。撮影した♀未成熟虫は、幼虫で越冬したものかもしれない。

西暦	月	日	日誌
2023	7	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～25℃、北東の風2m/s、雲間からの陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影は涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟が皿で鏡の様な水面、ツバメシジミ吸蜜、カンムリカイツブリカップル求愛行動(頭を左右に振る)、カンムリカイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、ハグロトンボ♂、ジャコウアゲハ♀羽損傷、同じく♀、アオダイショウの抜け殻(樹上)、シオカラトンボ♂未成熟虫、ガガブタの花(白)、カンムリカイツブリ幼鳥横姿、を撮影した。自然生態園のヨシ原でアオヤンマ♂3匹が縄張り争いを繰り返していた。縄張りの境界らしきところで、出くわす度に体当たりをして、強い方が10メートルくらい弱い方を追いかけ回していた。筆者はアオヤンマを10分間くらい観察したが、暑い陽射しの中で三つどもえの争いを繰り返し、ヨシに止まる気配が無いので、その場から立ち去った。
2023	7	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は27～28℃、東南東の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。携帯電話(歩行数測定)とGPS機器を忘れてしまった。鳥屋野潟、深水中に佇むアオサギ、ジャコウアゲハ♂横姿、ノシメトンボ♀未成熟虫、マメコガネ、ヒメギス♀、クサガメ甲羅干し、狩りの獲物で胴体が膨らんだアオダイショウ(樹上)、を撮影した。自然生態園のヨシ原でアオヤンマ♀がヨシの茎に産卵する姿を目撃した。しかし、茎間が狭く、ピント合わせに時間がかかり撮影できず。鳥屋野潟岸辺近くのコウホネの葉に止まっていたウチワヤンマ(たぶん)にピントが会った瞬間に逃げられ、撮影できず。
2023	7	6	2016年版の昆虫類バッタ等のフタモンクロテントウまで更新。
2023	7	7	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は27～32℃、南南西の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、オオキンケイギク、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、コシアキトンボ老齢♂、ウマノスズクサのベビーリーフ、カンムリカイツブリ(夏羽)浮上横姿、チョウトンボ♀、ガガブタの花(白)、キイトンボ♂、ノウゼンカズラの花(橙色)、を撮影した。チョウトンボは「日本のトンボ改訂版」では『【生息環境】平野～丘陵地の、浮葉植物や抽水植物の繁茂した池沼、河川敷の淀みなど。【生活史】卵期間5日～2週間程度、幼虫期間8か月～1年程度(1年1世代)。幼虫で越冬する。成虫は移動性が強く、浮葉植物や抽水植物があれば都市部の公園の池でもみられることが多い。』と書いてある。チョウの様にフワフワと飛ぶ。♂は縄張り争いの時は、直線的に、それなりのスピードで飛ぶ。ただし、その距離は短い。
2023	7	8	2016年版の昆虫類バッタ等のホソヒメヒラタアブまで更新。
2023	7	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～30℃、南の風3m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。晴雨兼用傘は往路、帰路です。ゴマダラカミキリ、ムクゲの花(白)、ウチワヤンマ♂横姿、コフキトンボ♂横姿、ウチワヤンマ♂横姿、ジャコウアゲハ♀、同じく♂、ギンブナ群れ、コイ、ニホンカナヘビ妊娠中、を撮影した。人影の少ない遊歩道で、シマヘビ若齢と遭遇したが、コンデジがバッテリー切れで撮影できず。胴体は細く、体長1m弱、縦縞があり、体はオリーブ色であるが眼はオレンジ色に見えたので、シマヘビであろう。2分間くらい傍で観察したが、シマヘビは驚く様子もなく、ゆっくりと先を確認しながら自然生態園の池畔林へと移動した。シマヘビは気が荒いイメージがあるが、私をジロリと見る眼差しは、まるでアオダイショウの様に落ち着いていた。
2023	7	11	2016年版の昆虫類バッタ等のマガリケムシヒキまで更新。
2023	7	12	2016年版の昆虫類バッタ等のマメコガネまで更新。

西暦	月	日	日誌
2023	7	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は27～27℃、西の風5m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カワウソタケ、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、ジャコウアゲハ♂横姿、オオコフキコガネ、ウチワヤンマ♂横姿、ハンゲショウの花、アオヤンマのヤゴ抜け殻、チョウトンボ♂、ギボウシ白い花、ガガブタの花、キイトンボカップル植物中産卵、ニホンミツバチの自然巣、ニゴイ、を撮影した。アオヤンマのヤゴは、「写真で分かるヤゴの見分け方」に、『全長42mm～45mm 体色は独特の明るい黄褐色で茶褐色の斑紋がある。複眼の後縁から後方にかけて直線的である。ネアカヨシヤンマに似るが背棘がない。平地から丘陵地のヨシやガマなど背丈の高い抽水性の水草が繁茂する池。水草につかまっている。また枯れた植物につかまっていることもある。卵期間2～3週間程度 幼虫期間1～2年程度 幼虫で越冬する。分布は北海道・本州・四国・九州』と書いてある。撮影したため池には、アオヤンマが生息しており、ヤゴの複眼の後縁から後方にかけて直線的な模様があることから、本種と同定した。
2023	7	14	2016年版の昆虫類バッタ等のミドリキンバエまで更新。
2023	7	15	2016年版の昆虫類バッタ等のモンスズメバチまで更新。
2023	7	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～32℃、南南西の風3m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、岸辺に佇むアオサギ(横姿)、鳥屋野潟、カワウが口を開けて体温調節、ハグロトンボ♀、ギンブナ群れ、ニホンミツバチの自然巣、ウチワヤンマ♂横姿、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の表側に産卵)、コガネグモ♀営巣、ヌマトラノオの花(白色)、甲羅が傷ついたクサガメ、チョウトンボ♂、クズの花(赤紫色)、を撮影した。自然生態園で、アオヤンマがヨシの茎間を縫うように飛んでいた。ヨシ原の奥へ行けば、茎にぶら下がるアオヤンマに遭遇する可能性は高いが、しかし、シューズでは、マダニやブヨ、蚊などに刺されてしまう。長靴を履いて、虫刺され防止スプレーで頸や腕、足をしっかりとガードしないと危険である。
2023	7	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南南西の風3m/s、雲間からの陽射しが強く、やや蒸し暑い、日影は涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ひとりぼっちのツバメ幼鳥、鳥屋野潟、ハラビロカマキリの壊れた卵囊、ウチワヤンマ♂横姿、コイ、カムルチー、カムリカイツブリ夏羽横姿、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、アオダイショウの抜け殻(樹上)、鳥屋野潟、ニホンカナヘビの尻尾は切れても再生する、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、ニホンミツバチの自然巣、を撮影した。ハラビロカマキリの卵は、「世界文化生物大図鑑 昆虫 I」に、『硬く、ほぼ卵形で、幹や小枝に産み付けられる。』と書いてある。また、「日本の昆虫生態図鑑」に、『樹上性の傾向が強く、林縁などに生息する。成虫は8月～11月に出現する。』と書いてある。2022年11月にソメイヨシノの幹に産み付けられたハラビロカマキリの卵を撮影したことがある。たぶん、オナガアシトコバチの卵が産み付けられ、幼虫が寄生して、ハラビロカマキリの卵を壊して産まれたと考えた。

西暦	月	日	日誌
2023	7	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は28～29℃、南の風2m/s、雲間からの陽射しは弱い、湿度は高く蒸し暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、コムドリ♂前姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリカップル求愛行動、排水樋門吐口、ニホンミツバチの自然巣、ジャコウアゲハ♂横姿、同じく♀前姿、鳥屋野潟、オオシオカラトンボ♂、鳥屋野潟公園ビオトープため池、チョウトンボ♂、シオカラトンボ♀未成熟虫、ショウジョウトンボ♂、シマアシブトハナアブ♂、ハンゲシヨウ、セリの花、セグロアシナガバチ吸蜜、コシアキトンボ♂後姿、木橋の手摺を歩くカルガモ♀、ヒメシジミ♂、ガガブタの花、ハグロトンボ♀、ムクゲの花(桃色)、を撮影した。ヒメシジミは、「検索入門 渡辺康之著 チョウ」に、『分布は、北海道(利尻島含む)、本州(東北、関東、中部、中国地方)、九州(久住高原)。出現期は年1回発生。6月上旬から羽化する。おもに7～8月に見られる。卵(卵内初齢幼虫)で越冬する。生態は、草原、湿原、河原の草地に棲む。草の上を緩やかに飛び、ヒメジョオン、クガイソウ、アザミ類などで吸蜜する。地上で吸水すること多い。食草は、キク科のヨモギ、アザミ類、マメ科のイワオウギ、タデ科のオオイタドリなど、食性は広い。♂の翅表は青藍色、外縁に黒帯があり、寒冷地のものは黒帯の幅がせまく、小型。』と書いてある。撮影した♂は老齢なのか、薄い色合いで、ちょっと自信が無い。→7月19日に「ヤマトシジミ♂」と訂正しました。
2023	7	19	7月18日のヒメシジミ♂→ヤマトシジミ♂に訂正しました。
2023	7	20	長潟の田園地帯(江南区を含む)で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～26℃、北の風3m/s、雲間からの陽射しは弱く、昨日に比べて、やや涼しい。陽傘は往路、帰路です。アメリカタカサブロウ、畦畔、田園景観、幹線用水路、小松堀排水路、シオカラトンボ♀、ヘクソカズラ、モンシロチョウ♀吸蜜、チュウサギ飛翔、小排水路、稲の穂、溝畔に佇むアオサギ、田園景観、ハクセキレイ♂前姿、田園景観、シオカラトンボ♂、オモダカ雄花、ヒメタニシ、支線排水路、ショウジョウトンボ♂、ハラビロカマキリ幼虫、を撮影した。アメリカタカサブロウは、「植調-雑草大鑑」に、『戦後に日本に侵入。畦畔沿いや田面の露出部分に出芽、畑条件でも出芽し、道ばたや空き地でも生育し、転換畑の夏作物で害草となっている。近年はタカサブロウよりも本種のほうが多いと思われる。』と書いてある。在来種のタカサブロウは、『水田、水辺、畦畔沿いや田面の露出した部分に出芽、定着しやすい。整備されていない古くからの湿潤な水田に多い。』と書いてある。近年の土地改良事業により、水田が整備され大区画となり、用排水が分離し、暗渠排水が完備されて農業機械による高生産性農業が全国的に拡大した。その結果、アメリカタカサブロウの生育環境も拡大したようである。タカサブロウが絶滅危惧種になるのは、時間の問題かもしれない。
2023	7	21	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～27℃、北の風3m/s、雲間からの陽射しは強いが、湿度は低くそれほど暑くない、日影は涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ハグロトンボ♀、鳥屋野潟、ヒメギス♂、卵のうを抱えたイオウイロハシリグモ、ナガコガネグモのカップル営巣、アオヤンマ♂頭部、アオヤンマカップル交尾、アオサギが餌を探す、ジャコウアゲハ♀羽損傷、を撮影した。アオヤンマは、「日本のトンボ改訂版」に、『【生息環境】平地～丘陵地のヨシやガマ、マコモなど、背丈の高い抽水植物の繁茂する池沼や湿地。しばしば河川敷でもみられる。【生活史】卵期間2～7週間程度、幼虫期間1～2年程度(1～2年1世代)。幼虫で越冬する。【分類】国内の種ではネアカヨシヤンマと近縁。【備考】全国的に産地は限られ、地域によつては減少が著しい』と書いてある。新潟県および国で準絶滅危惧種(NT)に指定されている。ヨシ原の茎間を縫うように飛んで、滅多に休まない。しかし、交尾や産卵の時には長時間ヨシに止まることが多い。今年も、どうか撮影チャンスに恵まれた。

西暦	月	日	日誌
2023	7	22	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は27～29℃、北の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ジャコウアゲハみ後姿、ニホンミツバチの自然巣、ジャコウアゲハみ横姿、アオダイショウ樹上、同じく顔、鳥屋野潟、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、アオサギが木陰で餌を探す、ヤマトシジミみ、同じく♀吸蜜、ハグロトンボみ未成熟虫、を撮影した。ハグロトンボは、「日本のトンボ改訂版」に、『【生息環境】平地～丘陵地の河川、用水路。抽水植物や沈水植物が繁茂する環境を好む。【生活史】】卵期間2～3週間程度、幼虫期間1～2年程度(1～2年1世代)。幼虫で越冬する。成虫の出現期は6月下旬～9月上旬。【分類】従来アオハダトンボ属に含められていたが、DNA解析の結果、タイワンハグロトンボ属に近縁であることが示されたため、ハグロトンボ属が新設された。【備考】河川改修を行うと激減することが多い。』と書いてある。今までに新潟県内で164画像を撮影したが、信濃川上流域の山奥の津南町から、低湿地の鳥屋野潟まで、いろいろな地域で撮影した蝶である。水辺の木陰で見かける事が多い。
2023	7	23	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～31℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、ニホンミツバチの自然巣、アオダイショウ樹上、鳥屋野潟、ウマノスズクサ、ニイニイゼミ抜け殻、ジャコウアゲハ♀老齢(産卵が終わって終末を迎えた?)、ミドリシジミ♀羽損傷、ムクゲの花(白色)、を撮影した。ミドリシジミは、「日本のチョウ増補版」に、『【食草】ハンノキ、ヤマハンノキ(カバノキ科)。【生息環境】森林・湿地。河川 平地～丘陵地では、池や河川の氾濫原、谷戸の周囲など、湿潤な立地に形成されるハンノキ林が生息地となり、しばしばおびただしい数が発生している。山地では、溪流沿いや林道法面などに生えるヤマハンノキの群落に生息している。【行動】みは16～19時頃に活動し、複数の個体が食草の梢上をめまぐるしく飛び交うほか、特定の枝先などで占有行動をとり、他のみと出会うと素早く追飛し卅巴飛翔を行う。♀はみに比べ不活発で、日中はクリの花で吸蜜するほか、クワの果実などで吸汁する。【生息状況・保全】人為的な影響の少ない場所では安定して見られるが、市街地に近接する生息地は、宅地造成など各種開発により減少傾向にある。近年はゲンジボタルなどとともにより山にシンボルとして保全の対象とされることもある。』と書いてある。今までに新潟県内の丘陵地～平地で、5体(6画像)を2008、2010、2019、2021、2023年に撮影した。
2023	7	24	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ジャコウアゲハみ吸蜜、鳥屋野潟、アブラゼミ抜け殻、同じく触角、アブラゼミ、シオカラトンボ♀、ナガクビガメの仲間?の死体、キイトンボみ、を撮影した。ナガクビガメの仲間?は、日本の亀ではない。ネット情報には『ペットとして人気が高いので、乱獲されたことがあり、一部地域では輸出が禁止されています。輸出が禁止されていて、流通している個体数が少ないので、種類によっては10万円以上する。』と書いてある。それが、どうして自然生態園のため池で死体となって浮かんでいたのだろうか?誰かが廃棄したとすれば、甚だ遺憾なことである。「危険生物 陸編」に、スッポンとカミツキガメは記載されているが、ナガクビガメは載っていない。世界の爬虫類図鑑等の文献を調べてみることにする。

西暦	月	日	日誌
2023	7	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～33℃、南南東の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟カンムリカイツブリ夏羽浮上前姿、ウチワヤンマ♂横姿、鳥屋野潟、カワウ♀若齢が口を開けて体温調節、アオヤンマカップル交尾、稲の穂ばらみ期を迎えた田んぼ、コフキトンボ♂がヨシの葉の日陰で休む、ミンミンゼミ抜け殻、を撮影した。ミンミンゼミは、『日本の昆虫生態図鑑』に、『体長は57～63mm、分布は北海道、本州、四国、九州、対馬、出現期は7月～9月、体は太く短くやや偏平。胸背は黒地に緑色紋が点在するが、変異がある。全体が淡緑色や黒色の個体がある。サクラなどの広葉樹に多く、ミンミンミンミーと鳴く。』と書いてある。成虫は、2022年9月12日自然生態園の池畔林で1体だけ撮影したことがある。翅が透明で、黒い体で目立たない。木の上の方に止まっているのか？木陰で探すのは困難である。最近、家に帰ってしばらくの間、『ミン』という耳鳴りがする。
2023	7	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南南東の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ゴマダラチョウ♀吸水、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ウチワヤンマ♂オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、鳥屋野潟、ウシガエル、ショウジョウトンボ♂、アブラゼミ抜け殻、ミンミンゼミ抜け殻、を撮影した。ゴマダラチョウは、『日本のチョウ増補版』に、『♂♀で色彩・斑紋に差異はほとんどないが、♀の翅形は幅広く、白色の度合いが強い傾向がある。分布は本州、四国、九州、対馬、成虫は5月～10月に活動、食草はエノキ、エゾエノキなど(アサ科)、生息環境は森林・農地、公園、人家、河川、平地～低山地の落葉広葉樹林、雑木林で多く見られるほか、都市公園や社寺林などの小規模な樹林でも見られる。行動は、日中、樹冠部を中心に滑空しながら飛翔し、樹液によく集まるほか、腐果などにも集まる。地面で吸水も行う。』と書いてある。成虫は20画像撮影した。2016年に村上市松沢で1画像、それ以外は全て鳥屋野潟公園である。地面等で吸水する以外は、数メートル高い樹冠に近いところを飛んでいる事が多く、目撃する機会は多いが、シャッターチャンスが少ない蝶である。
2023	7	27	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南西の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。アオサギが餌を探す、鳥屋野潟、シマヘビの胴体、ニホンミツバチの自然巣、アオダイショウ顔樹上、鳥屋野潟、アオヤンマ♀腹部、アオヤンマカップル交尾、アオヤンマ♂頭部と胸部、同じく♀頭部と胸部、チョウトンボ♂オベリスク姿勢(強い陽差しを避ける)、ウチワヤンマ♂後姿、を撮影した。オベリスク姿勢は、ネット情報では『逆立ちをすることで太陽の光を受ける体の面積を減らし、体温が上がらないように調整する姿勢のこと』と書かれている。陽射しをなるべく受けない様に、頭部から尾部まで棒状に真直ぐにして、頭を低く尾部を太陽の方に跳ね上げる姿勢である。ライバルが多くて木陰で休めない♂が、陽射しが強い時に縄張りを守り抜くために、瞬時に臨戦態勢に入れる姿勢なのかもしれない。なお、真夏日の木陰で数メートル上空を飛んでいるトンボは、縄張り意識のない♀が多いようである。

西暦	月	日	日誌
2023	7	28	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～31℃、南南西の風1m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ハグロトンボ♂、ウチワヤンマ♂後姿、鳥屋野潟、アオヤンマカップル交尾、ハンゲショウの花(花弁も萼もない)、ムクゲの花、ノシメトンボ♀、サトクダマモドキ♀幼虫、アブラゼミ抜け殻、ソメイヨシノの樹液(コスカシバ幼虫の食害によるもの)、を撮影した。ノシメトンボは、「日本のトンボ改訂版」に、『【生息環境】平地～山地にかけての池沼・湿地・水田など。【生活史】卵期間半年程度、幼虫期間3～5か月程度(1年1世代)。卵で越冬するが、飼育下では1か月ほどで孵化することもある。北海道～九州まで、もっとも普通にみられるアカトンボの一種。』と書いてある。7～8月の真夏日は、風通しの良い林の木陰で、見かけることが多い。9月以降は、稲刈り後の田んぼで、♂♀が連結して生殖活動(交尾や産卵)をしていることが多い。
2023	7	29	鳥屋野潟と栗ノ木川周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南の風1m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、新潟市立図書館でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、アオダイショウ幼蛇遊泳、シロネ(白い花)、オオシオカラトンボ♂、アメンボ幼虫、キダチアロエ(橙色の花)、栗ノ木排水機場旧跡の看板、を撮影した。排水樋門吐口で10数分間、15m四方の水面とヨシ原を観察した。足元でシロネとアメンボを撮影、オオシオカラトンボ♂とコシアキトンボ♂が縄張り争いの最中で、なかなか日陰の草に止まろうとしなかった。シロネは葉が対生で、葉の根本に白い小さな花を10個くらい咲かせる。それが、1本の茎の根本から10数段ぐらい縦に並んでいる。まるでタワーマンションの様?である。なお、「シロネ」は漢字で「白根」と書く。
2023	7	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南南西の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、コウホネ群生、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、同じく♀横姿、鳥屋野潟、オオシオカラトンボ♂、鳥屋野潟公園ビオトープため池、コバネイナゴ幼虫、チョウトンボ♂、ガガブタの花、オオモンクロクモバチ、を撮影した。オオモンクロクモバチは、「狩蜂生態図鑑」に、『体長:12～25mm。分布:北海道、本州、四国、九州。獲物:ハシリグモ類、アシダカグモ、コアシダカグモなど。巣の形式:ネズミ、モグラなどの巣の奥に巣を掘る。触肢を保持、後退運搬する。地中深くに営巣するため、巣を調べるのは困難。筆者もまだ房室(卵)を確認したことはない。』と書いてある。ハチはハナバチと狩蜂に分類されている。ハナバチは花粉と蜜を幼虫の主食とする蜂で世界で約22000種が知られている。狩蜂は他の昆虫やクモを狩り幼虫の主食とするハチの仲間で、日本で確認されているだけでも約1,000種類もいるそうである。
2023	7	31	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～31℃、南の風2m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ショウジョウトンボ♀オベリスク姿勢(強い日差しを避ける)、ベッコウハゴロモ、ジャコウアゲハ中令幼虫、鳥屋野潟、アブラゼミ、ハンゲショウの花、アオスジアゲハカップル交尾、清五郎排水路、アオスジアゲハカップル交尾、オオヤマトンボ♀、を撮影した。オオヤマトンボは、「日本のトンボ改訂版」に、『【生息環境】平地～丘陵地にかけての水面の開けた池沼や湖、河川の淀み。【生活史】卵期間1～2週間程度、幼虫期間2～3年程度(2～3年1世代)。幼虫で越冬する。出現期は成虫が5月下旬～9月中旬。全国に広く分布するが、北海道では山地に限られる。』と書いてある。今までに8画像、8体撮影した。最初に撮ったのは、2010年で、佐渡島の相川北部のため池で♀未成熟の死体を撮影。頭部と胸部の金属光沢の青緑色がとてもきれいである。真夏日に、湖畔林の木陰で長時間、枝にぶら下がっていることが多く、まさに、シャッターチャンスなのである。残念ながら、交尾のシーンは撮ったことが無い。

西暦	月	日	日誌
2023	8	1	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～31℃、南南東の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、帰路でワイシャツを脱ぎ、Tシャツ1枚となる。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ジャコウアゲハ中令幼虫、鳥屋野潟、オオシオカラトンボ♂、ウチワヤンマ♀後姿、同じく横姿、同じく前姿、カンムリカイツブリ夏羽横姿、清五郎排水路、アマガエル擬態(ヨシの葉の上)、チョウトンボ♂、ソメイヨシノの樹液(コスカシバ幼虫の被害によるもの)、を撮影した。ウチワヤンマは、『日本のトンボ改訂版』に、『【生息環境】】平野～丘陵地の水面の開けた池沼や湖。【生活史】卵期間1～2週間程度、幼虫期間1～2年程度(1～2年1世代)。幼虫で越冬する。出現期は成虫が6月中旬～9月初旬。本州～九州にかけて広く分布するが、近畿地方など減少している地域もある。幼虫は水深の深いところにいるため、採集や観察は難しい。【分類】海外から亜種が記載されているが、分類学的な整理はなされていない。国内の種では、タイワンウチワヤンマと近縁である。』と書いてある。今までに♂は51画像、♀は34画像撮影した。その中で♂は6月17日撮影が最も早く、9月6日が最も遅い。出現期6月中旬～9月初旬に相当する。一方、♀は7月5日が最も早く、9月11日が最も遅い。最初に♂が出現し、半月が経過してから、♀が出現すると仮定すると、縄張り争いの決着がついて強い♂が残った頃に、♀が現れて交尾、産卵活動を行うという筋書になる。生態的な筋書が、このトンボのゲノムに設計されていたなら、とても面白いことになる。
2023	8	2	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～32℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、ヒメギス♀片足欠損、ジャコウアゲハ1令幼虫、ノシメトンボ♂、清五郎排水路、エントツドロバチ、ハンゲショウの花、稲の出穂と開花、サトクダマキモドキ幼虫、シオカラトンボカップル交尾、ウチワヤンマ♀横姿、アブラゼミ、を撮影した。エントツドロバチは、『狩蜂生態図鑑』に、『体長:18mmほど。分布:本州、四国、九州。獲物:メイガ、ハマキガの幼虫。巣の形式:開放空間では、泥で細長いドームを作り入り口には下向きのトンネル(エントツ)を設置する。既存坑を利用する場合でも、入り口には下向きのトンネルを設置する。本種の一番の特徴は「随時給餌」である。産卵しても孵化が近づくまでは獲物を搬入しない。その後も幼虫の成長に合わせゆっくりと獲物を運び入れ、1週間ほどで1房室を完成させ、次の部屋を作る。』と書いてある。今までに2画像しか撮影していない。一つは6月1日に自然生態園の木橋の手摺で撮ったもので、木屑を採取している様に見えた。セグロアシナガバチなどが巣作りのために木屑採取をよく行っている。今日の画像は、2匹が地面の穴の入り口付近で、何か作業をしている様に見えた。本書に、『習性の判明している狩蜂の種類は半分以上で、まだ多くの狩蜂が面白い習性を秘密にしたまま、私たちの隣人として生きています。解明が進まない理由の一つが研究者の数が少ないことです。』と書いてある。詳しい生活史については、解明がそれほど進んでいない様である。
2023	8	3	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～34℃、南南東の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。ピーピーと鳴いて親鳥に餌をねだるカンムリカイツブリ幼鳥、同じく幼鳥と親鳥、同じく親鳥が幼鳥にスジエビを運ぶ、同じく親鳥からスジエビをもらった幼鳥、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、ジャコウアゲハ1令幼虫、鳥屋野潟、ショウリョウバッタ♂、清五郎排水路、エントツドロバチ、ハンゲショウの花、不明の蛾、ハグロトンボ♂、を撮影した。スジエビは『新潟市の潟のデジタル博物館』に載っている。新潟県や国の準絶滅危惧種に指定されている。筆者は2004年に長潟の小路合流樹で捕獲して撮影したことがある。『日本産淡水性・汽水性 エビ・カニ図鑑』に、『体長約63 mmに達する。体色は全体に半透明で、頭胸甲には濃褐色の斜めの帯、腹部には横縞がある。胸脚の関節部は黄色や橙色である。湖沼にすむものは体色や模様が薄い。』と書いてある。カンムリカイツブリがくわえた状態の不鮮明な画像であるが、大きさや色合い等から、スジエビと思われる。親鳥が、潜水して数十秒間で何回も捕獲していたので、泳ぎが素早い小魚ではなく、たぶん甲殻類ではないかと想像していた。

西暦	月	日	日誌
2023	8	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～34℃、南南東の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低いが暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ幼鳥、鳥屋野潟、アブラゼミ、鳥屋野潟公園ビオトープため池、清五郎排水路、アオスジアゲハ♀、ハンゲショウの花、ホトギス見返り、シオカラトンボ♂未成熟虫、を撮影した。ホトギスは、『フィールド図鑑日本の野鳥』に、『5月～9月に夏鳥として、ほぼ全国に渡来する。生息環境は平地から山地の林など。1羽で生活し、林内や林縁で主にガ類の幼虫を採食する。托卵性で、主ににウグイスの巣に産卵し、育雛させる。雌雄ほぼ同色だが、赤色型の雌がいる。特に雄はツミ、ハイタカの雌に似る。腹部の横斑は脛まで7～8本。雌の胸部にはわずかに横斑があり、茶色みもある。』と書いてある。2015年4月23日に撮影して以来、2回目の遭遇である。後姿の画像であるが、この本によると幼鳥の様である。見返りした顔は、眼の虹彩がオレンジ色で、目の輪郭が黄色で、クチバシの根本がオレンジ色、と、まるで厚化粧をした顔である。しかし、このような説明はこの本には無い。
2023	8	5	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～34℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低いが暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウダイサギが餌を探す、鳥屋野潟、アブラゼミ、ウチワヤンマ♂横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハの1令幼虫、シジュウカラ幼鳥が日光浴、オオシオカラトンボ♀、エントツドロバチ、清五郎排水路、オオモンクロクモバチが蜘蛛を捕獲、ガガブタの花、チョウトンボ♂オベリスク姿勢、を撮影した。シジュウカラ幼鳥(小鳥)の日光浴についてネット情報では、『小鳥は、太陽光に含まれる紫外線を浴びることで体内でビタミンD3を生成します。生成されたビタミンD3は腸管、骨、腎臓に作用してカルシウムやリンの吸収を助け、丈夫な骨を作ります。ビタミンD3が不足すると欠乏症となり、幼鳥は成鳥不良、成鳥では骨軟化症や骨折などの問題が起こりやすくなります。また、メスは卵詰まりを起こしやすくなります。ビタミンD3ですが、通常の餌や野菜・果物類からは摂取できないと言われます。ビタミンD3の生成のための日光浴は小鳥の健康のために欠かせないものなのです。』と書いてある。シジュウカラ幼鳥の日光浴の様子は、2022年と今回で4画像3体を撮影している。その他に小鳥ではないが、2022年にキジバト1体と2021年にハシブトガラス2体が日光浴をしている様子を撮影している。「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」には生態について詳しい記載がないので、市立図書館から「鳥の生態図鑑」を借りることにした。

西暦	月	日	日誌
2023	8	6	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～34℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。カンムリカイツブリ幼鳥横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽前姿、鳥屋野潟、ササゴイ幼鳥横姿、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、オオヤマトンボ♂、ハンゲショウの花、オオモンクロクモバチ、ヒメギス♀、ウチワヤンマ♂オベリスク姿勢、チョウトンボ♂オベリスク姿勢、ササゴイ幼鳥見返り横姿、ササゴイ幼鳥横顔、を撮影した。ササゴイは「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」に、『キュウと鋭い声で鳴く、翼が黒っぽいゴイサギによく似た鳥。世界中の温帯から熱帯で広く繁殖する。日本は夏鳥として普通に渡来し、本州から九州までの各地の平地で繁殖する。南西諸島には冬鳥として出現する。主に川で生活し、池沼、水田、時には海岸でも見られることがある。開けた岸辺に、じっと立ち止まって待ち伏せ魚を見つけると縮めていた首をさっと伸ばして、尖ったくちばしで突き刺すか、もしくははさみとる。捕らえた魚はくわえ直して、頭から飲み込む。カエルや水棲昆虫も食べることがある。夕方から夜間にかけて行動するが、昼間も採餌を行う。他のサギ類と混合コロニーを作ることはない。巣は木の枝を粗雑に積み重ねた皿形で、産卵期は5～6月。繁殖地では「キュウ」とか「ガガガ」という声を出している。また、夕方と夜明け頃に採餌場へ通う時には、飛びながら「キョー」と1声ずつ鋭い声で鳴くことが多い。体形はゴイサギによく似るが、翼の上面は全体に黒っぽい。幼鳥は、背は黒褐色で胸に縦斑がある。』と書いてある。2023年5月17日に弁天橋付近で成鳥を1体撮影し、今日はじめて幼鳥1体を撮影した。『夕方から夜間にかけて行動するが、昼間も採餌を行う』と書いてあることから、夕方5時ころから夜12時頃まで活動し、次の日は朝寝坊して10時くらいから餌を探しに出かけるということか？幼鳥は、まだ眠いのか？棧橋の木杭に止まって、「ボウ～」として正気の無い表情であった。親が餌をもってきてくれるのを待っていたのか？
2023	8	7	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～36℃、南南東の風5m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。下弦の月、カワセミ♀幼鳥横姿、鳥屋野潟、コサギが足で顎を搔く、同じく横姿、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂後姿、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ウチワヤンマ♀産卵(腹端で浮遊物を間欠的に打つ)、ウスバキトンボ♀、清五郎排水路、エダシャク亜科(蛾)の幼虫、オオシオカラトンボ♂、ウチワヤンマ♀オベリスク姿勢、を撮影した。ウスバキトンボは「日本のトンボ改訂版」に、『【生息環境】平地～山地の水田や開放的な湿地など。成虫は植生の乏しい水辺や芝生の上などでもよくみられる。【生活史】卵期間3日～1週間程度、幼虫期間1～2か月程度(1年多世代)。成虫は春～秋にかけて全国各地でみられ、一時的な発生を繰り返すが、ほとんどの地域では越冬できず死滅する。八重山諸島では幼虫での越冬が確認されている。【形態】♂♀とも薄い橙色をした中型のトンボ。♂は成熟すると腹部背面の赤みを増す。【分類】ミトコンドリアDNAの解析では、種内の遺伝的多様性に富むが、地域による偏りは今のところ確認されていない。【備考】世界で最も広く分布するトンボで、成虫は移動性が強く、全国各地でみられる。』と書いてある。日本の南から北へ世代交代を重ねながら溯上し、寒くなると死滅するという生活史を毎年繰り返している。越冬出来ないのに、なぜ、それを繰り返すのか？成虫が爆発的に増えるので、常に移動しないと餌が採れないのか？死滅覚悟の放浪の旅を繰り返すうちに、ゲノムが変異して、越冬できるトンボになったら大変だ！年々増え続けて、日本の生態系を攪乱する超特定外来生物になるかもしれない。

西暦	月	日	日誌
2023	8	8	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～35℃、南東の風7m/s、陽射しは強く、湿度は低い暑い、日影はやや涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。風は強いが陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、ニホンミツバチの自然巣、ハンゲショウの花、アオダイショウ幼蛇(樹上)、同じく頭部、巻積雲と巻層雲(高度5000～13000メートル)、ウスバキトンボ♀、ノシメトンボ♀後姿、エビガラスズメ、オオミズアオ頭部脱落、を撮影した。オオミズアオは「蛾の生態標本図鑑」に、『開張♂80～110mm ♀85～120mm。分布は北海道、本州、四国、九州、南西諸島。大型の蛾で、翅の地色は青白色から黄色みを帯びた白色まで変異がある。夏型は黄色みが強くなり、大型で外横線が太く目立つ個体がでる。年1～2化、5～8月に平地から山地に出現する。北海道など寒冷地では年1化、春型のみとなる。寄主植物はバラ科、ブナ科、カバノキ科など多くの広葉樹で広食性。』と書いてある。2011年、2020年、2021年と今回で4画像3体の写真しかない。広葉樹林で生活史を送るので、なかなか遭遇しないのか？。同じく、エビガラスズメは、いままでに幼虫を2画像2体、今回はじめて成虫を撮影した(実は同定に自信がない)。
2023	8	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～36℃、南東の風8m/s、陽射しは強く、湿度は低く風が強く吹いている、日影は意外と涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、同じく後姿、アブラゼミ、清五郎排水路、ウスバキトンボ♀、ノシメトンボ♂、ガガブタの花、オオミズアオ死骸、を撮影した。公園のあちこちで、黄色のウスバキトンボ数十匹が集団となって飛翔していた。突然、見慣れない(金髪の)外人観光客の団体が無数やって来た様に思えた。とうとう、鳥屋野潟にもやって来た！、これから、北海道まで北上して、晩秋には越冬できずに絶滅するのか？彼らは、絶滅するために北へ北へと生活圏を広げている様に見える。実は、世代交代を早めて突然変異を繰り返し、越冬できる種になるように遺伝子レベルでアダプト(適合または順応)しようとしているのか？
2023	8	11	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～35℃、南東の風5m/s、陽射しは強く、湿度は低く風が強く吹いている、日影は意外と涼しい、ワイシャツを脱ぎTシャツで帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、オオカマキリ、カンムリカイツブリ夏羽後姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハのカップル交尾1から3、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、同じくルビーアイズ(横顔)、同じく前姿、同じく浮上横姿、ウチワヤンマ♀横姿、キアゲハ♂、を撮影した。ジャコウアゲハの交尾を初めて撮影した。♀が上で葉っぱにぶら下がり、♂が♀につかまりながら下から腹部を突き上げて、交尾をする。雌の方が身体が大きいのが分かる。カンムリカイツブリのルビーアイズ(赤い虹彩)が鮮明な画像を撮影した。「鳥の生態図鑑」には、赤く光るゴイサギの眼について、『哺乳類のような反射膜は無いが、夜行性の鳥の眼は、油滴で光を反射し、赤く光る。』と書いてある。しかし、他に虹彩が赤い野鳥は、オオバン、ハジロカイツブリ、キジバトなどがいるが、夜行性の鳥ではない。虹彩がなぜ赤いのか？、さらに文献調査をしてみようと思う。

西暦	月	日	日誌
2023	8	12	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～31℃、南南東の風2m/s、陽射しは弱く、湿度は低く、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。鳥屋野潟、セグロアシナガバチ吸水、コバネイナゴ、アマガエル擬態(ヨシの葉の上)、ナガコガネグモ(ヨシの葉の上)、深水に佇むアオサギ(横姿)、同じく横顔、チョウトンボ♂、シオカラトンボ♂老齢、モモスズメガ、クマバチ♂、カンムリカイツブリ夏羽羽ばたく、を撮影した。モモスズメガの成虫を初めて撮影した。「蛾の生態標本図鑑」には、『開張:70～90 mm。分布:北海道、本州、四国、九州、南西諸島。前翅の地色は茶褐色で色彩の濃淡には個体差があり、外縁は暗褐色で波形模様の横線と小黑点がある。後翅は薄紅色、後角に黒褐色紋がある。年2化、5～8月に出現する。寄主植物はバラ科の他にも多くの記録がある。』と書いてある。しかし、色彩の濃淡には個体差があることから、この本の写真と比べると違和感がある。街灯の鉄柱にとまっていたので、未成熟虫か老熟虫か？なぜ、そこにいたのか？不明である。
2023	8	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～32℃、南の風3m/s、陽射しは弱く、湿度は低く、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギの後姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上後姿、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、アゲハチョウ♂吸蜜、桂の樹の黄葉、エントツドロバチ、アブラゼミ、クサガメ顔、を撮影した。アゲハチョウは、「日本のチョウ増補版」には、『【食草】サンショウ、イヌザンショウ、カラスザンショウ、ハマセンダン、各種栽培ミカン類など(ミカン科)。【生息環境】森林、農地、公園、人家平地～低山地の人家や農地などの栽培ミカン類がある場所や、伐採地や林縁部でカラスザンショウやイヌザンショウなどが生える場所。【行動】日中、明るい樹木の周囲のやや高所を飛翔し、ツツジ類やアザミ類、ヤブガラシなど各種の花を訪れる。♂は吸水を行うが、それほど吸水性は強くない。♂はチョウ道を形成する。【生息状況、保全】都市部でも人家の庭木で発生しており、アゲハチョウ類の中ではもっとも普通に見られる。』と書いてある。また、『アゲハチョウ類などには「チョウ道」と呼ばれる一定の探索ルートを持ち、そこを巡回しながら♀を探す種もある。』と書いてある。確かに、チョウはある範囲をグルグルと巡回する様に飛んでいることが多い。一度とまった場所に、しばらくすると、戻ってくることがある。これは、トンボも同様である。実は、好みの場所があって、そこにとまることで縄張り宣言をしているのかもしれない。
2023	8	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～37℃、東南東の風4m/s、陽射しは弱く、湿度は低く、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。鳥屋野潟、チュウサギの横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂が小型のトンボを採餌(横姿)、オオヤマトンボカップル交尾、アブラゼミ横姿、チュウサギが樹冠に立つ、を撮影した。チュウサギは、「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」には、『形態:雌雄同色。嘴は夏羽では黒く、冬羽や若鳥は黄色。幼鳥には飾り羽がない。』と書いてある。樹冠にとまったチュウサギは、目元がきれいな黄色で嘴が黄色く先端は黒っぽい、さらに飾り羽がなかった。自然生態園のため池に舞い降りたが、深かったので、すぐ飛び立ち、池畔林の枝に止まった。筆者が木橋を渡り数歩近ずくと、ビックリしたのか、さらに飛び立って、樹冠にとまった。ところが、風で大きく木が揺れたので、立っていられなくなり、東の方角へ飛んで行った。見た目の形態やぎこちない行動から、幼鳥(若鳥?)のようである。

西暦	月	日	日誌
2023	8	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～33℃、南東の風8m/s、陽射しは弱く、湿度は低く、日影は意外と涼しいが風が強い、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、鳥屋野潟、チュウサギ若鳥の横姿、同じく横顔、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂前姿、ハラビロカマキリ幼虫が蛾を捕食、アオダイショウ幼蛇の尾部(樹上)、を撮影した。チュウサギは、『フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版』には、『形態:雌雄同色。嘴は夏羽では黒く、冬羽や若鳥は黄色。幼鳥には飾り羽がない。』と書いてある。飾り羽らしきものが有り、嘴が黄色であることから、若鳥と同定した。ハラビロカマキリも幼虫なのに蛾を捕食、アオダイショウも幼蛇であるが小鳥を捕食しようと木に登っていた。人間と違って野生動物は、幼い頃から自分で餌を採らねばならないようだ。
2023	8	17	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～32℃、静穏0m/s、陽射しは強く、湿度は低く、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、鳥屋野潟、コウホネ群生地に佇むアオサギ(前姿)、不明の蛾、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、ニホンミツバチの自然巣、を撮影した。不明の蛾は、ネットで画像検索しても分からず、『蛾の生態標本図鑑』を見ても分からず。蛾の種類が多いのか？それとも未成熟、♂、♀で変異しているのか？とにかく文献資料が足りないので同定できないことが多い。
2023	8	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～32℃、東の風1m/s、陽射しは強く、湿度は低く、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウサギ幼鳥が樹冠に立つ(横姿)、鳥屋野潟、ウチワヤンマ♂横姿、アブラゼミ横顔、排水樋門吐口、コサギ幼鳥、を撮影した。コサギ幼鳥は、『フィールド図鑑 日本の野鳥』に、『留鳥または夏鳥として、本州以南に生息する。河川、池、湖沼、水田、湿地、干潟などが生息地。雌雄同色。嘴は周年黒い。姿図には幼鳥は飾り羽が無く、足には白っぽさがある。』と書いてある。新潟ではコサギは留鳥である。撮影したコサギは飾り羽が無く、足が真っ黒ではなく、白っぽいので、幼鳥と同定した。“コロコロコロ…”とコオロギが鳴き始めた。小～中型のトンボの群れが目立たなくなった。“カナカナカナ…”と物悲しさを感じさせるヒグラシが鳴き始めた。立秋が過ぎ、秋の気配が漂い始めた。
2023	8	19	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～33℃、南南西の風1m/s、陽射しは強く、湿度は高いが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウダイサギ若鳥横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ウチワヤンマ♂横姿、カワウ♀若齢横姿、ウチワヤンマ♀後姿、清五郎排水路、ノシメトンボ♂未成熟虫、深水に佇むアオサギ横姿、同じく横顔、チュウサギ若鳥の横姿、同じく横顔、を撮影した。チュウダイサギ若鳥は、『フィールド図鑑 日本の野鳥』に、『形態は雌雄同色。嘴は夏羽では黒く、冬羽や若鳥では黄色』と書いてあることから若鳥と同定した。新潟では留鳥である。ノシメトンボ♂未成熟虫は、『日本のトンボ改訂版』に、『胸部側面が黄色い未成熟♂の写真』があり、♂の未成熟虫と同定した。なお、翅の先端の黒色斑が不明瞭なので、翅はアキアカネと似ているが、胸部の斑紋と腹部の黄色味が違うことからノシメトンボと同定した。

西暦	月	日	日誌
2023	8	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～33℃、静穏0m/s、陽射しは強く、湿度は高いが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギ若鳥の後姿、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面にわた雲が映る、鳥屋野潟、チュウサギ若鳥前姿、同じく横姿、ハシトガラス幼鳥見返り、カンムリカイツブリ幼鳥横姿、カンムリカイツブリ夏羽前姿、鳥屋野潟、アキアカネ♀、清五郎排水路、アオスジアゲハカップル交尾、を撮影した。チュウダイサギ若鳥とチュウサギ若鳥の横顔は、とても似ている。口角が眼の位置より後にあるのがチュウダイサギ、ほぼ眼の位置にあるのがチュウサギであるが、撮影の角度によってハッキリしない場合がある。ただ、チュウダイサギの方がクチバシが長く、後頭部からクチバシ先端までとても長く見える。また、チュウサギが八頭身とすると、チュウダイサギは十頭身ぐらいあり、とても長身に見えることから、チュウダイサギ若鳥ではなくチュウサギ若鳥とした。
2023	8	21	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～33℃、北東の風1m/s、陽射しは強く、湿度は高いが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。鳥屋野潟、チュウサギ若鳥の横姿、カイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、コサギ幼鳥が口を開けて体温調節、ジョロウグモ♀がジャコウアゲハを捕食、鳥屋野潟、ウチワヤンマカップル交尾、チュウサギ若鳥横姿、を撮影した。ウチワヤンマの交尾を初めて撮影した。普通は♂が上で枝や葉っぱに垂直にぶら下がり交尾をする。♂が尾部で♀の頭部を持ち上げて、♀は♂の腹部に足を掛けて交尾する。♂が♀の全体重を支える格好である。ウチワヤンマはコウホネの葉で水平に交尾をしていた。♂が尾部で♀の頭部を支え、♀は尾部の生殖器を♂の生殖器(腹部にある)と連結し、♂に全体重を預ける格好である。♂は頭部を下向きにして葉にしがみつき、♀の全体重を持ち上げる格好である。垂直よりも水平の方が♂への負担が大きそうである。「日本のトンボ改訂版」にも、水平に交尾をしている写真があった。『交尾が終わりに近づくと、交尾態のまま広く飛び回って産卵場所となる水面の浮遊物を探す。その上で♂は連結を解き、♀は単独でホバリングしながら、腹端で浮遊物を間欠的に打つ』と書いてある。交尾の格好のまま水面を水平に飛ぶために、水平に交尾を行うようである。
2023	8	23	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は34～37℃、南東の風5m/s、陽射しは強く、湿度は57%、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、ツバメ♀、同じく♂、同じく幼鳥、親鳥に餌をねだるツバメ幼鳥、鳥屋野潟、羽を損傷したアブラゼミ、清五郎排水路、オオシオカラトンボ♂、ツユクサの花、を撮影した。ツバメは、「フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版」に、『つがい小群で生活し、適度な距離をおいて営巣する。渡りの時期には大群になる。飛びまわりながら昆虫類を捕って食べる。雌雄同色。額と喉部分は赤茶色。雄の尾羽は長くとがり、雌では短めで先が丸い印象。』と書いてある。♀と同定したツバメの先が丸い尾羽は、風切羽と重なってよく見えない。幼鳥はクチバシが肌色で、喉の毛の色は白っぽい。親鳥に餌をねだっていたが、何ももらえず、しまいには親鳥が先に飛び立ち、「さあ、一緒に昆虫を捕まえましょう」と幼鳥を誘っていた。幼鳥の体格は親鳥よりも大きく見え、人間に例えると18歳ぐらいか？ 今、ツバメの家族は、巣立ち後の親離れ子離れの時期なのであろう。

西暦	月	日	日誌
2023	8	24	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は34～35℃、南南東の風5m/s、陽射しは強く、湿度は54%、フェーン現象であるが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、ひとりぼっちのツバメ幼鳥、鳥屋野潟、ハラビロカマキリ幼虫、鳥屋野潟、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、ウマノスズクサ、ツクツクボウシ横姿、清五郎排水路、ノシメトンボ♀横姿、コシアキトンボ♂老齢が排泄、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、を撮影した。たぶん、昨日のツバメ幼鳥だと思うが、一羽でグルーミングをしていた。お腹が満たされて満足げな顔をしていた。自分で餌を捕食できる様になったのか？ハラビロカマキリは「日本の昆虫生態図鑑」に、『体は黄緑色のものが多いが、紫褐色の個体もいる。前翅中央外側に白色紋がある。体は大めで前胸腹板に黒帯がある。樹上性の傾向が強く、林縁などに生息する。』と書いてある。樹上を好むらしいが、体色がライトグリーンなので、よく目立つ。アマガエルは身を隠すために擬態をするが、カマキリの場合は自分が捕食者なので、獲物から身を隠すために擬態をするらしい。
2023	8	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～35℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は60%、フェーン現象であるが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウダイサギが深水の中を歩く、チュウサギの横姿、鳥屋野潟、コシアキトンボ♂老齢、鳥屋野潟、コウホネ群生(ウチワヤンマの繁殖環境)、清五郎排水路、アブラゼミ横姿、クサガメ、ノシメトンボ♂横姿、ハシブトガラス幼鳥見返り、カンムリカイツブリ夏羽横姿、コフキトンボ♂老齢、を撮影した。コシアキトンボは「日本のトンボ改訂版」に、『卵期間1～2週間程度、幼虫期間半年～2年程度(1～2年1世代)。幼虫で越冬する。成虫の出現期は6月中旬～9月初旬』と書いてある。幼虫期間が1～2年であるが、成虫期間はわずか3ヶ月程度と短い。コフキトンボは、『卵期間1～2週間程度、幼虫期間3か月～1年程度(1年1～2世代)。幼虫で越冬する。成虫の出現期は6月～9月初旬』と書いてある。コシアキトンボもコフキトンボも夏の鳥屋野潟公園で最もよく見かけるトンボである。しかし、群れがいなくなり、日陰で休んでいる老齢なトンボを見かける機会が増えた。彼らは3ヶ月で、生きる目的……いわゆる繁殖行動というミッションを果たしたのだろうか？苦労話を聞いてみたいものである。
2023	8	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～33℃、北東の風2m/s、陽射しは強く、湿度は73%、フェーン現象であるが、日影は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウサギ若鳥横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハのオレンジ色の卵(ウマノスズクサの葉の裏側に産卵)、シオカラトンボカップル交尾、清五郎排水路、ガガブタの花(白)、ニホンミツバチの自然巣、コガネグモ♀営巣、チュウサギ若鳥が餌を探して歩く(横姿)、を撮影した。コガネグモは「日本のクモ」に、『日本を代表する大型の美しいクモ、郊外の人家の周辺、樹林地の周辺、水田、河原、草原などの日当たりのよい樹間、草間に50 cm～1mの垂直の正常円網を張る。網の中央部にはX字形あるいはその一部を省略したかくれ帯を付け、クモはその中心に脚を2本ずつそろえて止まる。鹿児島県、高知県などでは本種を戦わせる「クモ合戦」が行われている。体長:♀ 20～25 mm。♂ 5～7mm。出現期:5～9月。』と書いてある。トンボやチョウなどの昆虫が少なくなり、巣には獲物が引っかかっていた。そろそろ店じまいか？自然巣にいるニホンミツバチの数が少なくなった。「日本産ハナバチ図鑑」に、『発生期は3～11月。ハナバチ類を採集するのに最もよい季節は、春から初夏にかけてと秋である。』と書いてある。外勤の働きバチが、晩夏から秋にかけて咲く花の蜜集めに出かけ始めたのかも知れない。

西暦	月	日	日誌
2023	8	27	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～33℃、東南東の風1m/s、陽射しは強く、湿度は58%、フェーン現象であるが、木陰は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウサギ若鳥横姿、鳥屋野潟、カイツブリ夏羽前姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽が2羽、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、シオカラトンボ♀羽損傷、ニホンミツバチの自然巣、を撮影した。ジャコウアゲハは「日本のチョウ増補版」に、『成虫の出現期4月下旬～9月中旬までの期間に暖地では3回世代交代する。』と図示している。30℃以上の真夏日が続いているためか、チョウをはじめ昆虫類の繁殖活動が急激に減少したようである。羽の白い♀は暑さで休み休み飛んで産卵場所を探しているようである。羽の黒い♂の姿が見られなくなった。コシアキトンボやウチワヤンマなどの黒い模様のトンボも同様である。白っぽい模様のシオカラトンボは、まだまだ元気に繁殖活動をしている。黒い羽根のカワウは日当たりの良い栈橋で、ハシブトガラスは木陰で、口を大きく開けて、「ハーハー」と呼吸を荒げて体温調節をしていた。鳥屋野潟湖面では、カンムリカイツブリが餌探しをしていた。水温が30℃ぐらいになって、酸欠状態になっているかもしれない。ギンブナやコイは、新栗ノ木川や清五郎排水路、新堀排水路などの流れがあり、少しでも水温が低い日陰の場所へ避難しているのかもしれない。そういえば、近頃、いつもの場所でブルーギルやオオクチバスの姿が見られなくなった。
2023	8	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～33℃、静穏0m/s、陽射しは強く、湿度は62%、フェーン現象であるが、木陰は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウサギ若鳥前姿、岸辺に佇むアオサギ前姿、カンムリカイツブリ夏羽横顔、同じく浮上見返り、チュウサギ若鳥の後姿、同じく横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、コフキトンボのヤゴ抜け殻、同じく♂未成熟虫横姿、ノシメトンボ♀横姿、ウチワヤンマ♀後姿、清五郎排水路、ゴマダラチョウ♂吸水、黄金色の稲穂、カンムリカイツブリ夏羽横姿、を撮影した。ゴマダラチョウは「日本のチョウ増補版」に、『♂♀で色彩・斑紋に差異はほとんどないが、♀の翅形は幅広く、白色の度合いが強い傾向がある。』と書いてある。一頭だけでは度合いが強いのか弱いのか判断できないが、羽の縁側の小さな斑点が弱そうに見えたので♂と同定した。コフキトンボのヤゴの抜け殻は「写真で分かるヤゴの見分け方」に、『全長20mm～23mm 側棘は腹部第8節と9節にある。背棘は腹部第4～9節にあり、5節以降は稜状になる。』と書いてあり、横姿の画像も記載されていた。また、同じ場所で、未成熟の♂を撮影したことから、コフキトンボのヤゴであると判断した。草むらで、「コロコロコロ……」とコオロギが鳴いていた。晩夏から初秋へと移行する季節となったのか？、それにしても、強い陽射しはまるで真夏のようなものである。
2023	8	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は33～35℃、南の風4m/s、陽射しは強く、湿度は62%、フェーン現象であるが、木陰は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、チュウサギ若鳥後姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽がグルーミング、鳥屋野潟、ウマノスズクサ、バン若鳥横姿、清五郎排水路、新堀排水路、オオバン遊泳、シオカラトンボ♂、セリの花、コショウハッカ淡紫色の花、ホトギス♂、カンムリカイツブリ夏羽浮上横姿、カワウ♂遊泳見返り、を撮影した。バン若鳥は「フィールド図鑑日本の野鳥第2版」に、『雌雄同色。成鳥の嘴は黄色く、基部から頭頂にかけて赤い額板がある。若鳥は全体に淡色で、額板が発達していない』と書いてあるので若鳥とした。ホトギス♂は、同じく、『雌雄ほぼ同色だが、赤色型の雌がいる。姿図に、♀の胸には褐色味があり黄斑もある。』と書いてあるので、♂と判断した。

西暦	月	日	日誌
2023	8	31	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は34～35℃、南南東の風4m/s、陽射しは強く、湿度は48%、フェーン現象であるが、木陰は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。チュウサギ若鳥後姿、鳥屋野潟、カイツブリ夏羽前姿、ニホンミツバチの自然巣ハニカム構造、鳥屋野潟、コフキトンボ♀未成熟横姿、深水を歩くチュウダイサギ若鳥横姿、清五郎排水路、ノシメトンボ♂横姿、を撮影した。ニホンミツバチの社会性について「日本産ハナバチ図鑑」に、『ハナバチの社会は、カースト性を基本として成立している。カースト性とは、育子を行うメス集団(コロニー)において、機能と形態が異なる個体が「育子労働」を分担し、共同で次世代を産みだす多型現象である。カースト性が発達すると、主として産卵を行うことで次世代生産に直接的に貢献する「女王バチ」カーストと、産卵以外の育子労働、例えば花粉・花蜜の収集や巣の拡張を行うことで間接的に貢献する「働きバチ」カーストが明瞭に区別できる。両カーストが相補的に機能することで初めて次世代の生産が可能になることから、ミツバチなど高度な社会性を示す種では、コロニーがあたかも1個体の生物であるかのように例えられることもある。』と書いてある。人間社会のカースト制度は、インドの宗教「ヒンズー教」に基づいて、古くから社会に根付いている身分制度を指す。日本で言えば、士農工商の様なものか？今はやりの持続可能な開発目標(SDGs)とは随分かけ離れているが、現実の社会には、偏見による差別や、情報社会の中で価値観の異なるゼット世代やアルファ世代が誕生している。人間社会における次世代生産形式は、どの様に変化していくのだろうか？全てのゲノムが解析され、人工的な遺伝子をもった子供たちが産まれる時代がやって来るのか？社会のルールがどの様に変化していくのか？まったく、予測できない。
2023	9	2	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は29～30℃、南の風3m/s、陽射しは強く、湿度は63%、木陰は涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、帰路です。鳥屋野潟、カワヒワ♂水にぬれてボサボサの羽、同じく幼鳥、サルスベリの花(淡紅色)、アマサギ幼鳥、ベニシジミ老齢、鳥屋野潟、カワウ♂が口を開けて体温調節、カイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、コフキトンボ♂羽損傷後姿、清五郎排水路、ニホンミツバチの自然巣、を撮影した。アマサギ幼鳥は、「フィールド図鑑日本の野鳥」に、『雌雄同色。成鳥夏羽の頭部から胸、背には橙黄色の飾り羽がある。冬羽と幼鳥はほぼ全体が白い。成鳥の冬羽は額にわずかに黄色みがある。』と書いてある。撮影したアマサギは額に黄色味が無く、体長はコサギ程度で首の長さもチュウサギに比べると短いことから、アマサギ幼鳥と同定した。成鳥は、何処にいるのだろうか？長潟の田んぼかもしれない。
2023	9	3	長潟の田んぼ周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～31℃、東北東の風2m/s、陽射しは弱い、湿度は68%、時おり突風が吹き、木陰は意外と涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。支線排水路、ハクセキレイ♂夏羽、アオサギ幼鳥が餌を探ず、溝畔に佇むチュウサギ若鳥(横姿)、小排水路、黄金色の稲穂、ヒメタニシ、チュウサギ若鳥の後姿、同じく歩く(横姿)、アジイトンボ♀、トウヨシノボリ稚魚、を撮影した。トウヨシノボリ稚魚は「新潟市 潟のデジタル博物館」で鳥屋野潟の魚類を検索したところ、トウヨシノボリが生息していること、体長数センチメートルであることから、決定した。アオサギ幼鳥は、「フィールド図鑑日本の野鳥」に、『雌雄同色。1年中、成鳥の体上面は青みのある灰色で、若鳥は褐色みがあり、額が灰色の幼鳥の姿図が記載されていた』ことから、幼鳥と同定した。用水が流れていない水路の底に、多数のヒメタニシが少ない水を求めて動き回っていた。熱中症にならなければよいが、かわいそうである。田んぼでは、早生品種の稲刈りが始まったようだ。大半がコシヒカリを作付けしているので、9月中には稲刈りが終わるようである。ネット検索では、晩生(10月以降?)のコシヒカリ新品種が発表されているらしい。

西暦	月	日	日誌
2023	9	4	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～31℃、北東の風1m/s、陽射しは弱い、湿度は64%、風は無いが木陰は涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面に層積雲が映る、カンムリカイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ヒナタイノコヅチ、ヒメギス♀、鳥屋野潟、ジャコウアゲハ♀産卵、コフキトンボ♂羽損傷後姿、ガガブタの花、メタセコイアの実、ニホンミツバチの自然巣、コサギ横姿、を撮影した。ヒナタイノコヅチは「植調 雑草大鑑」に『日当りのよい空き地、道ばた、畦畔などに生育する。イノコヅチは林縁など、半陰地に多い。』と書いてある。ひょっとすると、撮影したのはイノコヅチかもしれない。植物の同定は写真だけでは難しい種が多い。
2023	9	7	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～28℃、東南東の風1m/s、陽射しは弱い、湿度は70%、風は無いが木陰は涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面にわた雲が映る、チュウサギ若鳥が餌を探して歩く、鳥屋野潟が凧で鏡の様な水面にわた雲が映る、カワウ♂が羽乾かす、コサギ幼鳥と成鳥、片足で休むコサギ、イノコヅチ、鳥屋野潟、ジャコウアゲハの終令幼虫、セグロアシナガバチ、コウホネ群生地を歩くチュウダイサギ(横姿)、シオカラトンボ♂ターコイズブルー色の眼、コウホネ群生地に佇むアオサギ(前姿)、コサギ見返り、を撮影した。イノコヅチは「植調 雑草大鑑」に『日当りのよい空き地、道ばた、畦畔などに生育する。イノコヅチは林縁など、半陰地に多い。』と書いてあることからイノコヅチとした。
2023	9	9	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。雲天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は29～30℃、南南東の風3m/s、陽射しは弱い、湿度は65%、風は無いが木陰は涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。鳥屋野潟、チュウサギ若鳥が餌を探して歩く(横姿)、ゴミのポイ捨て、カンムリカイツブリ夏羽が足で首を掻く、8羽のコガモ、ニホンミツバチの自然巣ハニカム構造、アオサギ若鳥横姿、鳥屋野潟、ジャコウアゲハの終令幼虫、オンブバッタ、コウホネ群生地を歩くチュウダイサギ(横姿)、オオカマキリ、を撮影した。コガモは「フィールド図鑑日本の野鳥」に『冬鳥。本州の日本海側に多く、太平洋側では不定期に少数が記録されるだけ。南西諸島では迷鳥。9月にユーラシア大陸等から渡来する。』と書いてある。オオカマキリは後姿なので、前脚基部の色が黄色かどうか分からない。「カマキリに学ぶ」に『東北地方ではカマキリと言えはオオカマキリであり、それ以外のカマキリは専門家でない目にすることはめったにないだろう。関東地方以南では、オオカマキリ、チヨウセンカマキリ、ハラビロカマキリの生息密度が高く、よく見かける。』と書いてあることから、オオカマキリとしたが、全く自信がない。
2023	9	10	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～32℃、東の風2m/s、陽射しは弱い、湿度は72%、風は無いが木陰は涼しい、ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。カンムリカイツブリ夏羽横姿、チュウサギ若鳥が餌を探して歩く(横姿)、同じく睨む顔、カンムリカイツブリ幼鳥と親鳥、同じく幼鳥、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ソメイヨシノの樹液(コスカシバ幼虫の被害によるもの)、鳥屋野潟、コフキトンボ♂横姿、ノシメトンボ♀横姿、マルバハッカ、カンムリカイツブリ夏羽の2羽が寄り添う、を撮影した。カンムリカイツブリ幼鳥の身体は、親鳥よりも大きい、食欲旺盛で親に餌をねだる鳴き声とポーズを繰り返す。親鳥はそのたびに潜水して餌を探す動作を繰り返すからか、疲れた顔をしている様に見えた。カンムリカイツブリの2羽が寄り添って見つめ合っていた。まるで、恋人同士の語らいの様に見えた。何か相談している様にも見えた。もう一度、浮巣を作って子育てしようかと相談しているのかも知れない。まだまだ、暑い夏が続きそうである。

西暦	月	日	日誌
2023	9	11	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は32～34℃、南東の風4m/s、陽射しは弱い、湿度は57%、風が強くオニグルミの実がおちてきた。ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。キタテハ♀吸蜜、チュウサギ若鳥横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ウチスズメ幼虫、カワウ♀遊泳見返り、カンムリカイツブリ夏羽横姿、を撮影した。排水樋門に佇んでいると、沖から真直ぐにカワセミ幼鳥が飛んできた。コンクリート壁に止まる直前に、私の気配に気づき、ホバリングして向きを変え、飛び去った。その間、私は金縛りに合ったように、じーっとして、カワセミの羽ばたきを映画でも見るように眺めていた。自然生態園でアメリカシロヒトリの防除作業があり、早々に市立図書館へ向かった。
2023	9	12	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は31～31℃、南南西の風3m/s、陽射しは弱く、湿度は58%、風も弱い。ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。深水に佇むチュウダイサギ若鳥横姿、巻雲、鳥屋野潟、カワウ幼鳥が口を開けて体温調節、カンムリカイツブリ夏羽遊泳見返り、ニホンミツバチの自然巣ハニカム構造、鳥屋野潟、シオカラトンボ♀老齢保護色、コムラサキ♀吸水、草刈りをした鳥屋野潟公園ビオトープため池、羽を損傷したアブラゼミ、ツクツクボウシ、ヒヨドリ前姿、黄金色の稲穂、ニホンカナヘビ妊娠中、モンクロシャチホコ幼虫、を撮影した。コムラサキ♀は、「日本のチョウ増補版」に『【食草】ネコヤナギ、オノエヤナギ、カワヤナギ、バッコヤナギ、シダレヤナギ、ドロノキなど(ヤナギ科)。【生息環境】森林・林縁・河川・公園。平地～山地のヤナギ類の生える樹林。河畔林や湿地帯、溪谷のほか、都市公園や街路樹などでも見られる。【行動】日中、樹林の林冠部など高い位置を飛翔し、樹液や獣糞、人の汗などに好んで集まるほか、川原や湿った地面に下りて吸水することもある。【生息状況・保全】河川敷の大規模な改変などによって減少してきたが、都市近郊でも比較的生息している。』と書いてある。都市近郊ではよく見られるチョウのようであるが、筆者は2018年7月20日に初めて撮影して、今回が2回目である。巡り合わせが悪いのかもしれない。
2023	9	13	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は28～30℃、東南東の風1m/s、陽射しは弱く、湿度は80%、風も弱い。ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路です。ツマグロヒョウモン♀吸蜜、ヌルデの白い花、鳥屋野潟、ギギが口をパクパクする、ギンブナが口をパクパクする、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽グルーミング、コサギ見返り、コウホネ群生地に佇むアオサギ横姿、ヒロヘリアオイラガ幼虫、を撮影した。デジカメのバッテリー切れで撮影断念。ギギは、「日本魚類館」に『日本産のギギ科では最も大きくなる。体は概ね黒色だが、稚魚から未成魚期にかけて黄褐色の模様が顕著。ギバチに比べて尾鰭が深く切れ込み、吻端が尖る。主に河川中流部に生息し、昼間は礫間や抽水植物帯等に隠れ、夜に遊泳して主に小動物を捕食する。5～7月に、礫の間隙内でペアをつくって産卵、雄親が巣内で卵と仔稚魚を保護する。日本に生息するギギ科の在来分布域では、新潟県はギギ科のギバチが生息する範囲になっている。』と書いてある。同じくギバチは『ギギに似るが、尾鰭の切れ込みが浅く、吻が丸い。体は概ね黒色だが、稚魚から未成魚期にかけて黄褐色模様が顕著。河川の中～下流域の淵など流れの緩やかな所や溜池に生息。夜行性で礫の間隙や岩の下に潜んでおり、主に水生昆虫、甲殻類を捕食する。神奈川県、富山以北のの本州に分布。』と書いてある。しかし、新潟市の「潟のデジタル博物館」ではギギが鳥屋野潟に生息していることになっている。1枚の写真だけでは、判断できないが、ギギではなくギバチかも知れない。

西暦	月	日	日誌
2023	9	14	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は29～31℃、南南東の風4m/s、陽射しは弱く、湿度は67%、風も弱い。ワイシャツのまま帰宅。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギ若鳥の横姿、同じく前姿、カイツブリ夏羽後姿、鳥屋野潟、カムルチー、チュウサギ若鳥の横顔、鳥屋野潟、カワウ♀前姿、コシアキトンボ♂羽損傷、カンムリカイツブリ夏羽遊泳前姿、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、鳥屋野潟、カルガモ♀見返り、ニホンミツバチの自然巣、アオダイショウ頭部、を撮影した。カムルチーは、「川の生物図典」に『流れの緩やかな、水草の繁茂する水域に、単独で生息する。成魚は河川の淀みや池沼などの水の濁った泥底の止水域を好み、水深1m前後の水草の茂ったところに多い。冬は深いところに移り、泥または水草の破片の積もった中で冬眠する。増水時には浅いところに出現することもある。前期仔魚は巢内の表層を遊泳する。後期仔魚は巢から出て岸辺を泳ぎ回るが、水草から遠く離れることはない。本種は肉食性で、仔魚は浮游動物を食べるが、全長40mm程度から小魚を食べようになり、共食いもする。成魚は魚類、カエル、ザリガニを食べ、ときにはヘビ、ネズミなどまで餌にする。』と書いてある。また、新潟市の「潟のデジタル博物館」ではカムルチーが鳥屋野潟に生息していることになっていることから、間違いないだろう。
2023	9	15	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は26～27℃、南西の風1m/s、陽射しは弱く、湿度は85%、風も弱い。ワイシャツのまま帰宅。雨傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギ若鳥の後姿、鳥屋野潟、同じく横姿、鳥屋野潟、アオサギ横姿、ニシキゴイ、セイタカヨシの穂、アサザの花(黄色)とコガモ群れ10羽、を撮影した。撮影途中から時雨となり、雨傘をさして撮影。セイタカヨシは「川の生物図鑑」に『ヨシよりも大型で、茎(桿)の高さは4～5mになる。ヨシは茎(桿)の高さが2～3mで、セイコノヨシに比べるとやや低く、太さもやや細い。葉の先が下垂すること、花穂の長さは15～40cmでセイコノヨシよりも短い、小穂は10～17mmと長いことなどから区別される。』と書いてあることから、セイタカヨシではなくヨシの可能性が高い。後日、植物草本類の更新チェック時に、再度検討しよう。
2023	9	16	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は28～29℃、東北東の風1m/s、陽射しは弱く、湿度は80%、通り雨、風も弱い。ワイシャツのまま帰宅。雨傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギ若鳥が餌を探す、同じく長い首を伸ばす、同じく横顔、鳥屋野潟、カワラヒワ♂横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽前姿、アオサギ横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽後姿、ニホンミツバチの自然巣、コイ、コシアキトンボ♂羽損傷、カワウ♀見返り、を撮影した。撮影途中から時雨となり、雨傘をさして撮影。カワラヒワ♂は「フィールド図鑑日本の野鳥」に『平地から山地の林や農耕地、河原、樹木が比較的が多い公園や住宅街などで生息。難繁殖期以外は群れで行動し、樹上や地上で草木の種子を食べる。雄の頭部は緑色がかかった灰褐色で、背などは灰茶褐色。雌の頭部は淡い。三列風切の羽縁は白い。』と書いてあることから、♂と同定した。9月中旬になり、冬鳥のコガモを見かけるようになった。もうすぐ、ヒドリガモがユーラシア大陸から渡ってくる季節である。
2023	9	17	弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。晴天、Tシャツ、シューズで出かける。気温は31～33℃、南東の風4m/s、陽射しが強く、湿度は69%、暑い、風は弱い。陽傘は往路、撮影中、帰路でさす。チュウサギ若鳥が餌を探して歩く(横姿)、鳥屋野潟、カイツブリ夏羽見返り、コイ、を撮影した。コイは眼と吻の特徴から、同定した。熱射病になりそうな、紫外線が肌を刺すような、厳しい暑さであった。

西暦	月	日	日誌
2023	9	18	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は30～31℃、南南西の風3m/s、陽射しは弱く、湿度は76%、通り雨、風は弱い。ワイシャツのまま帰宅。日傘は往路、雨傘は撮影中、日傘は帰路です。ツマグロヒョウモン♂吸蜜、鳥屋野潟、アサザの花(黄色)、ニホンミツバチの自然巣、鳥屋野潟、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハ♂、深水に佇み首を伸ばすチュウダイサギ若鳥(横姿)、コガモ幼鳥、を撮影した。撮影途中から大粒の雨となり、雨傘をさす。コガモ幼鳥は、文献やネット検索をしたが、うり二つの画像はなかった。クチバシが黒くて頭部が似ている冬鳥はコガモ幼鳥しかなかった。しかし、羽根模様が似ていない。腹部や首元の羽毛が、コガモと断言できない。シャッターを押した時は、体形がスマートなヒドリガモを連想させたが、嘴と頭部が似ていない。一応、コガモ幼鳥としておくが、後日、再検討しよう。
2023	9	19	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～25℃、東南東の風1m/s、陽射しは弱く、湿度は89%、風は弱い、帰りは土砂降り。ワイシャツのまま帰宅。日傘は往路、雨傘は撮影中、帰路です。鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽の2羽が寄り添ってグルーミング、同じく夏羽横姿、同じく夏羽見返り、ハジロカイツブリ第1回冬羽とカルガモがグルーミング、ハジロカイツブリ第1回冬羽、鳥屋野潟、フタスジナメクジ、コガモ♀、を撮影した。ハジロカイツブリは、「フィールド図鑑日本の野鳥」に『渡りは10月初旬から、冬鳥で、北海道では旅鳥。全国に生息。雌雄同色。夏羽は眼の後方に金色と赤褐色の飾り羽がある。冬羽の頭部は黒く、頬部は白っぽい、その白黒の境は不明瞭。第1回冬羽は、上嘴上面だけ黒く、下嘴は白っぽい。』と書いてある。まだ9月下旬なので、ちょっと早く渡ってきたようだ。1羽しかいなかったことから、群れから逸れたのかも知れない。
2023	9	20	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は27～27℃、南南西の風5m/s、陽射しは弱く、湿度は72%、風は強い、帰りは一時土砂降り。ワイシャツのまま帰宅。日傘は往路、雨傘を撮影中と帰路です。チュウサギの横姿、風が鳥屋野潟湖面を走る、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ夏羽横姿、ヒドリガモ♂エクリプスと♀、鳥屋野潟、清五郎排水路、ウシガエル幼体、稲を刈った田んぼ、コガモ♀横姿、ザラエノヒトヨタケ、コウホネ群生地に住むアオサギ(横姿)、を撮影した。ヒドリガモは、「フィールド図鑑日本の野鳥」に『9月頃からユーラシア大陸から冬鳥として渡来。全国的に生息するが、北海道では旅鳥で厳寒期は少ない。越冬期は群れで生活し、他の淡水ガモ類よりよく陸に上がり、青草の葉や芽を食べる。雄の頭部は赤茶色で、頭頂部はクリーム色。雌は他の淡水ガモ類より全体に褐色みが強い。♂のエクリプスは雌より頭部の赤みは強く、雨覆は白い。』と書いてある。目撃したのは撮影した2羽だけである。群れから逸れたのか？エクリプスについて『カモ類の雄成鳥の多くは、日本に渡来する頃には次の生殖羽への換羽を始めている種類が多い。したがって、完全なエクリプスが見られるのは、オシドリ、ヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、コガモなどで、他の淡水ガモ類や海水ガモ類では、ほとんどがエクリプスから生殖羽に換羽中の場合が多い。』と書いてある。エクリプスとは、繁殖期を終えたあとのカモ類の雄で一時的に見られる、雌に似た地味な羽色の状態のこと(ネット検索)。

西暦	月	日	日誌
2023	9	23	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は24～25℃、北北東の風3m/s、陽射しは弱く、湿度は59%、風は心地よい、帰りは陽傘をさす。ワイシャツのまま帰宅。鳥屋野潟、コウホネの黄色い花、鳥屋野潟、オナガガモ♂エクリプスとカルガモとコガモとアサザの花、コウホネ群生地に佇むアオサギ、鳥屋野潟、イヌキクイモの黄色い花、不明なキノコ、コガモ♂エクリプスの見返り、コガモ♀横姿、ジャコウアゲハ♀ウマノスズクサの葉の裏側に産卵、チュウダイサギ若鳥がコウホネ群生地で見返り、ヒガンバナ真っ赤な花、コガモの群れ30羽、を撮影した。オナガガモ♂エクリプスは、『フィールド図鑑日本の野鳥』に『9月から10月にかけてユーラシア大陸北部から全国的に渡来する冬鳥。挿絵では、♂エクリプスはクチバシの上面が黒く横面が灰色で、♀はクチバシ全体が灰色である。』と書いてある。目撃したのは撮影した1羽だけである。群れから逸れたのか？エクリプスとは、繁殖期を終えたあとのカモ類の雄で一時的に見られる、雌に似た地味な羽色の状態のこと(ネット検索)。
2023	9	25	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は23～27℃、南東の風5m/s、陽射しは弱く、湿度は51%、風は心地よい、帰りは陽傘をさす。ワイシャツのまま帰宅。チュウサギ若鳥の横姿、鳥屋野潟、シオカラトンボ♀老齢羽損傷、鳥屋野潟、コガモの群れ9羽とアサザの黄色い花、カンムリカイツブリ嘴を羽に隠して休む、カンムリカイツブリ夏羽が片足を伸ばす(横姿)、ニホンミツバチの自然巣ハニカム構造、甲羅の表面が剥がれたアカミミガメ、カイツブリ夏羽見返り、ジャコウアゲハ♀羽損傷、鳥屋野潟、コガモ♂エクリプス横姿、コガモ♀横姿、を撮影した。コガモ♂エクリプスは、『フィールド図鑑日本の野鳥』に『エクリプスの脇羽は丸みがあり、雌や幼鳥ではとがり気味。雌は嘴の両脇が黄色っぽい。』と書いてあることから、同定した。カンムリカイツブリやカイツブリは夏羽の鮮やかなオレンジ色や褐色が色褪せてきたようだ。徐々に冬羽に換羽していく季節の到来である。
2023	9	26	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。時雨、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～25℃、南の風3m/s、陽射しは弱く、湿度は77%、往きと撮影中は雨傘、帰りは曇天であるが陽傘をさす。ワイシャツのまま帰宅。2羽のヒドリガモ、コガモの群れ5羽とアサザの黄色い花、マガモ♂エクリプス横姿とアサザの黄色い花、コウホネ群生地に佇むアオサギ横姿、深水を歩くチュウダイサギ若鳥横姿、を撮影した。マガモ♂エクリプスは、『フィールド図鑑日本の野鳥』に『♀と♂エクリプスの姿図があり、脇羽はフワツとして丸みがある(幼鳥の脇羽はV字状にとがって見える)。♀のクチバシはオレンジ色で上部が黒みがかったが、♂は黄色で先っぽに黒点がある。』と記載されていることから、♂エクリプスと同定した。ヒドリガモは、♂エクリプスの雨覆羽は白いが、隠れて見えないのか、それとも♀なのか分からなかった。9月下旬から多くの冬鳥が次々と渡来してくる。一期一会が益々楽しくなる季節である。
2023	9	29	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は25～26℃、南南西の風2m/s、陽射しは弱く、湿度は66%、陽傘をさす。ワイシャツのまま帰宅。チュウサギ若鳥前姿、わた雲、アキアカネ♂、同じく♀、ヨシガモ♀幼鳥、鳥屋野潟、カンムリカイツブリ冬羽に換羽中ああ(後姿)、アサザの黄色い花、ニホンミツバチの自然巣ハニカム構造、鳥屋野潟、ハジロカイツブリ第1回冬羽、コガモ♀横姿、同じく♂エクリプス横姿、不明なキノコ、を撮影した。ヨシガモは、『フィールド図鑑日本の野鳥』に『ユーラシア大陸やアリューシャン列島から10月ごろに渡ってくる冬鳥。全国的に生息するが、北海道では少数が繁殖する。類似種との識別:雌の嘴は黒く、似ている他のカモ類の雌と識別できる。』と記載されている。そして、羽が幼鳥の様にフワフワしていることから、♀幼鳥と同定した。ひょっとすると、第1回冬羽に換羽中なのかもしれない。カンムリカイツブリが徐々に冬羽に換羽していた。秋なのに気温が夏日である。気候変動が進み、変動幅が大きくなってきたようだ。カタストロフィック・シフトによって、ある日、突然、シベリアの寒気がやって来るかも知れない。

西暦	月	日	日誌
2023	9	30	鳥屋野潟公園と弁天橋周辺で動植物との一期一会を楽しむ。曇天、長袖ワイシャツ、シューズで出かける。気温は22～26℃、南東の風2m/s、陽射しは弱く、湿度は78%、夜明けに雨、陽傘をささず。ワイシャツのまま帰宅。カンムリカイツブリ夏羽見返り、鳥屋野潟、不明の蛾の幼虫、鳥屋野潟、シモフリスズメガの幼虫、ヒドリガモ♂エクリプスと♀とアサザの黄色い花、ハシビロガモ♂エクリプスとアサザの黄色い花、カイツブリ幼鳥、ヤブラン、カンムリカイツブリ夏羽横姿、片足で休むヒドリガモ♀、鳥屋野潟、コガモ♀横姿、同じく♂エクリプス横姿、を撮影した。ハシビロガモは、「フィールド図鑑日本の野鳥」に『ユーラシア大陸などから9月～10月ごろに渡ってくる冬鳥。全国的に生息するが、北海道では稀に繁殖する。雄の成鳥羽になるまでや若鳥は換羽が複雑で、個体によって様々な羽衣がある。♂エクリプスのさし絵には、虹彩は黄色く眼の周囲は黒色。クチバシ上部も黒っぽい。』と記載されていることから同定した。5～6羽の集団で、疲れたのか昼寝をしていた。アサザの黄色い花が満開で、空からよく見えるのか？他に、ヒドリガモやコガモ、たぶんヨシガモが休息していた。

